

平成29年度

学生による授業改善のための
授業評価結果に関する
報告書

公表用

目 次

1. 「学生による授業改善のための授業評価」の取り組みについて	… 2
2. 実施方法/平成29年度学生による授業評価アンケートの調査用紙等	… 3
3. 学生による授業改善のための授業評価アンケート結果の考察	… 9
4. 平成29年度授業評価アンケート評価結果の総括	… 160
・FD委員会・授業評価専門部会構成	… 180

「学生による授業改善のための授業評価」の取り組みについて

「学生による授業改善のための授業評価」の取り組みの目的は、各授業に対する受講学生の意見や自己評価等の情報を収集し、それらの集約データを各科・教員一人ひとりが分析を行い、授業を振り返り、反省、考察するなかで今後の教育方法などの改善策を立案、実施することである。

本学における「学生による授業改善のための授業評価」の取り組みは、平成13年度より実施され、学生のニーズにあったより質の高い授業の実施を目指し少しずつ改善がなされてきた。平成21年度からは、西九州大学と同一内容の授業評価アンケート調査が実施されるものとなり、教員間及び大学との教育内容の共有を図りながら授業の質、学生の能動的・主体的学修その成果を高めるための様々な取り組みの実現に向けて改善を行っている。平成30年度は、授業参観が実施されるものとなり、更なる改善が期待される。

本年度も、学生による授業改善のための様々な取り組みの実現に向けて各科・教員が授業を振り返り考察を行った。以下、その考察を行い学内用報告書としてとりまとめる。報告書の公表においては、授業担当者を伏せてとりまとめる。

平成30年度 FD委員会・授業評価専門部会

平成29年11月

授業担当教員 各位

西九州大学短期大学部
FD委員会
委員長 平田 孝治

学生による授業改善のためのアンケートの実施について（お願い）

平素より本学FD活動につきまして、先生方におかれましては、多大なるご尽力を賜り、厚く御礼申し上げます。
さて、今年度も学生による授業改善のためのアンケートを実施いたします。
今年度後期は、学期の中間に1回、学期末に1回の計2回実施いたします。学期の中間（第1回目）に実施するアンケートは自由記述式の調査のみを実施し、学期末（第2回目）にWEBアンケートを実施します。学期の中間に実施する自由記述方式は、当該学期の授業改善に役立てることを目的とし、先生方に結果を返却いたします。
つきましては、下記のとおりアンケートを実施しますので、ご協力をお願いいたします。
なお、WEBアンケートの質問項目には、先生方が自由に質問できる項目を設けております。質問したい事項（4段階評価で集計されます。）があれば、実施日までにご検討ください。特になければ、ご検討いただく必要はありません。
また、本アンケートの実施結果（自由記述を除く）は、集計後、先生方へ周知するとともに、学生も閲覧できるよう本学図書館にて公開し、授業評価実施報告書作成のため、集計結果の分析と次年度に向けての取り組みについて報告書作成のご依頼をさせていただきたいと存じますので、ご了承をお願い致します。取りまとめた報告書は、学内外に公表致します。

記

1. アンケート項目 : ①学期中間（第1回目）：自由記述（匿名式）
※別紙「学生による授業改善のためのアンケート（中間調査）参照
②学期末（第2回目）：別紙「学期末調査 評価項目」参照
2. 授業評価実施期間 : 学期中間（第1回目）：平成29年11月25日（水）～平成29年12月1日（金）
学期末（第2回目）：平成30年1月12日（金）～平成30年1月25日（木）
3. 実施依頼書締切 : 学期中間（第1回目）：実施日前日までに「実施依頼書（別紙）」を教務課迄提出してください。
学期末（第2回目）：学生ポータルサイトでのWeb調査になりますので、期間内に随時実施していただくが、アンケートへの回答を促していただくようお願い致します。学生には掲示板及び学生ポータルサイトで回答要領を周知していますが、学生の回答要領（別紙）が必要な場合は実施日3日前までに教務課に依頼をお願いいたします。
4. 授業評価実施方法 : 別紙の「学生による授業改善のためのアンケート調査の実施要領」をご参照ください。
5. 授業評価対象科目 : 学期中間（第1回目）については、任意の実施となります。学期末（第2回目）については、全科目が対象となります。

以上

平成 年 月 日提出

平成29年度前期学生による授業改善のためのアンケート実施依頼書

本依頼書には、授業科目名を正確にご記入いただき、実施日（時限）をご記入ください。

【1回目（学期中間実施分）：平成29年11月15日（水）～平成29年12月1日（金）】（任意）

授業担当教員氏名：_____

【実施授業科目】

No.	授業科目 ※科目名は正確にご記入ください。	学科・専攻	学年	開講 曜日	開講 時限	受講者数	調査実施日			
							月	日	曜日	時限
1	〈例〉化学（生活の化学）	全科	1	水	1	80	11	15	水	1
1										
2										
3										

提出先：教務課

提出締切：調査実施日前日迄

西九州大学短期大学部 科目担当 各位

学生による授業改善のためのアンケート調査の実施要領

【中間調査】(任意)

〈実施期間〉11月15日(水)～12月1日(金)

〈調査当日の主な流れ〉

アンケートの実施に際しては、配布・記入・回収時間等を考慮し、授業時間内に回収できるよう時間を調整ください。

1. 事前に回収担当学生を最低2名指名する。
2. 「学生による授業改善のためのアンケート」(自由記述 A5 用紙)を学生に配布
3. アンケートの記入について指示
4. 記入時は教室から退出
5. 回収担当学生が回収後、教務課に提出
6. 後日、教務課から教員レターケースへ配布

【学期末調査】(学生ポータルサイトでの Web 調査)(全科目対象)

〈実施期間〉1月12日(金)～1月25日(木)

〈調査当日の主な流れ〉

アンケートの実施に際しては、配布・ポータルサイトアクセス・回答入力時間等を考慮し、授業時間内に回答できるよう時間を調整ください。アンケートの回答入力に際し、学生ポータルサイトへのアクセスが必要となります。授業時間内に回答させる際は、学生のスマートフォン等の端末使用を許可願います。調査の実施に際しましては、先生方からのご指導をお願い申し上げます。

1. 「学生による授業改善のためのアンケート調査の実施について」を学生に配布
※既に掲示板及び学生ポータルサイトで周知していますので、必要な場合は省いて結構です。
2. アンケートの回答について指示
質問1～18は共通の質問項目です。質問19～25は、各先生方の任意の質問枠となっておりますので必要に応じてご準備いただき、学生に指示ください。
※学生がID・パスワード忘れ(学生支援課窓口で対応しています)ほか、時間内に回答できない場合、回答入力締切日(実施期間)を学生にお伝えください。
3. FD委員会(教務課)で集計確認の後、集計結果を公開(お知らせ)いたします。
4. 集計結果は、学生ポータルサイトの教員管理画面上のタブ「IR」→「授業評価」からアンケート結果を閲覧・ダウンロードすることができます。専任教員は、「IR」→「CCL(学科別)」からも閲覧・ダウンロードできます。閲覧・ダウンロードが難しい場合は、教務課にお尋ねください。

※ 授業時間中 Wi-Fi に接続できず、ポータルサイトにアクセスできない場合等においては、授業時間外に各自で回答するようご指導をお願いいたします。(学内においては、情報処理室・図書館のPCを使用することができます。)

以上

平成29年度後期
学生による授業改善のための授業評価アンケート調査の実施について
【西九州大学短期大学部】

このアンケートは、授業の内容をより充実したものに改善するための大切な調査です。

あなたの成績評価には、一切影響しませんので、率直に回答してください。

※授業評価の回答期間中は、この用紙と学生ポータルサイトのログインIDとパスワードを必ず携帯してください。

【学期末】「最終調査」選択方式および自由記入方式を合わせた形式

平成29年度後期に履修している全ての科目に対して授業評価をしてください。

「学生による授業評価アンケート」は、学生ポータルサイト上での回答となります。

＜操作手順＞

1. 学生ポータルサイトを利用しますので、各自のログインIDとパスワードを準備しておいてください。
忘れた場合は、事前に学生支援課窓口にお問い合わせください。
2. 学生ポータルサイト上の ①<授業> ⇒ ②<授業評価アンケート> にある履修科目の ③ [回答する] ボタン(※1)を押すと授業評価シートがでます。

学生ポータルサイト ① 授業

③ 「回答する」ボタンを押すことにより、「授業評価アンケート」が表示されます。

3. 授業評価シートの質問1～18は共通です。該当番号のチェックを入れ、自由記入に気付いた事や要望等を自由に記入してください。質問19～25は、先生からの質問提示がある場合に回答してください。
※全ての質問に回答してください。

学生ポータルサイト

西九州大学 西九州大学短期大学部

よ配と きん [ログアウト]

ホーム ポータルサイト SNS 通知管理 あすなう体験センター 授業 キャンパス イベント/イベント 検索 入退席 入退席

トップ 関係・免許情報 履修登録 授業評価アンケート 卒業制度案内

一覧 > 回答

このアンケートは、授業の内容をより充実したものに改善するための大切な調査です。あなたの成績評価には、一切影響しませんので、率直に回答してください。

【411158】あすなう体験Ⅰ (基礎) 進年 ()

質問番号	質問	回答
【あなた自身の授業満足度について】		
Q1. 授業が満足度高いと感じた。	☐ 1 ☐ 2 ☐ 3 ☐ 4	
【Q1の評価基準: 4 → 0回, 3 → 1回, 2 → 2～3回, 1 → 4回以上】		
Q2. 授業中に疑問点や不明点を質問した。	☐ 1 ☐ 2 ☐ 3 ☐ 4	
Q3. 授業中に疑問点や不明点を質問した。	☐ 1 ☐ 2 ☐ 3 ☐ 4	
Q4. あなたはこの授業を履修するために自分では何をしましたか。	☐ 1 ☐ 2 ☐ 3 ☐ 4	

学生による授業改善のためのアンケート

このアンケートは、授業の内容をより充実したものに改善するための大切な調査です。あなたの成績評価には、一切影響しません。

※このアンケートは、授業評価アンケートの回答期間中にのみ利用可能です。

自由記入 (自由記入欄)

自由記入 (自由記入欄)

④ 「授業評価アンケート」回答終了後、登録してください。

4. 回答終了後、授業評価アンケートの「登録」ボタンを押すことで提出となります。
授業評価期間中、特に指示がない科目の授業評価アンケートは、各自で回答期間中に提出してください。
授業評価回答は、回答期間中であれば、変更して再提出することが可能です。
(「登録」ボタンを押すことにより更新されます。)

平成29年度後期 授業評価アンケートの回答期間: 平成29年1月12日(金)～1月25日(木)まで

※早めにアンケートを回答する場合がありますので、先生の指示に従ってください。

(アンケート回答期間は何度でも登録が可能です。)

学生による授業改善のためのアンケート（中間調査）

【西九州大学・西九州大学短期大学部】

アンケート実施日	平成 年 月 日実施		
授業科目名		担当教員	先生

このアンケートは、授業の内容をより充実したものに改善するための大切な資料です。

あなたの成績評価には一切影響しません。また、オムニバス（複数の先生が担当される）科目で
本日担当以外の先生についても何かお気づきの点があれば、以下にご記入ください。

【この授業について気づいたことや要望等を自由に記入してください。】

ご協力ありがとうございました。


[ホーム](#) [ポートフォリオ](#) [SNS](#) [出欠閲覧](#) [あすなろうセンター](#) [授業](#) [キャリア](#) [セミナー・ガイダンス](#) [設定](#) [シラバス](#) [アンケート](#)
[トップ](#) [資格・免許希望](#) [履修登録](#) [授業評価アンケート](#) [学修到達度マップ](#)
[一覧](#) > [回答](#)

このアンケートは、授業の内容をより充実したものに改善するための大切な調査です。あなたの成績評価には、一切影響しませんので、率直に回答してください。

【411158】あすなろう体験Ⅰ（基礎） 通年（ ）

設問番号	設問	回答			
（あなた自身の授業参加態度について）					
Q1.	授業は何回欠席しましたか。	☐ 1	☐ 2	☐ 3	☐ 4
【Q1の評価基準： 4 ⇒ 0回、3 ⇒ 1回、2 ⇒ 2～3回、1 ⇒ 4回以上】					
Q2.	シラバス（授業計画）を活用しましたか。	☐ 1	☐ 2	☐ 3	☐ 4
Q3.	授業中に居眠り・私語等をせず真剣に取り組みましたか。	☐ 1	☐ 2	☐ 3	☐ 4
Q4.	あなたはこの授業を理解するために自分で何か工夫をしましたか。 (例えば、ノートをとめる、テキスト・参考書の活用、教員への質問、予習・復習等)	☐ 1	☐ 2	☐ 3	☐ 4
【Q2～4の評価基準： 4 ⇒ そう思う、3 ⇒ だいたいそう思う、2 ⇒ あまりそう思わない、1 ⇒ そう思わない】					
Q5.	あなた自身の総合自己評価	☐ 1	☐ 2	☐ 3	☐ 4
【Q5の評価基準： 4 ⇒ 良い、3 ⇒ やや良い、2 ⇒ やや悪い、1 ⇒ 悪い】					
（授業内容・方法について）					
Q6.	シラバス（授業計画）について説明がありましたか。	☐ 1	☐ 2	☐ 3	☐ 4
Q7.	教員は授業の到達目標を明確にして、授業を展開していましたか。	☐ 1	☐ 2	☐ 3	☐ 4
Q8.	授業は興味・関心が持てる工夫がされていましたか。	☐ 1	☐ 2	☐ 3	☐ 4
Q9.	授業は分かりやすい工夫がされていましたか。	☐ 1	☐ 2	☐ 3	☐ 4
Q10.	視聴覚機器や板書の用い方は適切でしたか。	☐ 1	☐ 2	☐ 3	☐ 4
Q11.	教科書・配布資料等は役に立ちましたか。	☐ 1	☐ 2	☐ 3	☐ 4
Q12.	声の大きさ・明瞭さ・話す速さは適切でしたか。	☐ 1	☐ 2	☐ 3	☐ 4
Q13.	授業の進む速さは適切でしたか。	☐ 1	☐ 2	☐ 3	☐ 4
【Q6～13の評価基準： 4 ⇒ 十分、3 ⇒ だいたい十分、2 ⇒ やや不十分、1 ⇒ 不十分】					
（教員の対応について）					
Q14.	学生の質問等に誠実に対応しましたか。	☐ 1	☐ 2	☐ 3	☐ 4
Q15.	公平に学生に対応しましたか。	☐ 1	☐ 2	☐ 3	☐ 4
Q16.	教員は双方向的なやり取りをしながら、授業を行っていましたか。 (コメントを付したレポートの返却、学生からの質問を授業で取り上げるなど)	☐ 1	☐ 2	☐ 3	☐ 4
Q17.	教員は熱心に授業に取り組んでいましたか。	☐ 1	☐ 2	☐ 3	☐ 4
【Q14～17の評価基準： 4 ⇒ そう思う、3 ⇒ だいたいそう思う、2 ⇒ あまりそう思わない、1 ⇒ そう思わない】					
（総合評価）					
Q18.	この授業を総合評価して下さい。	☐ 1	☐ 2	☐ 3	☐ 4
【Q18の評価基準： 4 ⇒ 良い、3 ⇒ やや良い、2 ⇒ やや悪い、1 ⇒ 悪い】					
（教員による自由項目）※ 授業担当教員からの指示に従ってください。（指示があれば記入すること。）					
Q19.	教員による自由項目	☐ 1	☐ 2	☐ 3	☐ 4
Q20.	教員による自由項目	☐ 1	☐ 2	☐ 3	☐ 4
Q21.	教員による自由項目	☐ 1	☐ 2	☐ 3	☐ 4
Q22.	教員による自由項目	☐ 1	☐ 2	☐ 3	☐ 4
Q23.	教員による自由項目	☐ 1	☐ 2	☐ 3	☐ 4
Q24.	教員による自由項目	☐ 1	☐ 2	☐ 3	☐ 4
Q25.	教員による自由項目	☐ 1	☐ 2	☐ 3	☐ 4
Q26.	教員による自由項目	☐ 1	☐ 2	☐ 3	☐ 4
Q27.	教員による自由項目	☐ 1	☐ 2	☐ 3	☐ 4
Q28.	教員による自由項目	☐ 1	☐ 2	☐ 3	☐ 4
Q29.	教員による自由項目	☐ 1	☐ 2	☐ 3	☐ 4
Q30.	教員による自由項目	☐ 1	☐ 2	☐ 3	☐ 4
【Q19～30の評価基準： 4 ⇒ 良い、3 ⇒ やや良い、2 ⇒ やや悪い、1 ⇒ 悪い】					

学生による授業改善のためのアンケート

このアンケートは、授業内容をより充実したものに改善するための大切な資料です。あなたの成績評価には一切影響しません。

この授業について気付いた事や要望等を自由に記入してください。

400文字以内（残り400文字）

自由記入

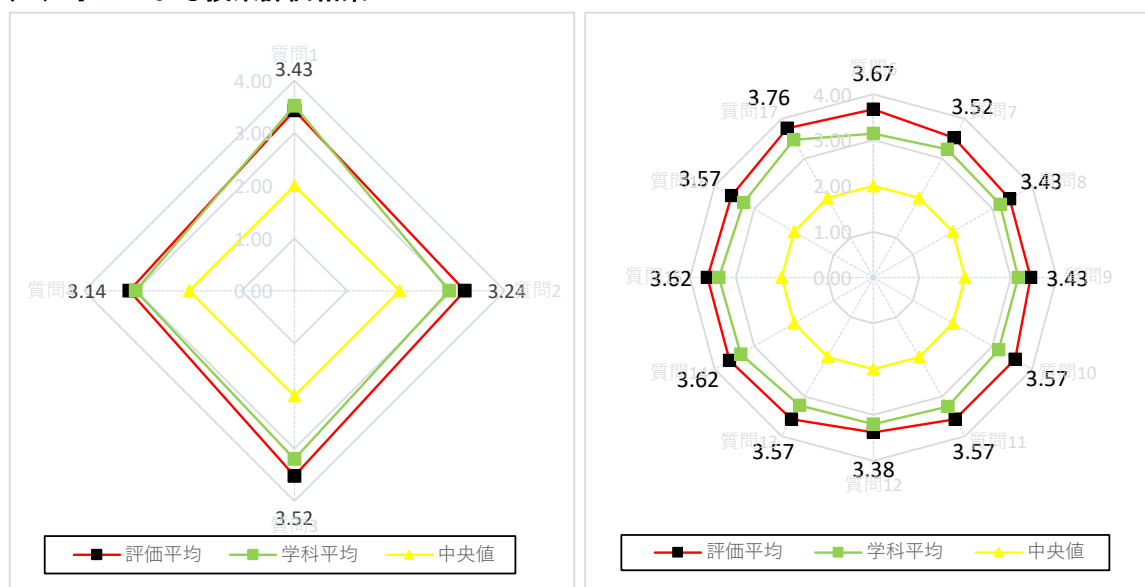
☒ 登録

☐ リセット

学生による授業改善のための授 業評価アンケート結果の考察

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		あすなろう	23名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

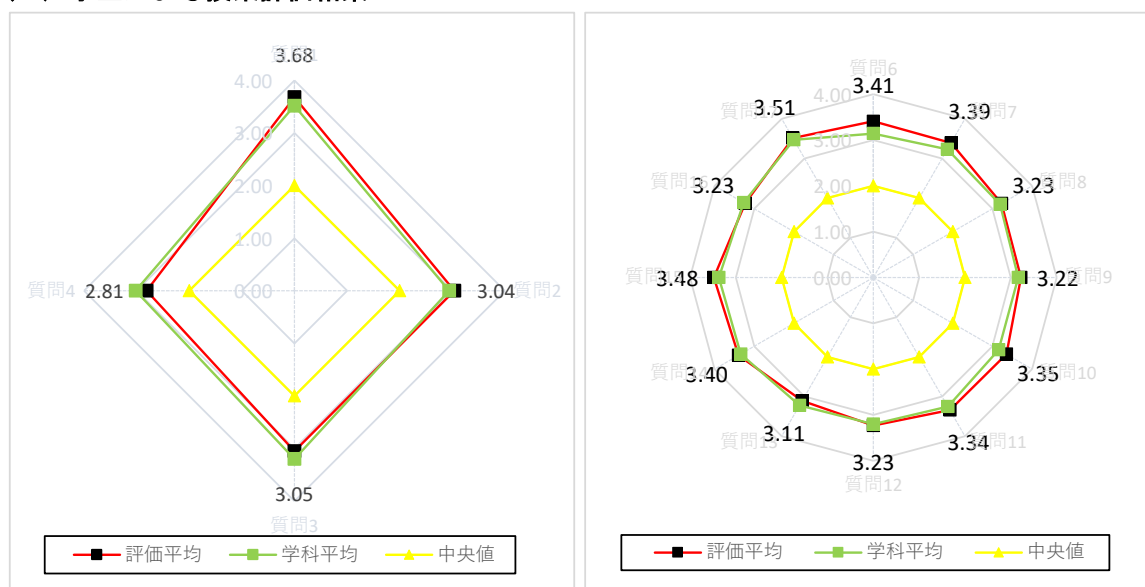
学生自身に対する評価では、講義ではなく演習が多かったためか、質問3の居眠り等は特に多くなかった。学生自体のシラバスの活用と理解するための工夫は他の二つ字と比べて低かった。教員への評価では、初回にパワーポイントを使い時間をかけてシラバスの説明をしたので今までと違って低くはなかった。全体的には学科の平均より高かった。その中で他より少々低かったのは到達目標の明確化、工夫、視聴覚機器や黒板の使用、声の大きさ、明確さ、話す速さであった。

(3) 次年度に向けての取り組み

初回だけでなく、毎回到達目標を示しながら授業を展開する。はっきりした発声でゆっくり話す。特に30年度はからは留学生が入学しているので資料等にフリガナをふる等の工夫が必要である。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		あすなろう	98名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

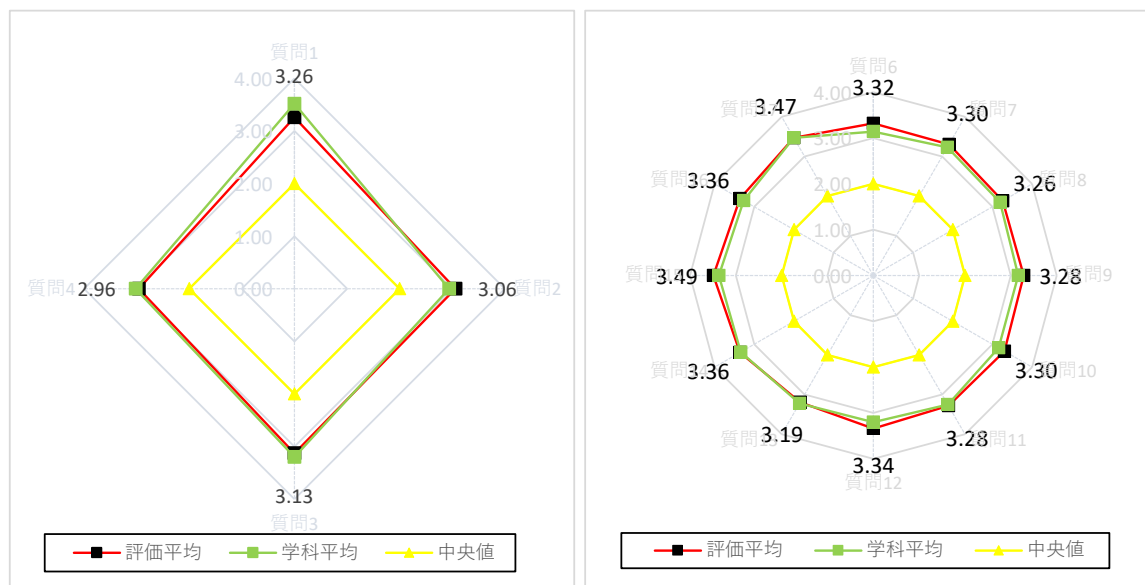
概ね平均的な評価となった。
 本授業は短大全体、学科別、小グループと多様な実施形態をとるため、
 適宜シラバスに基づき活動の見通しを持つよう指導した。
 その結果が、質問6の評価につながっていると思われる。

(3) 次年度に向けての取り組み

学生の生の声として、もう少しグループワークがしたかったという意見があった。
 講義部分をなるべく少なくし、活動を通して理解を深めるような演習を
 多く取り入れた授業展開を心掛けたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		あすなろう	48名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

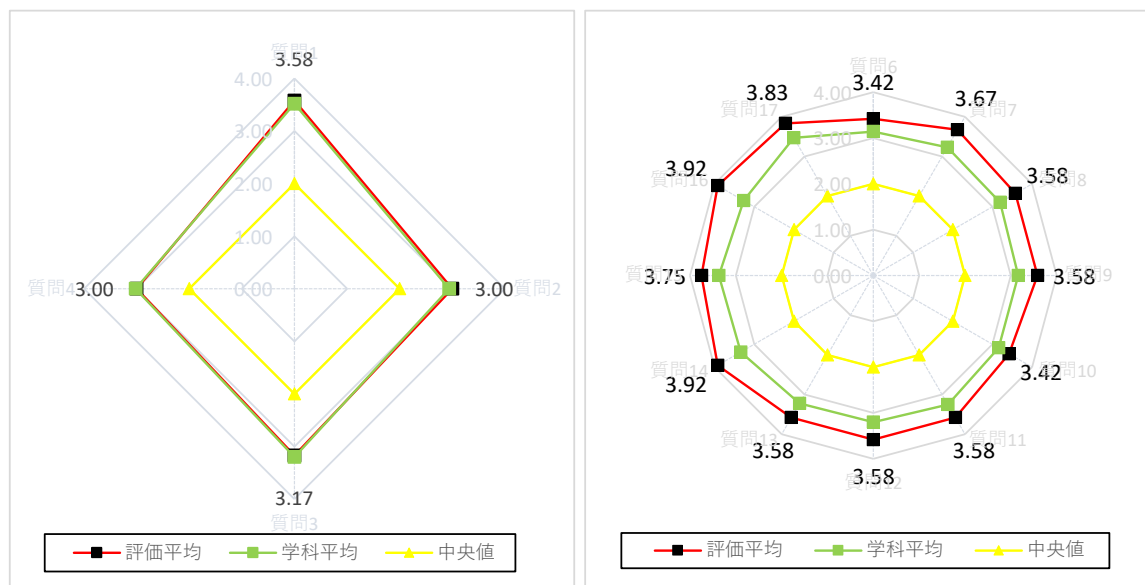
学生自身の評価、教員への評価とも概ね学科平均と同等の評価であった。データとしてあらわれてはいないが、新学科となったことでいくつかの回は3コース混成グループで実施したが、学生にとって良い効果をもたらしたように思われる。

(3) 次年度に向けての取り組み

多文化コースが新設され留学生が加わったため、資料へのルビ振り、授業内容についての説明はこれまで以上に丁寧に行っていく必要がある。また、ワークシートを書く作業時間についても配慮が必要である。平成30年度は福祉コースに多くの留学生を迎えたので更に理解のための工夫とサポートを検討する。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		共に学ぶあすなろう (キャリア) I	21名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

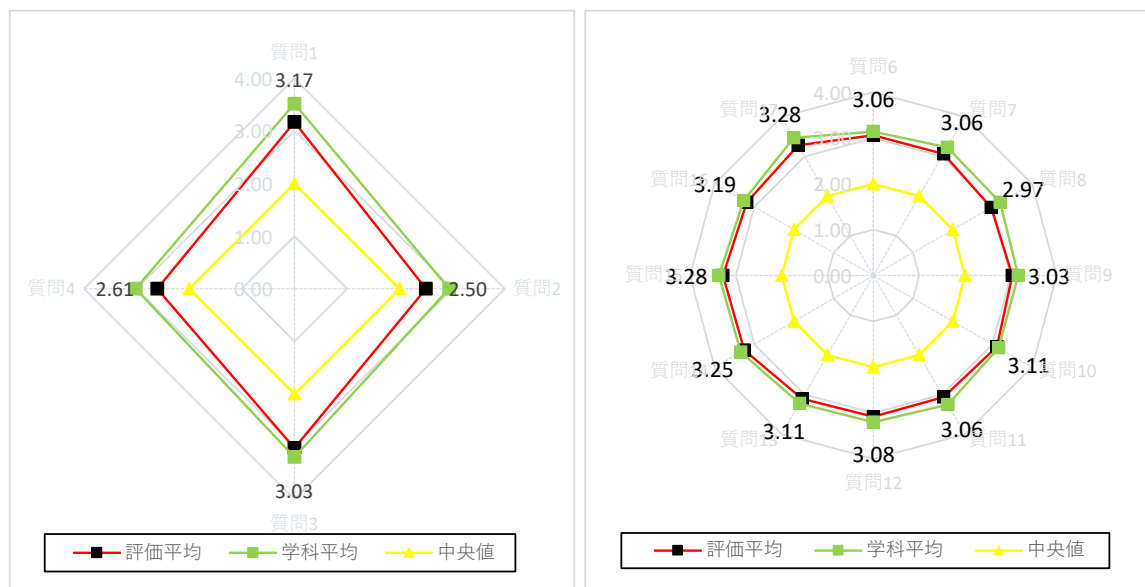
学科の平均よりも良い。遊友広場で学ぶものがあつたと思われが、自己評価は低い。シラバスの確認は行っているが、印象に残りづらかったのであろうか。質問がない分も回答している。7人が回答していない。誠実さ、不公平さ、双方向性、熱心さは評価が高い。授業評価時、きちんと問題を読んで評価するように何回か伝える。

(3) 次年度に向けての取り組み

全員評価をするように指導し確認も行う。質問の内容をしっかりと読んでから回答するように伝える。シラバスの確認を時々行う。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		共に学ぶあすなろう (キャリア) I	46名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

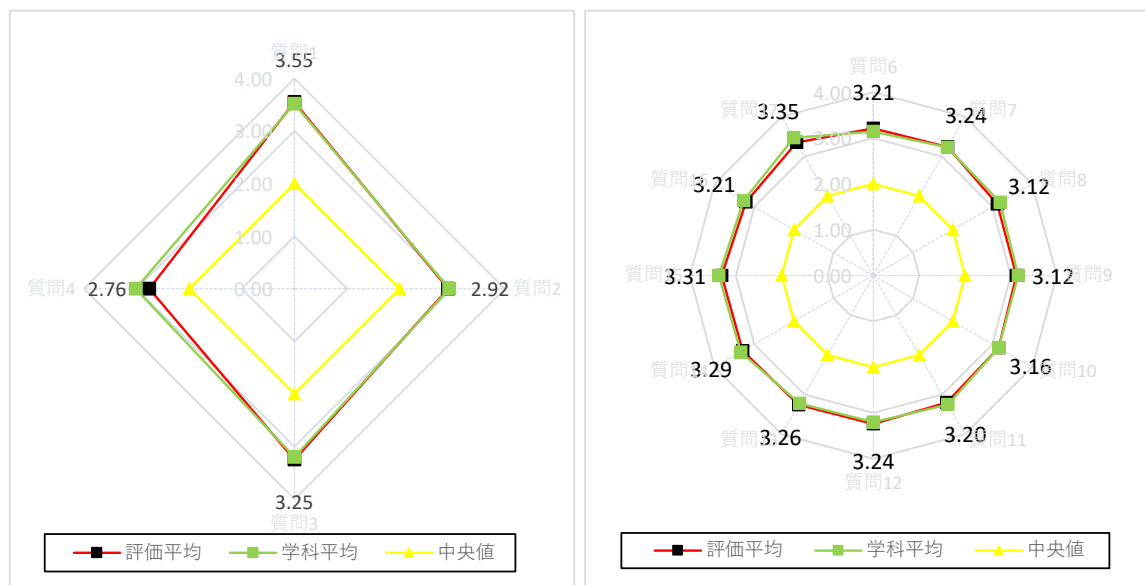
- ①学生の自己評価及び教員授業評価共に中央値を上回っており、又学科評価平均値の約3.2近傍に大凡学生の評価も位置している。
- ②しかし、当該授業の本来の趣旨である1年生と2年生が縦割り混在して「お互いに切磋琢磨し合いながら」自ら自主的に学び合って(教え合う)行くと云う形態が巧く循環していないように感じている。その状況を反映しているのかもしれないが、学生自身による自己評価としても低い評価となっている。
- ③Q. 6～Q. 17のいずれも学生からの授業評価としては概ね肯定的に捉えられていると判断している。
- ④受講者の中には外国人留学生が組み込まれている事を考慮して、当該評価の意義をきちんと理解させる必要があり、国内教育機関での一般的な評価指標とは思考軸が若干異なる意味合いもあるように感じている。

(3) 次年度に向けての取り組み

- ①当該授業は共通教育科目(一般教育)として位置付けられており、類似の教育趣旨と形態を持つ専門科目分野に新学科として新設された「地域生活支援系」の授業との教育目的と同プログラムに対する学習内容と実施形態の“住み分け”が今後は必要と考えている。
- ②今後も当“共あす”は学年縦割り下でのアクティブラーニングの特性を十分に生かした授業として、更にシラバスに改訂を加えて行きながら本学の特徴ある科目として育てて行きたいと思っている。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		共に学ぶあすなろう (キャリア) I	94名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

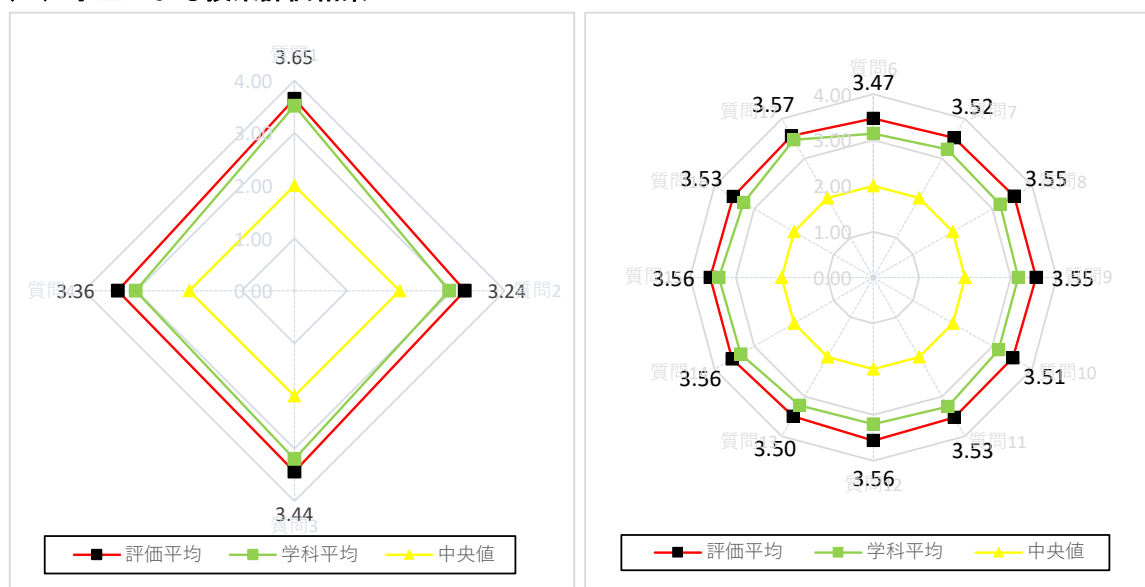
授業アンケート結果の分析と評価として、全体的の学科平均と同程度の評価を得ていた。その中でも、質問4「あなたはこの授業を理解するために自分で何か工夫をしましたか。」については平均よりも高い評価を得ており、主体的な活動への取り組みにつながっていたことがわかる。

(3) 次年度に向けての取り組み

次年度に向けての取り組みとしては、シラバスの内容の整理と教員の担当内容の確認、さらには他学科との比較を行うことで、学科の特徴を活かした科目にすることが検討される。さらに、小グループの活用と実践的な取り組みへの導入的な位置づけをさらに高めていく取り組みを行っていくこととする。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		共に学ぶあすなろう (キャリア)Ⅱ	96名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

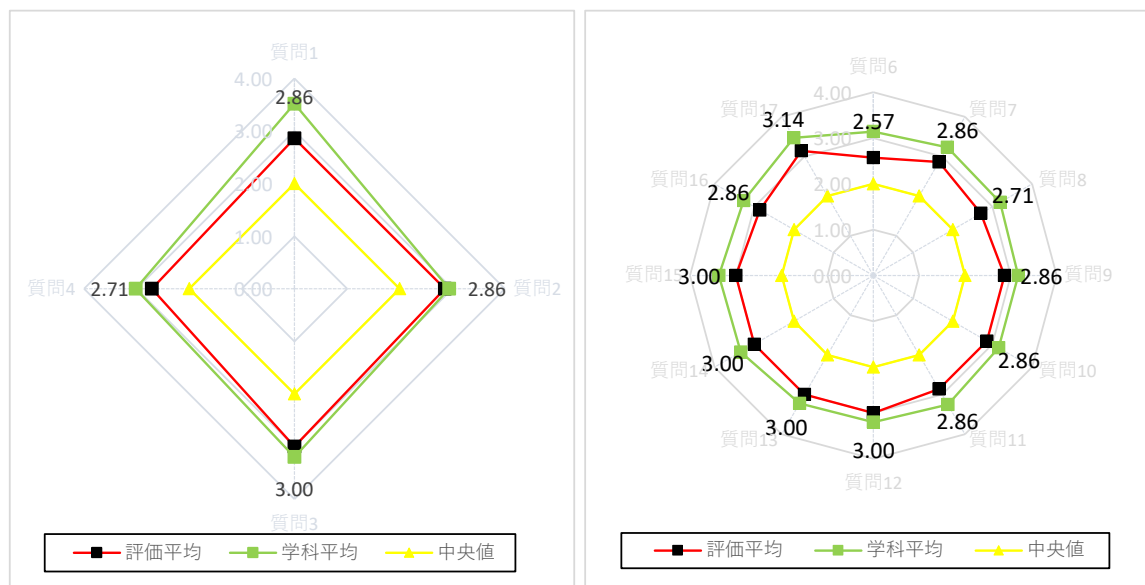
授業アンケート結果の分析と評価については、全体的に学科平均を下回り、改善する必要がみられた。特に質問2「シラバス（授業計画）を活用しましたか。」、質問3「授業中に居眠り・私語等をせず真剣に取り組みましたか。」、質問4「あなたはこの授業を理解するために自分で何か工夫をしましたか。」の評価が低く、授業に対して意欲的に取り組むことができていないことがわかる。合同で行うことの多い共に学ぶあすなろう（キャリア）Ⅰの評価は平均的であり、一定の評価が得られているため、学習進度に合わせたカリキュラムの内容を検討すべきだと考えられる。

(3) 次年度に向けての取り組み

次年度に向けての取り組みとしては、学習内容の整理を行い体験的な内容を多く取り入れる。また、主体的に取り組みながら段階的に学習することができるようなシラバス構成を検討していくこととする。さらに、全学科による包括的な学習システムとして、より一層の充実した担当教員間での情報の共有を図っていく。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	食物栄養		共に学ぶあすなろう (キャリア)Ⅱ	7名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

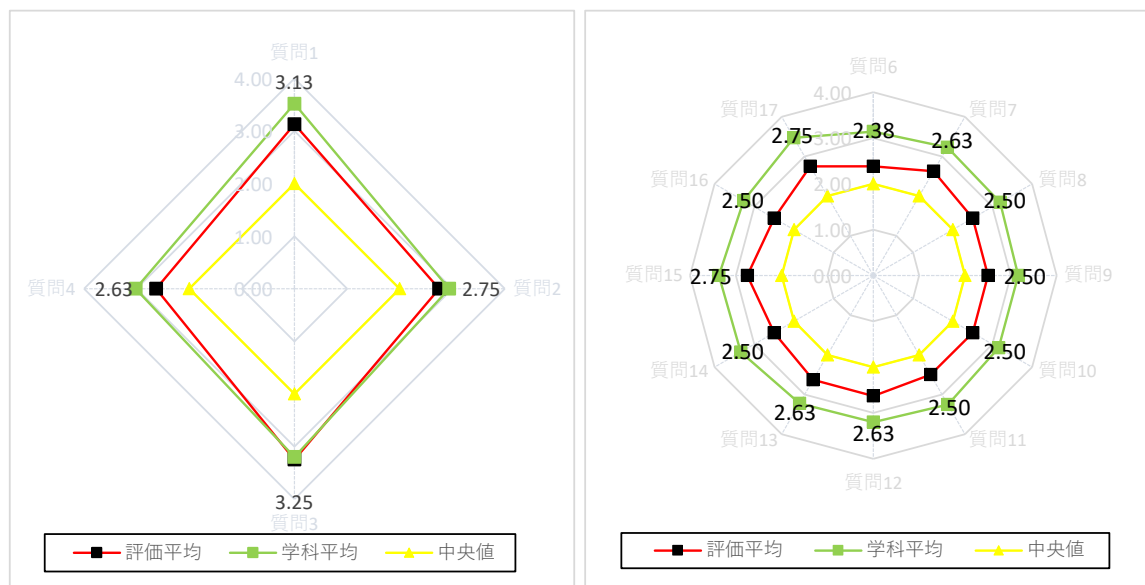
- ①学生の自己評価及び教員授業評価共に中央値を上回っているが、学科評価平均値の約3.2からは学生評価が若干下回っている。
- ②当該授業の本来の趣旨である1年生と2年生が縦割り混在して「お互いに切磋琢磨し合いながら」自ら主体的に学び合って(教え合う)行くと云う形態が巧く循環していない結果ではないかと想定している。その状況を反映して、学生自身による自己評価としても低い評価となっている。
- ③Q. 6～Q. 17のいずれも学生からの授業評価としては概ね肯定的に捉えられていると判断している。
- ④受講者の中には外国人留学生が組み込まれている事を考慮して、当該評価の意義をきちんと理解させる必要があり、国内教育機関での一般的な評価指標とは思考軸が若干異なる意味合いもあるように感じている。

(3) 次年度に向けての取り組み

- ①当該授業は共通教育科目(一般教育)として位置付けられており、類似の教育趣旨と形態を持つ専門科目分野に新学科として新設された「地域生活支援系」の授業との教育目的と同プログラムに対する学習内容と実施形態の“住み分け”が今後は必要と考えている。
- ②この授業のもう一つの教育趣旨である「キャリア教育」の分野でも今後はプログラムの強化を行って行く計画としている。
- ③今後も当“共あす”は学年縦割り下でのアクティブラーニングの特性を十分に生かした授業として、更にシラバスに改訂を加えて行きながら本学の特徴ある科目として育てて行きたいと思っている。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	食物栄養		共に学ぶあすなろう (キャリア)Ⅱ	8名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

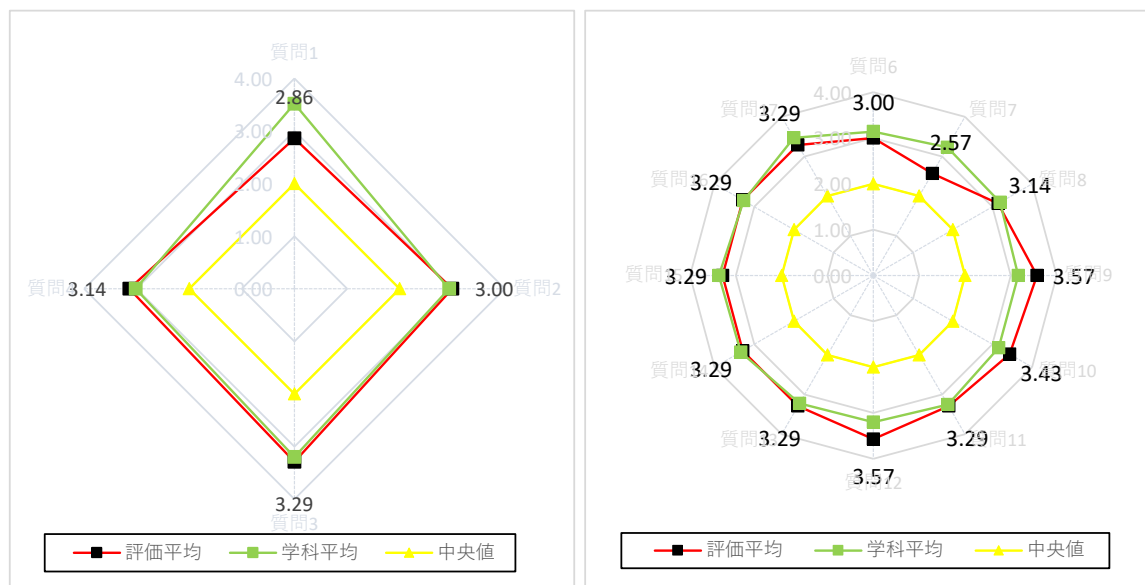
学生の自己御評価が低いので何らかの工夫が必要である。授業に対する評価全般、学科平均より大きく下回った。

(3) 次年度に向けての取り組み

今後、授業内容の中で見直しできるものを検討していく。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	食物栄養		共に学ぶあすなろう (キャリア)Ⅱ	7名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

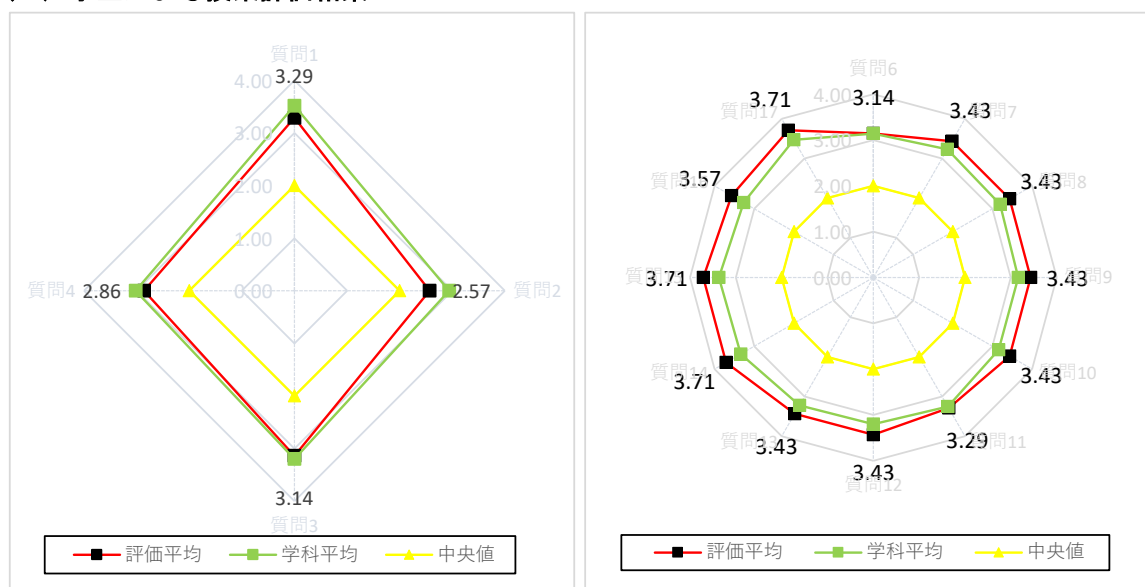
本授業は2年生がリーダー役で1年生が補佐役で動き、教員は助言のみでほぼ学生主体で実施する主旨となっているが、今年度は授業内容としては1・2年縦割りでゼミ活動することは少なかったように思う。ゼミ毎というよりは学科あるいはコースとして授業内容の見直しをする必要があるのではないだろうか。

(3) 次年度に向けての取り組み

本授業は2年生がリーダー役で1年生が補佐役で動き、教員は助言のみでほぼ学生主体で実施する主旨となっているが、今年度は授業内容としては1・2年縦割りでゼミ活動することは少なかったように思う。ゼミ毎というよりは学科あるいはコースとして授業内容の見直しをする必要があるのではないだろうか。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	食物栄養		共に学ぶあすなろう (キャリア)Ⅱ	8名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

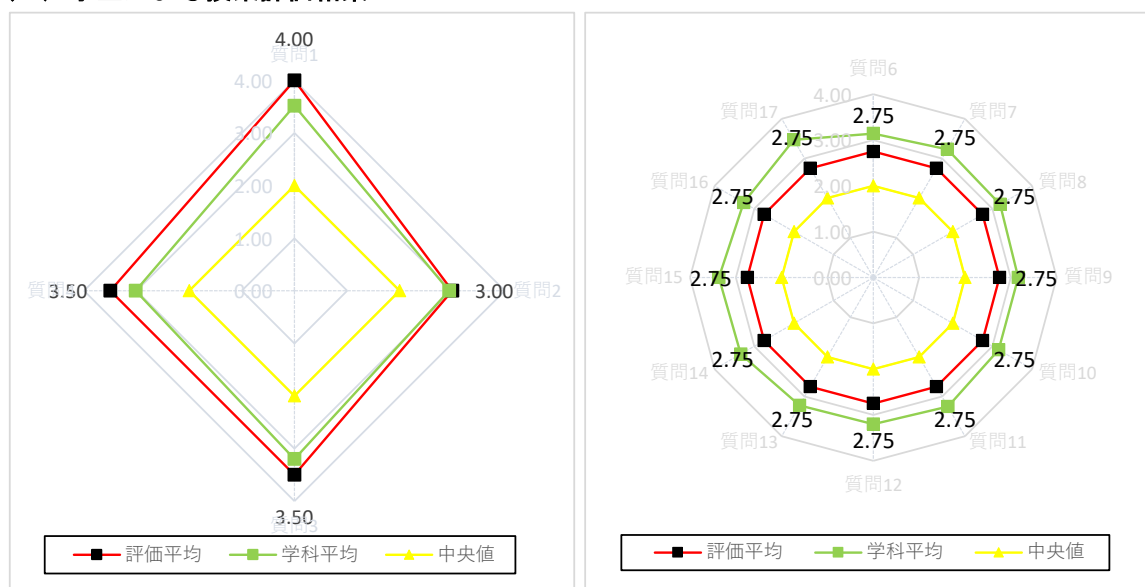
共に学ぶあすなろう（キャリア）Ⅰからの、そして地域生活支援演習Ⅰ・Ⅱへのつながりのなかで、2年生との協同学習を取り入れてきた。評価は平均より高い値となっており、授業への関心も高かったと言える。社会人基礎力について、活動の振り返りで触れてきたことは、学生にとって志向性を高めたものと考えられる。

(3) 次年度に向けての取り組み

昨年同様の活動のなかで、他の科目とのつながりを考慮した展開を図っていく。昨年同様に社会人基礎力を取り上げ、実際の活動を通して指導の強化を図っていく。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	食物栄養		ボランティア活動	4名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

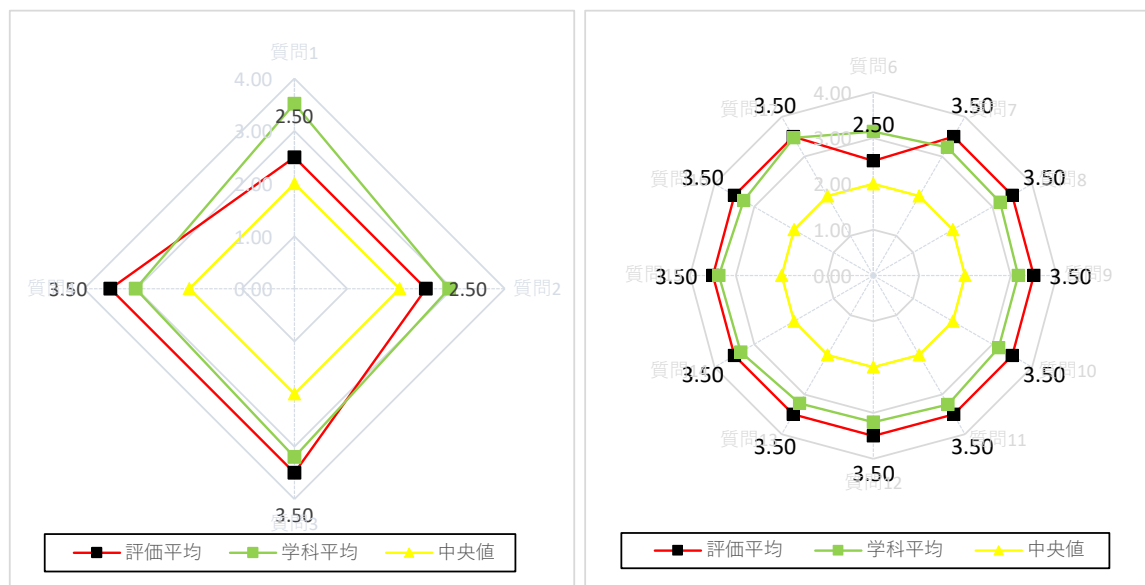
- ①学生の自己評価は学科平均を大きく上回っており、授業に対する諸項目に対しては全て大きく学科平均値を下回っている結果である。
- ②当該結果が何を意味しているのかについては、直接の教科担当者ではないので今年度については詳細不明であるが、受講学生達からの学習状況に対する聴取が必要ではないかと思う。

(3) 次年度に向けての取り組み

- ①当該授業の特性である“自主的”に“学外”での“無償奉仕(ボランティア)活動”を行い、その結果を以て“卒業間際”に“一般教養分野”での“単位として認定”すると云う学習形態とカリキュラム上の位置付けが巧く機能していないのではないかと想像できる。今後は全面的にシラバスに検討を加えた上での再編が必要と考える。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		ボランティア活動	5名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

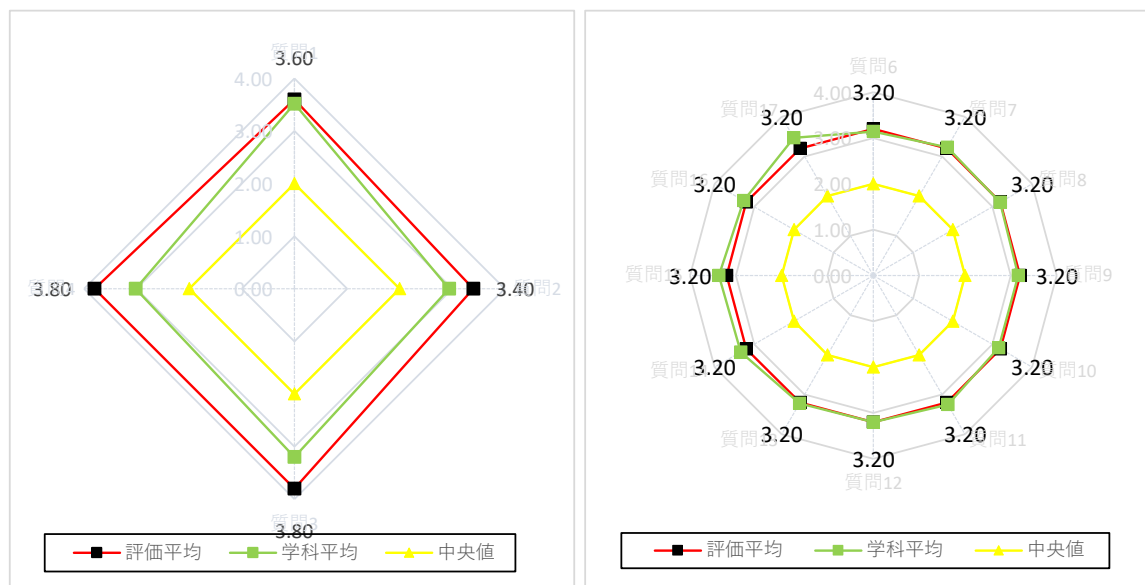
評価項目の中で質問6（シラバスの説明）がかなり低得点となっている。しかしながら、この授業については別途授業説明の用紙を配布している。また2年間通年科目となっており、ボランティア活動が中心となる為に通常の評価項目では判断が難しい。受講学生については、何かしらの活動がある時に案内をしており、受講者5めいはほぼ着実にボランティア時間を達成しようとしている。

(3) 次年度に向けての取り組み

次年度には配布資料がシラバスの代わりになっていることの説明と、2年間を通して取得していくことの説明資料を工夫する。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援 生活福祉		ボランティア活動	7名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

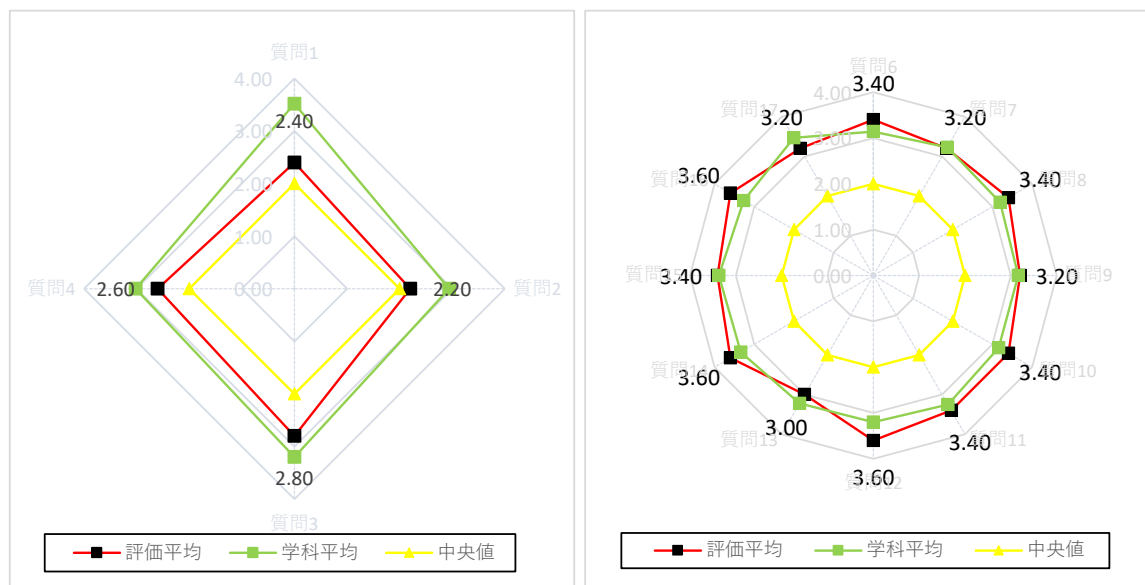
本科目は、介護福祉士養成のための必修科目ではない。あくまで学生の自主性による選択科目であり、教員が無理にボランティアの参加を強要することもしていない。科目内容の説明は1年次の前期のオリエンテーション時に行い、ボランティア募集は基本的に学生支援課を通じて行う。事前準備等が必要であれば、学生自ら行っている。質問3、質問4の値が高いが、学生の自主性・積極性の表れだと理解できる。一方質問14から質問17の値は、学科平均値より低い。教員は募集されている或いは学生が応募したボランティアの内容全てを把握しているわけではなく、教員は、ボランティアについて学生からの質問に答えられない場合は、学生支援課に問い合わせるよう指示していた。そのことが、教員の、質問対応への誠実さや授業取り組みへの熱心さが不足していると感じさせたのではないかと推測する。

(3) 次年度に向けての取り組み

学生のボランティア活動についての情報発信を行っている学生支援課との連携を強め、ボランティア募集・応募の状況及びボランティア活動の内容の把握を行う。そのことにより、学生が安心してボランティア活動に臨むことができるようサポートしていきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		化学（生活の化学）	6名

（１）学生による授業評価結果



（２）結果の分析と評価

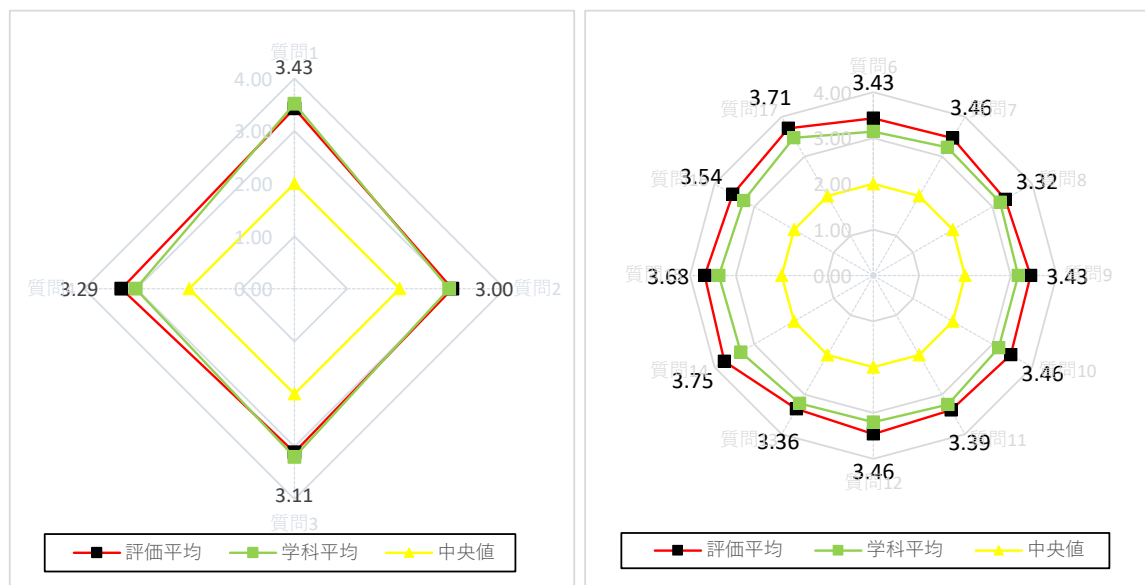
学生による自己評価はかなり低い。授業の進行スピードの評価がやや低く今後考えたい。

（３）次年度に向けての取り組み

化学を苦手とする学生が多い中にこの授業を選択してくる学生の興味関心が大きくなるよう化学を身近なものとして生活に密着してわかり易く説明していく。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援 幼児保育		生命科学	28名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

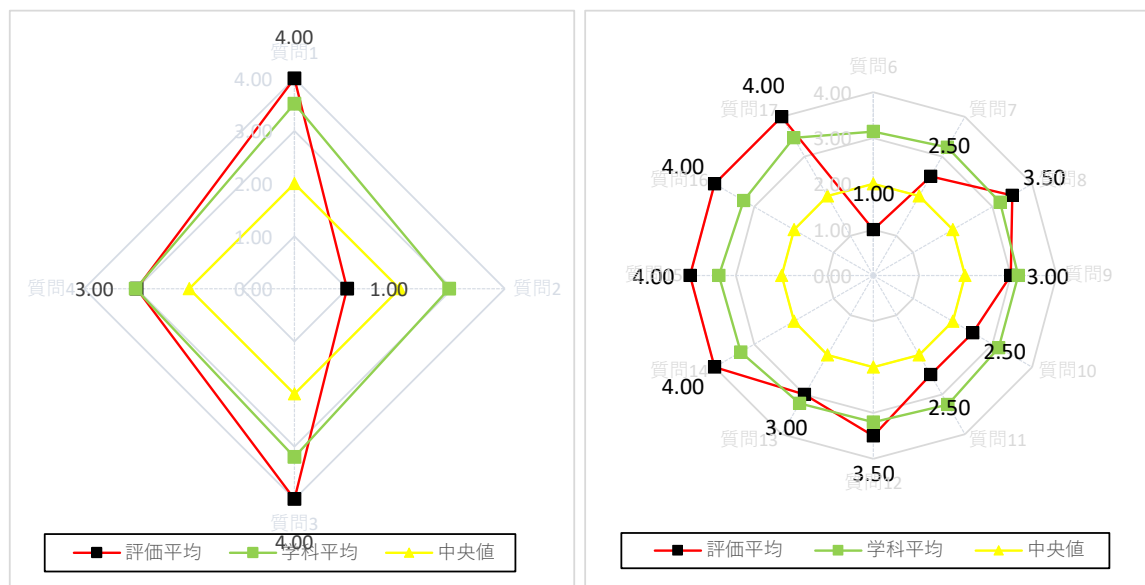
地域生活支援学科からの履修は、食生活支援コースのみであった。評価はいずれも平均値並みかそれ以上の評価値を得た。授業では、各学科の特色食生活支援コースは栄養士の、幼児保育学科は保育士・幼稚園教諭の、それぞれ将来職場で活かされるであろう事項を具体的に引き上げ、グループで考えさせ、発表と意見交換することによって学習成果の効果を期待した。自由記述では、「楽しかった」といったコメントがあった。しかし、履修者自身の評価では、およそ半数がシラバスを活用していないことが分かった。授業に対する評価では、上記方法の改善を図ったものの質問8では、半数が評価3としていた。また、質問11.12.の評価では、半数が評価3としていた。このことは、教科書で予習・復習を行うが、授業自体は教科書の内容を補足する資料を主として説明を行ったためと考えられた。また、その説明充足のために話す内容や板書の量が多かったためと考えられた。

(3) 次年度に向けての取り組み

授業では、学習内容を絞り込み、書いて覚える作業を減らして、考えを深めることに焦点を充てて改善を図る。また、補足プリントを最少にとどめ、教科書の予習・復習を前提に、ペア学習を多用して改善を図る。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		国際文化事情Ⅱ	2名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

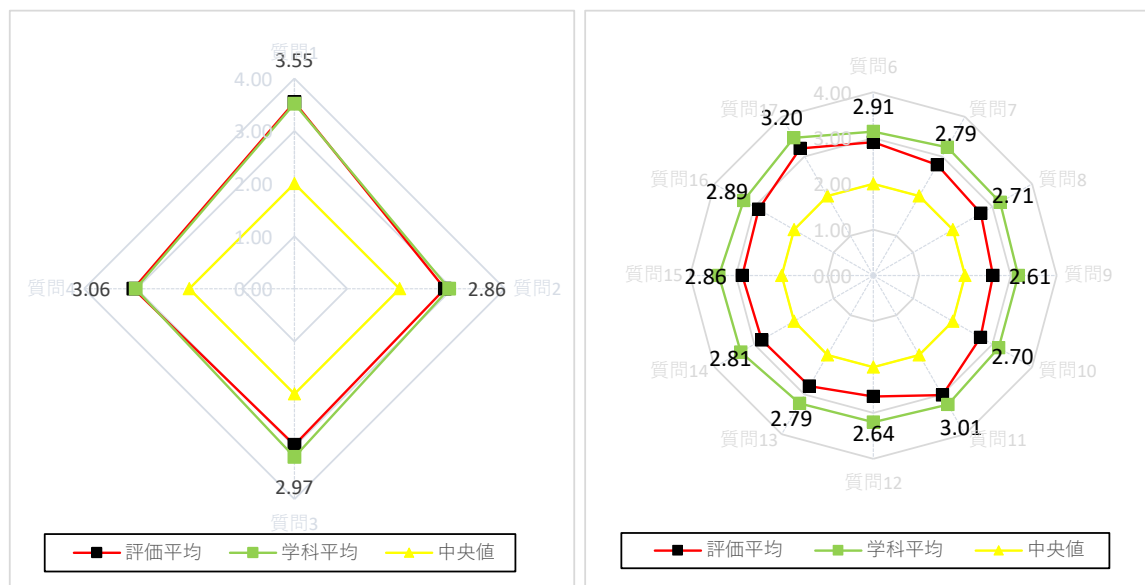
履修学生が2名では分析、評価が難しい。それでも、本講義では日本語と外国語（特に英語）の基本的表現方法を学習した。その後、受講した学生が海外留学を経験し、講義内容を思い出しながら、異文化に接触できたことを有意義であったと感想を述べた。このことは少人数の講義であったが、本講義が座学と現場学習の接点となったと思われる。

(3) 次年度に向けての取り組み

平成30年度は担当しない。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援 幼児保育		総合英語 I	143名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

例年通り、学生の専攻に応じて講義資料を準備し、卒業後の社会現場で活用できるように工夫した。講義中の話が聞こえないとの意見があったのでマイクを使ったが、さらに私語が多くなり、音声のハレーション起こり、さらに聞きづらくなったようである。そこで、マイクなしで話をしたが、私語は止まないクラスがあった。

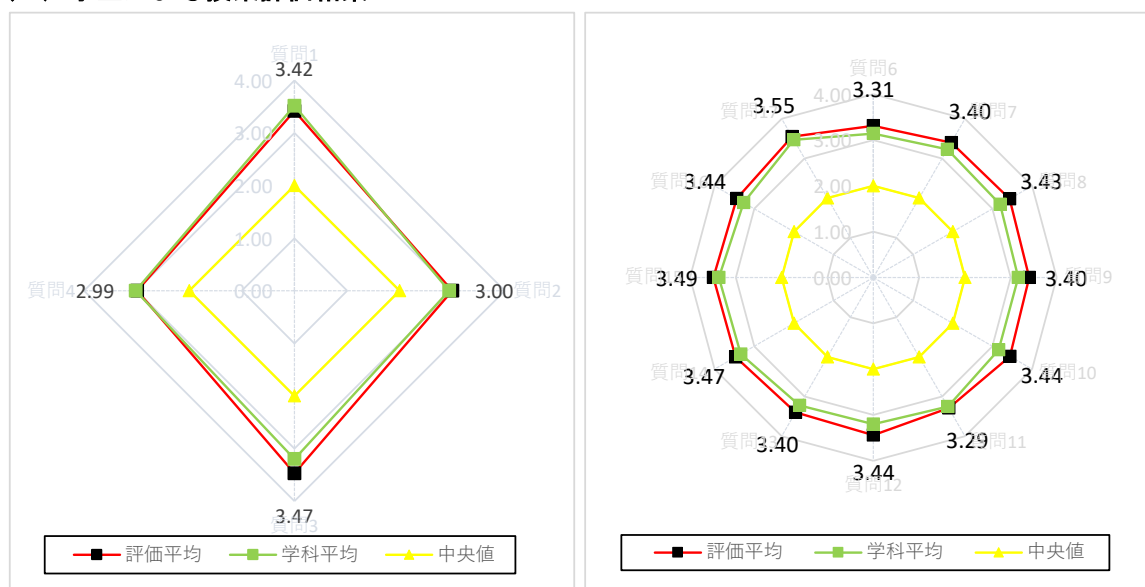
熱心に受講する学生はそれなりの成果を得ることができたようである。

(3) 次年度に向けての取り組み

平成30年度は担当しない。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援 幼児保育		健康スポーツ	151名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

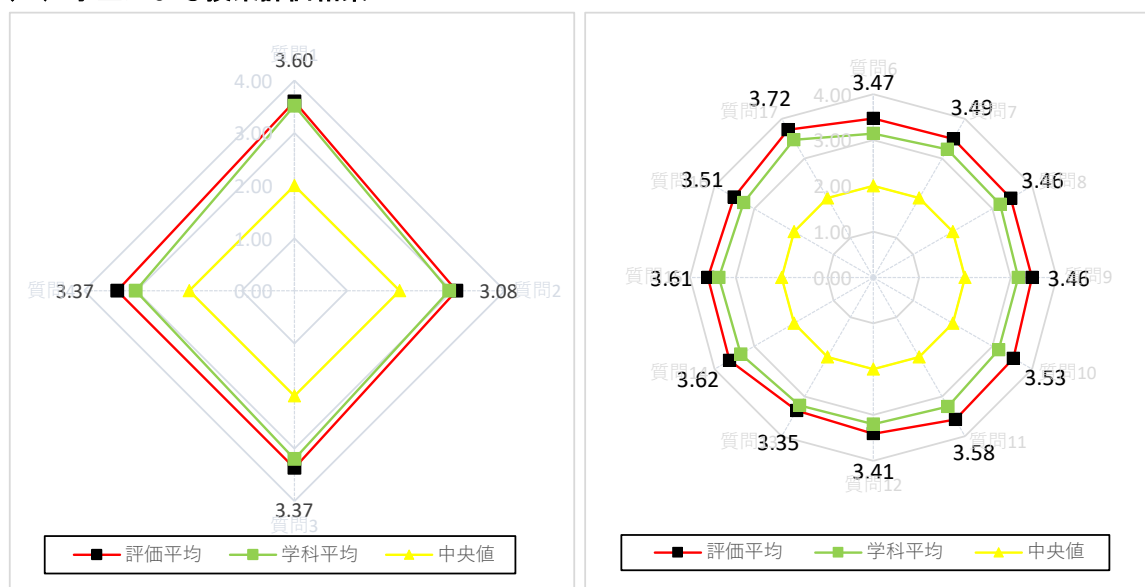
本科目は、スポーツ教材を実践する「実技」が中心的な学びであるため、学生の能動的姿勢を基盤になる。教員の授業設計・運営（設問6～17）においては、おおむね肯定的な結果を得られている。学生の授業に対する態度・行動（設問4）が学科平均よりも低い結果となっているが、学生自身は誠実に授業に取り組んだことが窺える。授業では、学生の運動能力および運動経験に差が大きいため、教員がスポーツ教材および使用道具を選択、ゲーム運営にかかわるルール等を設定した。すべての学生が、「運動する楽しさ」や「運動による恩恵」を感じられるようにするためには、今後も学生の運動・スポーツ履歴に応じた授業設計と運営が必要だと感じた。

(3) 次年度に向けての取り組み

授業で取り扱う教材に関して、学生の「やりたいスポーツ」を授業で取り上げることが難しいが、種目数を増やすことは可能だと考えられる。次年度については、学生の希望も踏まえながら、より多くのスポーツ教材に親しむ時間を確保する必要がある。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		社会福祉	95名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

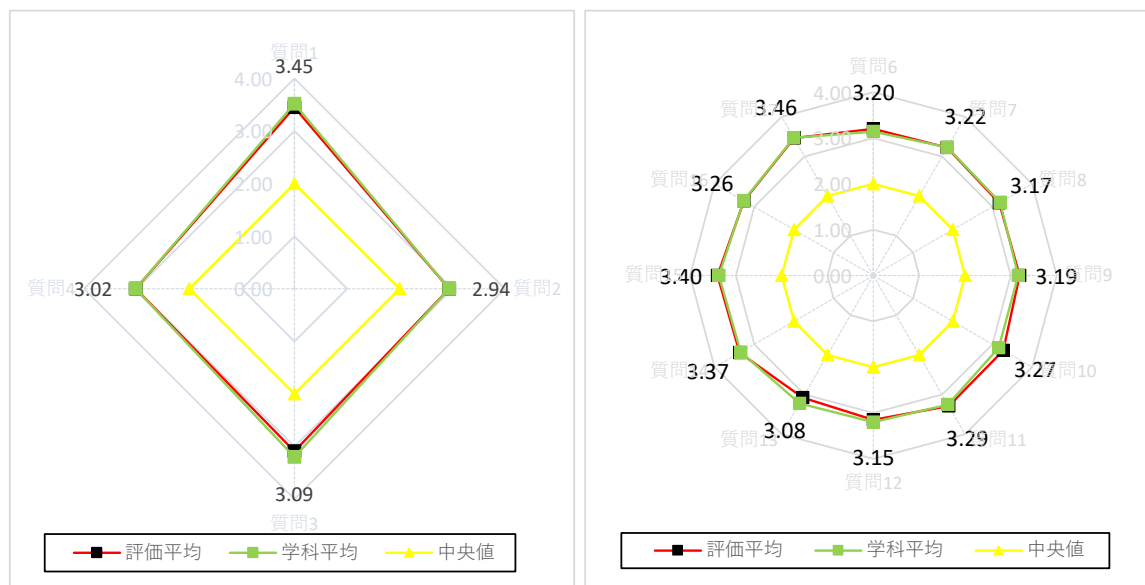
授業アンケート結果の分析と評価として、学科全体との比較においても平均的な数値となっていた。しかしながら詳細にみていくと、質問10「視聴覚機器や板書の用い方は適切でしたか。」、質問14「学生の質問等に誠実に対応しましたか。」、質問15「公平に学生に対応しましたか。」、質問17「教員は熱心に授業に取り組んでいましたか。」の項目において数値が若干、低くなっていることがわかった。

(3) 次年度に向けての取り組み

比較的評価が低かった質問項目は学生対応に関するものが中心となっているため、入学して間もない学生が高校とのギャップを感じ、かつ保育と直接の関連性を見つけにくいという特徴のある本科目ならではの工夫が必要だと考えられる。さらに、大学の授業に慣れるためのグループ学習や演習を多く取り入れるなどの取り組みも求められる。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		児童家庭福祉	93名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

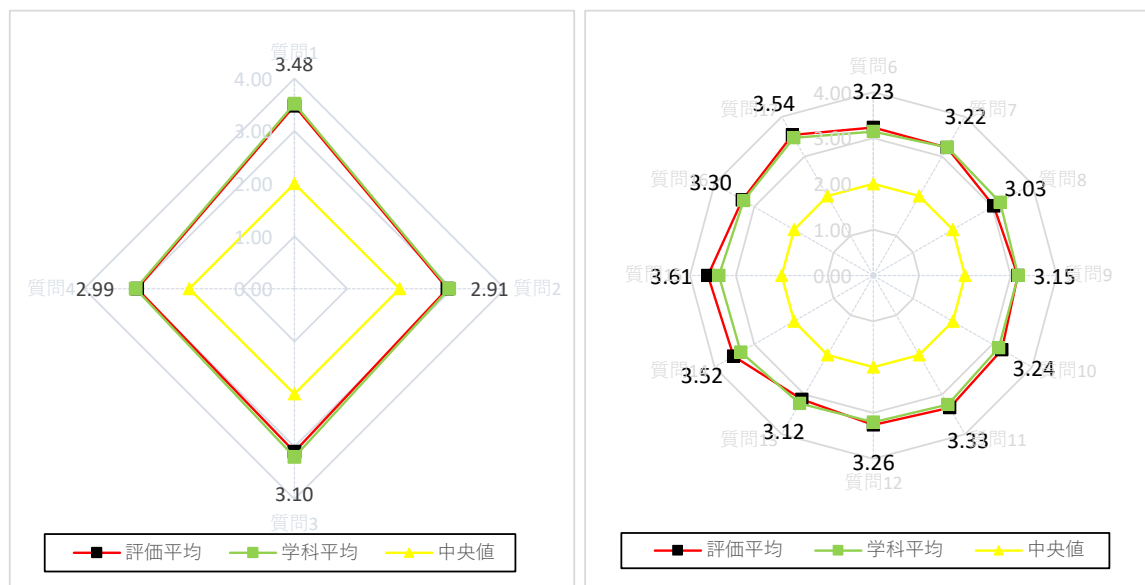
授業アンケート結果の分析と評価として、学科全体と比較しても総体的に高い評価を得ていることがわかった。特に質問2「シラバス（授業計画）を活用しましたか。」、質問3「授業中に居眠り・私語等をせず真剣に取り組みましたか。」、質問4「あなたはこの授業を理解するために自分で何か工夫をしましたか。」の評価が高く、そして質問6「シラバス（授業計画）について説明がありましたか。」、質問7「教員は授業の到達目標を明確にして、授業を展開していましたか。」、質問8「授業は興味・関心が持てる工夫がされていましたか。」、質問9「授業は分かりやすくする工夫がされていましたか。」、質問12「声の大きさ・明瞭さ・話す速さは適切でしたか。」、質問13「授業の進む速さは適切でしたか。」、質問16「教員は双方向的なやり取りをしながら、授業を行っていましたか。」の評価が高かった。同学年の前期科目である「社会福祉」の授業評価は比較的低いため、その授業内容はあまり違いが見られないが、学生の学習進度と実習などでの経験が学習意欲の向上につながっている結果だと考えられる。

(3) 次年度に向けての取り組み

次年度に向けての取り組みとしては、今年度と同様の授業形態を継承しつつ、シラバスの微修正や副教材の活用など、先進的な情報を取り入れていきたいと考えている。また、グループ学習の積極的導入を図り、導入・展開・発展といった段階的な学びを自己で構築できるような働きかけを行ってきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		相談援助	97名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

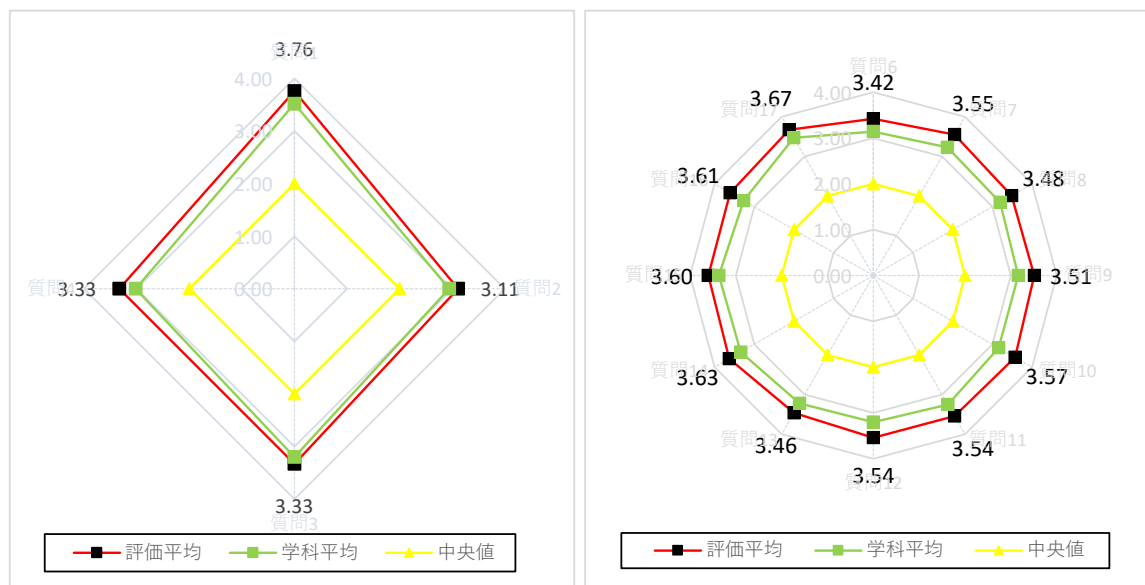
授業アンケート結果の分析と結果として、学科全体と比較しても高い評価を得ていた。具体的には、質問2「シラバス（授業計画）を活用しましたか。」、質問3「授業中に居眠り・私語等をせず真剣に取り組みましたか。」、質問4「あなたはこの授業を理解するために自分で何か工夫をしましたか。」の評価が高く、さらに質問6「シラバス（授業計画）について説明がありましたか。」、質問7「教員は授業の到達目標を明確にして、授業を展開していましたか。」、質問8「授業は興味・関心が持てる工夫がされていましたか。」、質問9「授業は分かりやすくする工夫がされていましたか。」、質問12「声の大きさ・明瞭さ・話す速さは適切でしたか。」、質問13「授業の進む速さは適切でしたか。」、質問14「学生の質問等に誠実に対応しましたか。」、質問16「教員は双方向的なやり取りをしながら、授業を行っていましたか。」の項目も学習の効果として高い数値となっていた。特にこれらの項目は主体的な学習・能動的な取り組みの結果であり、これまでの授業改善が効果的に影響したものと考えられる。

(3) 次年度に向けての取り組み

次年度に向けての取り組みとしては、これまでの授業改善の流れを踏襲しつつも、新たな取組として演習要素を取り入れたグループ学習を積極的に導入したい。また、学習課題を明確にして、就職後のキャリアパスに繋がる内容を検討していきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		保育原理	96名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

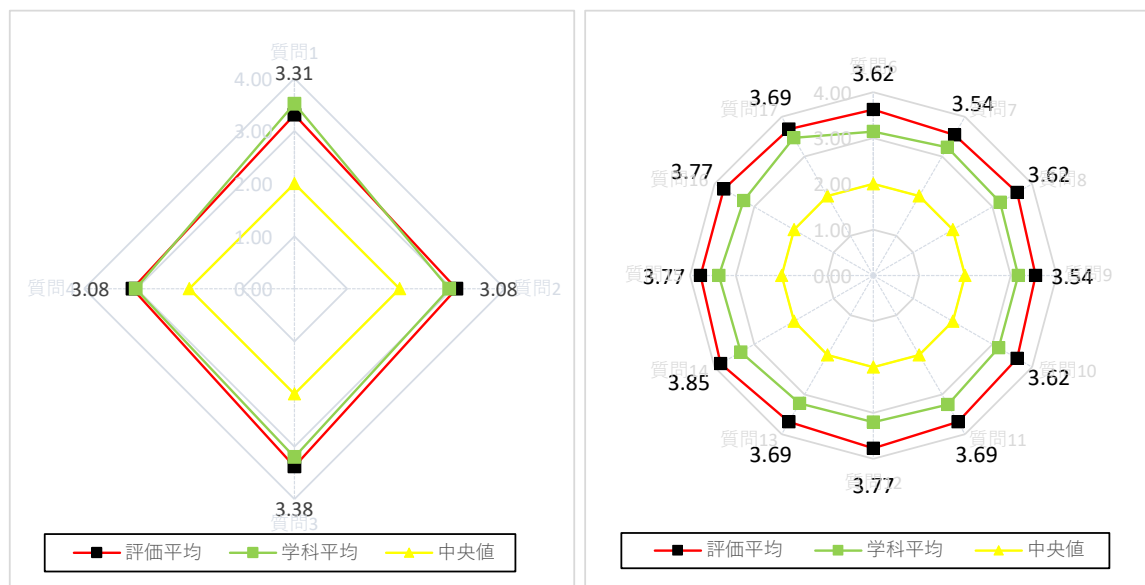
全体的に平均的な評価となった。
毎年少しずつではあるが、授業内容・方法の改善を行っているため、
肯定的な評価が増えてきているようだ。

(3) 次年度に向けての取り組み

講義型の授業に協同学習の要素を取り入れ、
学生間に共に学び合い、教え合う関係を築いていきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	生活福祉		社会の理解Ⅱ	17名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

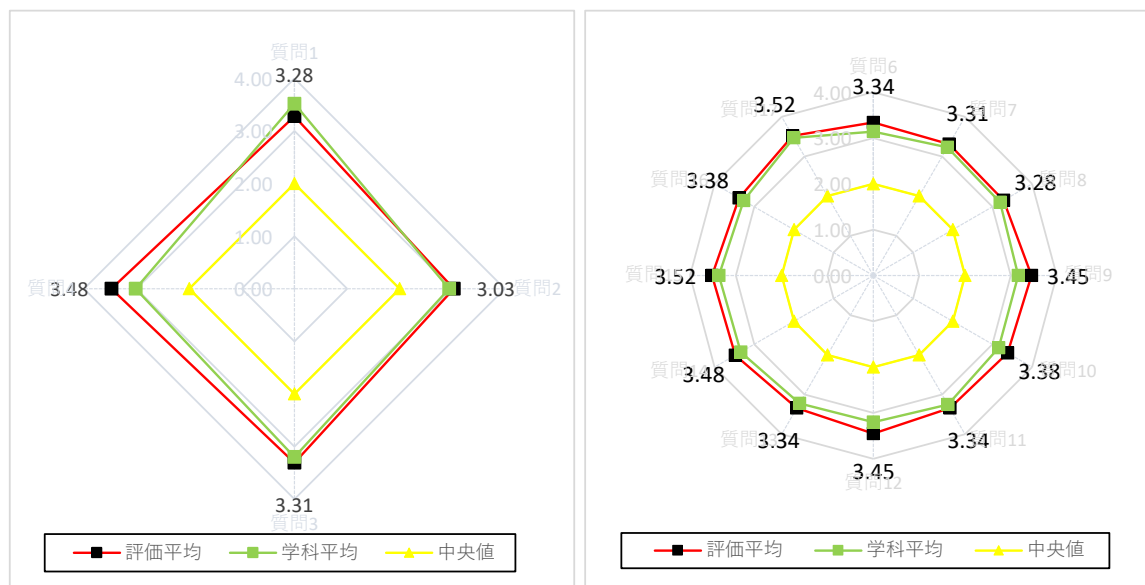
介護保険制度など法律や制度の内容が主であり、学生にとっての楽しい授業とは言えないが、国家試験もあるので、まじめに授業に取り組んでいる学生が多かった。受験に備えて、パワーポイントを活用して総まとめをした。教員の授業に対する評価は、全体を通して3.5以上であったが、学生に対する質問では、欠席や授業に対する工夫は平均より低かった。

(3) 次年度に向けての取り組み

科目が講義中心なので、90分の授業は教える方も受ける側もきついと思う。学生が興味をもてるように授業を工夫して行うようにしたい。また、国家試験に備えて大事な個所は何度も説明し、パワーポイントで総まとめをしたいと思う。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		生化学	38名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

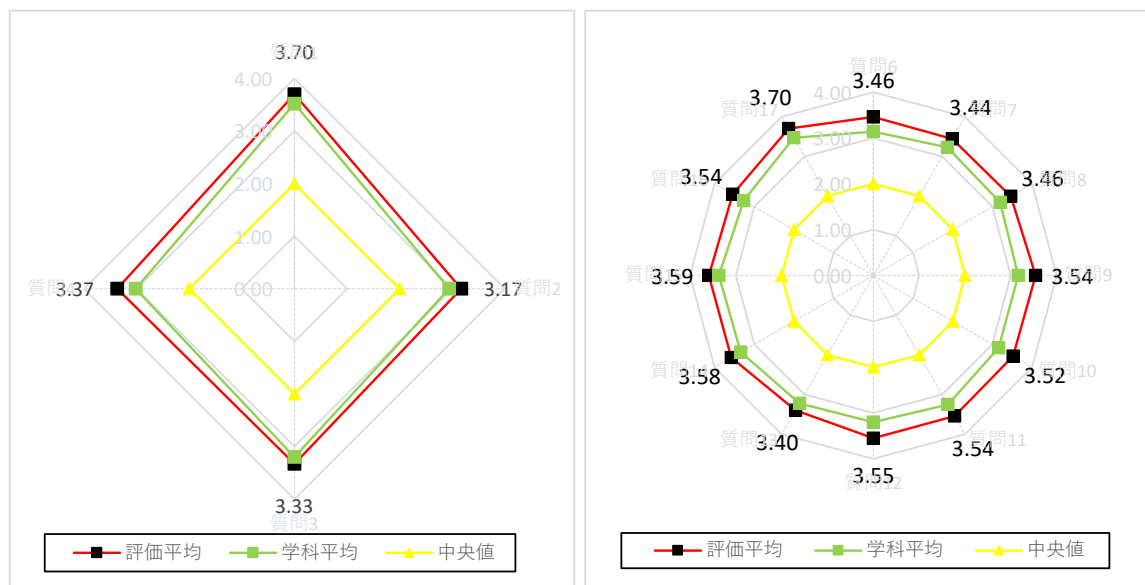
基礎栄養学とのつながりのなかで、授業を展開してきた。授業では、板書・解説を主として、代謝のイメージ化を図った。また、適宜問いかけを行って、学生の理解度を確認してきた。評価は、全体的に平均以下であったことは、恐らくは、基礎栄養学の授業展開とほぼ同じでありながら（基礎栄養学の評価は比較的高い評価を得ていた）、学習内容の深化についていけていないことが考えられた。

(3) 次年度に向けての取り組み

同様の授業展開を行っていくが、学習内容をより絞り込み、授業のなかで覚えてく作業（ペア学習など）を取り入れ、学習の改善を図りたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		社会的養護	95名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

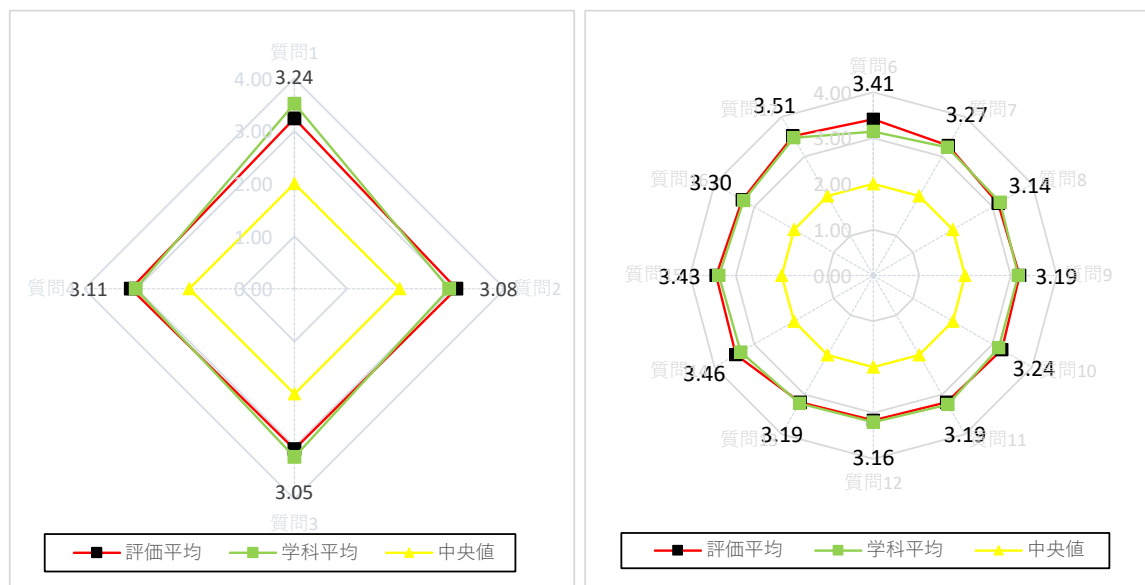
授業アンケート結果の分析と評価として、学科平均と同程度の数値であり、一定の評価が得られていた。しかしながら詳細にみていくと、質問9「授業は分かりやすくする工夫がされていましたか。」、質問10「視聴覚機器や板書の用い方は適切でしたか。」、質問12「声の大きさ・明瞭さ・話す速さは適切でしたか。」、質問17「教員は熱心に授業に取り組んでいましたか。」の項目が低く推移していた。これらの傾向は同学年の科目である「社会福祉」においても同様の状況がみられるため、学習内容と進度との関係性を見直す必要がある。

(3) 次年度に向けての取り組み

次年度に向けての取り組みとして、入学後における授業への動機づけとこれまでの学習形態との違いを理解するための取り組みが必要だと考える。さらに、保育士のスキル向上につながる明確な学習目標の提示と学習内容を具体化するような工夫を図っていきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	食物栄養		生化学実験	38名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

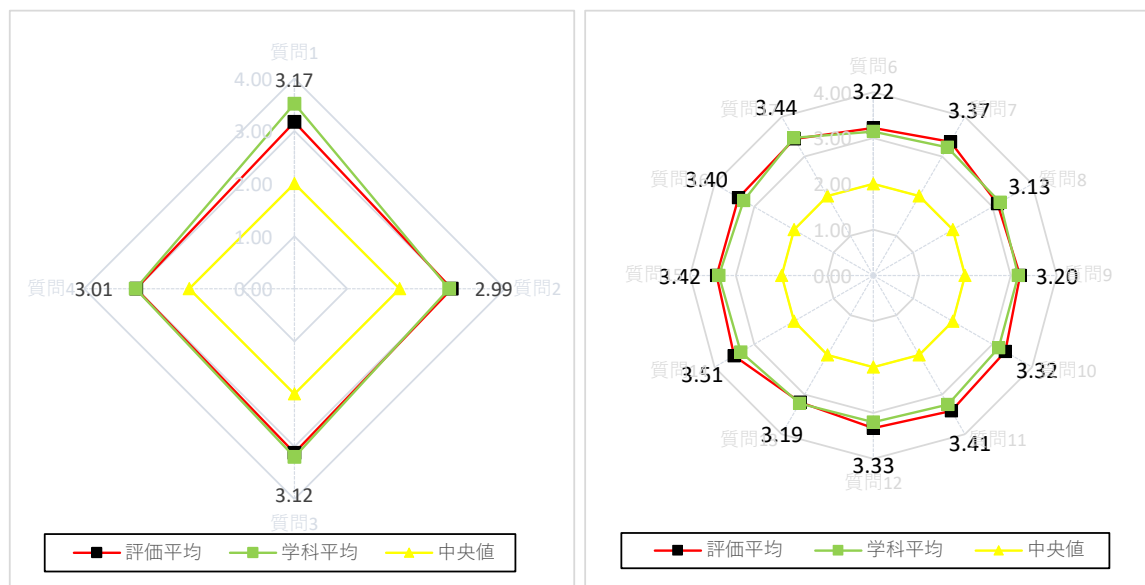
授業では、実験に関連する生化学内容について30分程度の学習から、実験の説明、そして実験を行っている。評価は概ね平均的なものであり、展開や教材への改善が必要と考えている。

(3) 次年度に向けての取り組み

学生の実験への関心は、比較的高いので、実験自体の充実と教材プリントの改善を検討していく。実験自体が高度になると、学生はそのたいへんさから意欲を低下させることも懸念されるため、この点を考慮した実験を考えていく。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		教育総論	94名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

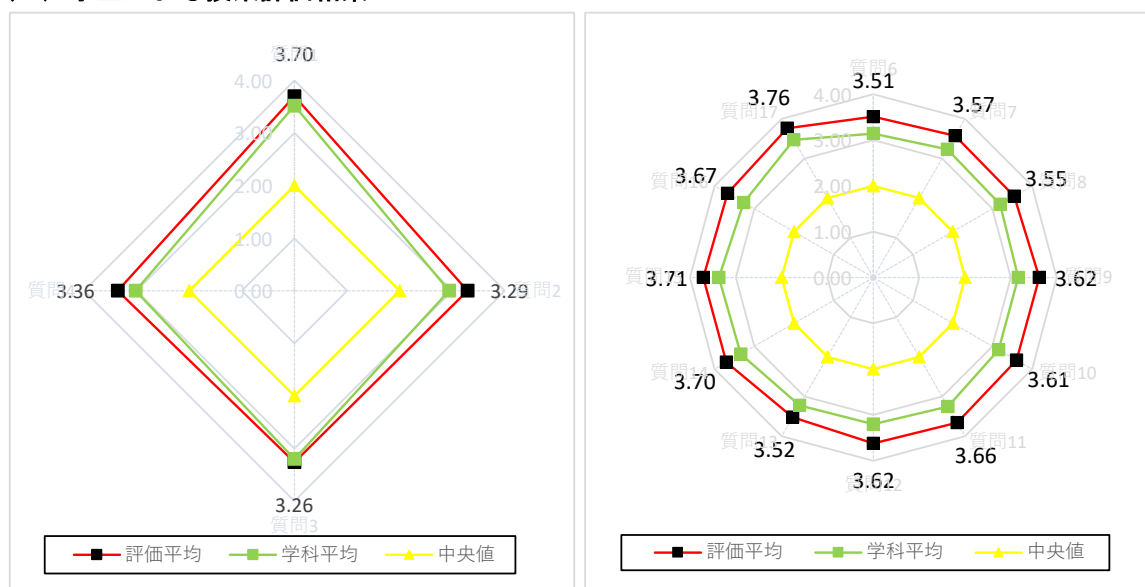
学科平均に比べて、学生の主体的な取り組みが低かった。
授業で扱う内容が多く、講義中心の授業スタイルになってしまったことに起因する。

(3) 次年度に向けての取り組み

授業内容を精選し、講義型の授業に協同学習の要素を取り入れ、
学生の能動的な授業参加を促したい。
また、学生間に共に学び合い、教え合う関係を築きしていきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		発達心理学	96名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

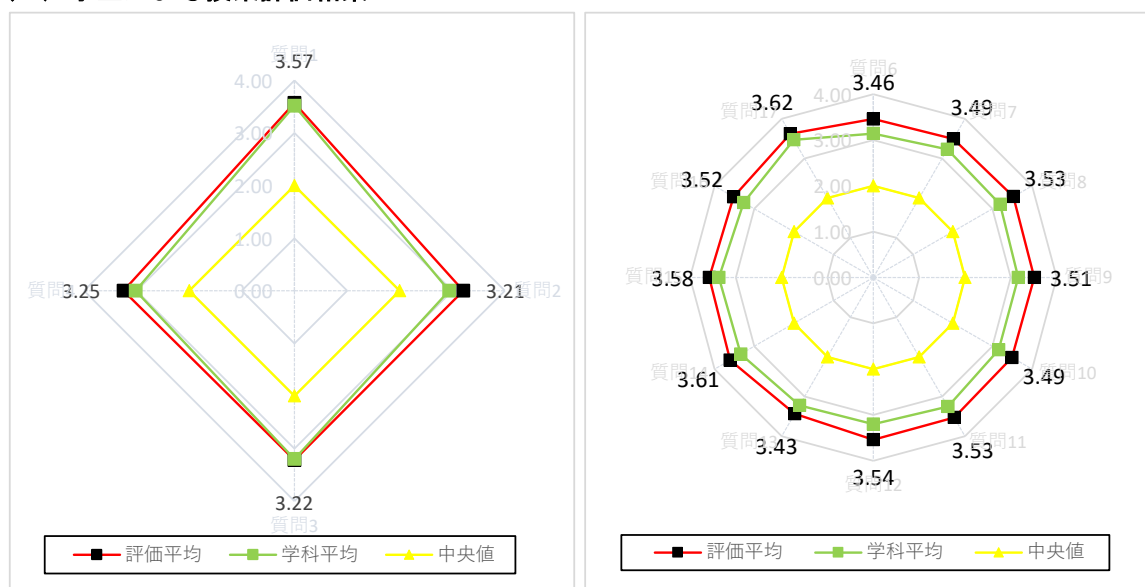
質問9～11や自由記述の内容から、教科書のみでなくスライドや視聴覚教材等を適宜使い、丁寧な説明を心掛けながら授業を行ったことが、学生の理解を深めると同時に、子ども（特に乳幼児期）の発達への興味・関心を促したと思われる。また、質問8についても学科平均よりも高い値となっている。初めての実習前には学生の不安点を拾いながら関連する知識や技術を伝え、実習後には実習中のエピソードを拾いながら、学生が授業内容と実践とを結びつけられるような授業を展開したことが影響していると考えられる。

(3) 次年度に向けての取り組み

昨年度同様、「授業スピードが速い」とコメントした学生が数名みられたため、これまで以上に学生の反応を確認しながら進めるよう心掛けたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		教育臨床心理学	96名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

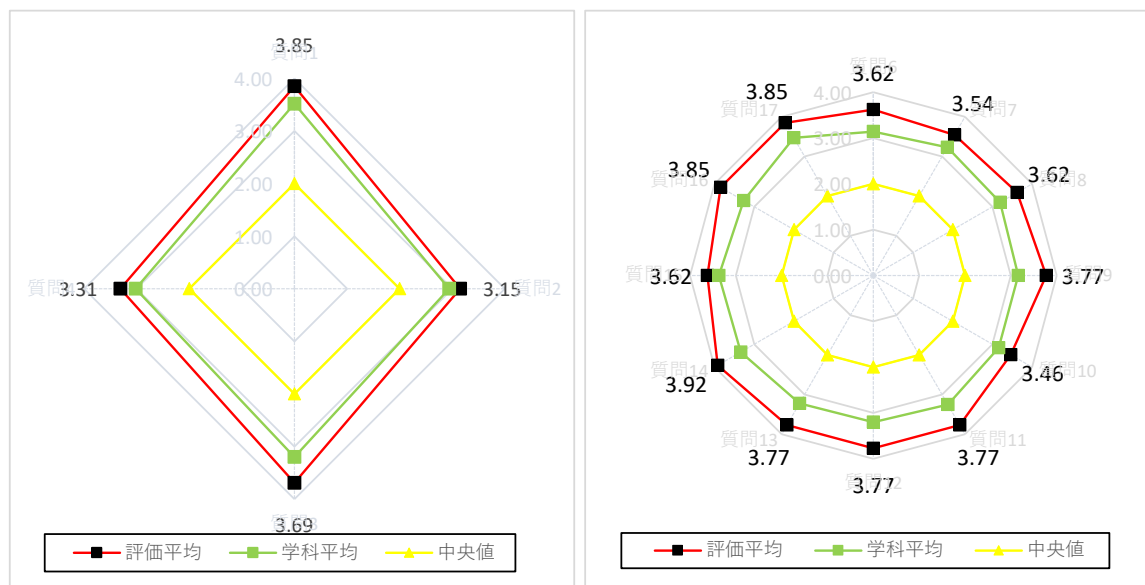
質問3が学科平均より低い値となっている。学生のコメントには「難しい単語ばかりで出てくる。」「理解が難しいところがあった。」等の記述があり、学生の理解度に合わせた工夫・配慮が必要であったように思われる。一方、質問8、9では学科平均より若干高い評価も得られている。学生のコメントにも、心理学を学ぶことの楽しさや本科目の受講が心理学への興味・関心につながったことが窺えるような内容がみられた。実際に、自己理解や他者理解を促すため、臨床心理学的手法を体験するような内容も取り入れており、このことが心理療法への理解を深めることにもつながったようであった。

(3) 次年度に向けての取り組み

授業内容の難しさや試験の難しさをコメントした学生が数名みられた。授業の様子や自由記述の内容からは、保育者を目指す学生が臨床心理学を学ぶことの意義については十分に理解できていると思われるため、今後は、学生が身近に感じられる内容も取り入れながら、より解りやすい授業を展開できるよう努めたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	生活福祉		レクリエーション活動援助法Ⅱ	17名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

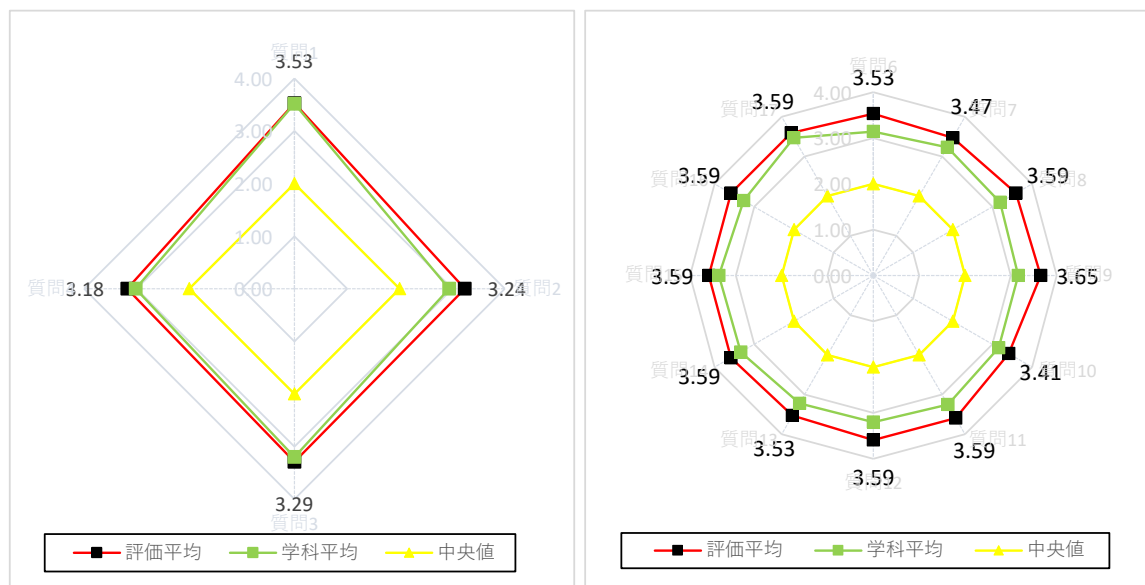
レクリエーション活動援助法の科目は、学生が企画し、講義はほとんどなく生涯学習センターの生きがいづくり教室で実践する授業である。参加高齢者からの意見や指導の他、グループワークの学びや企画力など学生が学ぶことが多い。まさに学生が主体的に活動する科目であることやほめられることも多く、達成感を感じることができ、授業評価は高評価である。本番とリハーサルを森先生と交代で担当しているが、森先生のパワフルさも学生に刺激を与えていると思う。

(3) 次年度に向けての取り組み

新しい参加者も増えて若返ってきており、リハーサル時には情報を提供しながら指導をしていくことが必要である。学生はどうしても自分たちを中心に考えたレクリエーションを考案するので、相手に合わせた計画が必要とのことを教えたり、また、1つのレクリエーションをバージョンアップしていくことも必要といったことも今後はさらに教えていきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	生活福祉		介護予防支援学	17名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

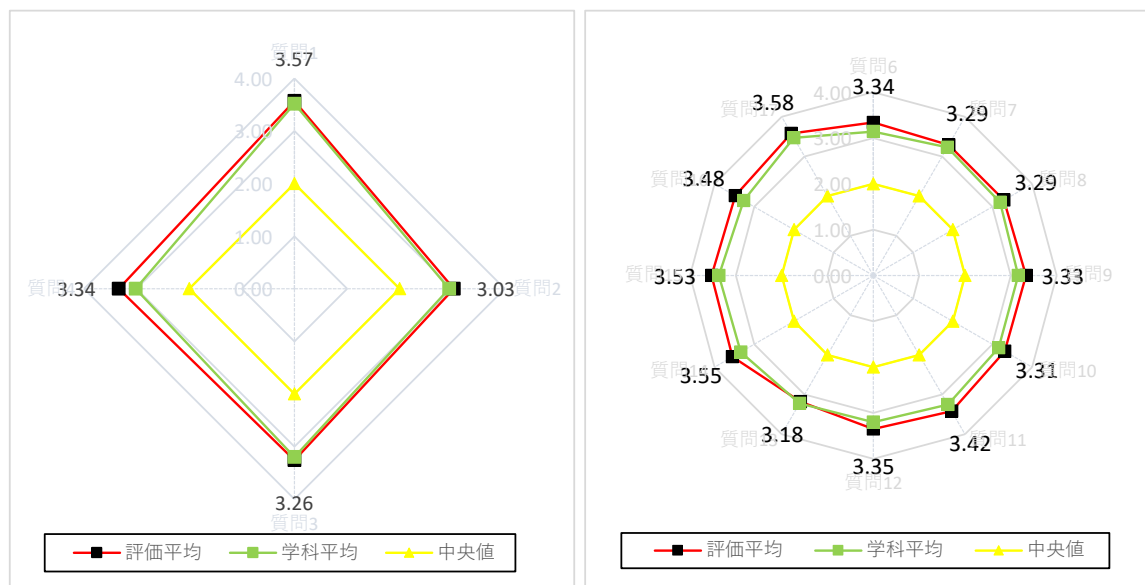
この授業は、オムニバス授業であり、昨年の授業評価はあまりよくなかったが今年の授業評価は高評価である。外部の先生方も多くどのような授業をしておられるか、レポートでしか知ることができないが、学生のレポートを見ると大変役に立った授業だったというような記録も多い。この授業は「介護予防支援員」の資格を与えるため、レポートの提出や出席状況で資格を与えるかどうか決めるということをもって学生に伝えており、学生もほとんどがまじめに出席していたと思う。今年度は全員に資格を付与した。

(3) 次年度に向けての取り組み

これまでのやり方でいいのか、内容をどうするか、資格の条件など、コースの先生方で再度考えていいのかもしれない。オムニバス授業は、他の先生との共通理解が必要であるが、教員同士の情報交換は不十分なので今後は連携を密にするための方策も検討したい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		子どもの保健Ⅰ（基礎）	94名

（１）学生による授業評価結果



（２）結果の分析と評価

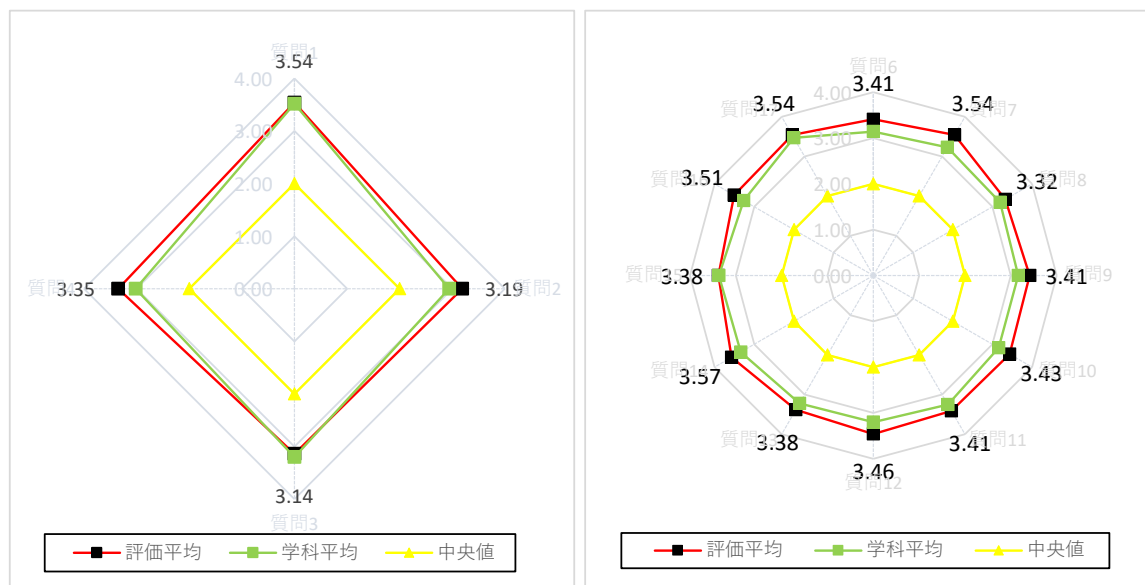
全部の項目で、学科平均より低い評価となった。特に質問7到達目標の明確、質問13授業の進む速さ。教科書を中心に進めていたが、授業の中で「どこのところですか」と聞き返す声もあり、進む速さとも関連して、何を学習しているのか伝わりにくかったようだ。また、学生自身の授業に対する興味や姿勢においても関心の薄さが感じとれた。子どもの健康に関する専門的な内容が含まれるのだが、授業の魅力や楽しさに欠けていたため評価が低くなったと反省する。

（３）次年度に向けての取り組み

授業の進行状況、説明、板書、教材の工夫など見直しが必要。双方向的な授業に努め、説明内容をこれまで以上に丁寧に行うよう心掛ける。また、授業に対する興味・関心を喚起するため、日常生活との関連事項を図りながら授業を展開する。度々質問を投げかけ、学生が自主的に参加し活気ある授業に取り組むたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		食品学 I	38名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

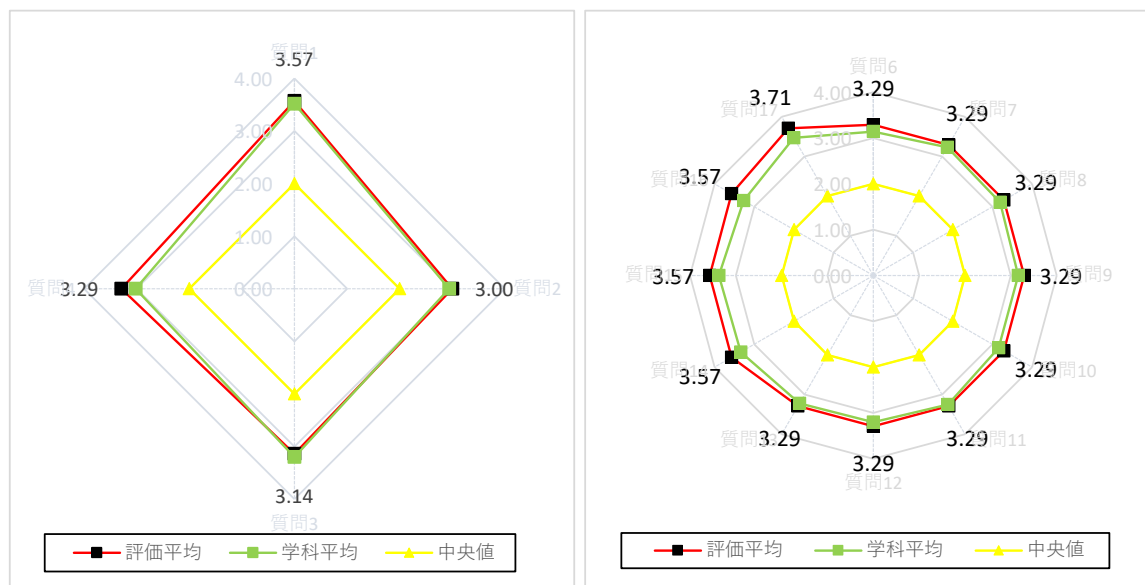
学生による自己評価、その他の授業評価とも概ね学科平均と同等の評価であった。

(3) 次年度に向けての取り組み

より関心を持ってもらえるよう、また食品学の理解が深まるよう、授業の資料等を改定していく。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	食物栄養		卒業研究	8名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

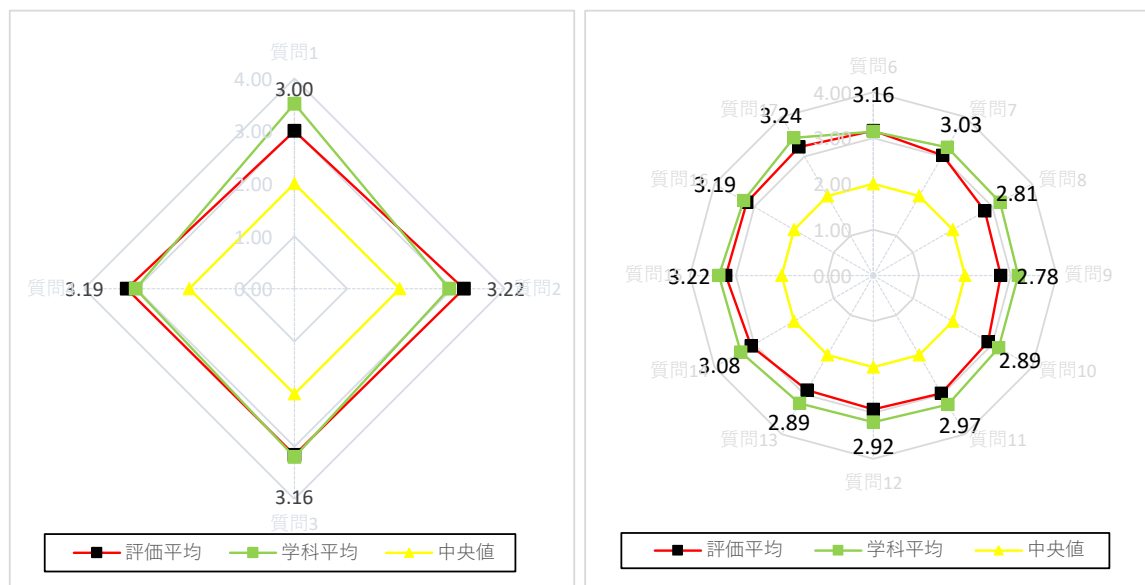
限られた時間のなかでの卒業研究であり、地域貢献活動と実験系の双方を効率的・効果的に展開していくため、授業計画と学習内容を適宜見直す機会を設け、進めてきた。評価は概ね平均的なものであった。卒業研究は、学生にとって学修内容の範囲は広く、また活動内容も様々あるため、かなり密度が高い学習となっていることが考えられた。最終の卒業研究発表会では、学習が追い付いていない状況が見て取れた。

(3) 次年度に向けての取り組み

学生主体的に卒業研究テーマを決めていくなかで、課題を絞り込み、グループ研究としてのチームワークの強化を図る指導を充実させる。また、就業力育成の観点を踏まえた振り返り学習の機会を増やすことで、テーマの学習はもとより、態度や志向性、行動力を高めていく。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	食物栄養		食品学実験	38名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

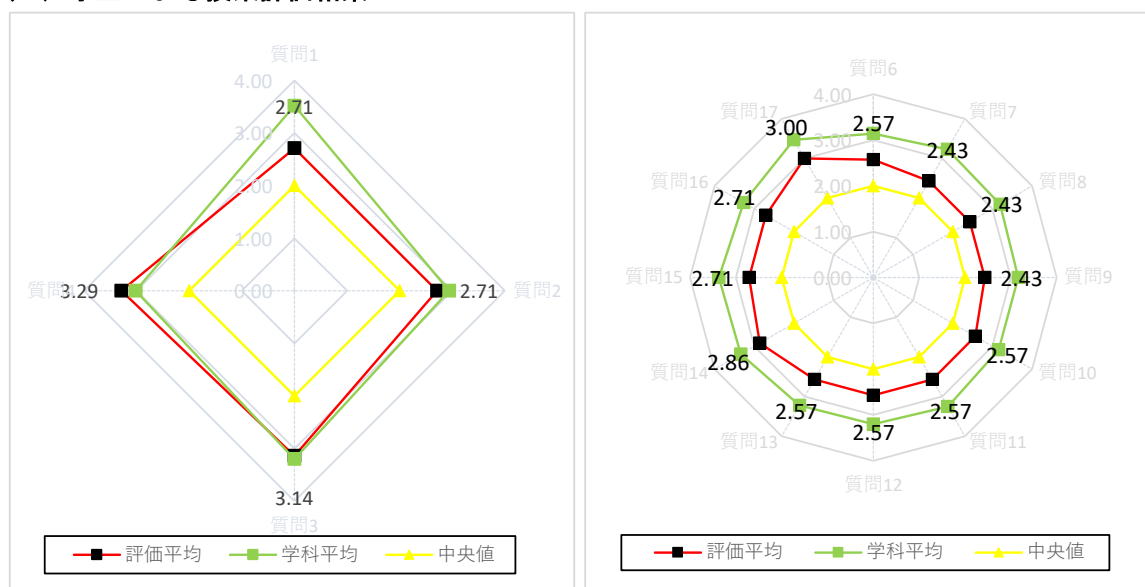
学生自身の自己評価は学科平均と同等であった。その他の授業に関する評価は学科平均を下回っていた。シラバス、到達目標の説明は初回の授業で実施しているが学生の意識は低い。化学系の実験ということ、食品分析のデータ処理、計算など多くの学生にとって苦手な分野であり、わかりやすい工夫が必要である。

(3) 次年度に向けての取り組み

実験内容の見直しを行う。苦手な計算などは資料を工夫したり、理解に時間をかけていくようにしていきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	食物栄養		卒業研究	7名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

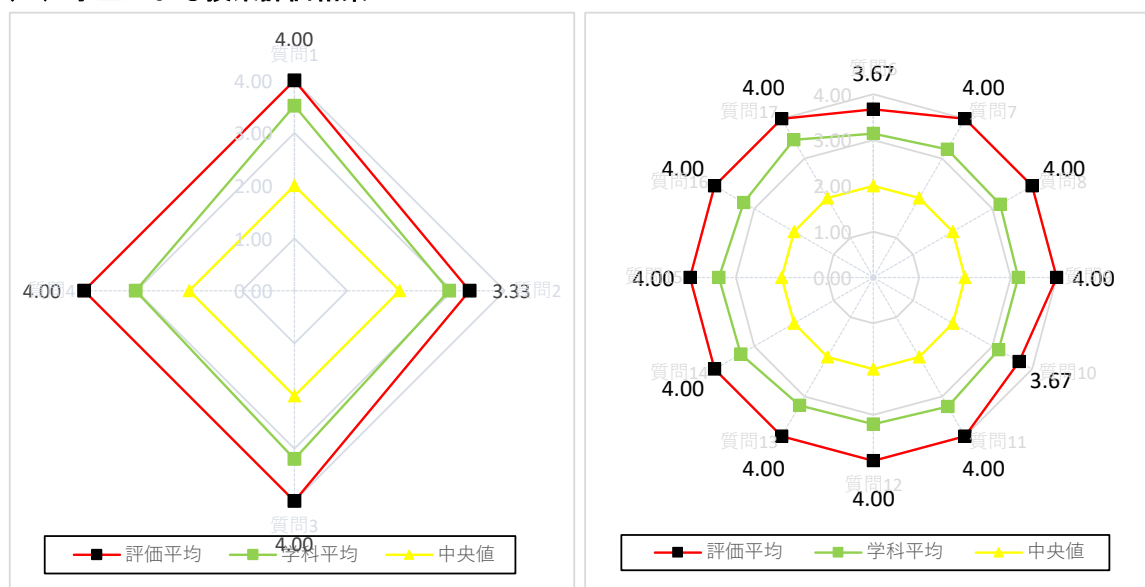
①学生の自己評価は高くないが概して平均的ではあるが、当該授業に対する学生評価は何れの項目についても低値である。同教科は学科平均評価自体が低く、それを更に下回る結果となっている現状を診ると、現在の短大教育環境下での当該卒業研究活動の在り方については再考の余地があるように強く感じている。

(3) 次年度に向けての取り組み

①創立当時からアクティブラーニング授業の先駆けであったはずの特徴ある当該授業が、年数と時代を重ねるに従って、学生達の対応能力や各テーマに臨む姿勢などが大きく変遷して来ていると感じている。早急に現代版アクティブラーニング科目として、その諸特性によりマッチした形態の斬新な授業の再開発が必要であるとする。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	生活福祉		卒業研究	3名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

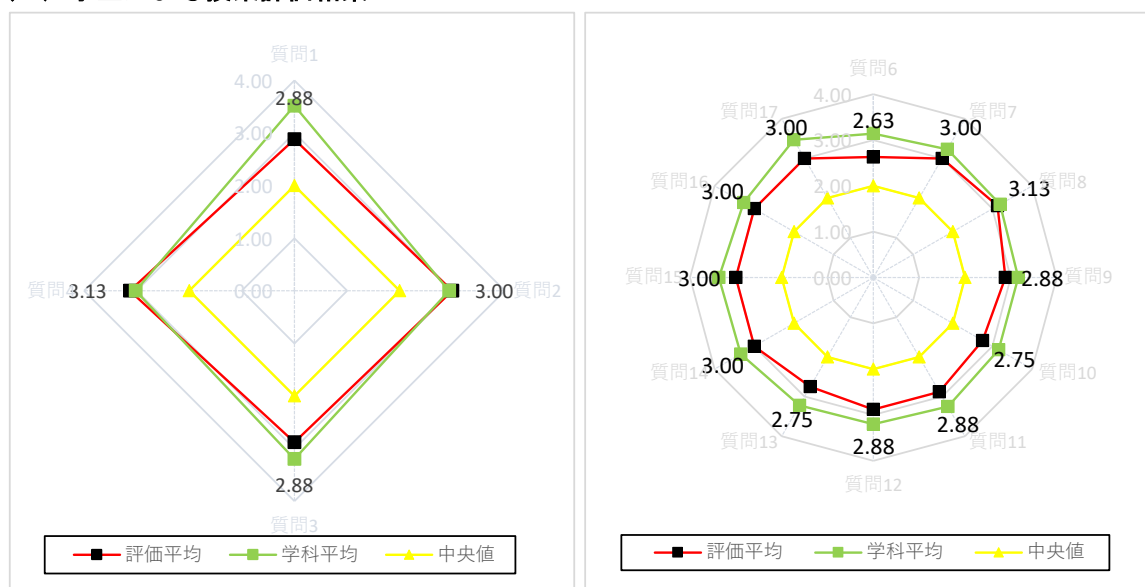
担当した3名の学生ははじめに取り組んだ。1名は、社会人であり、研究したい内容について現地調査のため、最初は同行し紹介したが、その後は、空き時間を利用して何回か調査に赴いた。2名の学生は、介護福祉士の会員の会員を対象に介護の人材確保についてアンケートを実施した。アンケート内容については、細かく指導し、倫理委員会にかけ、知り合いの会員に頼んだこともあって多くの回答を得ることができた。評価については、学生自身はじめに取り組んだことから高評価であった。

(3) 次年度に向けての取り組み

担当学生の研究したい内容について、その動機を把握し、文献の紹介や聞き取り調査に同行したり、実際に業務を担当している福祉職員など、細かく指導をしていきたい。また、アンケート調査などにおいては、学生の意見を尊重しながらも、細心の注意を払い指導をしていきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	食物栄養		卒業研究	8名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

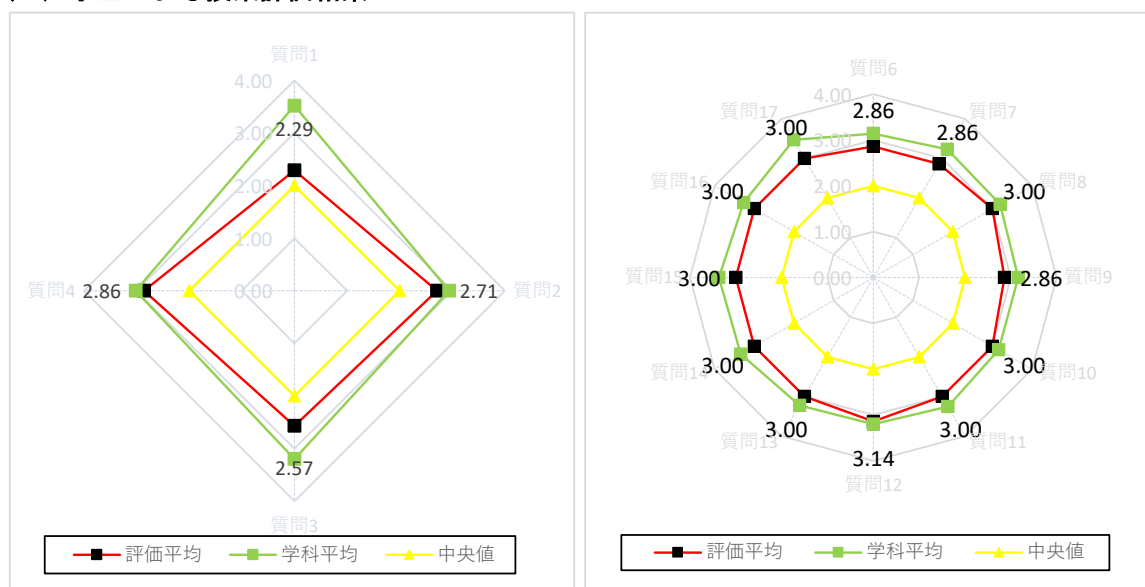
学生の自己評価では、出席と真剣さがやや低い評価となった。教員の授業評価についてはすべて学科平均を下回っていた。今年度は予定していた取り組みを変更し2つのテーマで実施したが、学生の関心が低くこのような結果となったと考える。

(3) 次年度に向けての取り組み

学生がより関心を持てるテーマ設定と主体的に取り組める工夫をしていき、学生の興味を喚起したい。次年度は新学科となり、食コースと多文化コースと一緒に研究に取り組むので異なるコースの学生同士が関心を持って取り組めるように「食」と「多文化」をテーマに取り組む予定である。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	食物栄養		卒業研究	7名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

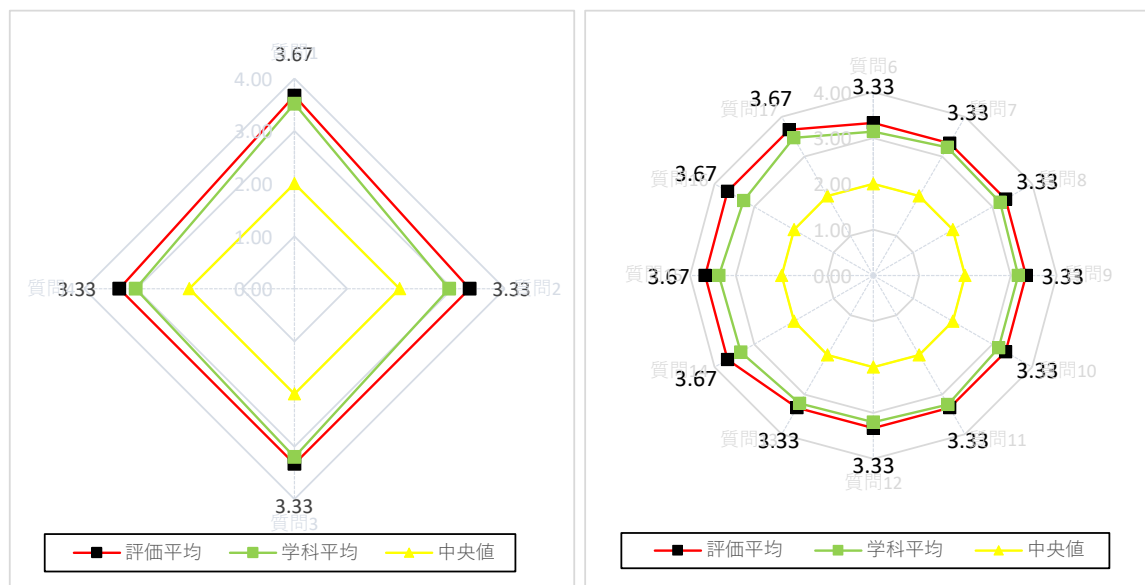
例年、学生が取り組みたいテーマで研究をすすめているため学生は積極的に行っている。今年度は時間割の関係から例年になく学生への指導がやりにくく、特に後期においては十分な指導ができなかったように思う。来年度はそのようなことがないように時間を調整して頑張りたい。（ここに示されている卒業研究の授業評価は履修生7名で評価されているようになっているが、この元の生データは履修者数が8名となっている。このことから別のゼミの学生の評価が混じっていると考えられ、ここに表示されている評価は真の値ではない）

(3) 次年度に向けての取り組み

本ゼミでは、例年、学生が取り組みたいテーマで研究を行うようにしている。毎年学生は熱心に自主的に取り組み各々の研究結果をまとめあげている。教員は静かに見守り相談があった時にのり、学生の意思を尊重し学生の力で最後までやり遂げさせるという姿勢で取り組んできたが、今年度はその方法が上手くできなかったように思う。来年度はそのようなことがないように時間を調整して頑張りたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	生活福祉		卒業研究	3名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

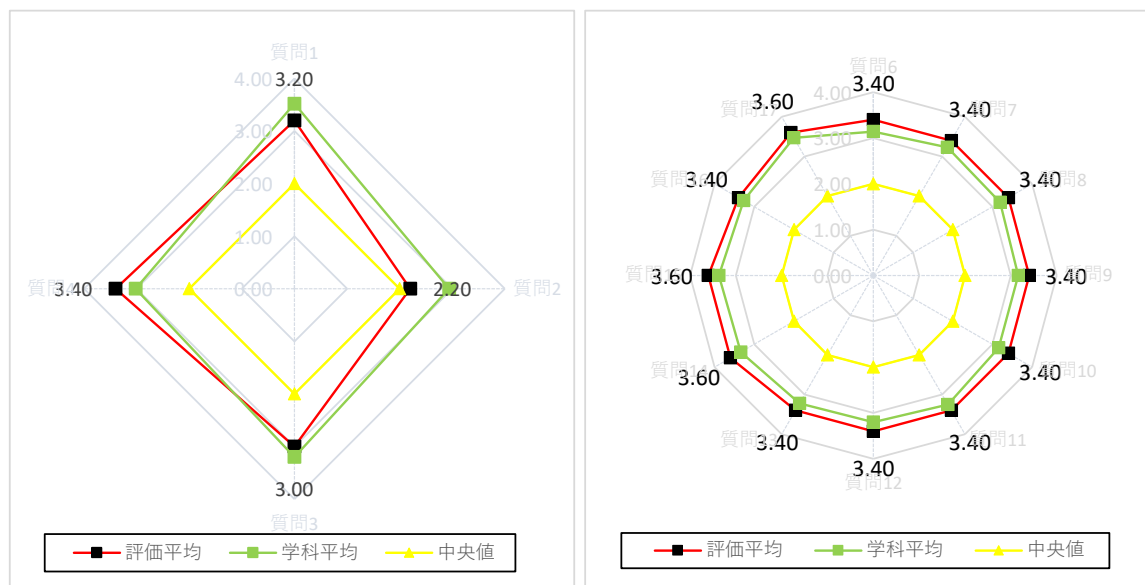
評価は、学科平均値より全体的に若干低い数値となっている。この科目は、学生自身が興味・関心を持った事柄についての研究を指導するものであるため、研究の目的はもちろん、研究すること自体の意義についても話してきたつもりだったが、学生の十分な理解には至っていなかったことがわかる。質問8の「授業は興味・関心が持てる工夫がされていましたか」も学科平均より低い値になっているが、授業内容が研究だからこそ、この項目の値は高くなければならなかったと反省する。学生は、研究の途中で何度も行き詰まり、その度にアドバイスしてきたが、その内容は不十分であったと考えられる。質問14から質問17の評価は、学科平均とほぼ同等であった。学生対応については、おおむね教員の一方的なものではなかったのだと理解する。

(3) 次年度に向けての取り組み

学生との双方向のやり取りはこれまで通り行いたい。ただし、学生が選んだ卒業研究のテーマ・内容について、教員自身がこれまで以上に積極的関心をもって学び、学生と一緒に研究を進めていく必要があると考える。卒業後も、学生が職業人として研究を続けたいと思えるような研究の進め方を考えたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	生活福祉		卒業研究	5名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

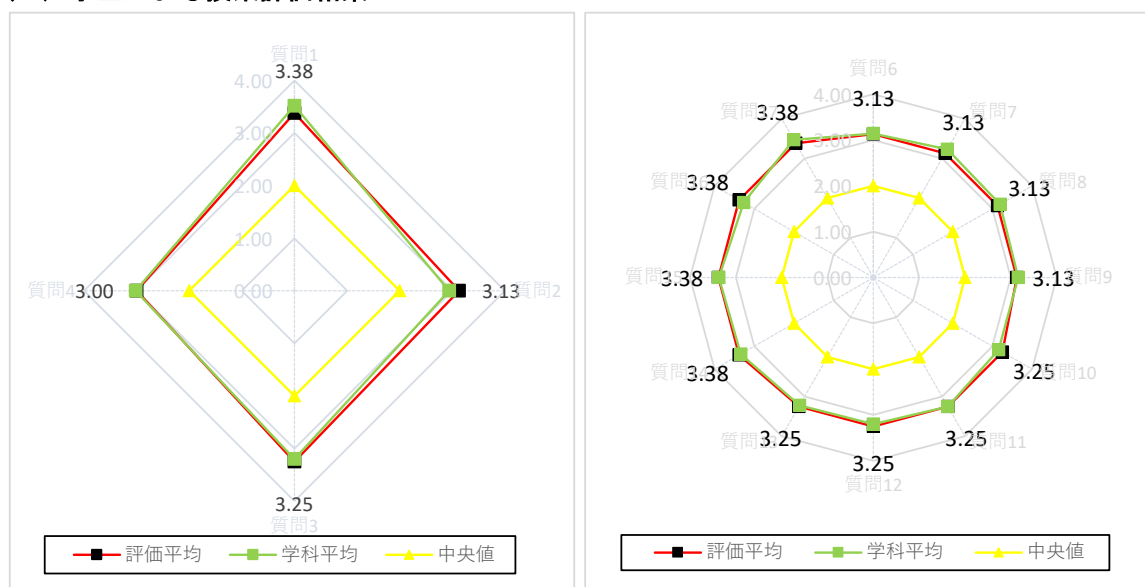
全員が評価を実施している。学生自身に対する評価ではシラバスの活用が極端に低い。実際、あまりシラバスについての説明は少なかったと思われる。記述のコメントでは親身になり研究発表会できちんと説明できたことを評価してある。5人中2から3人が3の評価であった。学科平均より少々低かった。特に板書をするわけでもなく当てはまらない項目も多いが、学科平均より火付きということは改善すべきことがあると思われるが、質問内容で評価に変化は特になく、記述コメント評価には良いことしか書かれておらず、3の評価の理由が見えにくい。全体的に学生主導で卒業研究を行っており、毎回の指導が少なかったのかもしれない。

(3) 次年度に向けての取り組み

シラバスの説明をしっかり行う。細かい指導を毎回行う。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	食物栄養		卒業研究	8名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

卒業研究の評価結果は学科平均と比較すると、問6～9は若干低い評価であるが、他の項目はあまり大差はみられない。総合評価は3.24であった。この授業の特徴は学生自らテーマを設定し目標を立ていくため、グループ内でのコミュニケーションが重要になっている。評価が低かったシラバスの説明や明確な授業の展開など、分かりやすく工夫することで、学生が積極的にコミュニケーションを図りながら進めていくことが大切であることが分かった。

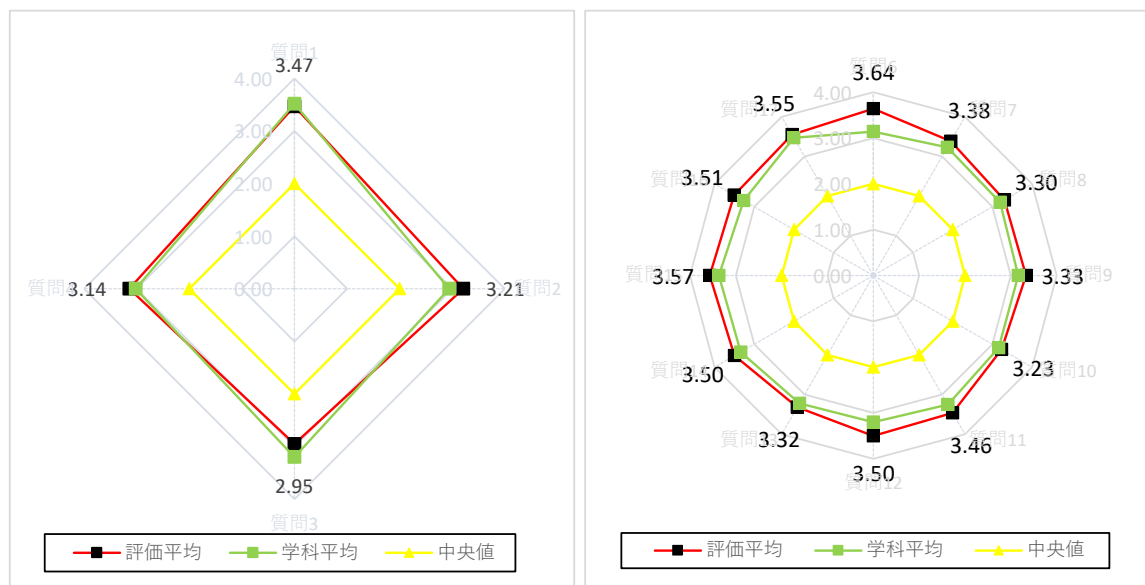
(3) 次年度に向けての取り組み

次年度に向けての取り組みは次の通りである。

- ① 評価が低かったシラバスの活用についてはしっかり確認し活用させる。
- ② グループ活動では互いが意見を出し合い、ディスカッションできる環境をつくっていく。
- ③ 机上・学内だけでなく地域との連携ができるような体制で実施し実践力を高めていく。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		子どもの保健Ⅰ（応用）	97名

（１）学生による授業評価結果



（２）結果の分析と評価

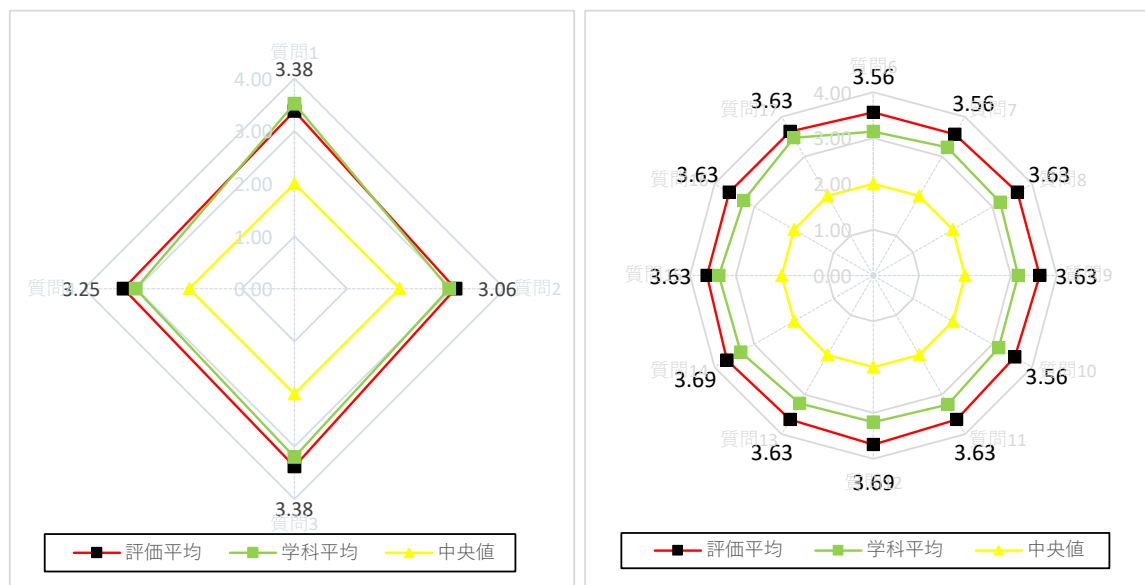
全体的に学科平均より低い評価となった。特に質問10視聴覚機器や板書が低い。子どもの病気に関する内容では、身体の仕組みも理解していないと、病気の成り立ちや症状を把握することは難しい。適切な視聴覚の教材が使えなかったことは、解剖学を学んでいない学生には、理解しにくかったと思う。また、板書も文字を大きく分かりやすくとの思いで書くので、早く消してしまう場面が多かったと反省する。中間アンケートでも、評価が分かれており、「わかりやすい」があれば、「わからない」という記述もあり、「板書やプリント配布で理解できる」「もっと板書してほしい」など、学生の取り方がまちまちである。また、「私語が気になる」という意見もあり、真剣に学習している学生に迷惑がかかっている状況も見られる。

（３）次年度に向けての取り組み

学生の能力にも差があるので、授業の組み立てには工夫が必要と感じる。今後さらに資料を工夫し、視聴覚を活用しながら、学生にわかりやすく楽しい授業ができるように努めたい。板書にも見やすくわかりやすい工夫を行う。また、席は自由にしているが、これも私語が多くなる原因となっていると思われるので、指定席を設定しようと思う。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	生活福祉		特別講座	17名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

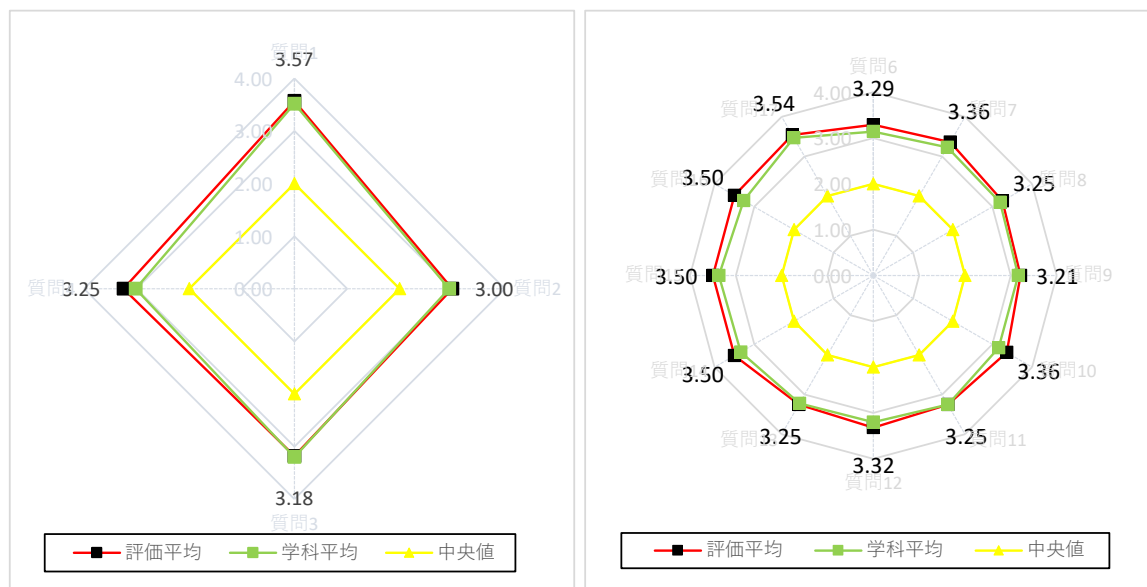
1人評価を行っていない。学生自身の自己評価が低い。学科の平均に近い。質問項目がない分の評価している学生がいる。自己評価以外は1や2の評価はいない。七割が4でも多い。

(3) 次年度に向けての取り組み

きちんと質問を読んでから回答するように声掛けを行う。3が減り、4の評価が増えるように全体的に工夫を行う。次年度も変則的なカリキュラムで国家試験の対策を行う。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		食品学Ⅱ（食品加工学を含む）	38名

（１）学生による授業評価結果



（２）結果の分析と評価

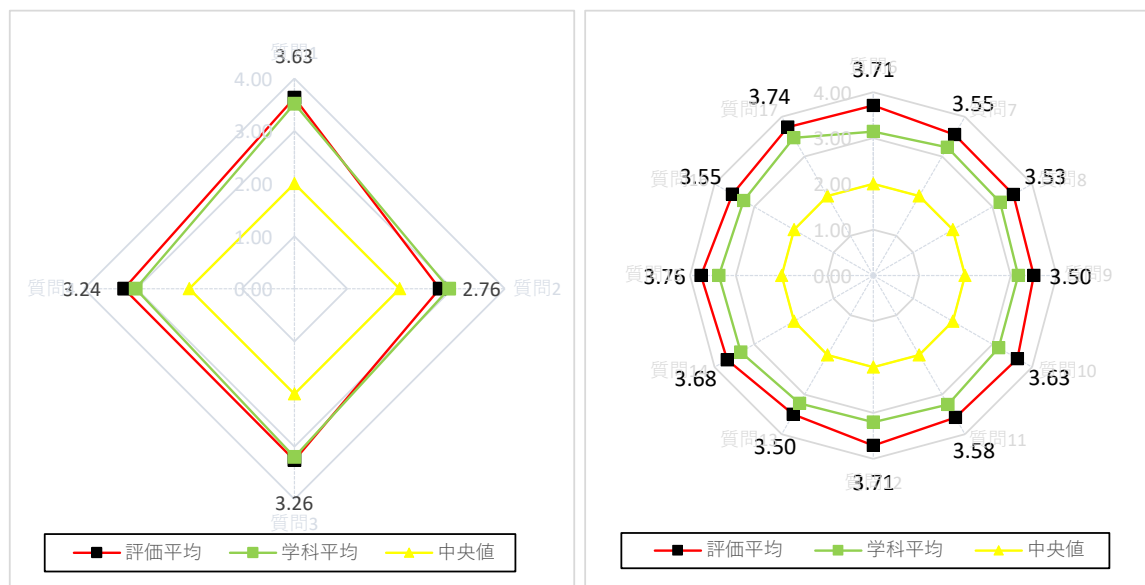
学生自身の自己評価は概ね学科平均となった。しかし、教員の授業の評価は平均よりやや低い結果となった。質問6, 7は毎回、章が変わるごとにシラバスと到達目標、授業のキーワードなど説明したにも関わらず、やや数値が低かった。章毎ではなく、毎回の授業でその日の到達目標を学生がしっかり把握するように行っていきたい。

（３）次年度に向けての取り組み

章が変わるごとにシラバスと到達目標、授業のキーワードなど説明したにも関わらず、やや数値が低かった。章毎ではなく、毎回の授業でその日の到達目標を学生がしっかり把握するように行っていきたい。多くの内容を伝えるために大部分をパワーポイントのスライドで行っているが、内容の印象づけのため板書も取り入れ学生に書かせる、グループワークなどの主体的な内容を取り入れるなど工夫を重ねたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		基礎栄養学	38名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

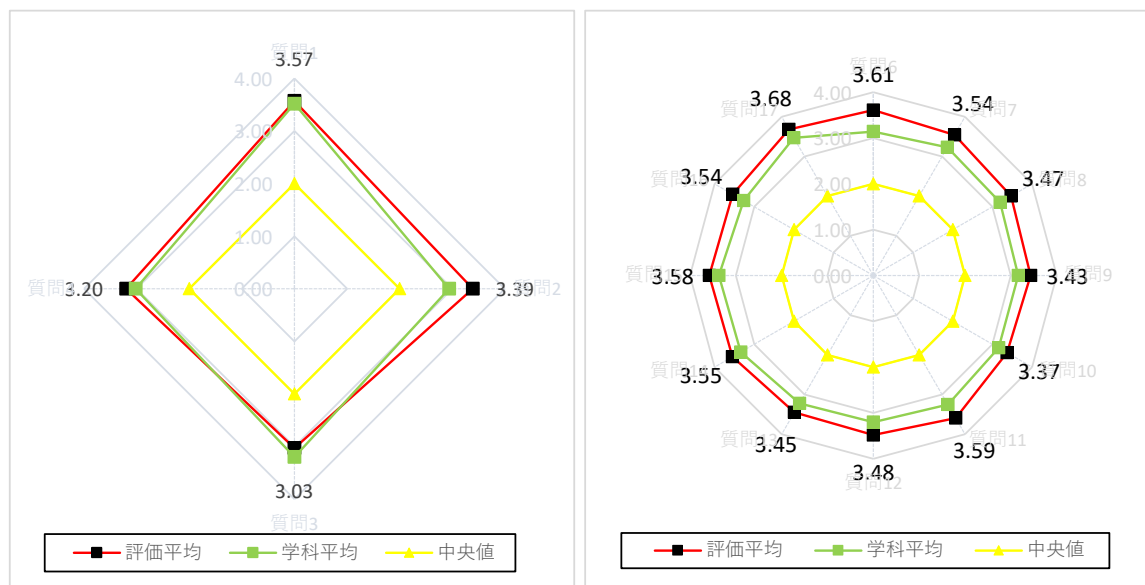
板書・解説を中心に、補足資料（実力認定試験や、各章のまとめ）をもって授業展開した。授業では、問いかけを随時行うことで、学生の理解度、関心を高めた。評価は比較的、平均より若干高かったが、学生自身の自己評価は低めとなった。コメントでは「楽しかった」など揚げられており、授業自体への関心は少なからずあった。

(3) 次年度に向けての取り組み

昨年同様の授業展開を行っていくが、知識の定着に向けてペア学習などを適宜取り入れ、学習内容の振り返りを充実させることで改善を試みたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		子どもの保健Ⅱ	96名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

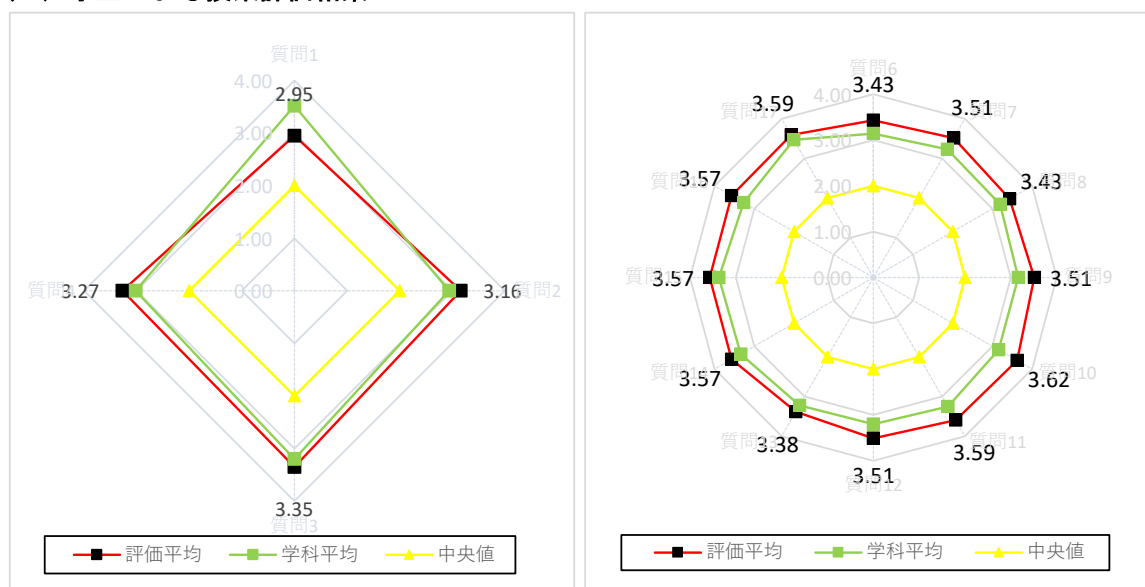
問10視聴覚機器の活用において、学科平均より低い評価となった。適切な視聴覚の教材を見つけることができず、口頭の説明では不十分だったようだ。演習の取り組みでは、学生の道具の準備や参加態度・熱心さが伺えた。就職の際に役立つ内容であることを理解し、授業にも反映されたのではないかと評価した。

(3) 次年度に向けての取り組み

演習がスムーズに行えるよう、視聴覚教材を充実させる。また、人数の調整を行い、十分な実技ができるよう配慮する。保育実習においても実施している内容が入っているの、スムーズに実習できるように技術の習得に力を入れたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	食物栄養		栄養学実習	38名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

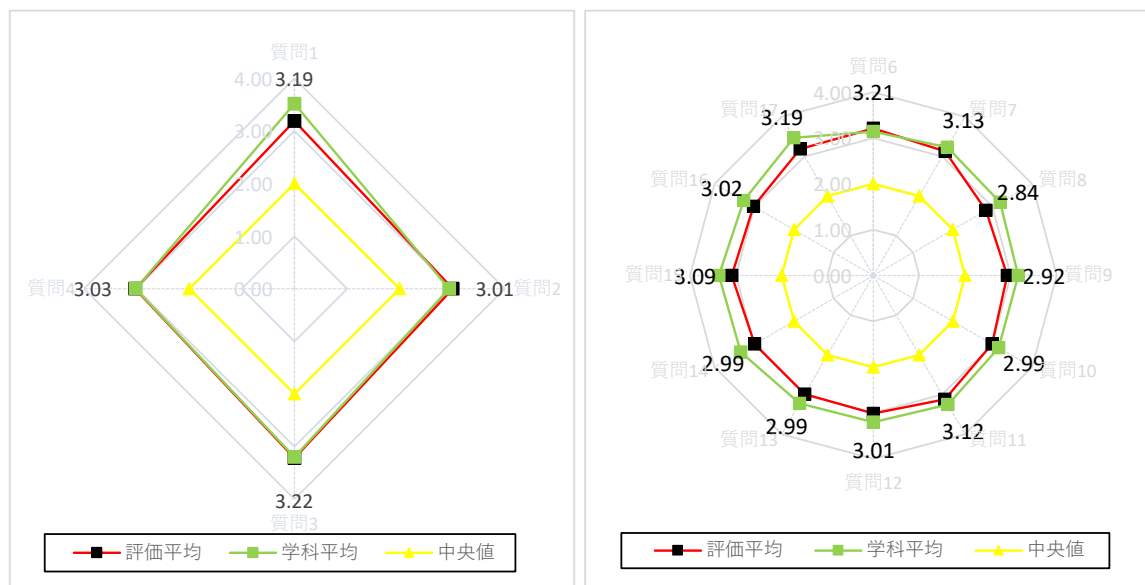
本授業は、複数科目間の垣根を越えた広義の実習を開講している。主に病態に合わせた献立の立案や展開、栄養ケアマネジメントについて、POSについて等他の授業内で教えることが出来なかった内容を組み合わせて展開し、適宜資料を配布して対応している。学生の授業評価結果は、全項目について学科平均を上回っていた。複数科目をおりまぜた授業内容ではあるが、学生へはなぜこういう内容にしているのか等丁寧に説明を行い取り組むようにしている。指定テキストがないため毎回資料配布になるが、毎年改善を重ねてできるだけ理解しやすいように工夫している。学生からの反応は良かったため今後も試行錯誤しながら学生の理解度向上に努めたい。

(3) 次年度に向けての取り組み

毎年学生の反応を見ながら理解度に合わせて資料を修正し活用しており少しずつではあるがその効果が出ているように思う。今後も改善を重ねて学生の理解度向上に努めたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		家庭支援論	96名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

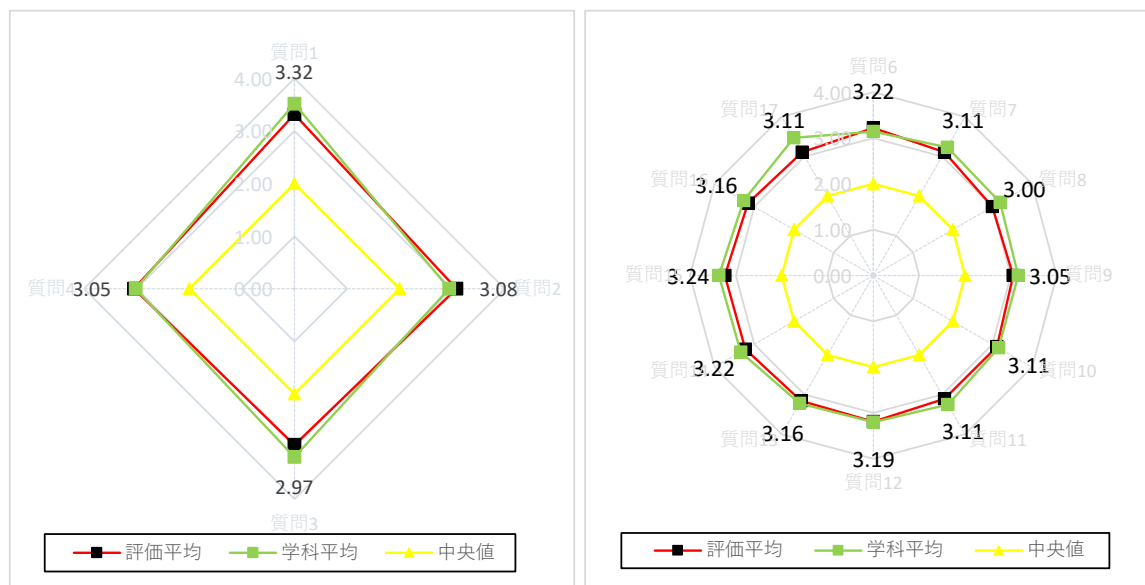
本授業について、①学生自身の参加態度の総合自己評価は3.12、②授業の総合評価は3.03であり、大半の受講生について充実した学びとなったことが窺える。項目でみると、Q8興味関心が持てる工夫、Q9分かりやすい工夫、Q10視聴覚機器や板書の工夫、Q13進む速さ、Q14学生の質問への誠実さについてが、2.84～2.99で下位項目、また、Q6シラバスの説明、Q7授業の到達目標を明確にし授業を展開、Q11教科書・配布資料が役に立った、Q17教員の取組が熱心が3.11～3.21で上位項目であった。自由記述にも記載されていたが、教材や配布資料の提示及び内容は参考になるが、資料の説明の早さや情報量の多さから、理解が困難なこともあったようだ。声の大きさ（大きすぎるらしい）や語量（多くを語らずして伝える）への配慮、板書の内容の検討も図る必要があると考える。一方で学び目的、意図は伝わっており、今後も熱意を持って取り組んでいきたい。

(3) 次年度に向けての取り組み

次年度は担当予定なし

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	食物栄養		ライフステージ別栄養学	38名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

ライフステージ別栄養学はライフステージ別栄養学実習に結びつけることができるような内容で授業を進めていった。授業評価を学科平均と比較するとすべての項目において若干低い値であった。総合評価は3.11である。

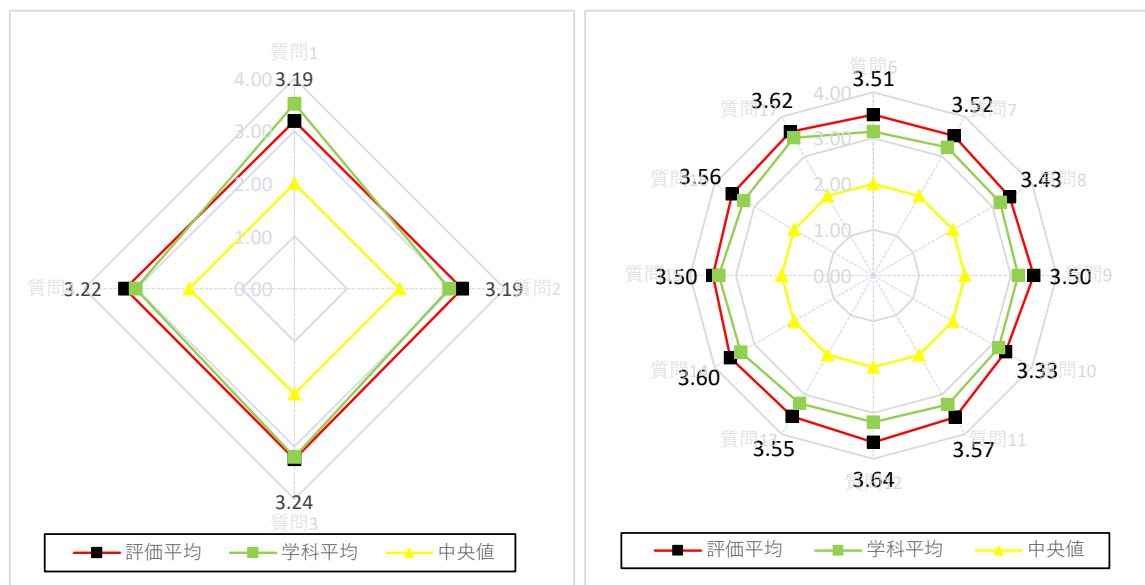
(3) 次年度に向けての取り組み

次年度に向けての取り組みとして、次の通り改善していく

- ①シラバスの活用を予習・復習に役立てるために授業開始と終了時にシラバスをを読んで授業内容を確認させるなど習慣化させる。
 - ②授業の進む速さは全員が理解できたかを確認しながら進めていき興味をもてる内容にする。
 - ③本科目を中心に栄養士の関連科目と関連づけながら展開していく。
- 以上の内容で授業をわかりやすく進めていきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		保育内容総論	96名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

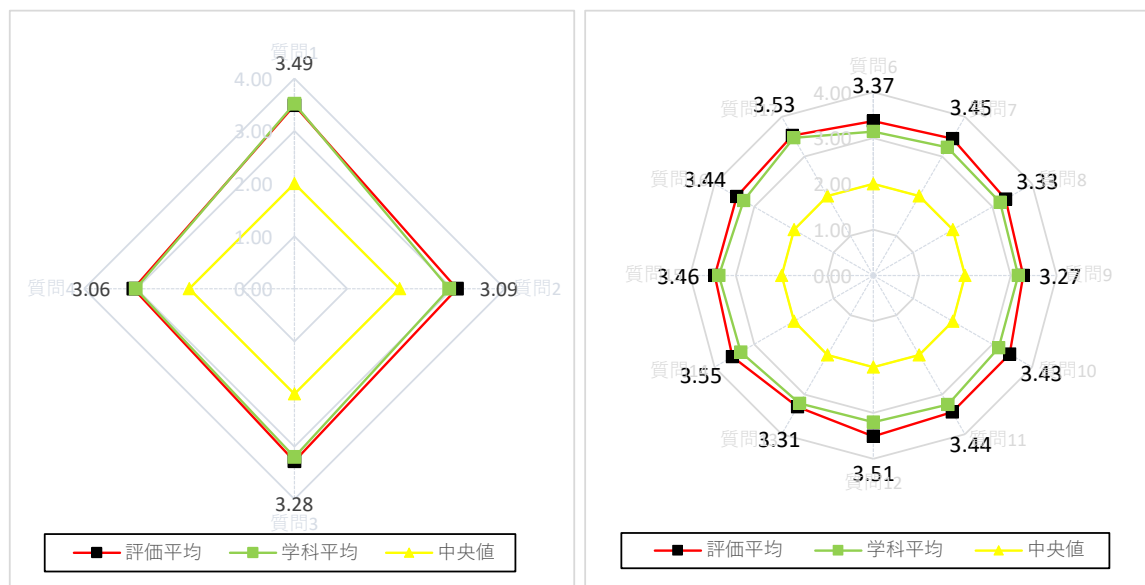
殆どの項目で学科平均を上回っていた。保育現場での事例をもとにワークを進めるという形であった為、一人ひとりが自身のこととして考え、主体的に学ぶことが出来たのではないかと考える。コメントにも「保育の場面を想像して考えることが出来た」や「自分なりの対処法を考えることができた」など、事例を通しての学びに肯定的な意見が多く見られた。また、「一人一人の意見を聞いていくことにより、周りの人の考えや対処の仕方などを知ることができ自分の身になる授業だった」というコメントから、学生の発表場面を多く設定し、意見や情報の共有がスムーズに行えるよう工夫した点が学生の効果的な学びに繋がったのではないかと考える。

(3) 次年度に向けての取り組み

視聴覚教材の活用場面が少なかったため、質問10の項目は学科平均に若干届いていない。学生の学びを深める効果的な視聴覚教材の使用について工夫する必要があると考えている。テキストによるワークのみではなく、視聴覚教材を活用してのワークなども取り入れたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		保育内容（健康）の理論と方法	94名

（１）学生による授業評価結果



（２）結果の分析と評価

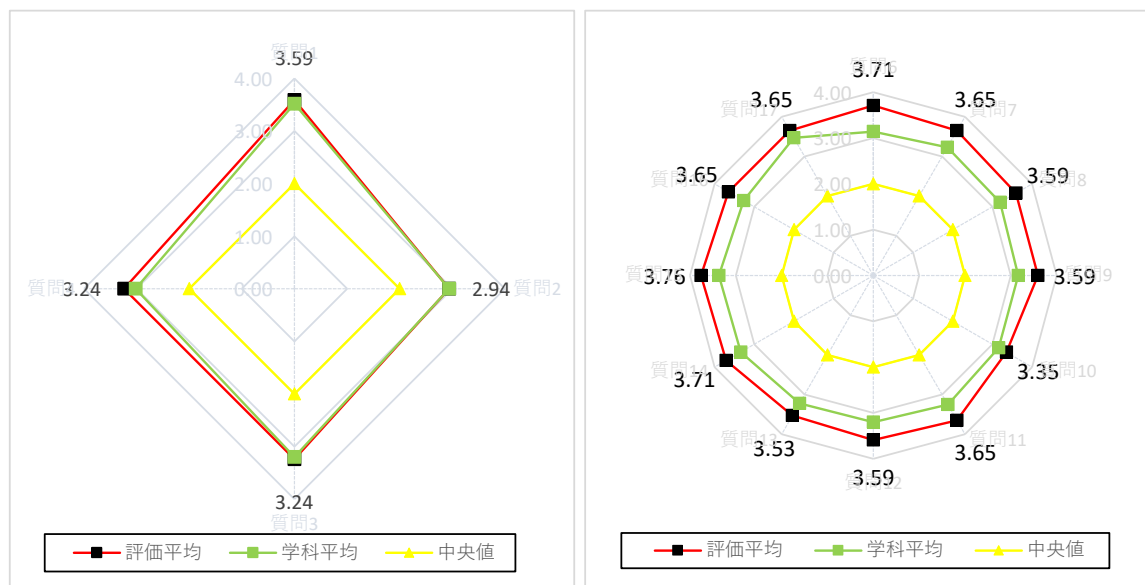
本科目では、乳幼児期における健康と心身の発育発達に関連、健康で安全な生活習慣の形成と保育者の役割について解説している。授業は、「前授業の振り返り→学習テーマと関連資料の提示→グループワーク（机間指導）→口頭発表または文章化（課題提出）」の流れで実施している。全授業回を通して「読み解く」「考える」「話し合う」「調べる」「まとめる」「気づく」「振り返る」を実施するため、学生にとっては負担の多い授業となっているようである。教員の授業設計・運営において「質問9および13」が学科平均よりも低くなっていることが、学生の授業に対する態度・行動の「質問4」の結果に結びついているようである。

（３）次年度に向けての取り組み

今回の結果を受け、「学生が授業内容に関心を持てるような工夫」「学生の学修状況に応じた教授と進度」について改善を図る必要がある。設定した学習テーマに関する資料の見直し、使用テキストとの対応性、理解を深めるための具体的な経験を授業に組み入れていきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	生活福祉		介護の基本ⅢB	17名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

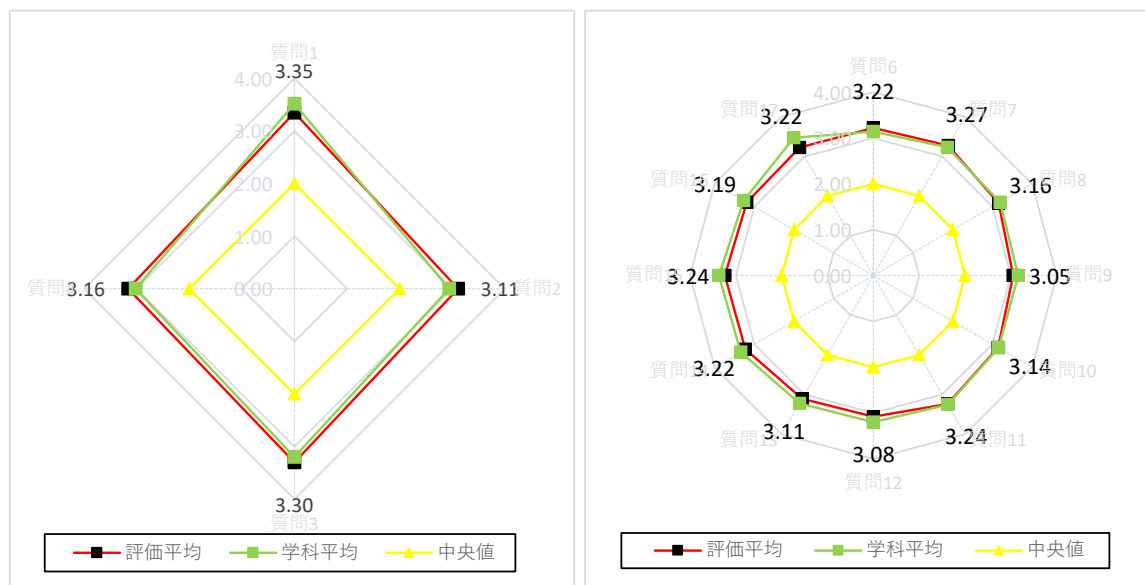
本科目は、「尊厳の保持」「自立支援」を目指した介護を展開する際のリスクマネジメントの重要性・必要性について理解し、利用者や家族の「生活の安全」を実現・確保する方法についての学習である。開講が2年次後期ということもあり、学生には、就職前に十分に修得してほしい内容である。評価結果は、全体的に学科平均とさほど相違はない。質問6「シラバスについての説明があったか」では、3.71と評価値が高いのに対し、問2の「シラバスの活用」は、評価値は2.94と低く、シラバスの存在を認識したもののそれを有効的に活用できていなかったことがわかった。

(3) 次年度に向けての取り組み

今回の評価では、シラバスの活用が課題であることが明らかとなった。1回目の授業ではシラバスの説明を行うが、それ以降は行っていない。今後は、毎回の授業あるいは数回毎にでも授業の中でシラバスの確認を行うことを計画したい。学生と一緒にシラバスを確認することにより、本科目の目標や到達目標を確認しながら授業を深めていきたいと考える。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	食物栄養		ライフステージ別栄養学 実習	38名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

この授業は実習でライフステージにあわせて健康の維持増進のための献立作成、食事の提供等を中心に実習を行っているため学生にとっては実践的に学ぶことができる授業である。評価の結果は、学科評価と比較すると、すべての項目において低い値であった。この評価はライフステージ別栄養学の評価と類似しており、総合評価は3.19であった。

(3) 次年度に向けての取り組み

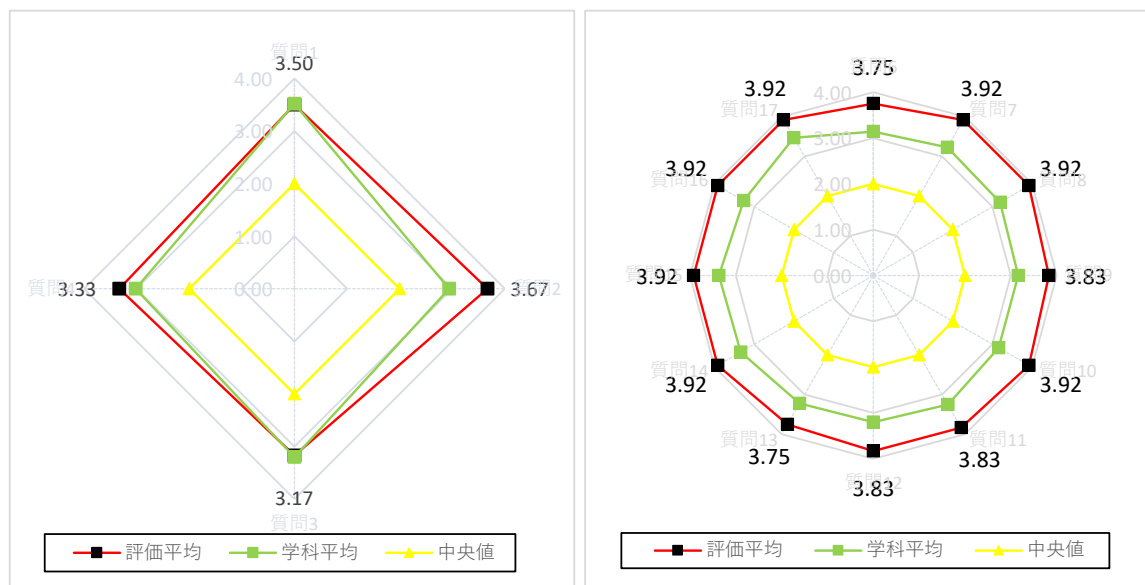
次年度に向けての取り組みとして、次の通り改善していく

- ①授業内容を事前に理解させるためにシラバスの活用を習慣化させる。
- ②授業の進め方は双方のやり取りを密にし確認しながら進めていき興味を持てる内容にする。
- ③家庭で反復学習ができるように、家族の食事等も視野に入れた課題に取り組んでいく。

以上の内容で授業をわかりやすく進めていきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		発達と老化の理解Ⅱ	21名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

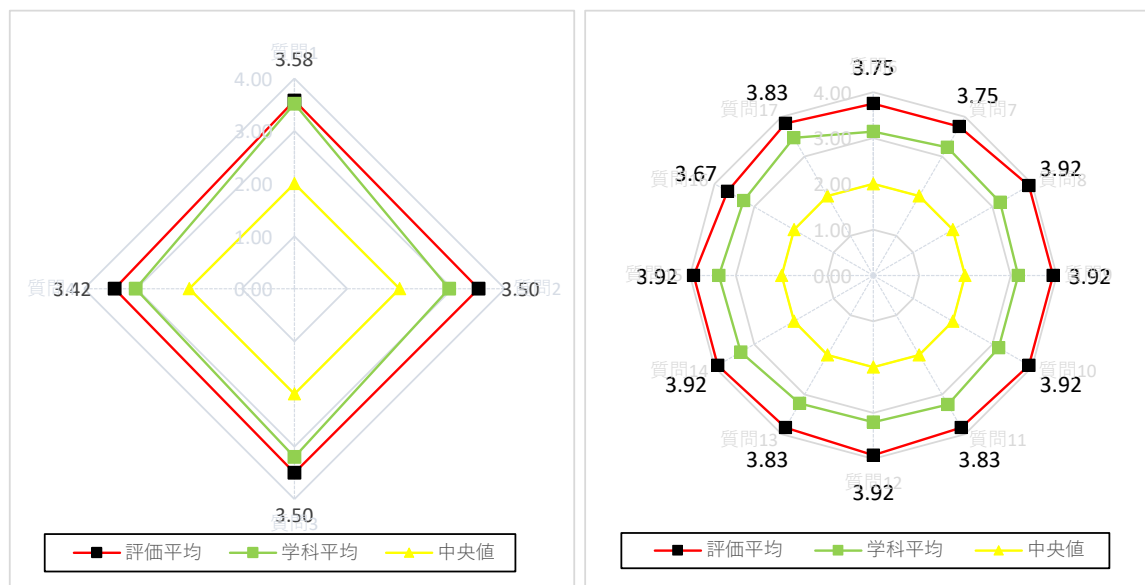
質問事項がないところにも回答しており、よく質問事項を読んでいない学生が一人いた。19名中7名が回答をしていなかった。卒業ではないのでまだ回答数駅間があると油断して声かけが足りなかったと思われる。学生自身へ評価はⅠやⅡを付ける学生がそれぞれ一名ずついた。授業自体に対する評価は、学科平均より少し高かったが全員が4である項目はなく、1から3名が3の評価であった。3名が3の評価であったのはシラバスの説明であった。初回にゆっくり説明をしたが印象に残っていなかったのか、わかりにくかったのか。もうひとつ3人が3であったのは授業の進むスピードだった。スピードが適切ではないが早いと感じたのか遅いと感じたのかが不明なので改善しにくい。授業は最初と最後に確認テストを実施。また、毎回の授業内容に国家試験の模擬試験を5問ほど入れ、間違いに対しての解説を行った。

(3) 次年度に向けての取り組み

シラバスの説明を最初だけでなく、中間にも行う。毎回宿題を出し、自己学習を勧める。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		認知症の理解Ⅰ（老人の心理）	21名

（１）学生による授業評価結果



（２）結果の分析と評価

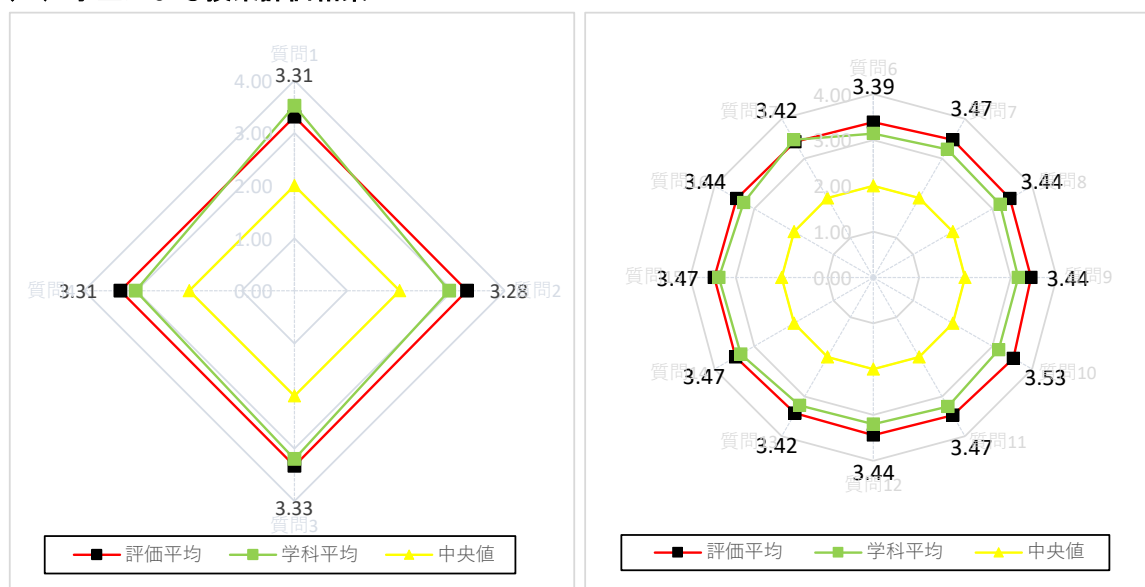
全体的に学科平均より高い評価となっている。疾患別のDVDを使用したり、資料にも新しい情報を取り入れたり工夫した点が評価に繋がったと考える。今後も継続していきたい。中間アンケートでも、「分かりやすい」「知識が深まった」「質問にも丁寧に答えてくれた」と好意的な意見であった。

（３）次年度に向けての取り組み

今後も今回と同様に、高い評価となるよう努めたい。認知症は研究が進み、新しい情報がTVや雑誌などで発信されているので、最新の情報を取り入れ、学生の興味や関心に繋げていきたい。また、事例を取り入れ、実習での体験を交えながら、解りやすく双方向的な授業の展開に努める。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	食物栄養		臨床栄養学	38名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

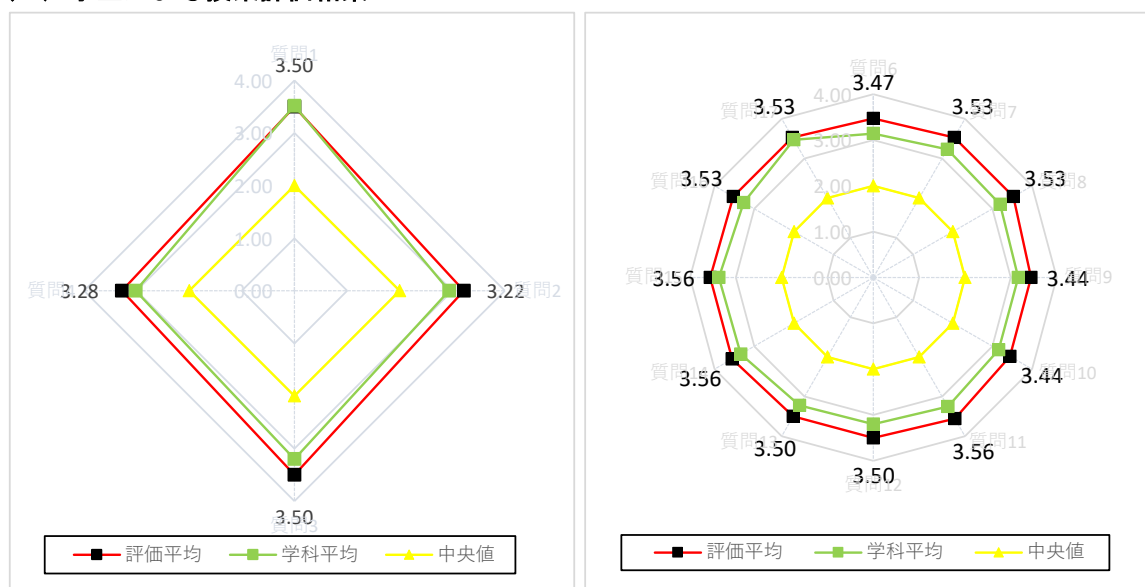
今回の結果は、すべての項目において学科平均よりも上回っていた。授業の内容や指導方法について、板書や資料、質問対応や公平対応等については概ね高評であることが分かった。本授業は栄養学はもちろんのこと解剖生理学や生化学、基礎栄養学、食品学など多くの知識を必要とするため苦手意識をもつ学生は多い。学生の授業中の学修態度を見ると理解度がよくわかるので授業中の学生の反応を見ながら進めていきたい。

(3) 次年度に向けての取り組み

限られた時間の中で全学生に同じ様に理解させることはなかなか難しい。例年、学修意欲が低下しないように、いかに分かりやすく、おもしろく授業をするかということを心がけてはいるがまだまだ十分とはいえない。本授業の全体的な評価としては高評であるが、もっと学生の理解度と知識の定着を図るために、来年度は目で見えて興味関心を抱く、理解するという点に力を入れて授業を展開していきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	食物栄養		臨床栄養学実習	38名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

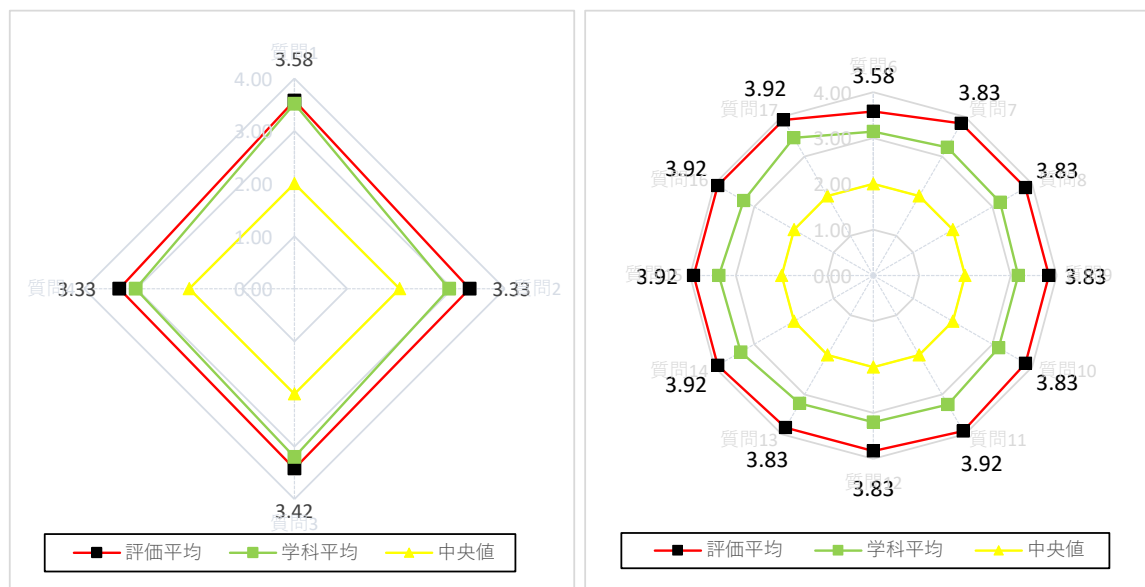
昨年度から、各回の授業ごとに「どういうねらいで、何をするのか」を説明してから実習を行っている。これを行うことで、ほとんどの学生が授業の到達目標が理解できるようで、この点は今後も継続していきたい。評価については、学科平均と比較しても全項目において平均を上回っており本授業における教育指導法は概ねよかったと思われる。

(3) 次年度に向けての取り組み

学生からの評価は概ね高評であることから今後も指導法はこの形で継続していきたいと考えている。しかしながら、学生が苦手とする献立作成や常食から治療食への展開についての教材の工夫が上手くできていないため継続して改善を図ってきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		障害の理解 I	21名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

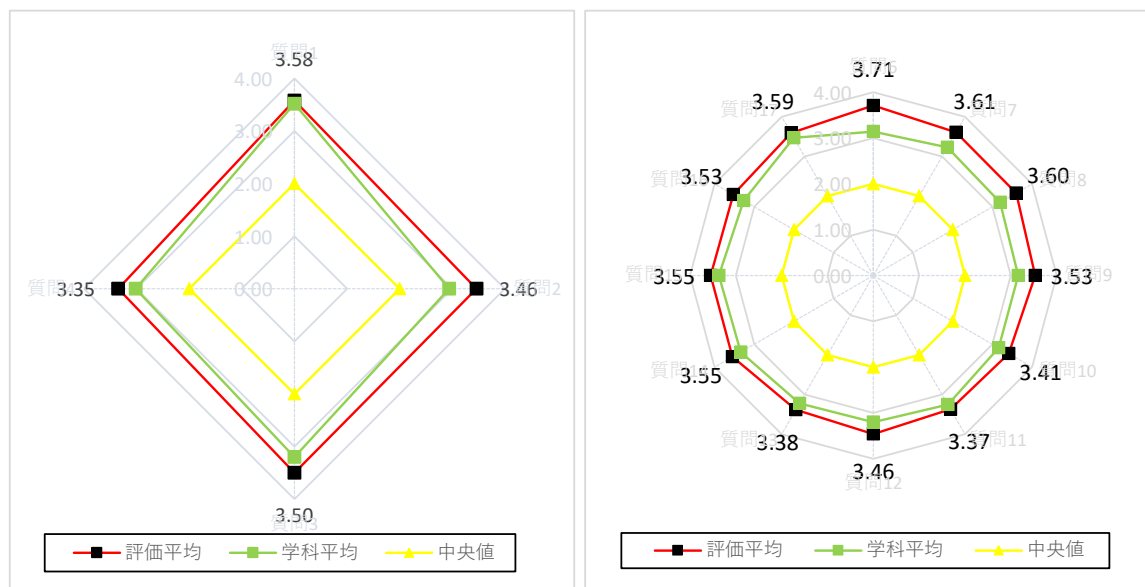
授業アンケート結果と評価として、学科全体と比較しても高い数値となっていた。質問7?17にかけて高い評価を得ており、学習内容の充実が明らかとなった。しかしながら、質問1「授業は何回欠席しましたか。」、質問2「シラバス（授業計画）を活用しましたか。」の評価が若干低いが、実際には欠席者も少なくかつシラバスも授業の初期と終盤に説明を行っている。

(3) 次年度に向けての取り組み

次年度に向けての取り組みとして、これまでの学習形態を継承しつつ、さらに発展的に取り組むために主体的・能動的学習を目指していきたい。そして、介護福祉士の国家試験に対応した授業形態を追求していきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		保育内容（表現）の理論と方法	97名

（１）学生による授業評価結果



（２）結果の分析と評価

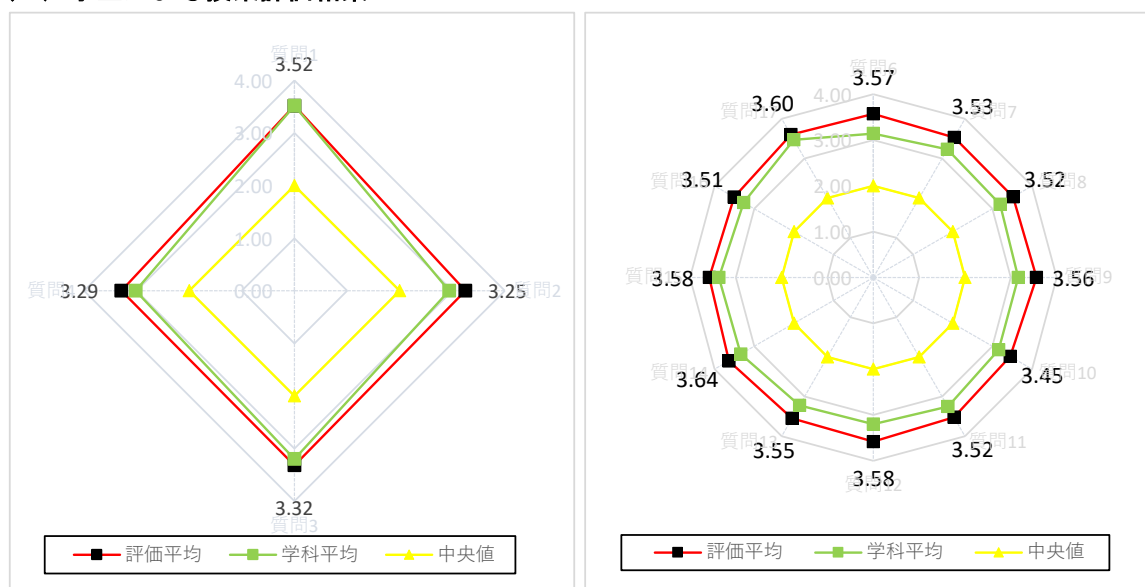
造形分野の教員と授業を一緒にしている。身体表現分野担当としては、表現音楽コースと心理環境コースの学生では、取り組みに温度差を感じる。表現に苦手意識を持つために、心理環境コースを選択した学生が数多くいる。しかし、現実には半期先には現場に立っていることを考えれば創作部分や、個人発表も多くなってくる。身体表現分野としては、その中でも学生が興味を持つ工夫をしている自負はあるので、学生のモチベーションが高揚する努力は続ける。結果としては、学科平均と同じなので、このまま変更なしの授業内容で進めても良いと思われる。

（３）次年度に向けての取り組み

更に造形分野の担当者とも協力しながら、質の高い表現の指導を続け、学生が現場で活躍できる養成を目指す。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		障害児保育	97名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

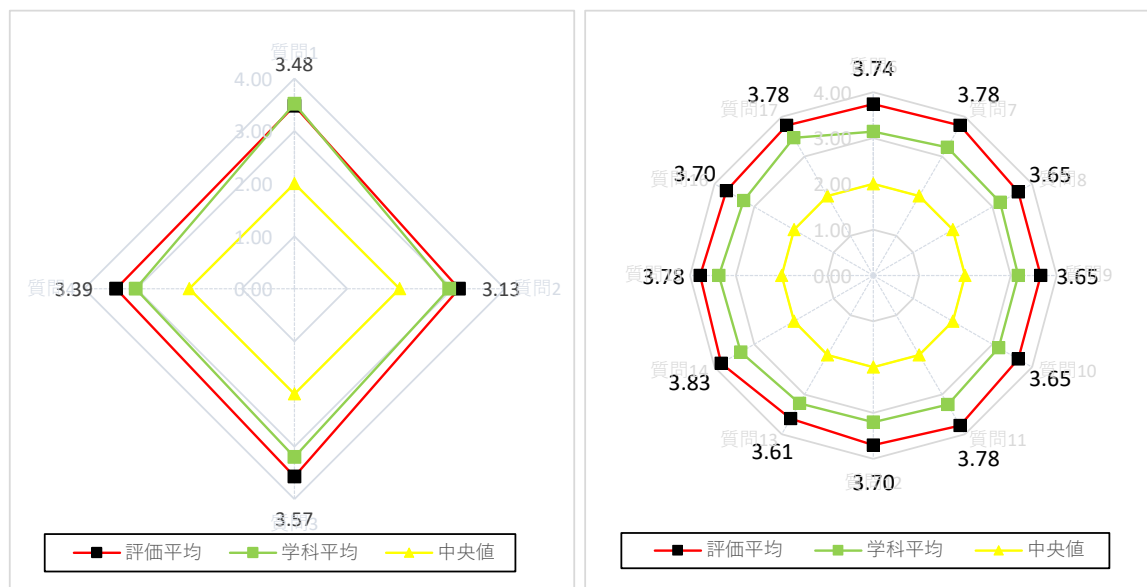
質問6から質問17の平均を算出すると3.55となる。この数値はほぼ毎年の数値と変化しない。しかしながら、今回に限っては2つの項目を除いて、多くの項目で学科平均よりも約0.1ポイント高くなっている。0.1ポイントの重みについては判断しかねるが、概ね評価としては平均的ということになる。

(3) 次年度に向けての取り組み

演習科目であり、アクティビティを中心としていたが、2年前より理論についても授業の半分の時間を使って説明している。どうしても座学となってしまう、学生の興味・関心からは若干遠のいてしまう傾向にある。その為、今後は理解しやすい教材の工夫（プレゼンの仕方等）が必要と思われる。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		こころとからだのしくみ A	25名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

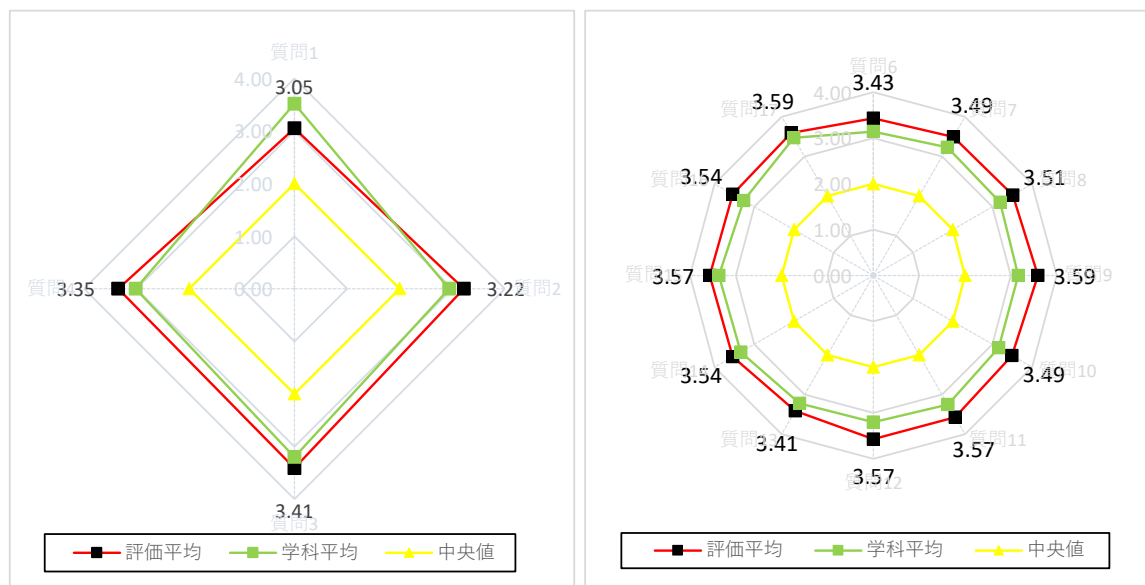
実際の履修登録者数は、21名であり全員回答している。学生自体への自己評価は、質問2のシラバスの活用が低かった。一度説明すればわかる内容であり、途中で活用する要素が特にならない。教員に対する評価は、学科平均より少しだけ高かった。しかし、3の評価を付けた学生が5から8名おり、検討を要する。8人が3の評価であったのは、ぎゅぎゅように対しての関心が持てるための工夫の質問であった。プリントと教科書、過去問が中心で確かに興味関心にはかけていたかもしれない。以前はもっと資料を提示し興味関心を引く工夫もしていたが、国家試験への焦りもあり少なかったのかもしれない。また、2の評価が数か所あった。わかりやすくする工夫、視聴覚機器の利用、板書、声の大きさ、明確さ、話す速さ、授業の進む速さ、であった。

(3) 次年度に向けての取り組み

興味を持てるような資料の提示や、見やすい板書の工夫、ゆっくりはっきり話すことに心がける。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	食物栄養		栄養指導論実習Ⅱ	39名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

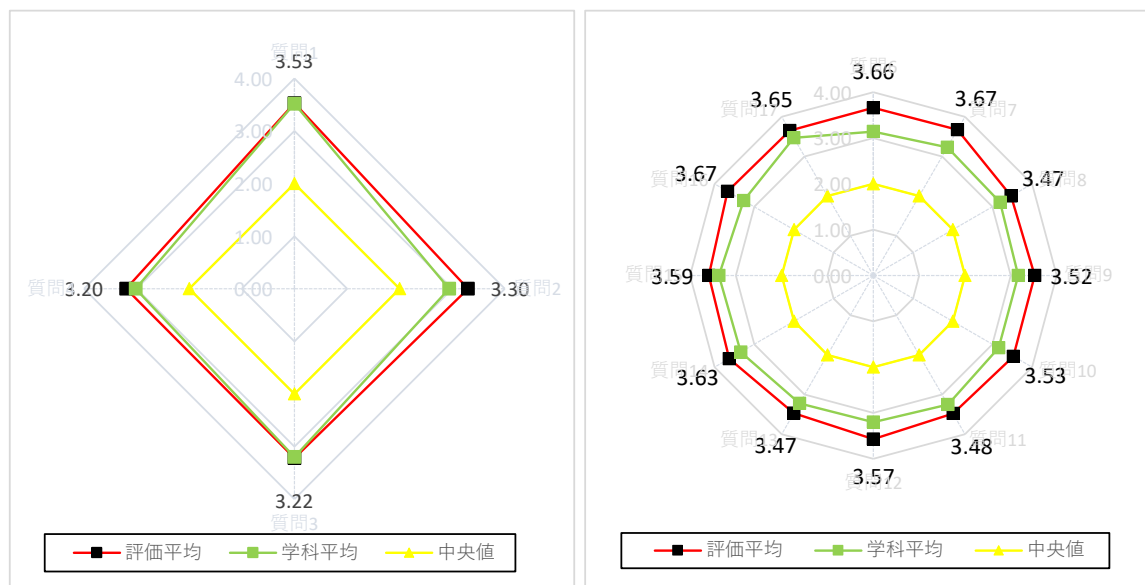
今回の結果は全項目において学科平均を上回っていた。本授業は、栄養指導論で学んだ知識を実際の栄養指導の現場で活かせるように集団栄養指導の模擬実習や栄養食事調査や統計処理について実習をしている。今年度の授業は各回到達目標を説明しから開始するようにしたため、例年評価が低い傾向にある質問6と7に対する意見は肯定的な意見が大半を占めた。自由記述でも目標が明確だったので内容は難しかったけど分かりやすかったとの意見があった。

(3) 次年度に向けての取り組み

全体の評価としては概ね良いと考えられる。しかしながら、現状では授業で実習している内容が実際の現場でどのように活かされるのかがイメージしにくい。その点を改善すると理解度の向上につながると思われるため、来年度はそこに焦点を絞って授業展開を工夫していきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		保育相談支援	97名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

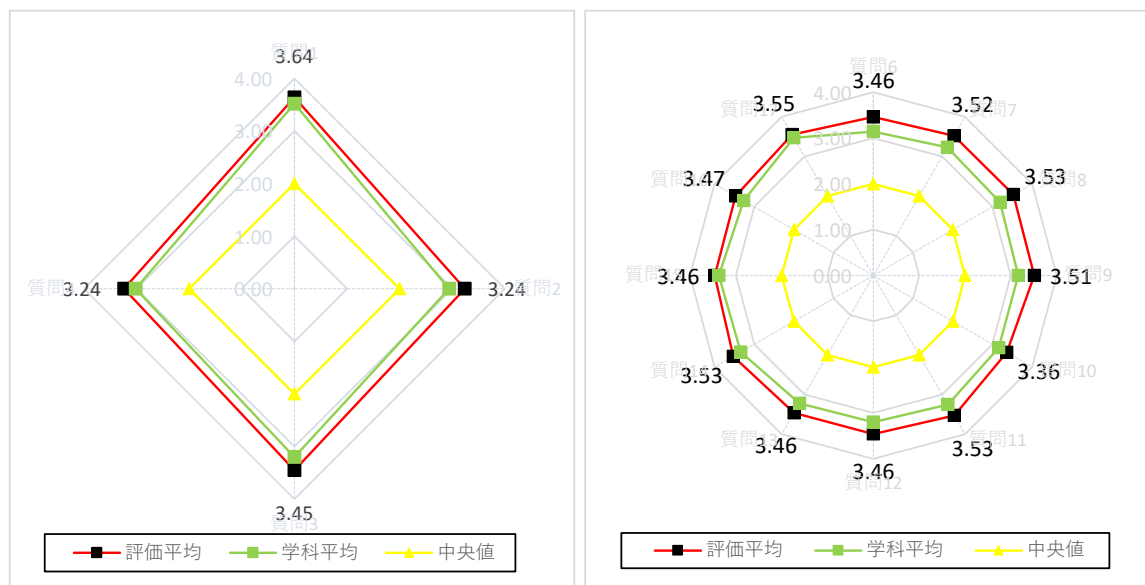
評価は学科の平均値より若干高い評価となっている。この授業は演習であり、多くの時間にグループワークやディスカッションを取り入れていることが評価に影響しているのではないかと考えられる。

(3) 次年度に向けての取り組み

評価は平均より若干よい結果となっているが、グループワークなどの時に発言することが難しい学生も散見された。今後はそれぞれの学生が自分なりに意見が言えるような仕組み（個人で書いたものをグループで集約する等）が必要と考える。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		保育内容（音楽表現）の理論と方法	93名

（１）学生による授業評価結果



（２）結果の分析と評価

昨年の評価と比較すると数字の上では全体的に下がっている。昨年は高評価が得られたこともあり、授業内容や授業の進め方などは昨年と変えていないので何故評価が低下したのかは正直なところあまり思い当たらない。自由記述においても「解りやすい」「実習に活かせる内容だった」「自分のためになる」「内容が様々で眠くならない」「楽しかった」など肯定的なコメントが多かったが、否定的なコメントとしてグループワーク時のグループ編成の仕方を「学籍番号順でなくくじ引きなどで決めてほしい」「席が後ろの方だと声が聞き取りにくい」などの指摘があった。

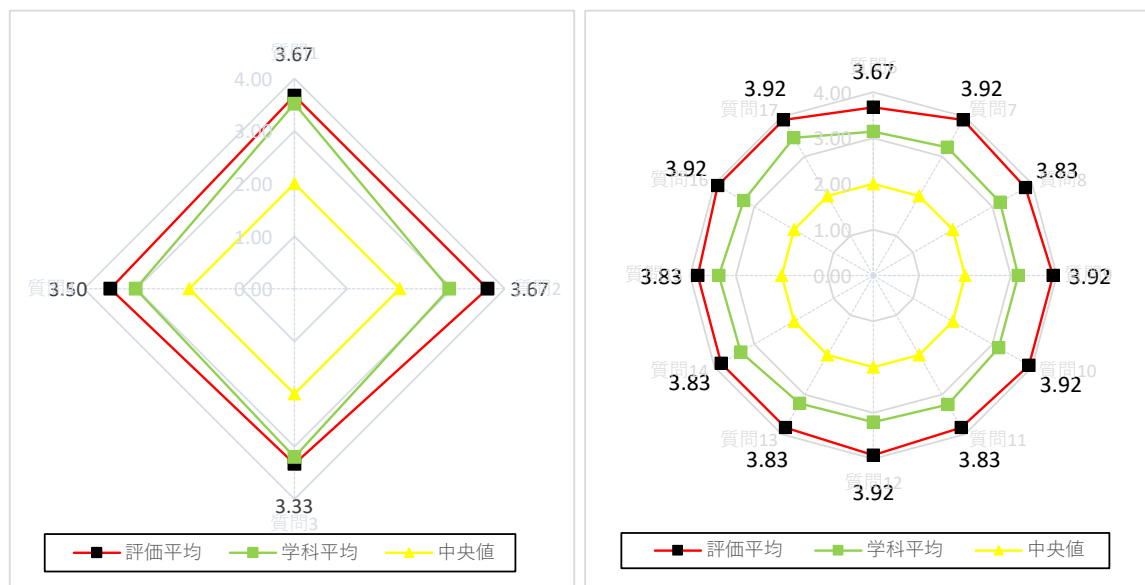
（３）次年度に向けての取り組み

ML教室は授業の性質上、壁や天井に吸音パネルが貼られていることと、教室が縦長なこともあり教員の声を通りにくいマイクは設置されていないため、授業時はかなり大きな声を出しているつもりでも実際後ろまで声が届きにくい。これについては今年度マイクを設置し、授業を聞き取りやすくしたい。

本授業ではグループワークを多く取り入れているため、学生の主体性は高まるが教員が授業をリードしている印象が薄いのかもしない。またグループ活動が活性化するような仕組みづくりや言葉がけを意識して取り入れる。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		こころとからだのしくみ C	21名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

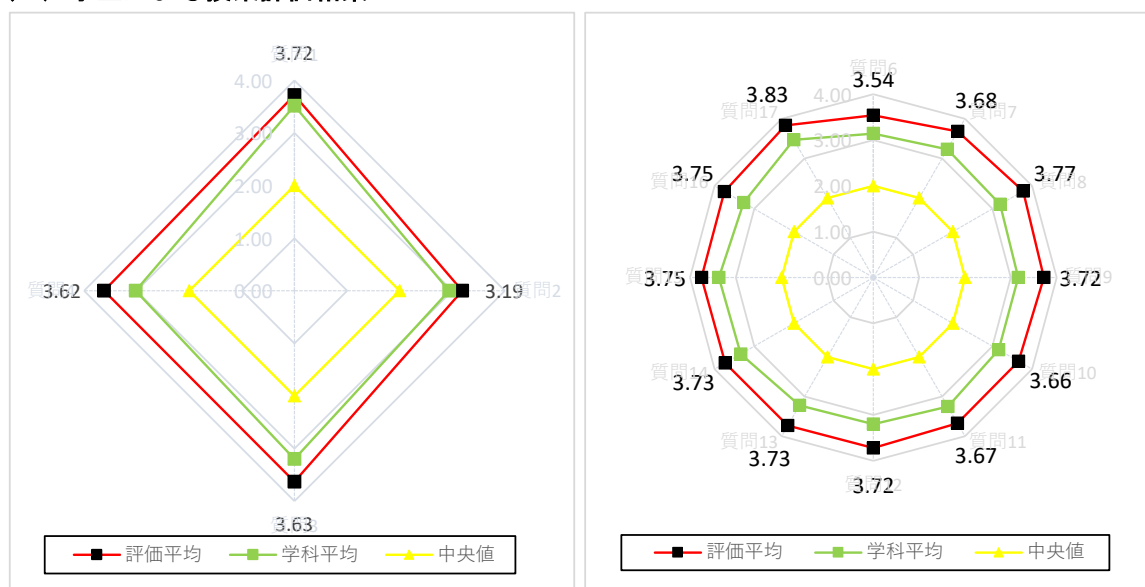
7人が評価を行っていない。声掛けが足りなかった。こころとからだのしくみAとおなじ学生達であるが、Aよりも評価が上がっている。ちょうど評価を低く書いていた学生が評価をしていないことも考えられる。学生自身に対しては1や2の評価があり私語や居眠りがあったという項目であった。教員に対しては、自分で工夫していない。教員に対しては質問18に2が見られた質問の内容がわからない。19以降の質問がない番号にも一人評価しており、問題をよく読まずに評価している学生がいる。学科の平均よりは高め。

(3) 次年度に向けての取り組み

シラバスの内容を時々確認しながら授業を続ける。授業に関心が持てる工夫をする。ひょうかの時はきちんと質問事項を読むように促す。全員が評価を行いように声をかける。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		保育内容（リズム表現） の理論と方法	95名

（１）学生による授業評価結果



（２）結果の分析と評価

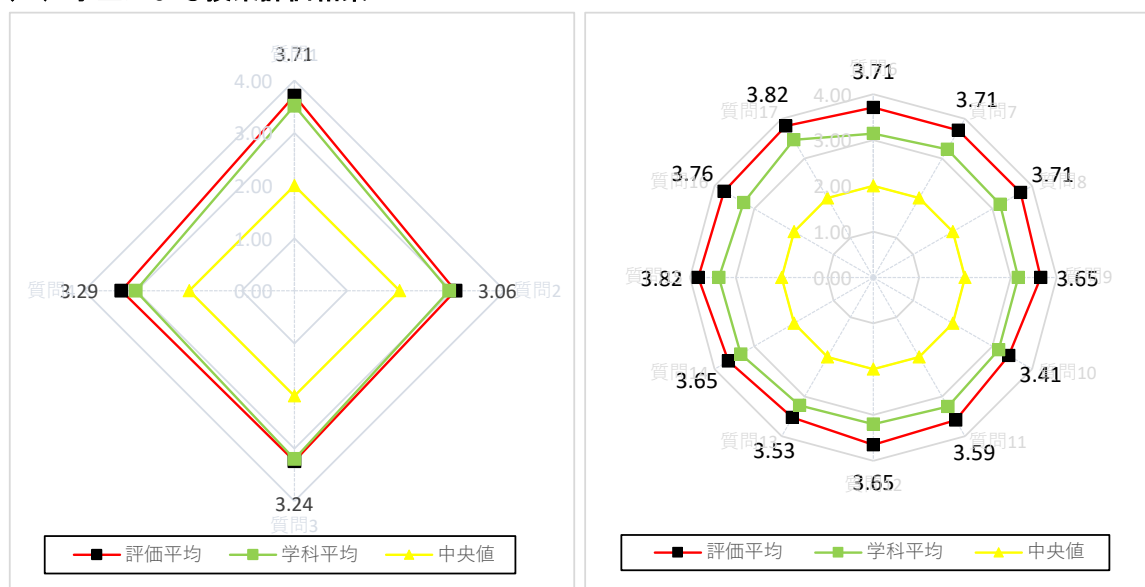
学生自身の評価ではシラバスの活用が少ないことがうかがえる。次回の準備のために教員側から用意することや調べることを課題として与えるので、この結果は妥当であろう。教員に対する評価の中では、今回はシラバスの結果が低くなかったことに安堵を覚える。口を酸っぱくして授業の中でも、シラバス何回目の授業で、目的なども説明した結果であると思われる。学科平均同様の結果であるので、このままの授業案を進めたい。

（３）次年度に向けての取り組み

次年度から、再課程認定に準じたのシラバスでの授業になるが、「指導者が楽しくないと子どもに伝わらない」ことを根底に、学生に意欲を持たせる授業研究を続ける。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	生活福祉		生活支援技術G	17名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

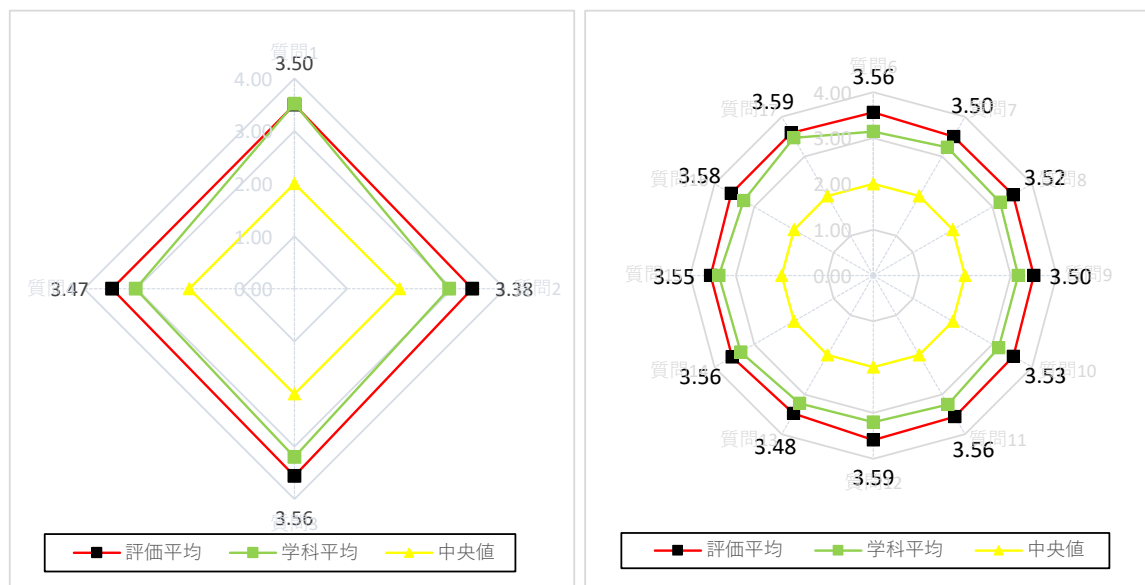
学科の平均とほぼ同じであった。学生の自己評価で1や2をつけた学生が1～3人、低かったのはやはりシラバスの活用であった。他に低かったのは教員の評価では半分が講義、半分が演習であったが、2をつけた学生が一人、視聴覚機器と板書の分であった。1を付けた学生が一人、学生の質問に誠実に答えたかという項目であった。自分としては誠実に答えていたつもりであるので、学生がどのことについていっているのかは不明。自由記述にも書いてない。質問項目がないところにも回答あり。視聴覚機器の利用や板書についてが8名が3の評価であった。また授業の速さが適切ではないとの評価が8名であった。

(3) 次年度に向けての取り組み

授業内容の配分を検討し、後半の授業が余裕をもって行えるようにする。板書を分かり役く行う 授業評価時、きちんと問題を読んで評価するように何回か伝える。板書をきちんとわかりやすく書く。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援 食物栄養		給食管理実習Ⅰ	76名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

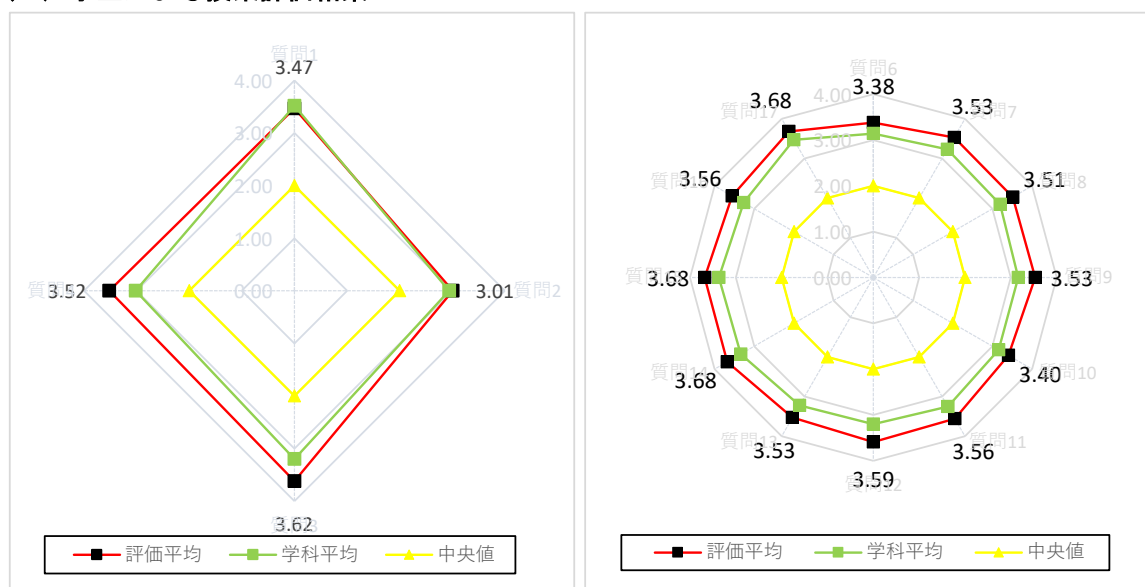
本授業は、栄養士の実務である給食の運営を実践体得することを目的としており、1年後期から2年前期の1年間に渡って行うものである。1年後期には給食の運営に関連する演習形式の座学と附属の幼稚園での見学実践実習をし、2年前期には1年次に学んだことを基礎として学食を使って給食の運営（大量調理）を実践する。この授業は1年間の履修ではあるが、授業評価は半期毎で行うため対象学生の学年が事なる。そのため授業評価は一括で集計するのではなく、1年後期と2年前期と別々で集計してほしかったが、今回は1年を通しての平均としての評価となった。この授業は、演習で学び、現場を見学してイメージを感覚として残し、最終的に実体験するという流れにしているの、学生としては学びやすい形になっているのではないと思う。学生からは、大変勉強になった、現場の大変さがよく分かった、給食の運営の流れがわかった等肯定的な意見が聞かれているためこの授業のやり方は今後も継続していきたい。

(3) 次年度に向けての取り組み

本授業は2年後期の学外実習の基礎としての位置づけもあるため、学外実習へスムーズに入っていけるように給食の運営に関する座学（演習）→附属幼稚園見学実践実習→学食での給食の運営（学内給食）という流れを大事にしている。今回の結果を受けて、全体としては学生からの肯定的な意見が多く、授業そのものはおおむね上手く展開できていると考えられる。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		ピアノ I	76名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

本授業はML教室で非常勤講師の先生方と共に行っている。基本的に個人レッスンの形態をとっており、学生個人の音楽経験や習熟度により一人ひとり進度も違う。学生の自己評価で質問2の評価が低いのはそのためであろう。質問6について、授業初回ではWeb上のシラバスとは別に作成した資料を配布し、授業の目的や概要、流れ、計画、教材、試験、配点、注意事項について説明している。担当者としてはこれで「シラバス（授業計画）」について説明しているつもりだが、学生には別資料での説明がこの質問のシラバス説明にあたることが分かりにくいのかもしれない。

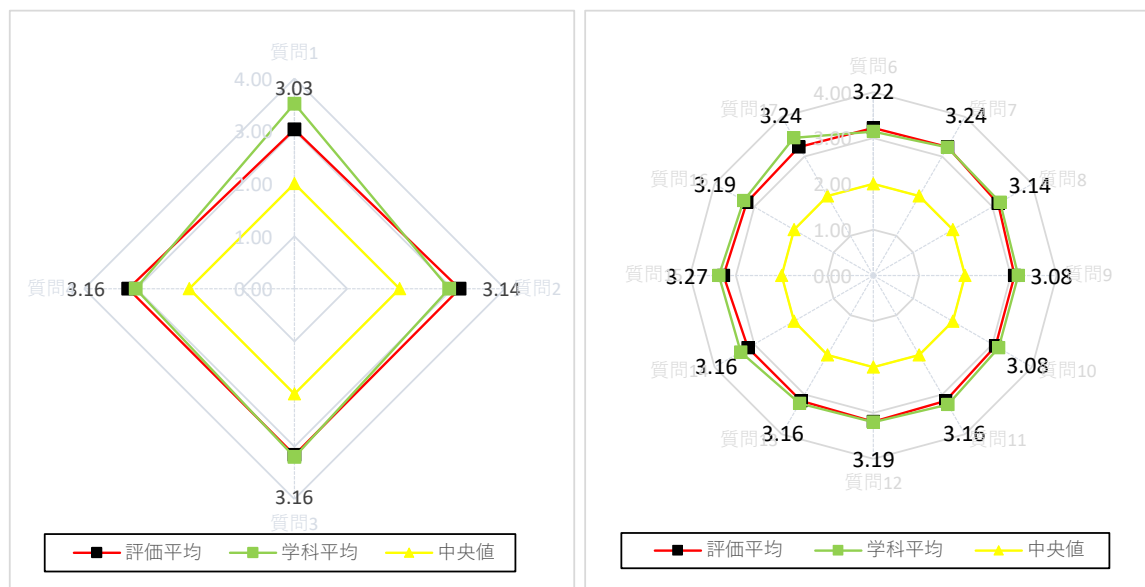
本授業では毎回ワークシートの記入とそれに対する教員からのコメントのやり取りも行っており、ピアノ初心者学生に対しても配慮をもって進めることが比較的やり易いが、こなすべき課題が多いためプレッシャーを感じる学生も少なくないと思う。

(3) 次年度に向けての取り組み

来年度専任教員の一人が育児休業となるため、ピアノ授業では「非常勤講師だけで担当する授業」が多くなる。しかし今年度の授業においても非常勤講師の方々がこれまで以上に授業担当者としての責任を持ち、サポートして下さったことを考えるとそこは心配ない。今年度同様、授業内での学生への伝達事項や授業内容などが偏らないよう、授業と授業の合間の10分間は、その日の授業担当者全員が集合し、簡単な打ち合わせや情報交換をするなど常に連携しながら授業を進めていくよう考えている。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	食物栄養		給食管理実習Ⅱ	38名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

給食管理実習Ⅱが学外実習で行う実習で特定給食施設における給食管理の実際を体得すると共に特定給食における栄養管理のあり方を習得する科目である。評価の結果は学科平均と比較すると、すべての項目が若干低い値であることがわかった。学生自身の評価では高かった項目は「実習に真摯に取り組み理解できるように工夫した」が高く、教員に対する評価では「公平に学生に対応している」が高く、次いで「到達目標を明確にして授業を展開している」「熱心に授業に取り組んでいる」であった。総合評価は3.16であった。

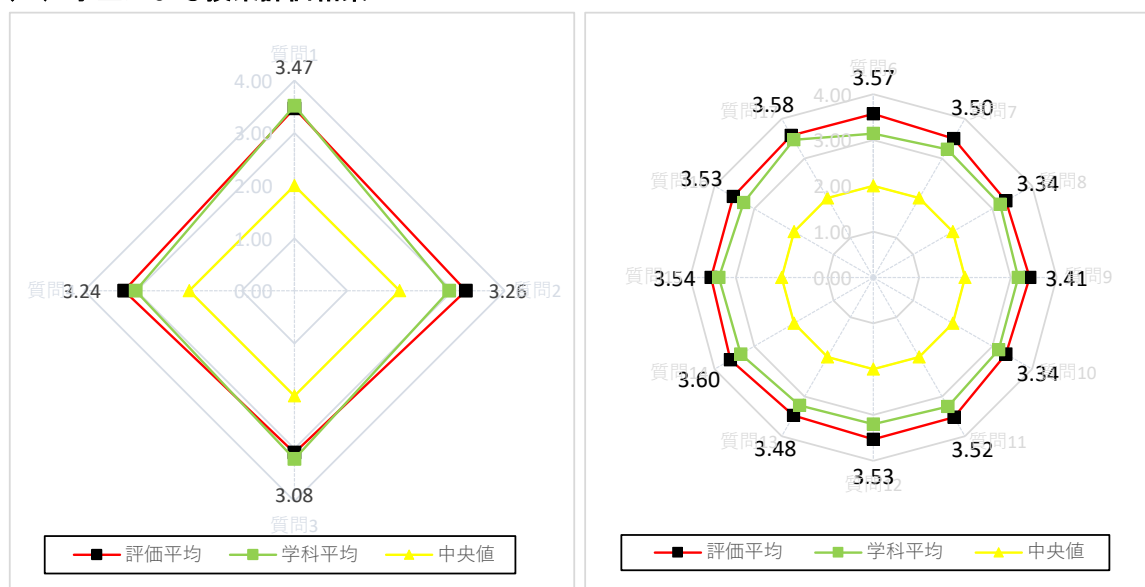
(3) 次年度に向けての取り組み

次年度に向けての取り組みは次の通りである。

- ① 学生が積極的に学ぶことができるように目的意識を明確にする。
 - ② 実習に向けて計画的に準備をすすめさせる。
 - ③ 実習では学内で学んだ専門的知識と技術が発揮できるようにする。
 - ④ 実習先での課題発見（気づき）とその問題解決ができるようになる。
 - ⑤ 実習を通してコミュニケーション能力、協調性、連帯感、社会性を身につけさせる。
- 以上の内容で学外実習を進めていきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		保育課程論	97名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

全項目、学科平均に大きく外れることなく、特に問題ない結果ではないかと思う。質問8の「興味・関心を持つ工夫」に関しては学科平均に比べ若干点数が低かったが、カリキュラムや指導計画案というテーマを考えれば、及第点ではないかと思う。

自由記述には「指導案をどう作成すればよいか理解することができた」等、肯定的な意見が多くあった。保育所や幼稚園での実習に向けての時期であったため、指導案の作成という課題は学生のニーズに合っていたのではないかと考える。

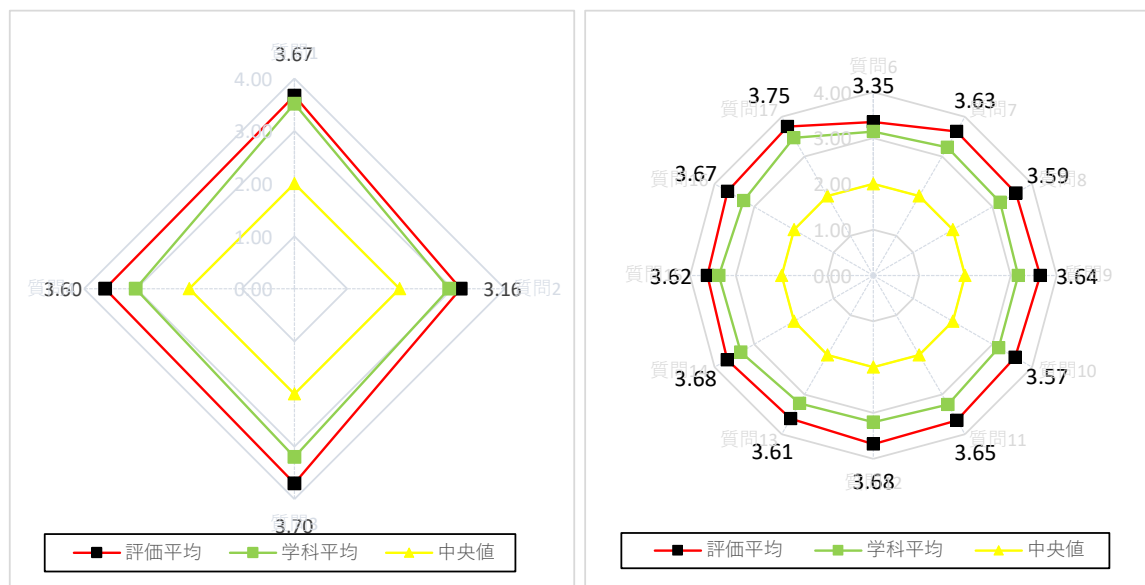
全受講生が「部分指導案」と「全日指導案」の課題を提出することが出来たため、授業の目標である「指導案の作成ができる」という部分は概ね達成されたと考えられる。

(3) 次年度に向けての取り組み

指導案の添削に関して好意的な意見が多く見られた一方で、「否定的な意見ばかりでなく肯定的な意見も欲しかった」「文句が言いたいただけなのかと思うことがあった」というコメントもあった。より良い指導計画案になるように指導をしているつもりであったが、真意が伝わっていなかったとすれば残念である。学生が指導内容に納得し、自身のスキルアップに繋がられるような声掛けや指導の工夫が必要だと感じた。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		ピアノ I	108名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

本授業はML教室で非常勤講師の先生方と共に行っている。基本的に個人レッスンの形態をとっており、学生個人の音楽経験や習熟度により一人ひとり進度も違う。学生の自己評価で質問2の評価が低いのはそのためであろう。質問6について、授業初回ではWeb上のシラバスとは別に作成した資料を配布し、授業の目的や概要、流れ、計画、教材、試験、配点、注意事項について説明している。担当者としてはこれで「シラバス（授業計画）」について説明しているつもりだが、学生には別資料での説明がこの質問のシラバス説明にあたることが分かりにくいのかもしれない。

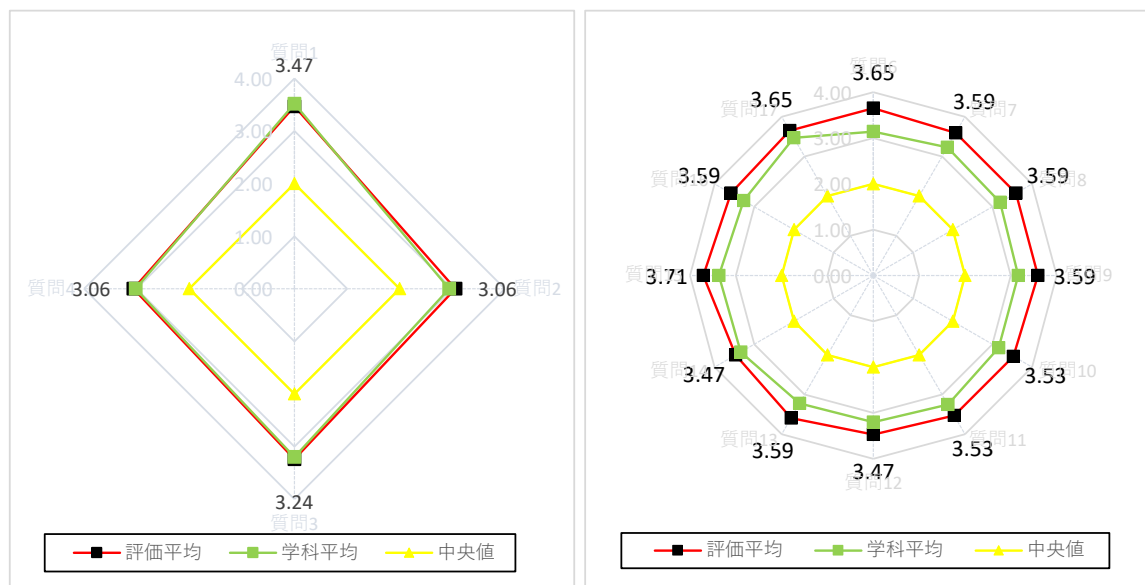
本授業では毎回ワークシートの記入とそれに対する教員からのコメントのやり取りも行っており、ピアノ初心者学生に対しても配慮をもって進めることが比較的やり易いが、こなすべき課題が多いためプレッシャーを感じる学生も少なくないと思う。

(3) 次年度に向けての取り組み

来年度専任教員の一人が育児休業となるため、ピアノ授業では「非常勤講師だけで担当する授業」が多くなる。しかし今年度の授業においても非常勤講師の方々がこれまで以上に授業担当者としての責任を持ち、サポートして下さったことを考えるとそこは心配ない。今年度同様、授業内での学生への伝達事項や授業内容などが偏らないよう、授業と授業の合間の10分間は、その日の授業担当者全員が集合し、簡単な打ち合わせや情報交換をするなど常に連携しながら授業を進めていくよう考えている。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	生活福祉		介護過程Ⅳ	17名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

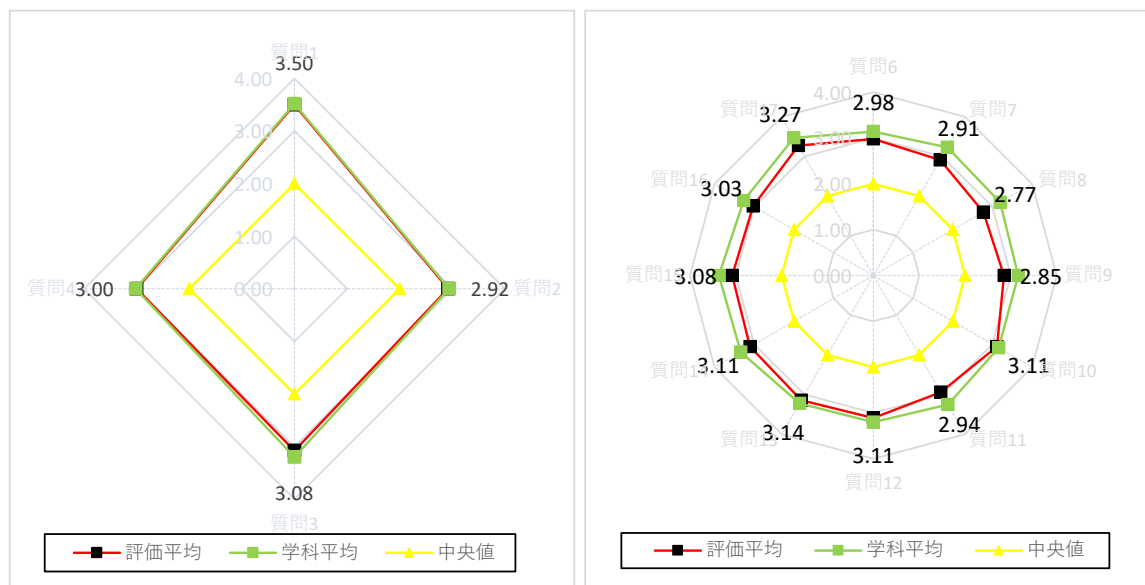
介護過程は150時間あり、介護過程Ⅳは介護サービス全体の中で介護過程がどこで必要なのか、まずケアマネジメントのシステムを理解させ、介護過程についてどこで実施するかを教えている。他の科目と関連する内容も多く、理解できる学生となかなか理解できない学生が分かれる。事例を使ったりしながら教えているが介護過程の科目はそれぞれの教員が教えているので、学生も混乱しているかもしれない。評価については3.5以上がほとんどであり学生はまじめに取り組んでいたと思う。学生自身の工夫やシラバスの活用は十分とは言えない。

(3) 次年度に向けての取り組み

介護過程の授業は、本コース4名の教員以外で外部教員も担当しており、1つの科目に多くの教員がかかわっているため、再度、連携をとりながら見直すことも必要と思われる。また、外部の教員は現場の方であるため、教えてほしい内容など話し合う必要がある。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		地域生活支援学	69名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

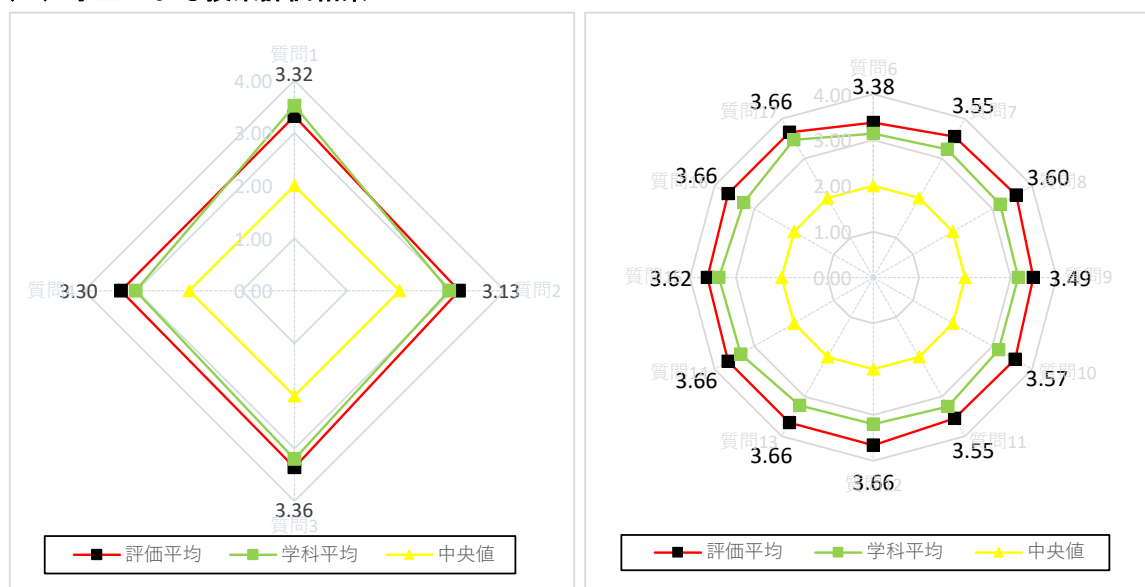
- ①学生の自己評価と当該授業への各項目評価共に学科平均評価(約3.5近傍)を下回っている結果である。
- ②当該授業は新設した本学科の基幹となる新必修科目の初年度展開となり、生活支援分野の専門主担当教員(西九大兼任講師)を中心に、学科全教員が共同でその指導に当たった。多様な文化と各人の異なる意識を前提として、地域での生活者支援の基本的在り方を知識として教授し、後半プログラムでその学習成果を取り纏めてグループ毎に資料作成の上意見発表するプレゼンテーション会を実施した。3コース合同混在受講形態による非常に斬新且つ充実した授業展開であると期待したが、受講者からの評価は若干厳しい見方である事も今回の結果から判った。

(3) 次年度に向けての取り組み

- ①新設科目である事、又異なる専門職種を目指すコース混在型の新企画シラバスに沿って立ち上がって未だ日が浅い授業であるので、今後全教員と受講学生達の意見聴取や反応を注視しながらプログラムの改善を鋭意進めて行く計画である。
- ②次年度以降は、更に海外からの多様な留学生が増加すると想定できる事から、授業で使用する言語活用方法やテキスト及び取り上げるテーマなどについての工夫を凝らす必要があると考えており、受講者が自主的に取り組み、又各専門性も活かせる学習環境と教材及びグループ形態などを整備の上、アクティブラーニング形式を主体とした授業展開の方法を立案し、今後も試行錯誤しながら斬新且つ特徴ある授業として育てて行き、以後の当該学生からの評価の推移を確認して行きたいと考えている。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		地域生活支援演習Ⅰ	68名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

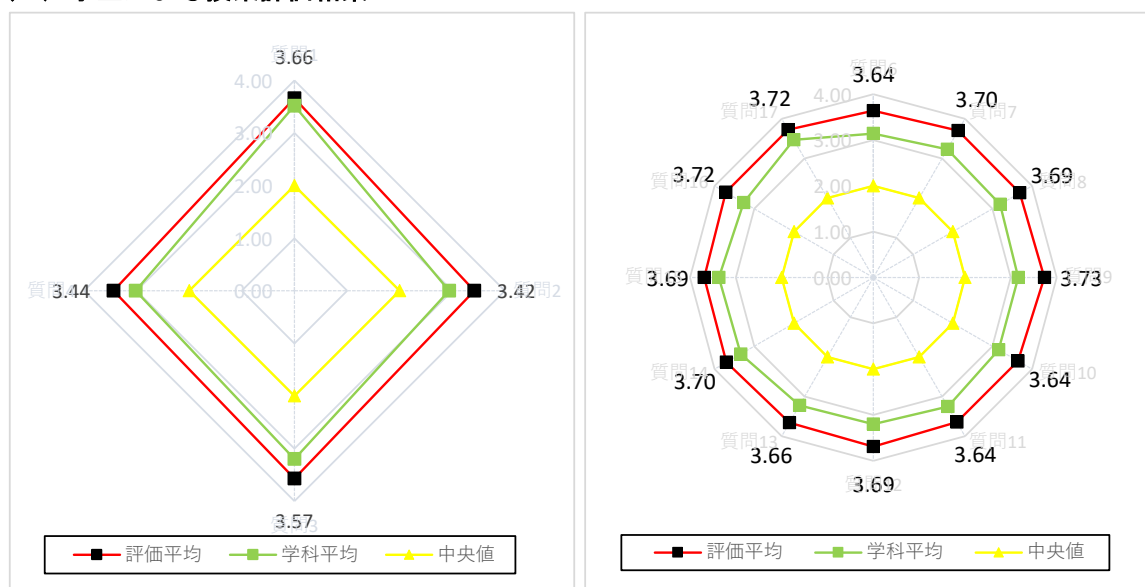
- ①学生の自己評価及び教員授業評価共に中央値を上回っており、又学科評価平均値の3.5近傍にほぼ学生評価が位置している。
- ②Q. 6～Q. 17のいずれも学生からの授業評価としては概ね肯定的に捉えられていると判断している。
- ③当該授業は、前期開講の「地域生活支援学」で学んだ知識を基に、2年次開講の「地域生活支援演習Ⅱ」に於ける卒業研究活動として、地域での実際の支援活動を実施する為の企画を練る為の新設学科主幹必修科目である。その結果、コース横断(残念ながら福祉コースは除く)の各専門性が混在した複数学生グループ編成でのアクティブラーニング形態を主体とした充実したプログラムでの多様な学習環境に対する好評価が受講者から得られていると考えている。
- ④受講者の中には外国人留学生が組み込まれている事を考慮して、当該評価の意義をきちんと理解させる必要があり、国内教育機関での一般的な評価指標とは思考軸が若干異なる意味合いもあるように感じている。

(3) 次年度に向けての取り組み

- ①新設科目である事、又異なる専門職種を目指す3コース混在型の新企画シラバスに沿って立ち上がって未だ日が浅い授業であるので、今後全教員と受講学生達の意見聴取や反応を注視しながらプログラムの改善を鋭意進めて行き、本来の新設学科教育の趣旨をより強く反映した科目とする計画である。
- ②その観点からも、福祉コースの学生も含めた真のコース横断混在の学生チーム編成とその多様性に見合った活動テーマ設定の為の企画を進めて行く計画である。
- ③今後更に海外からの多様な留学生が増加すると想定できる事から、授業で使用する言語活用の方法や理解し易いテキスト編纂及び取り上げるテーマなどについての工夫を凝らす必要があると考えており、受講学生が、自主的に取り組める学習環境と教材を整備の上、アクティブラーニング形式を主体とした授業の展開方法で試行しながら実施し、以後当該学生評価の推移を確認して行きたいと考えている。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		幼児体育	97名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

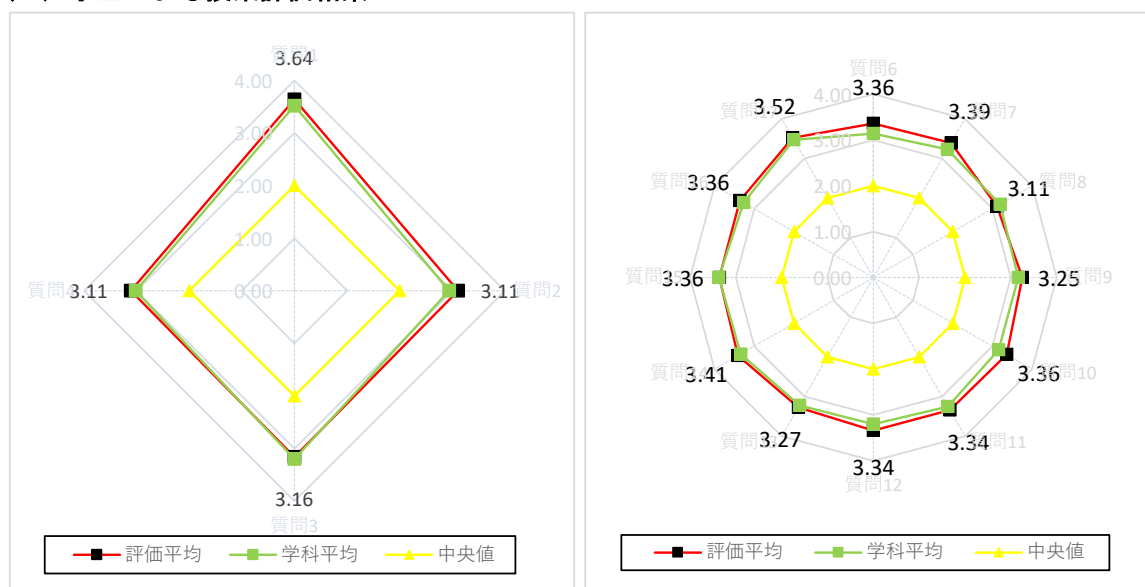
本科目は、乳幼児期の子どもの発育発達に即した運動遊びの内容と実践法を紹介する実技を中心とした授業であるため、視聴覚教材や板書等は用いていない。授業内容に即した「遊びノート」を配布し、学生には、授業内容を観点別にまとめるレポートを毎回課しているため、負担感の高い授業になっている。とはいえ、学生の授業に対する態度・行動（設問1～4）、教員の授業設計・運営（設問6～17）の多くの項目において肯定的な反応が得られていることから、授業内容に対する満足度は低くないものと思われる。毎回の授業において、学生の「遊びノート」の記述内容に応じて前回授業分を振り返り、教材研究に関する解説を加えていた。このような学生が双方向的なやり取りを実感できるような授業の運営方法を今後も検討していきたい。

(3) 次年度に向けての取り組み

次年度においても、学生が双方向的なやり取りを実感できるような授業の運営方法（学生の学びに対する解説）を丁寧を実施していきたい。また、学生が学修成果を実感できるようにするため、「遊びノート」の記入欄の工夫・改善、学修到達目標のルーブリック化を図っていきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		情報リテラシー I（実習を含む）	47名

（１）学生による授業評価結果



（２）結果の分析と評価

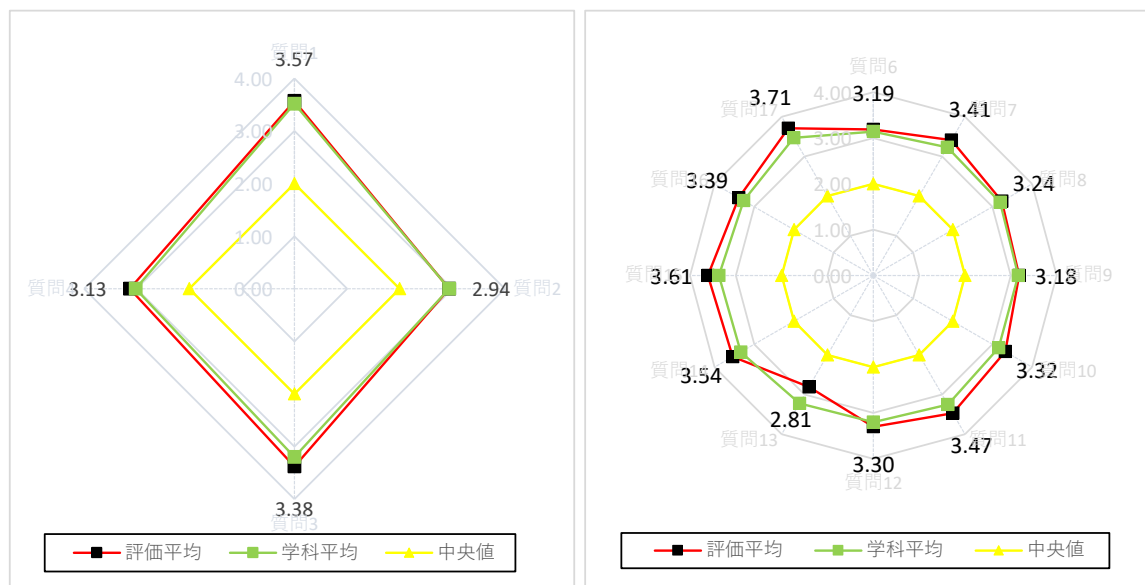
- ①学生の自己評価及び教員授業評価共に中央値を上回っており、又学科評価平均値がほぼ3.5近傍に対して本教科の平均評価が僅少低く3.4近傍付近に位置している。
- ②Q. 6～Q. 17のいずれも3.3と3.5の間にあり、学生からの授業評価としては概ね肯定的に捉えられていると判断している。
- ③毎年度の事であるが、シラバス説明・到達度の明確化・興味関心への工夫・視聴覚機器(CAI教室)の多用・マイク利用・学習の低進捗学生に合わせた授業速度・学生との双方向授業(CAI装置)等の各ポイントに対しては、全て更に高得点を期待して良いレベルの授業展開実績と例題の工夫などを行っているにも拘らずこの程度の一見すると非常に厳しい学生からの評価値とも判断できる結果の繰り返しに終始している。
- ④毎年のこの学生評価は、どのように改善策を変えても、良くもなく悪くもない、いわゆる“普通”にチェックを入れているのではないかと考えざるを得ない結果である。
- ⑤本来の教育の質と当該学生評価との相関が不明であり、例年の評価結果が真の学習効果の向上活動に資する方策を再検討する必要があるように考えている。

（３）次年度に向けての取り組み

- ①例年の学生評価を受けて、教科書が指定する学習例題(本来の高等教育機関である大学・短大で実施すべき内容とレベル)に代えて、できるだけ若者受けすると想定できる興味を引く例題、或いは各専門分野(例えば栄養士であれば栄養と食品に関係する独自の例題考案及びインターネット情報活用や個人スマホの活用等)に合う身近な専門課題練習を既に近年特に多用している状況であり、以後本来必要とされる情報リテラシー授業に対してどのような興味の持たせ方が今後更にあるであろうかと真剣に思案している最中である。
- ②単に評価点数を上げる為の単純なエンターテインメント性の工夫ではなく、何をきちんと学習し身に付けて欲しいかを考慮した教育対応を考えての指導方針で、今後の授業を実施して行きたいと思っている。
- ③受講者が自立的に授業に参加できるような学習環境と教材を整備の上、アクティブラーニング形態を主体とした展開方法に全面的にシフトし、その結果としての当該学生達からの評価の推移を以後慎重に確認して行きたいと考えている。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援 幼児保育		情報リテラシー I（実習を含む）	117名

（１）学生による授業評価結果



（２）結果の分析と評価

質問事項の「授業の進む速さは適切でしたか」をはじめ、低評価項目は、入学時までの経験が大きく反映している。また学内のネットワークの仕組み等、最初に行うため説明理解と設定から難しいと受け取られてしまうと考えられる。

シラバスの活用においては、授業内で説明を実施している。しかし受講者の進度に合わせて進むためシラバスに照らし合わせることができにくく、授業の最初と最後に予習・復習を伝えて毎回の授業内容を確認している。

情報関連の科目設定からも情報リテラシー I は授業内容の幅が広く、循環教育も必要な内容を含み、授業を押して進めているのが原因していることが考えられる。

自己学習がやりやすいようにテキストに沿って進行しているが、興味・関心が持てないとの評価もあり検討が必要。

（３）次年度に向けての取り組み

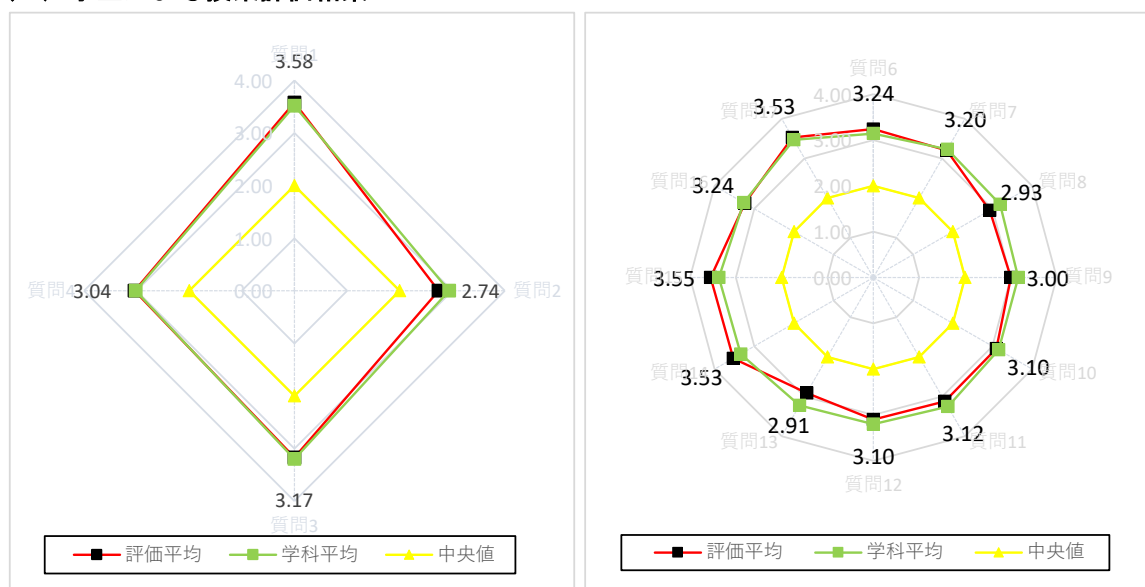
授業内容を受講者の経験等を考え調整できる設定を考えながら進めていくことが必要である。本来は設定内容を見直す必要もあると思われるが、授業展開期間や科目設定があるため、内容を軽減することは難しい。どのように理解を深めてもらうか課題は多い。

シラバスの活用においては、やはり受講者の進度に合わせて進むためシラバスに照らし合わせることができにくく、授業の最初と最後に予習・復習を伝えて毎回の授業内容を確認していく方法で対応を次年度も継続。

学内ネットワークなどの設定など初回時から操作もあり、個人対応の時間を設けることで、授業についていけないという不安を取り除く対応が必要。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援 幼児保育		情報リテラシーⅡ	95名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

情報リテラシーⅠの必須科目から、選択科目となる情報リテラシーⅡである。が、免許取得に必要な学科はほとんどの学生が選択し受講している。他では自由選択となり、学生は少人数ではあったが、社会人からの希望が多く、内容もビジネスでは必要な内容となっているため、少人数の授業では評価も高く理解にも満足感が伝わってきた。

情報リテラシーⅡでは表計算を使ったビジネスで活用できる内容となっており、計算において苦手意識が高い学生が多く、難しさをさらに感じているが授業は真面目に取り組んでいるので質問もあり、学ぶ必要性を感じている。学生同士で学びあう機会を取り入れているが習得の差がある場合、より苦手意識を感じてしまい学習意欲が下がってしまう傾向もみられる。

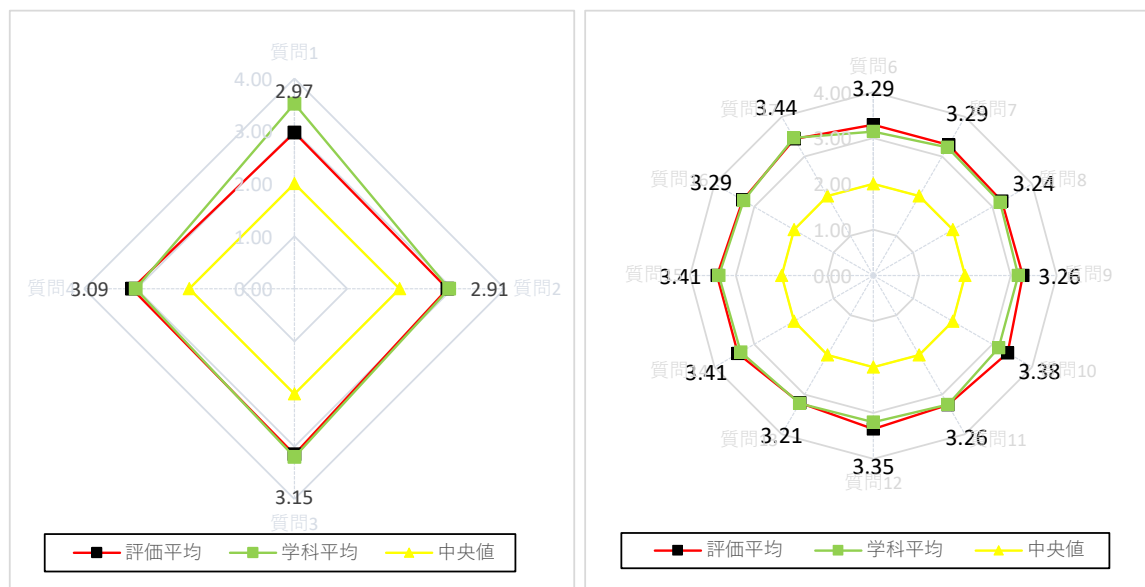
(3) 次年度に向けての取り組み

情報リテラシーⅡでは学生同士でも学習を進めていくような問題を提供し、達成感を感じる課題を提供しているが、もっと身近な課題の内容に興味や関心が持てる工夫の検討が必要だと考える。自己学習ができるようにテキストに沿った説明は次年度も変えずに進む。しかし、テキストはビジネスでの場で活用できる内容となっている。さらに習得の差が見られることを考えて進むことが大切である。

また授業の進め方が早いと感じさせない努力が必要である。明瞭な話し方や話すスピードを気にしながら、じっくりと各自が取り込める内容構成と課題の検討を続けていく。学生は情報リテラシーⅡの必要性もわかっており、学習意欲をなくすことなく自主学習が育つきっかけが生まれる授業としたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		情報リテラシーⅡ	46名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

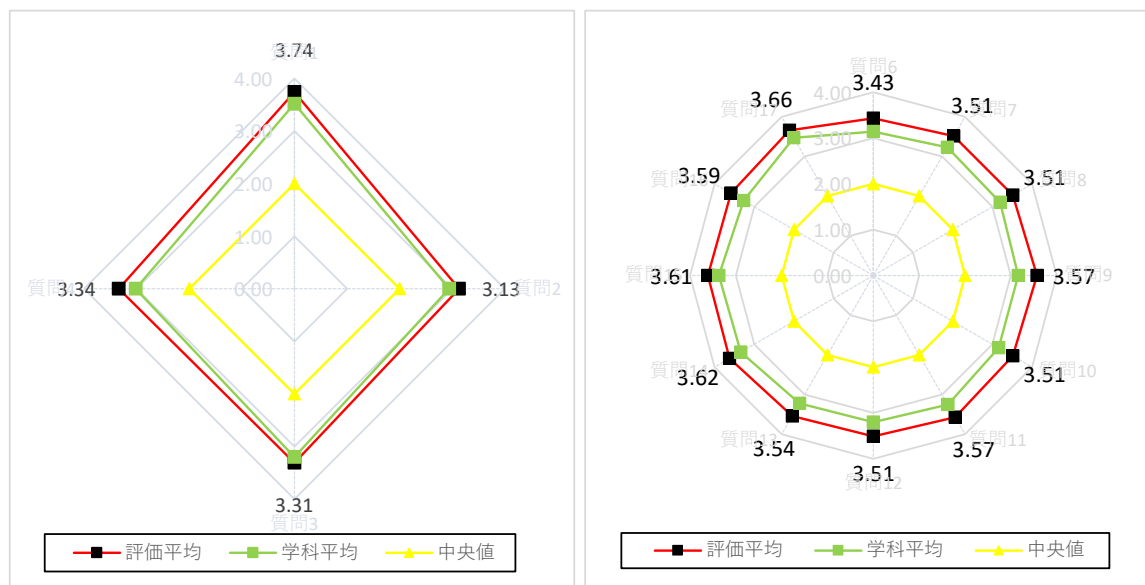
- ①学生の自己評価及び教員授業評価共に中央値を上回っており、又学科評価平均値がほぼ3.5近傍に対して本教科の平均評価が僅少低く3.4近傍付近に位置している。
- ②Q.6～Q.17のいずれも3.3と3.5の間にあり、学生からの授業評価としては概ね肯定的に捉えられていると判断している。
- ③毎年度の事であるが、シラバス説明・到達度の明確化・興味関心への工夫・視聴覚機器(CAI教室)の多用・マイク利用・学習の低進捗学生に合わせた授業速度・学生との双方向授業(CAI装置)等の各ポイントに対しては、全て更に高得点を期待して良いレベルの授業展開実績と例題の工夫などを行っているにも拘らずこの程度の一見すると非常に厳しい学生からの評価値とも判断できる結果の繰り返しに終始している。
- ④毎年のこの学生評価は、どのように改善策を変えても、良くもなく悪くもない、いわゆる“普通”にチェックを入れているのではないかと考えざるを得ない結果である。
- ⑤本来の教育の質と当該学生評価との相関が不明であり、例年の評価結果が真の学習効果の向上活動に資する方策を再検討する必要があるように考えている。

(3) 次年度に向けての取り組み

- ①例年の学生評価を受けて、教科書が指定する学習例題(本来の高等教育機関である大学・短大で実施すべき内容とレベル)に代えて、できるだけ若者受けすると想定できる興味を引く例題、或いは各専門分野(例えば栄養士であれば栄養と食品に関係する独自の例題考案及びインターネット情報活用や個人スマホの活用等)に合う身近な専門課題練習を既に近年特に多用している状況であり、以後本来必要とされる情報リテラシー授業に対してどのような興味の持たせ方が更にあるであろうかと真剣に思案している最中である。
- ②単に評価点数を上げる為の単純なエンターテインメント性の工夫ではなく、何をきちんと学習し身に付けて欲しいかを考慮した教育対応を考えての指導方針で、今後の授業を実施して行きたいと思っている。
- ③受講者が自立的に授業に参加できるような学習環境と教材を整備の上、アクティブラーニング形態を主体とした展開方法に全面的にシフトし、その結果としての当該学生達からの評価の推移を以後慎重に確認して行きたいと考えている。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		楽典	60名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

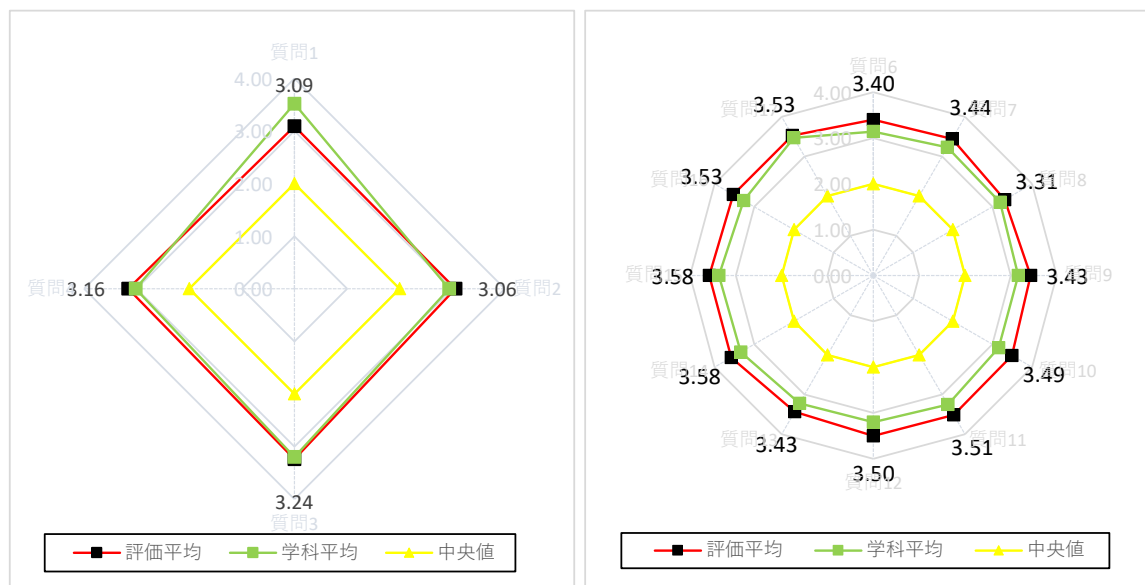
本授業の習熟度別3クラス「初心者クラス」「少し経験があるクラス」「経験者クラス」の内、今年度は「初心者クラス」と「少し経験があるクラス」の2クラスを担当した。ピアノを弾いたことのない学生にとって「楽典」の内容は非常にとっつきにくく難解であると思う。そういった受講生の立場に立つことが本授業の何より大切なポイントである。特に昨年は「授業進度」に不満を覚えている学生がいることを、この授業評価で知ることができた。そのため今年度はその点を特に意識し、より丁寧に、伝える順番にも配慮した。そのため質問13の授業進度については評価が上がり、また自由記述においても「丁寧に教えてもらった」「初心者に合わせて授業が行われた」などのコメントが見られた。

(3) 次年度に向けての取り組み

次年度は3クラス中2クラス「初心者クラス」のみを担当する。特にこのクラスでは、学生が楽典の学びに拒否反応を起こさないよう、リトミックの手法を取り入れた授業を展開してみたいと考えている。3クラスの進度に大きな差がでることが予想されるが、この点については他の2クラスの授業内容について、「少し経験があるクラス」「経験者クラス」担当の非常勤講師と綿密に打合せを行う。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		教育・保育者論	97名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

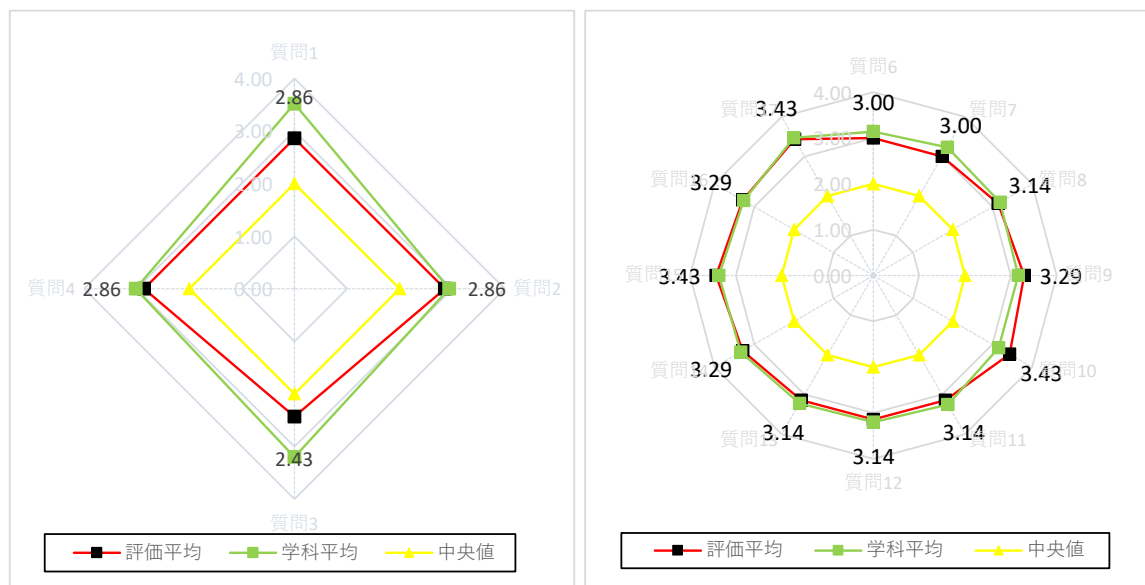
全体的な平均的な評価となった。
 学生が身近に感じる事例を多く紹介するとともに、
 映像資料を多く用いて教師・保育者のリアルに迫ったことが
 評価につながったのではないかな。

(3) 次年度に向けての取り組み

教師・保育者として現場に立った際に直面するさまざまな困難や問題について、
 学生とともに考えるディスカッションやロールプレイなどをおこなう機会を用意したい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		プレゼンテーション概論	8名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

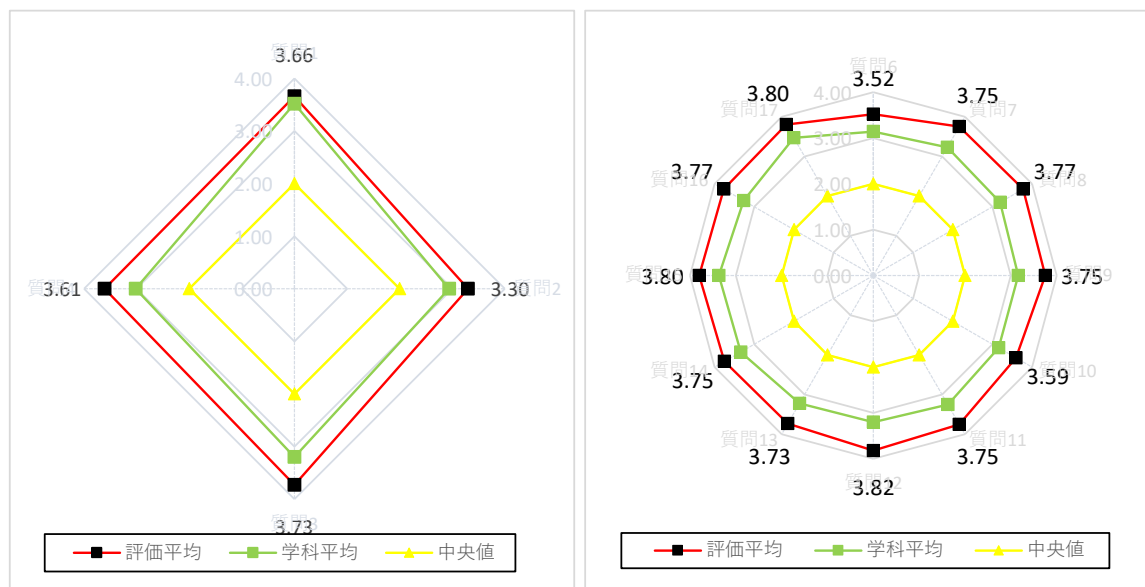
- ①学生の自己評価及び教員授業評価共に中央値を上回っており、又学科評価平均値がほぼ3.5近傍に対して本教科の平均評価が僅少低く3.1近傍付近に位置している。
- ②Q. 6～Q. 17のいずれも3.1と3.2の間にあり、学生からの授業評価としては概ね肯定的に捉えられていると判断している。
- ③シラバス説明・到達度の明確化・興味関心への工夫・視聴覚機器(CAI教室)の多用・マイク利用・学習低進捗学生に合わせた授業速度・学生との双方向授業(CAI装置)等の各ポイントに対しては、全て更に高得点を期待して良いレベルの授業展開実績と教材工夫などを行っているにも拘らずこの程度の一見すると非常に厳しい学生からの評価値とも判断できる結果である。
- ④学生評価は、良くもなく悪くもない、いわゆる“普通”に安易チェックを入れているのではないかと考えるを得ない。
- ⑤当該授業は、新設学科多文化生活支援コース生が主体の新科目であり、その受講者の半分以上が外国人留学生である事を考慮すると、評価の意味をきちんと理解させる必要があり、国内教育機関での一般的な評価指標の軸が若干異なる意味合いもあるように感じている。

(3) 次年度に向けての取り組み

- ①当該授業受講の結果として取得可能な「プレゼンテーション実務士」資格(全国大学実務教育協会認定)に沿った指導要領下での最初の授業であった。今後は更に本学当該コースの独自性により適用したシラバス展開と教材開発を考慮しながら更に改善を加えて行く事を計画している。
- ②受講者が自立的に授業に参加できるような学習環境と教材を更に整備の上、アクティブラーニング形態を主体とした展開方法にシフトし、その結果としての当該学生評価の推移を以後慎重に確認して行きたいと考えている。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		こどもの遊び	48名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

全項目において、学科平均を大きく上回っていた。コース科目ということもあり、学生の意欲がもともと高いことも背景としては考えられるが、一人ひとりが役割を担い主体的に進める授業であることが高評価に大きく関係していると考ええる。

学生は3つのグループに分かれ、「親子いきいき広場」の開講日に向けてグループ毎に準備を進めていった。学生の自由記述には「つよくなれた」「現場で役に立つと思う」という意見が書かれていたが、これはグループ内での意見の衝突や葛藤、時間外での準備を通して学生自身が学んだものだと考えられる。

また、様々な子どもと実際に関わることで、体験を通して多くの学びを得ることができ、その満足度が評価に繋がっているのだと考えられる。

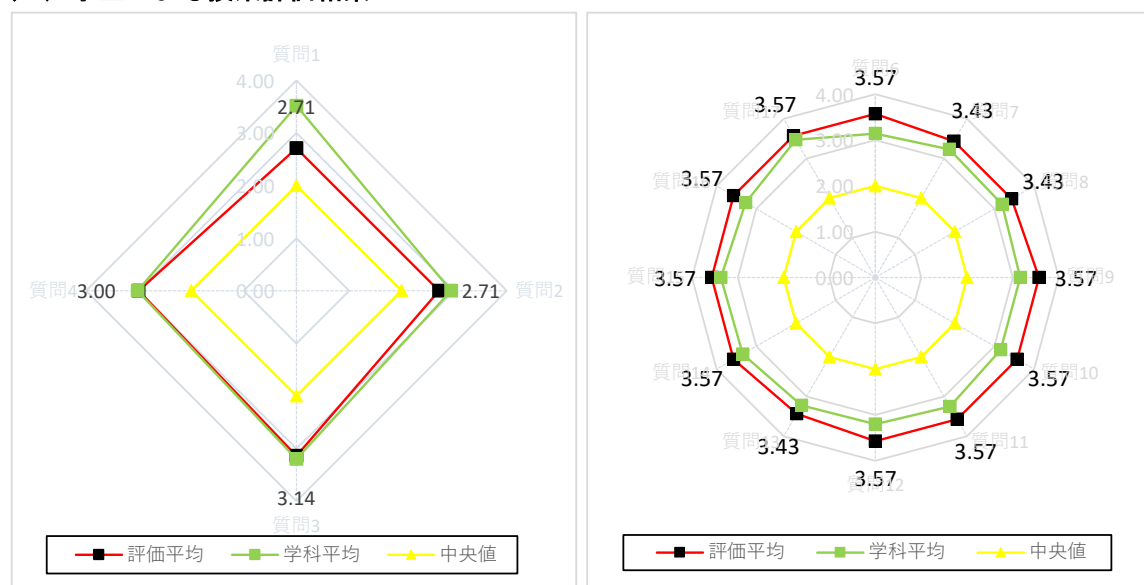
(3) 次年度に向けての取り組み

学生の自由記述に「先生からの指導はありがたいですが、考えた内容や意見を真っ向から否定されると嫌です。言葉のいいようかもしれませんが、もう少し先生の考えを押し付けるような言い方ではなく、こういう方法もあるよのような言い方がいいなと思います。」というものがあつた。教員としては指導の一環として経験等から助言をしたつもりでいたが、学生に真意が伝わっていないのでは指導が浸透せず、改善が必要であると感じた。恐らく、何度も方法を提案する等のアドバイスをした上での指導場面を指していると思われるが、学生の受け取り方次第では、やる気を低下させる要因になる恐れがあると感じた。

また、学生間での連絡が上手くいかず、不満を持つ場面を何度も見てきたため、学生の主体性を大切にしつつも、教員の介入方法やタイミングを工夫する必要があると感じている。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		プレゼンテーション演習	9名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

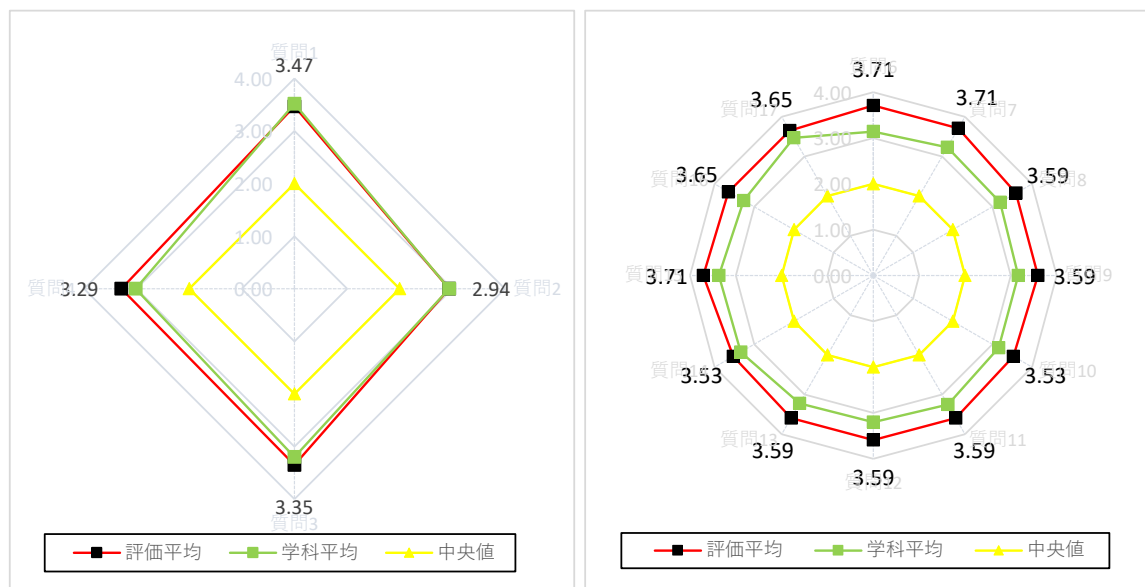
- ①学生の自己評価及び教員授業評価共に中央値を上回っており、又学科評価平均値の3.5近傍にほぼ評価が位置している。
- ②Q. 6～Q. 17のいずれも学生からの授業評価としては概ね肯定的に捉えられていると判断している。
- ③興味関心への工夫・視聴覚機器(CAI教室)の多用・学習低進捗学生に合わせた授業速度・学生との双方向授業(CAI装置)等の各ポイントに対しては、全て更に高得点を期待して良いレベルの授業展開実績と教材工夫などを行っているにも拘らず概して厳しい学生からの評価ではないかとも判断できる結果である。
- ④当該授業の一環として、民間団体主催のプレゼンテーション大会に積極的に応募させ、学生企画主体での指導を強化して全面的にアクティブラーニング形態で実施し、結果として賞を勝ち取る事ができた効果がこの評価に大きく寄与していると考えられる。
- ⑤当該授業は、新設学科多文化生活支援コース生が主体の新科目であり、その受講者の半分以上が外国人留学生である事を考慮すると、評価の意味をもっときちんと理解させる必要があり、国内教育機関での一般的な評価指標の思考軸が若干異なる意味合いもあるように感じている。

(3) 次年度に向けての取り組み

- ①当該授業受講の結果として取得可能な「プレゼンテーション実務士」資格(全国大学実務教育協会認定)に沿った指導要領下での最初の授業であった。今後は更に本学当該コースの独自性により適用したシラバス展開と新教材開発を考慮しながら更に改善を加えて行く事を計画している。
- ②受講者が自立的に授業に参加できるような学習環境と教材を更に整備の上、アクティブラーニング形態を主体とした展開方法によりシフトし、その結果としての当該学生評価の推移を以後慎重に確認して行きたいと考えている。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	生活福祉		認知症の理解Ⅱ	17名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

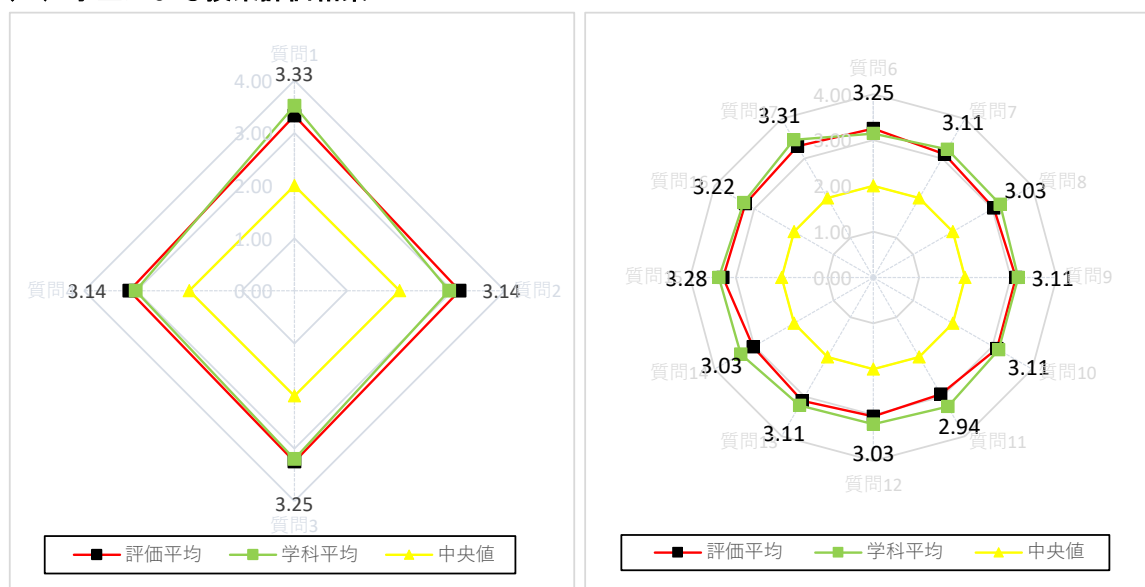
本科目の開講は2年次の後期で、学生はそれまでの授業や介護実習において認知症についての基本的知識を修得したものとし、認知症の人のみならず家族や周囲の環境に配慮した介護の視点、ケアの在り方を理解させることを目的としている。質問4の「この授業を理解するために自分で何か工夫をしたか」の評価は学科平均とほぼ同等で、それまでに得た意識の振り返りや介護実習での体験を授業の中で学生なりに活かすことができていたのではないかと推測する。質問14の「学生の質問等に誠実に対応したか」の評価が学科平均よりも低い、学生からの質問にすぐ答えるのではなく学生に考えさせるというスタイルをとることも多く、そのことが学生にとっては誠実さに欠けるという評価につながったのではないだろうか。2年生後期という就職前の開講時期ということもあり、不真面目な授業態度の学生は少なかったという印象を持つ。

(3) 次年度に向けての取り組み

学生は、授業を受けながらいくつかの疑問を持つ。本科目において、教員はその疑問にすぐ答えを出すのではなく、学生に考えさせることを重要と考えて授業を展開することが多かった。実際、深く考えることで、学生なりの介護観を形成する者もあり、学生によっては良い方法だったと考える。しかし、場合によっては、教員が質問に早目に答えることによってより学びが深まることも理解できる。今後は、学生の特性等を見極めたうえで、学習方法を検討することが必要である。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	食物栄養		情報リテラシーⅢ	38名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

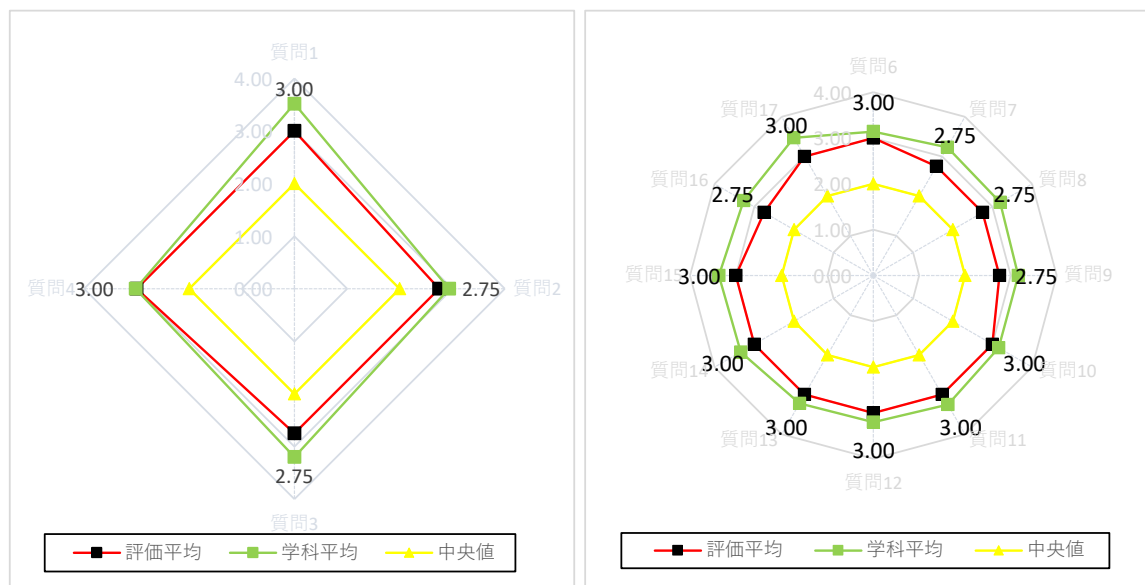
- ①学生の自己評価及び教員授業評価共に中央値を上回っており、又学科評価平均値がほぼ3.5近傍に対して本教科の平均評価が僅少低く3.4近傍付近に位置している。
- ②Q. 6～Q. 17のいずれも3.3と3.5の間にあり、学生からの授業評価としては概ね肯定的に捉えられていると判断している。
- ③毎年度の事であるが、シラバス説明・到達度の明確化・興味関心への工夫・視聴覚機器(CAI教室)の多用・マイク利用・学習の低進捗学生に合わせた授業速度・学生との双方向授業(CAI装置)等の各ポイントに対しては、全て更に高得点を期待して良いレベルの授業展開実績と例題の工夫などを行っているにも拘らずこの程度の一見すると非常に厳しい学生からの評価値とも判断できる結果の繰り返しに終始している。
- ④毎年のこの学生評価は、どのように改善策を変えても、良くもなく悪くもない、いわゆる“普通”にチェックを入れているのではないかと考えざるを得ない結果である。
- ⑤本来の教育の質と当該学生評価との相関が不明であり、例年の評価結果が真の学習効果の向上活動に資する方策を再検討する必要があるように考えている。

(3) 次年度に向けての取り組み

- ①例年の学生評価を受けて、教科書が指定する学習例題(本来の高等教育機関である大学・短大で実施すべき内容とレベル)に代えて、できるだけ若者受けすると想定できる興味を引く例題、或いは各専門分野(例えば栄養士であれば栄養と食品に関係する独自の例題考案及びインターネット情報活用や個人スマホの活用等)に合う身近な専門課題練習を既に近年特に多用している状況であり、以後本来必要とされる情報リテラシー授業に対してどのような興味の持たせ方が今後更にあるであろうかと真剣に思案している最中である。
- ②単に評価点数を上げる為の単純なエンターテインメント性の工夫ではなく、何をきちんと学習し身に付けて欲しいかを考慮した教育対応を考えての指導方針で、今後の授業を実施して行きたいと思っている。
- ③受講者が自立的に授業に参加できるような学習環境と教材を整備の上、アクティブラーニング形態を主体とした展開方法に全面的にシフトし、その結果としての当該学生達からの評価の推移を以後慎重に確認して行きたいと考えている。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		日本語Ⅱ	9名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

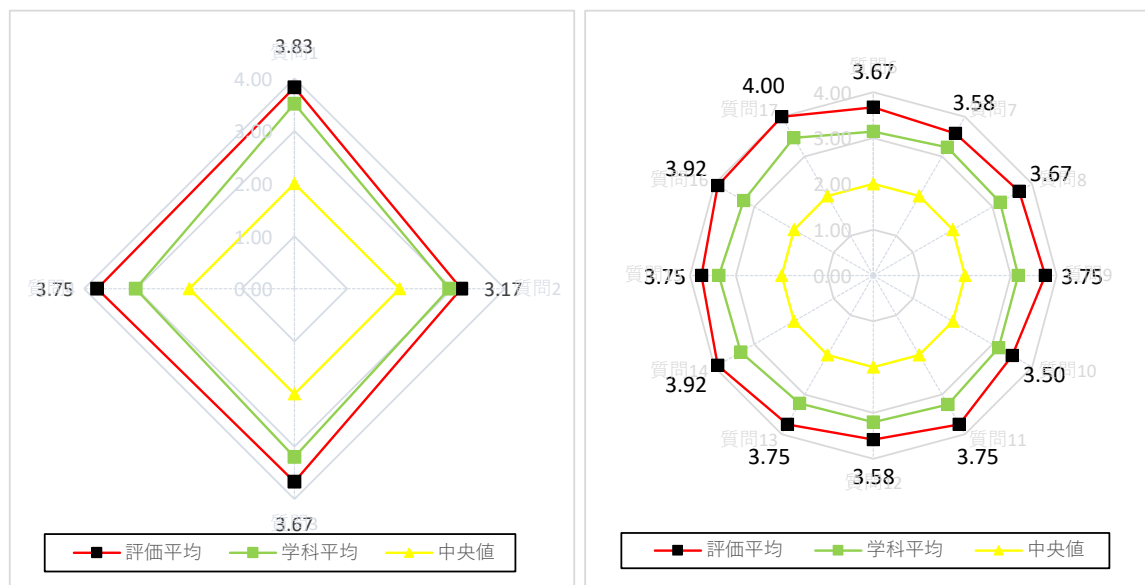
全て学科平均を下回っている。専門外の科目、留学生相手、学生間のレベルの違い、関連科目の日本語Ⅰとの連携のため教科書変更など、多くの課題が積み重なった。

(3) 次年度に向けての取り組み

今年度の経験、結果をもとに改善できることから取り組んでいきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	生活福祉		障害の理解Ⅱ	17名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

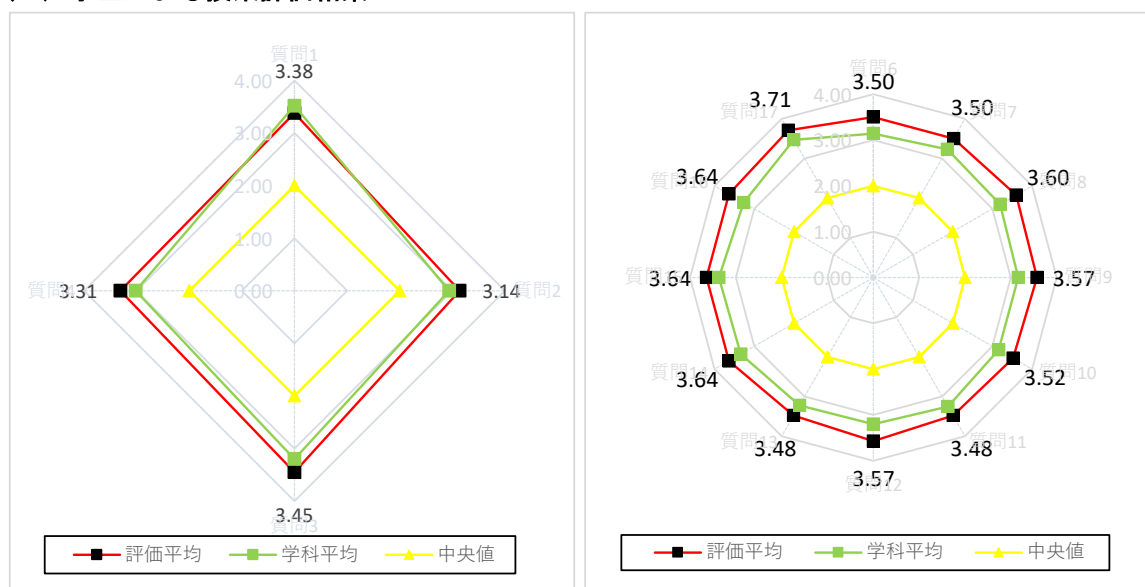
5人が評価を行っていない。学生自身のシラバスの活用ができていない。視聴覚教材や板書の評価が低い。シラバスについて3が一人いる。公平な対応について一人2がついている。誰かを無視したり、軽く扱ったことはない、逆に誰かに対してしすぎたという意味での不公平さなのかもしれない。両方の場合を念頭に置き検討する。

(3) 次年度に向けての取り組み

学生にアンケートの記入についてきちんと指導する。視聴覚教材や板書の仕方について検討を行う。シラバスは途中でも活用できるようなものに作り直す。公平な対応でないと学生に思わせないように今まで以上に気を配る。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		幼児ダンス	48名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

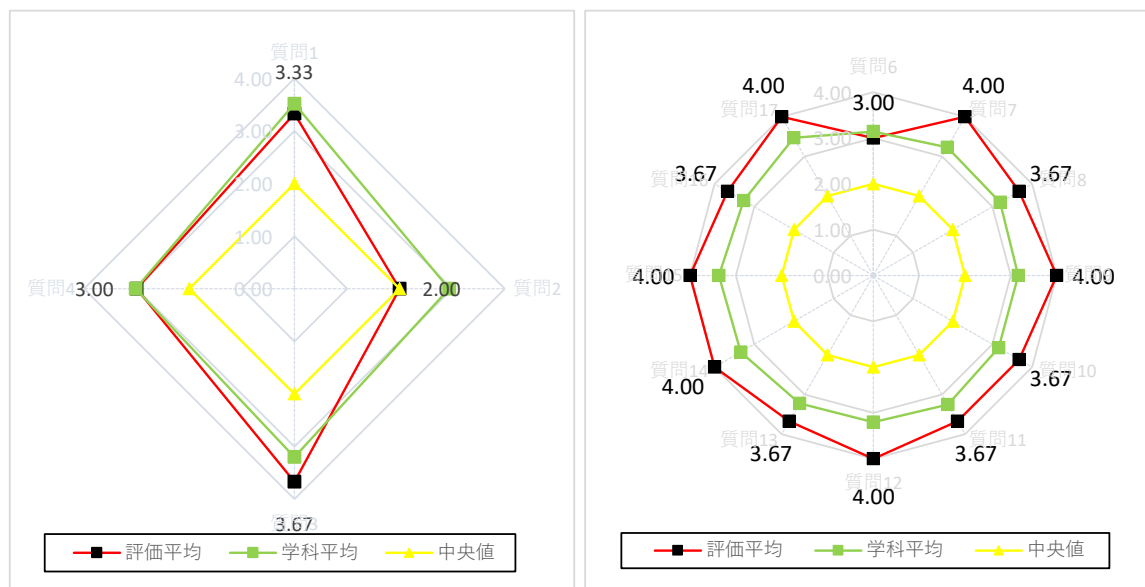
表現・音楽コースの科目であり、身体表現においては2年間の集大成ともいえる教科である。舞台発表も12月にあり、学生の力量を発揮する科目でもある。しかしながら、身体表現を苦手とする学生もいるので、各個人個人を大事にしながら指導している。そういうことから妥当な結果であると受け止めている。

(3) 次年度に向けての取り組み

現場に直結できる科目であることを意識し、一人一人が現場で活躍できるよう今後も授業研究を続けていく。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	食物栄養		情報リテラシーⅣ	3名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

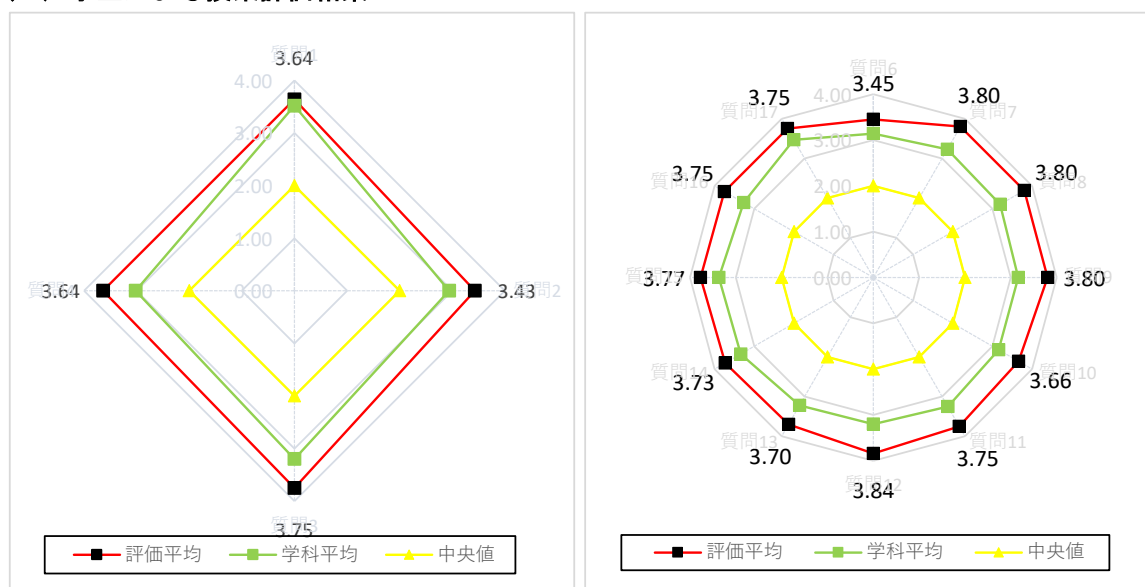
情報リテラシーⅣは、2年次後期の選択科目のため少人数授業であった。今回の評価は全体的に高評価であった。が、シラバス説明については初回授業時に終わっており、その後に授業登録した学生には対応できていなかったため、低評価となってしまった。この授業は本来検定試験に対応した内容となっているが、受講者の希望により試験内容ではなく利活用できる応用編の希望がある場合は、内容を変更できるようにテキストも担当が作成したものを使用している。そのため授業達成目標を明確にして、授業を展開している項目や分かりやすくする工夫がされている項目評価が高評価であった。学生自身も真剣に取り組んだという意識が高い。少人数授業は、情報の授業において理解度や満足度が高くなることがわかる。また授業計画が無理をせずに進める内容となっているため、高評価につながっていると考えられる。

(3) 次年度に向けての取り組み

シラバスの説明については初回時のみでなく、自己確認ができるように折に触れて行く必要がある。情報リテラシーⅣにおいては、平均値を上回っているため次年度もわかりやすく理解できるテキスト作成に変更させながら、進めていきたい。選択科目のため、少人数での受講となることで応用編として学びたいところを希望し進行させることが可能となり、授業内容としては満足感をもたらしているが、計画の変更を伝えながら進めていくことが大事である。その反省点を取り入れながら、学生の学びをステップアップさせていきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		保育カウンセリング	47名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

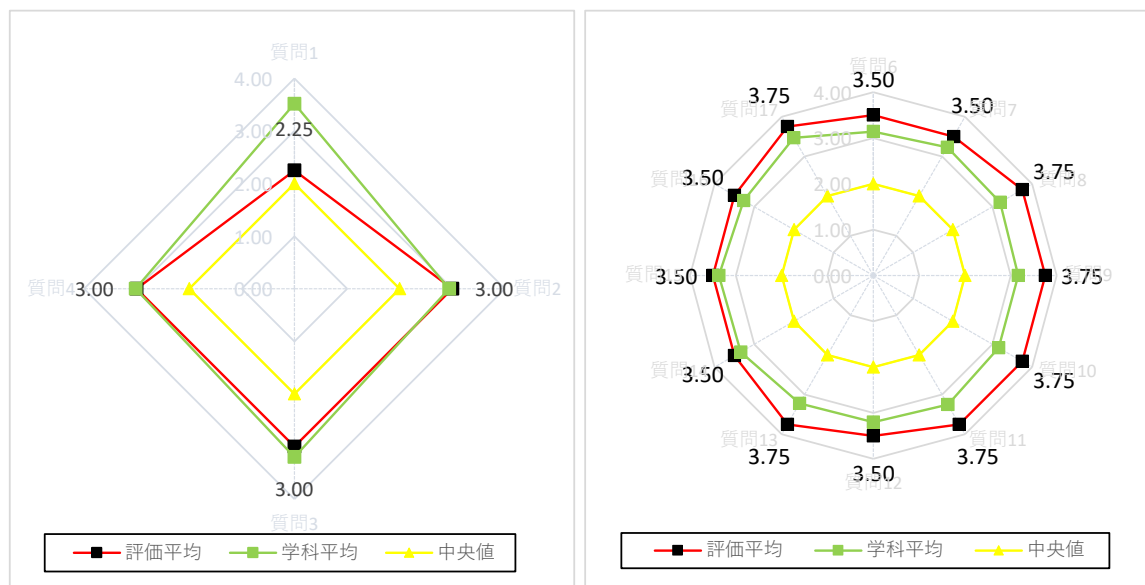
どの項目においても、平均より高い評価が得られた。本科目は、「親子いきいき広場」での実践を通して、子どもとその保護者に対する心理的支援の重要性について学び、学生が有する知識や技術を生かしながら具体的な心理的ケアを検討できるようになることをねらいとしている。各項目からも、学生の興味・関心、意欲の高さが感じられるが、実際に授業中の様子や個別の記録ノートの記述からも、心理的ケアに必要な「対象を理解しようとする姿勢」が1年を通して徐々に身についてきたことが窺えた。自由記述にも「保育現場で役立つことが学べた。」とあり、子育て支援の実践と毎回の振り返りを通して、それまでに学修した内容と実践とがつながり、保育の理解が深まっていったと思われる。

(3) 次年度に向けての取り組み

自由記述には、「予定変更を急に知らされたため、前もって連絡してほしいかった。」という指摘があった。これは、おそらく「親子いきいき広場」本番の流れや活動内容の急な変更が、うまく全体に伝わっていなかったことを指していると思われる。学生間の連携、学生と教員とのコミュニケーションをこれまで以上に図りながら、保育現場で求められる正確で的確な報告・連絡・相談が行えるようになるよう指導を続けたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		日本語Ⅲ	5名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

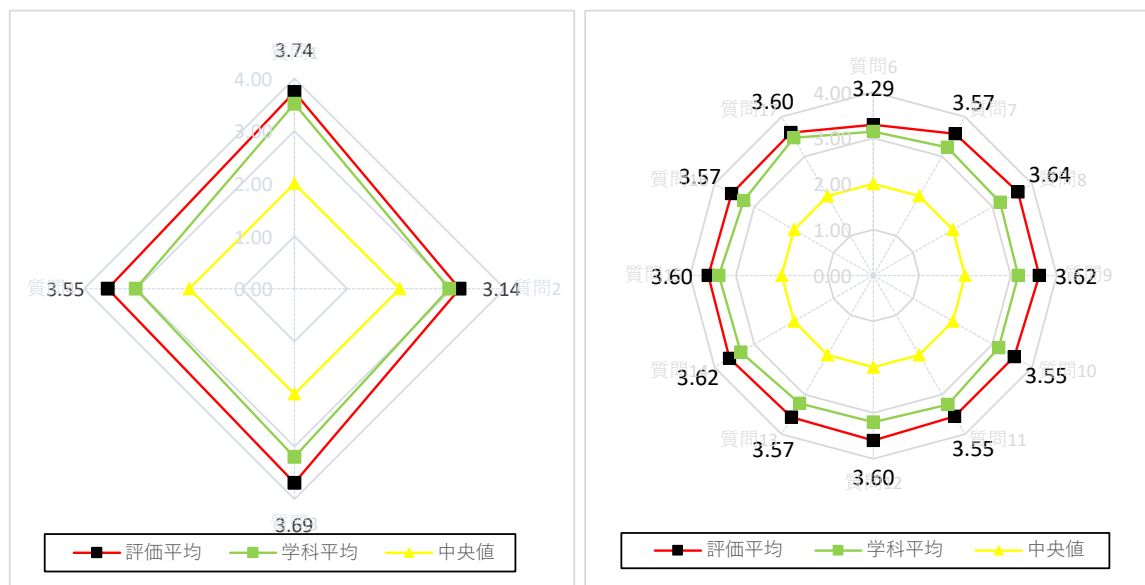
受講学生はすべて留学生であった。シラバスに示されているように、新聞記事を資料に、日本語が読めるようになることを目標にした。しかしながら、出席しない学生が多くなり、それらの学生の日本語能力成長にはつながらなかった。それでも、出席した学生は理解できない多くの漢字や表現について質問し、日本語を読む、書く、話す能力を身に着けた結果が成績に如実に現れた。

(3) 次年度に向けての取り組み

平成30年度も本講義を受講する学生は留学生が主体であろうと予測されるので、世界や日本の社会の動きを観察しながら、講義を通して学生は日本語を磨く。新聞記事は社会の動きをとらえた内容を講義の資料として取り入れる。また、日本語に加え、英語による説明を継続する。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		総合表現	44名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

2年生と共同で参加する実技発表会という大きな目標に向け取り組む授業である。発表会に出演するために表現・音楽コースを選択した学生たちのクラスでもあるため、自由記述でも「達成感があった」「来年の発表会も頑張りたい」と意欲的なコメントがみられ、学生の満足度は高いと思う。

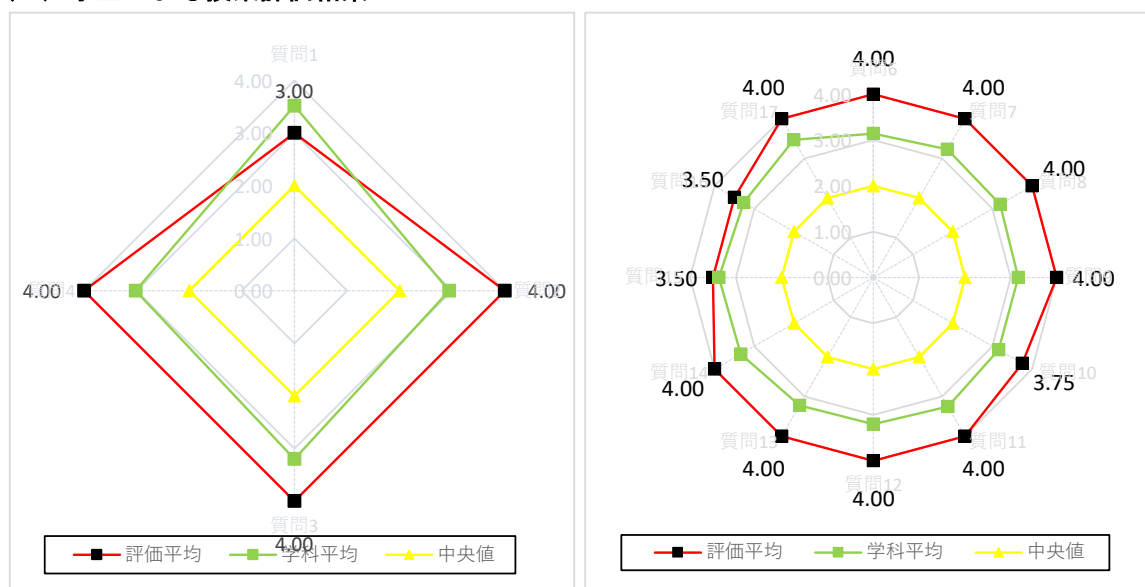
本授業は2年生の卒業課題研究とリンクし学生主体で展開しているため、2年生が前年の経験を踏まえ1年生に指導していく部分が多い。教員は1年生をどう指導するかも含め2年生を指導していくのだが、1年生からは教員よりも先輩から指導を受けている印象が強いのではないと思う。

(3) 次年度に向けての取り組み

授業の性質上、シラバスの活用は難しいが、学生が授業概要、ねらい、到達目標を理解し、それを踏まえた学習ができるよう工夫したいと思う。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		日本語Ⅳ	6名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

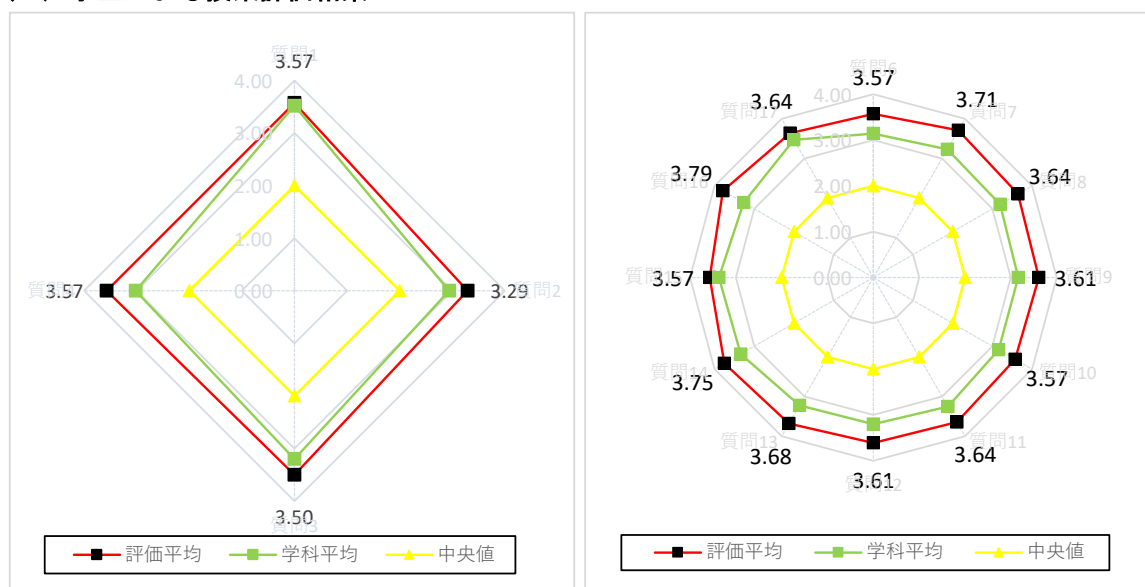
この科目は今年度初めて開講した。履修学生である外国人留学生の日本語レベルと理解度、学習意欲が各々違うため、何をどう教えればよいのか戸惑いの方が大きかった。次年度は短文を書くことを中心とした授業内容に変更し「難しいから勉強したくない」ではなく、「難しいけど勉強したい」と思えるような授業を展開していきたい。

(3) 次年度に向けての取り組み

今回初めて担当してみて、外国人留学生は読み書きはある程度できるが、文章を書くことが苦手であることが分かった。また、ちょっとでも分からない事があると面倒くさがりやりたがらず集中力も続かないため、次年度からは「短文を書けるようになる（漢字を含めて）」を目標に各々の日本語レベルに応じて取り組んでいきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		歌唱表現	30名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

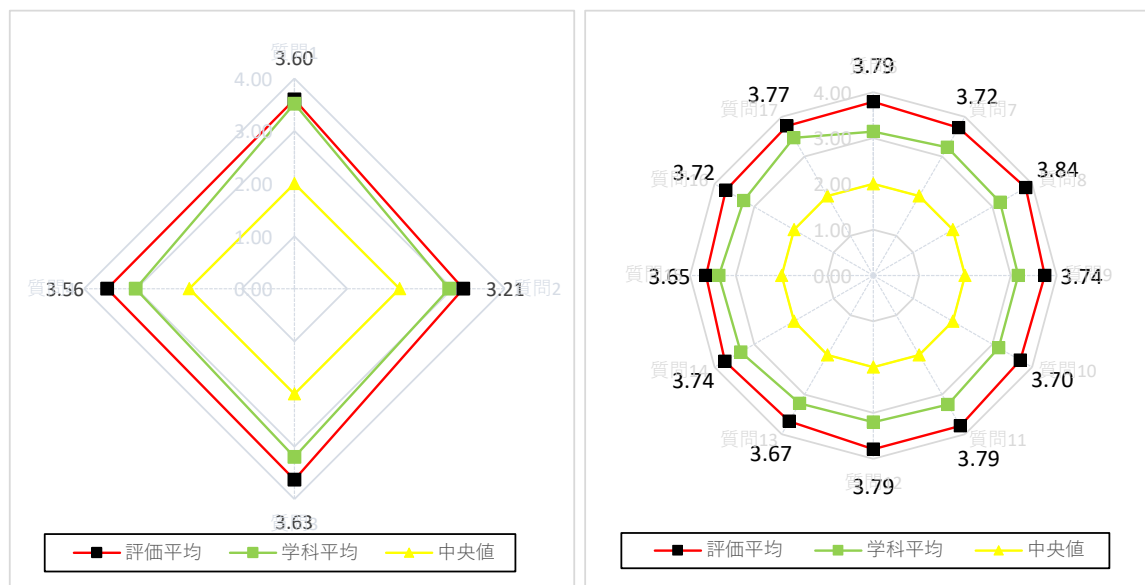
演習形式の授業は90分の中でメリハリを持たせることが難しいが、おおよそ30分で1単位とし、90分で3つの内容で展開することで、学生を飽きさせないよう工夫した結果、高評価を得ることができたと思う。視聴覚教材を多く取り入れ、この授業を通して学生自身がどうなれるのかを意識できるようにしたことも良かったと思う。また卒業課題研究とのリンクについて強調した内容にしたことで、学生が本授業に取り組む意欲を向上させられたと考える。

(3) 次年度に向けての取り組み

歌唱は目に見えるものではないが、学生が自身の歌唱力が向上したことを実感できるような工夫を試みたい。教材として過去に取組んだミュージカルの楽曲を用い、個人やグループで取り組む。発表後に実際の実技発表会のミュージカルの歌唱部分を視聴し、自己課題や求められる表現を見出し、実技発表会に向け学生一人ひとりが具体的な目標を設定できるようにする。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		リトミック	46名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

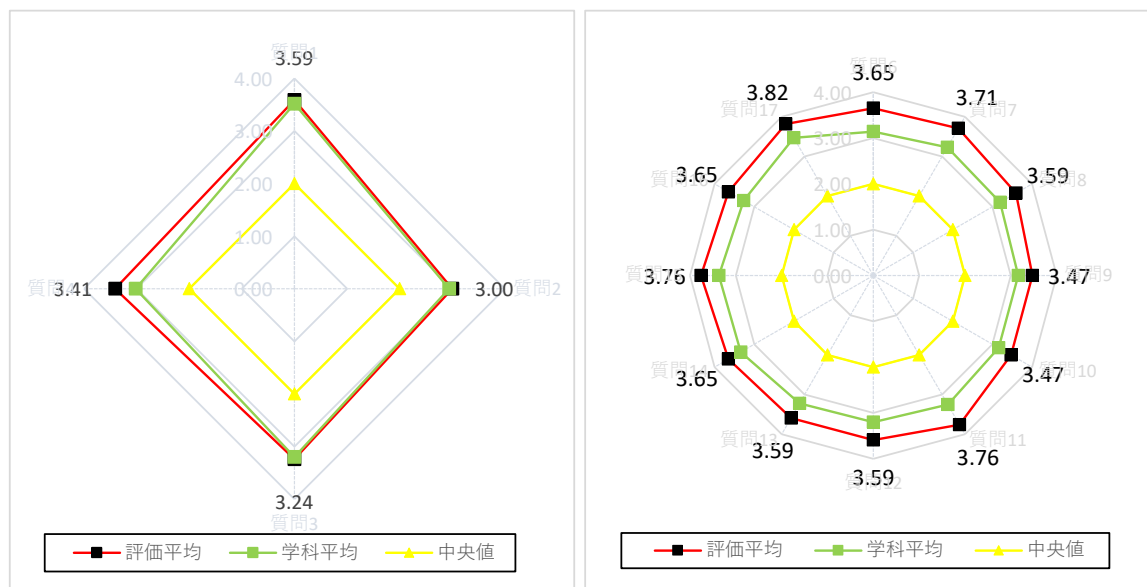
全体に高評価を得ることができた。本授業は「幼稚園・保育園のためのリトミック指導資格2級」取得のための選択科目であるため、履修学生は目的意識を持った意欲的な学生たちである。授業内容は常に音楽やリズムを伴い学生にとって親しみ易く、次々に提示される課題にグループで取り組む内容が多い。一人では難しいものでも、二人またはグループで助け合いながら皆が理解できるようにする進め方が、学生にとって授業への参加のし易さに繋がると考える。

(3) 次年度に向けての取り組み

今年度の履修者は44名で目標の45名には届かなかったものの、昨年度の33名を上回った。本授業は資格取得のための授業であるため、昨年度までは履修指導時に「1年次にピアノⅠの単位が取得できていることが望ましい」旨を学生に伝えていた。そのため履修を尻込みしてしまう学生が多かった。今年度はその部分の伝え方を若干緩やかにしたことで履修者が増えたが、やはりその分、試験項目の一つであるピアノ演奏に苦労した学生が多かった。また資格取得のために必要となる、試験での70点以上をクリアしながらも、資格の申請をしない学生も出てきた。本授業を開講して3年が過ぎた今、本学学生のリトミックの資格取得についてどう考えるかが今後の課題である。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	生活福祉		こころとからだのしくみ D	17名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

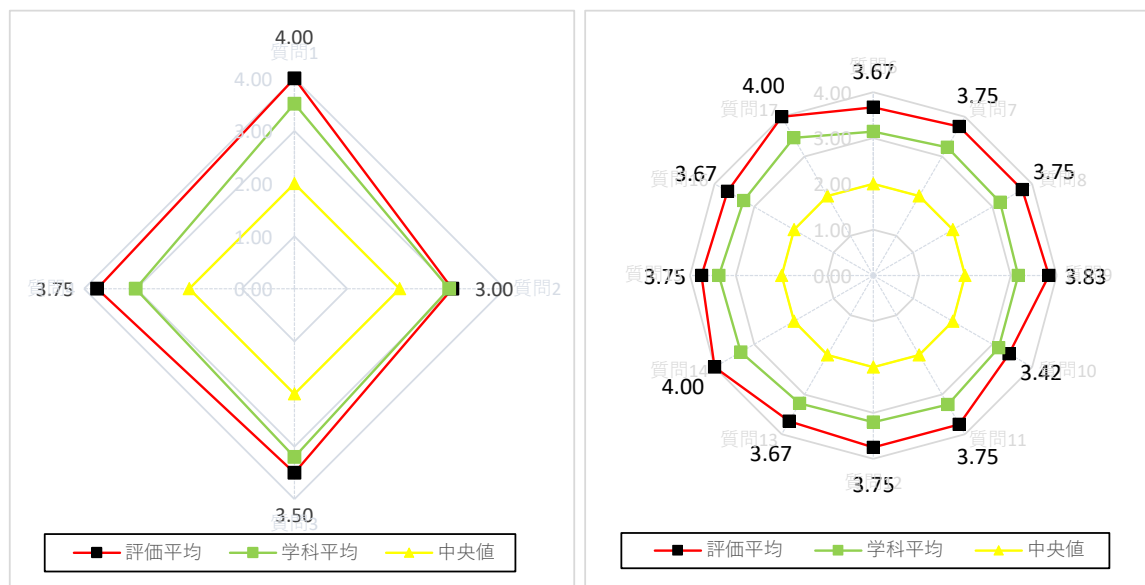
学科の平均に近い。学生の自己評価は1や2の厳しい見方をしている学生が1～2名いた。一番低かったのはシラバスの活用であった。シラバスの説明についてはそう低くなかった。教員に対するものでは。学生の質問に誠実に答えたために1を一人つけていた。きちんと答えていたつもりであったが気が付いていない分があったのかもしれない。授業の分かりやすい工夫や視聴覚機器、板書の質問に対して2が一人いた。表や図は教科書を参照してもらうため配布のプリントには文字しか書いていなかったことを指摘していると思われる。

(3) 次年度に向けての取り組み

シラバスの書き方を工夫し学生が活用できるようにする。今まで以上に学生の質問に対してはきちんと答えていく。教科書のつや絵を参照するように説明を度々行う。教科書以外の分で分かりやすい資料の配布や視聴覚教材の使用も検討する。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	生活福祉		医療的ケア I	17名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

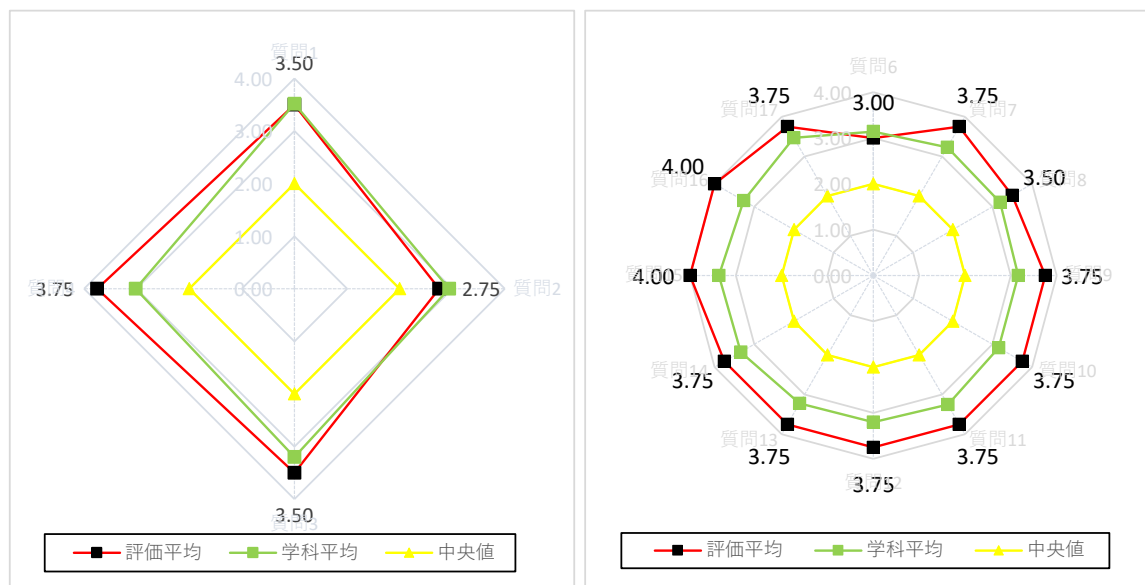
5名が評価をしていない。学科の平均に近い。学生の自己評価で低いのはシラバスの活用である。教員の評価で低いのは視聴覚教材の使用と板書についてであった。わかりやすい工夫、資料、公平な対応に一人づつ1や2をつけていた。公平でなかった意識は全くないのだがきちんと振り返り、意識して取り組む必要がある。

(3) 次年度に向けての取り組み

評価を全員しているかきちんと把握し声かけを行う。教科書ではわかりにくいものは視聴覚教材を使用する。板書の仕方あを再度検討しわかりやすく書く。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		レクリエーション実習	4名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

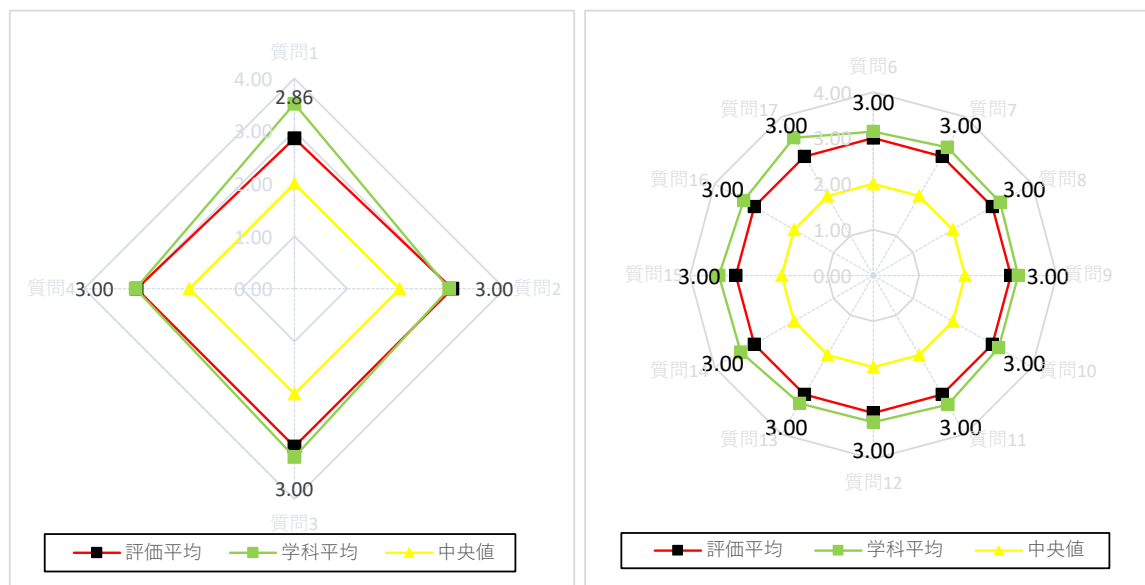
実際に担当する先生からはシラバスの説明をしたことを聞いたが、この結果は残念である。第一回目の授業内容を忘れていたのではないかと思う。、他は、学生の心をつかみ、学生が力量を発揮できるよう導いていただいた結果だと思う。

(3) 次年度に向けての取り組み

シラバスの項は課題となるが、このままの授業を継続してほしい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		レクリエーション実習	17名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

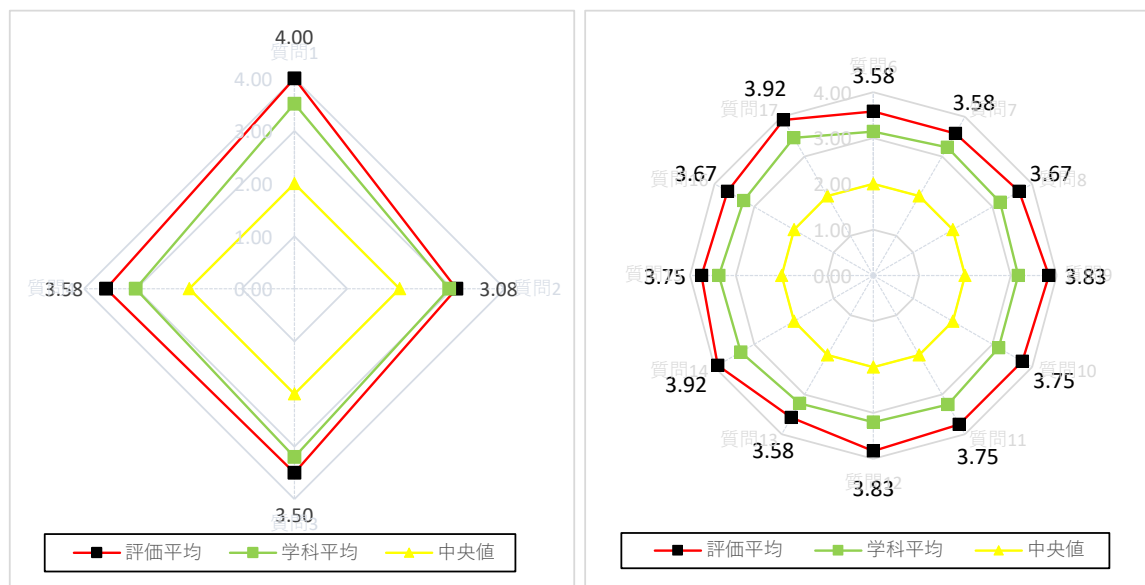
レクリエーションの科目とは思えない結果だと思う。理論的な内容の部分は学生の興味がなかったとしか受け止められない。この結果は、実際の担当者に伝え工夫をしていただく必要がある。

(3) 次年度に向けての取り組み

次年度は、実際の担当者と話し合い学科平均に近づけるようにする。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	生活福祉		医療的ケアⅡ	17名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

問6. シラバスについての説明、問7到達目標の明確については、学科平均より低い評価となった。シラバスについては、授業の初めに説明しているが、その時だけになっている。授業の到達目標の達成については、今回から授業終了には、振り返りテストを取り入れているので理解されていると思っていた。

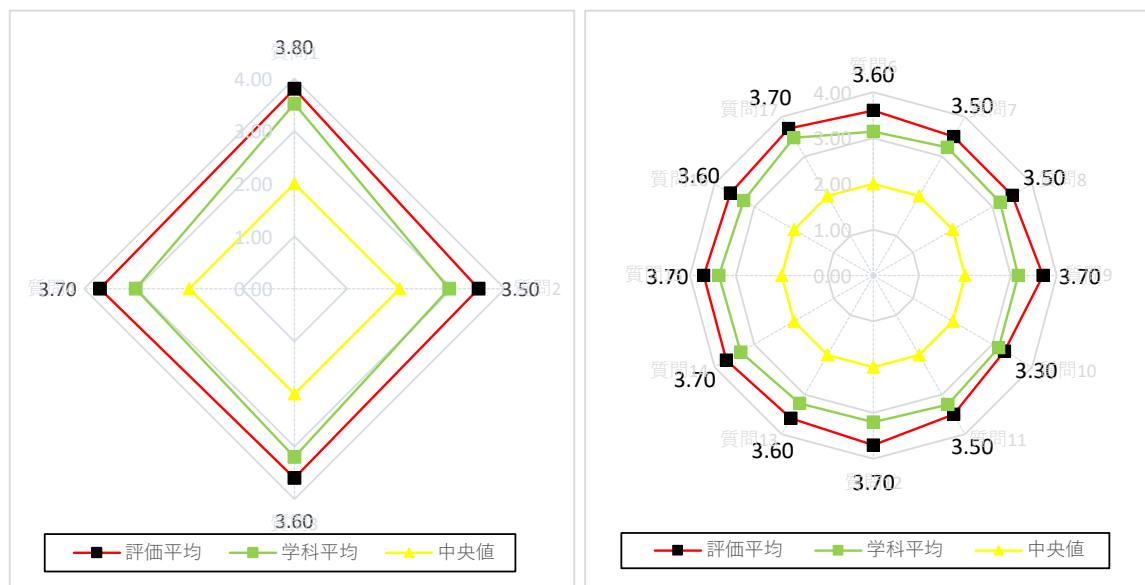
中間アンケートからは、「授業が楽しい」「振り返りテストで内容を理解しやすい」「難しいけど頑張る」などの意見があった。知識とともに技術も必要な教科などで、学生も熱心に受講していた。

(3) 次年度に向けての取り組み

「振り返りテスト」は、最初のころは不満があったようだが、実施するうちに授業態度や参加度に受け身の姿勢ではなく、積極的に参加する態度に変化していった。今後も取り入れながら、授業の到達目標達成のポイントが高くなるように努める。授業も双方向的なやり取りも見られるようになり、アンケートにあったように「楽しい」授業となったのではないかな。今後も継続できるよう工夫していきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援 生活福祉		レクリエーション実習	11名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

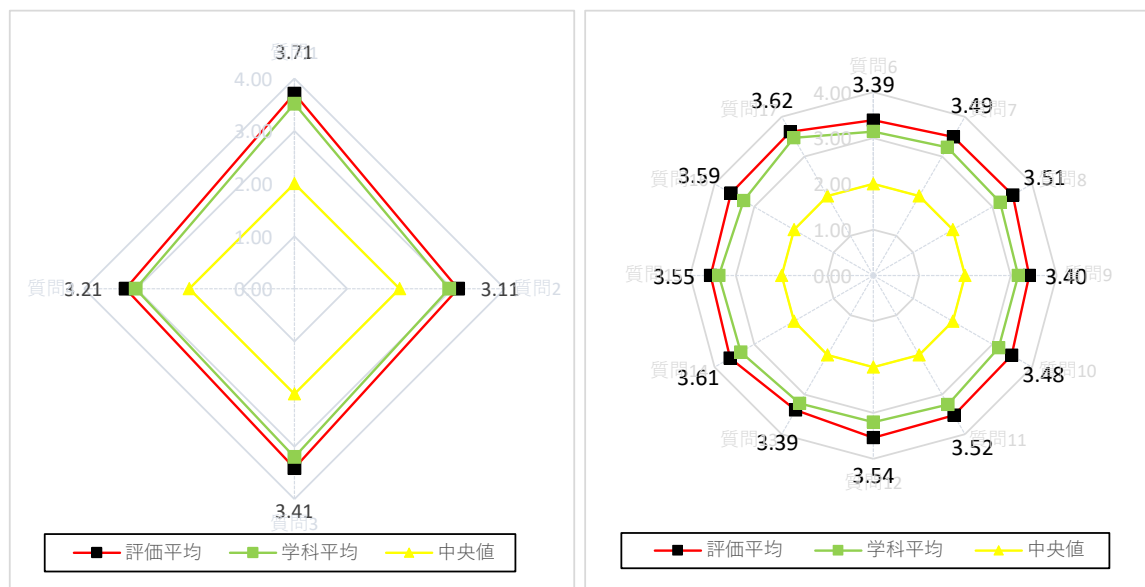
この科目は選択科目であるが、レクリエーションインストラクターを取得希望者は必須科目である。はじめは履修を希望していた学生も途中でやめていく学生も毎年数人はいる。現場での参加した学生の様子などは、現場で担当している森先生が状況を把握しているので、採点時には森先生と連携をしている。評価については、3.5以上であるため、参加したレクリエーションの内容によって評価したのだろうと思われる。この評価項目はこの科目には適切でない。

(3) 次年度に向けての取り組み

学生の履修を積極的に勧めた方がいいのか、検討が必要である。レクリエーション協会から参加の有無の資料が着たら情報提供を速やかに行うようにしたい。この科目は、実際に現場で担当している教員が授業評価を記載した方がいいのではないと思われる。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		保育・教職実践演習 (幼)	96名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

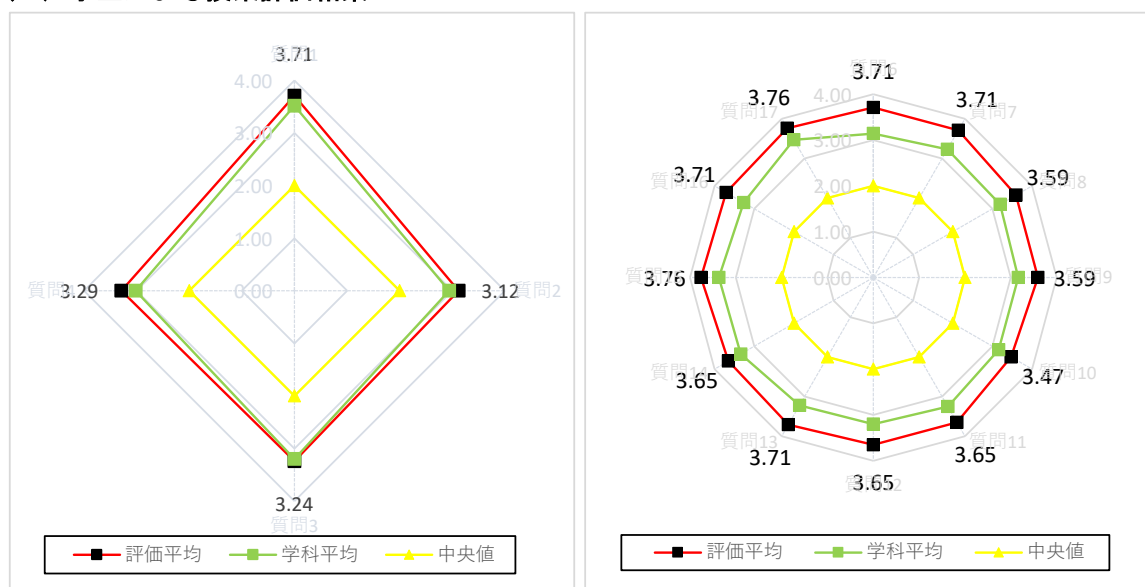
全体的に平均的な評価となった。
前年は幼稚園・保育園でのフィールドワークにとどまっていたが、
今年度は学生のニーズに対応して、施設での活動も用意したことがよかったのだろう。

(3) 次年度に向けての取り組み

今年度も多様なフィールドを用意したい。
また、教師・保育者としての就職した際に役立つ内容も盛り込んでいきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	生活福祉		医療的ケアⅢ	17名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

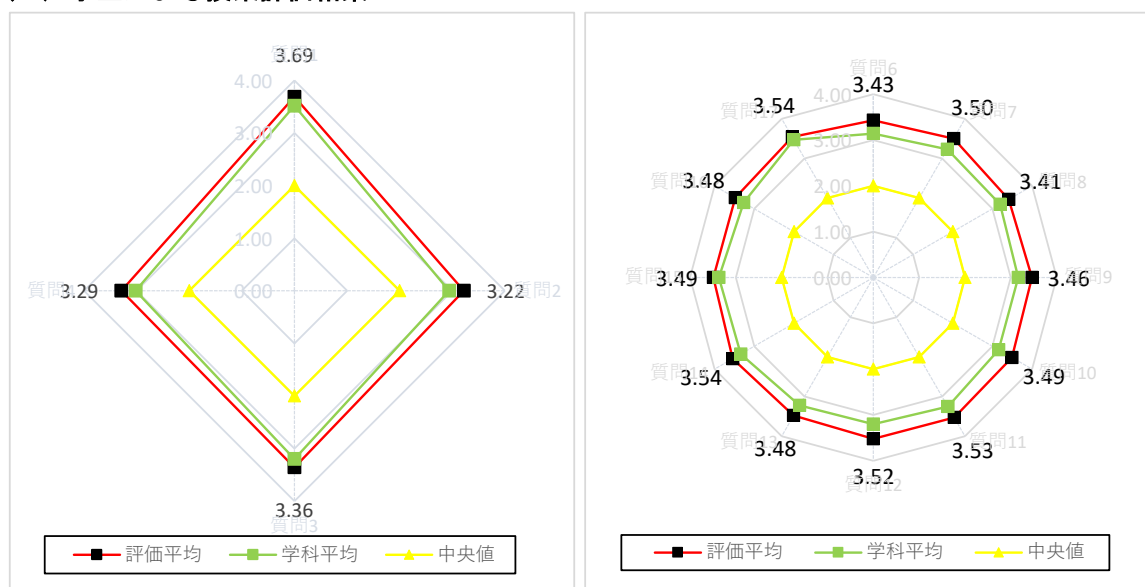
学科平均に近い。全員が評価をしている。自己評価で1～2名が1と2に評価している。教員に対しては視聴覚教材や板書の分で2をつけているが、この授業は演習でありほぼ板書必要ない。視聴覚教材も自主的に教材を見て授業では教員が実践して見せているのでこの授業では視聴覚教材は必要ではないととらえている。質問がない分の答えている学生がいる。質問に誠実に答えていないとの評価もあるが細かく答えているつもりでいたので他の担当教員も含め検討していく。

(3) 次年度に向けての取り組み

アンケートはし質問をきちんと読んで答えるように声掛けする。4人の教員間での意思統一を行う。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		保育実習指導 I	189名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

どの項目も学科平均との差はあまりなく、概ね及第点ではないかと考える。

この授業は2年間通年科目であり、保育所実習と施設実習の事前、事後指導という位置づけである。また、キャリア教育という意味合いも持たせているため、欠席者には反省文の提出を求めている。内容が不十分であれば、再提出を求めているのだが、学生の自由記述を見ると、その反省文に関することが多く書かれていた。「反省文は厳しい」「枚数が多すぎる」という内容が多く、学生には反省文に込められた真意が伝わっていないように感じた。質問14、15の得点が若干、学科平均に届いていないのは、この部分が上手く伝わっていないことが要因ではないかと考えられる。

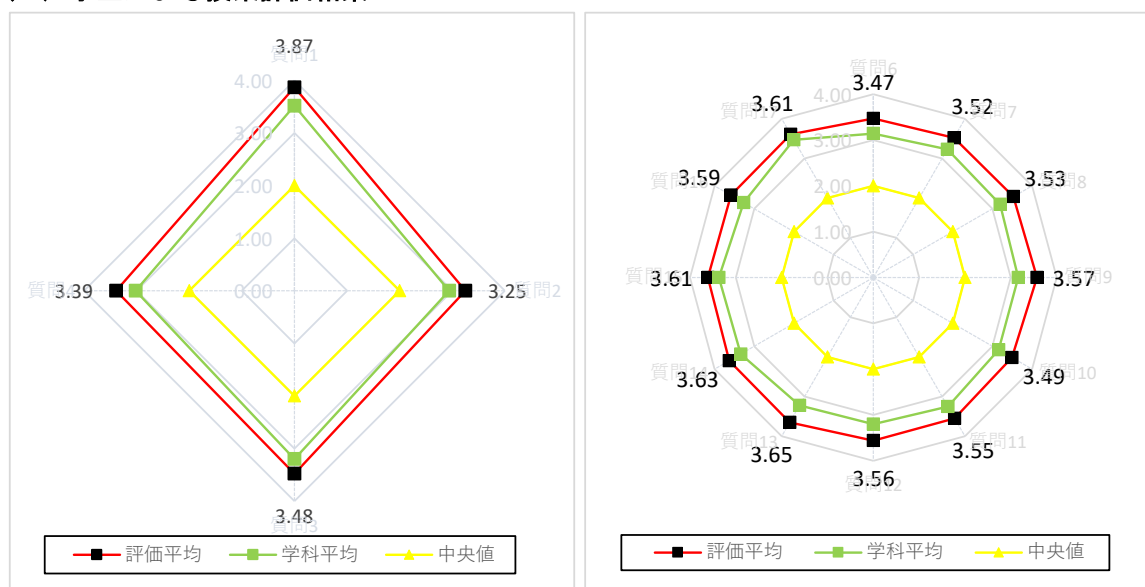
(3) 次年度に向けての取り組み

自由記述で書かれた反省文に関しては継続指導するが、学生には1回目の授業で反省文を提出する理由、授業の位置づけ（キャリア教育という意味合いを持っているということ）をしっかりと説明することにした。また、記述内容を明確に指示することによって、自己の振り返りが出来るような工夫を行うことにしている。

また、自由記述の中に、保育所実習前にもう少し保育所についての説明が欲しかったという意見があった。他の授業で十分な説明がされていると思い、基本的事項のみを伝えていたが、次年度以降は保育所の1日の流れや保育士に求められる専門性など、より詳しく丁寧に説明したいと考えている。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		保育実習指導Ⅱ	84名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

全項目、学科平均を上回る得点であった。学生にとっては最後の保育所実習に向けての授業であり、就職も見越した指導を行ったため、質問3の結果に繋がったのではないだろうか。

授業内容としては、実習に向けての心構えと事前準備、事後指導という構成であったが、特に事前準備の時間を多くとり、教材研究や教材作成、指導案の作成等、実習に直接的に役立つと思われる内容が多かったため、学生の満足度も高かったのではないかと考える。

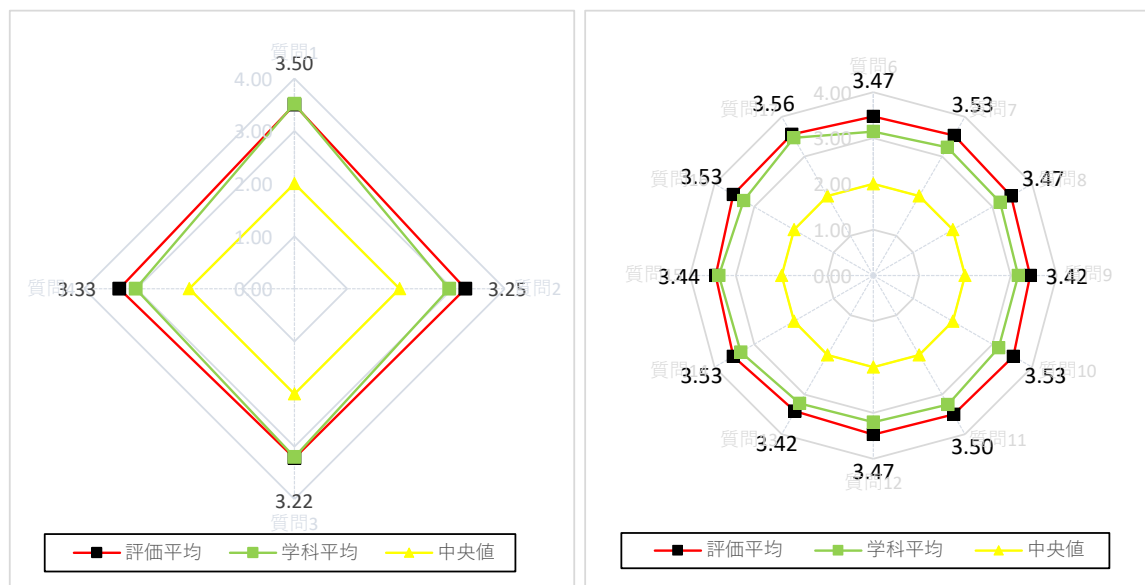
(3) 次年度に向けての取り組み

次年度も教材研究等、事前準備にしっかり時間を確保したいと考えている。実習先からいただく評価票には「手作り教材」に関する好意的な意見が多くあり、学生にとって有意義な実習に繋がっていると考えられるためである。

加えて、事後指導にも力を入れたいと思っている。学生同士のディスカッションを取り入れる等して、しっかりと自身の実習を振り返り、また、友だちの体験も追体験するような取り組みを考えていきたいと思っている。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		食品衛生学	38名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

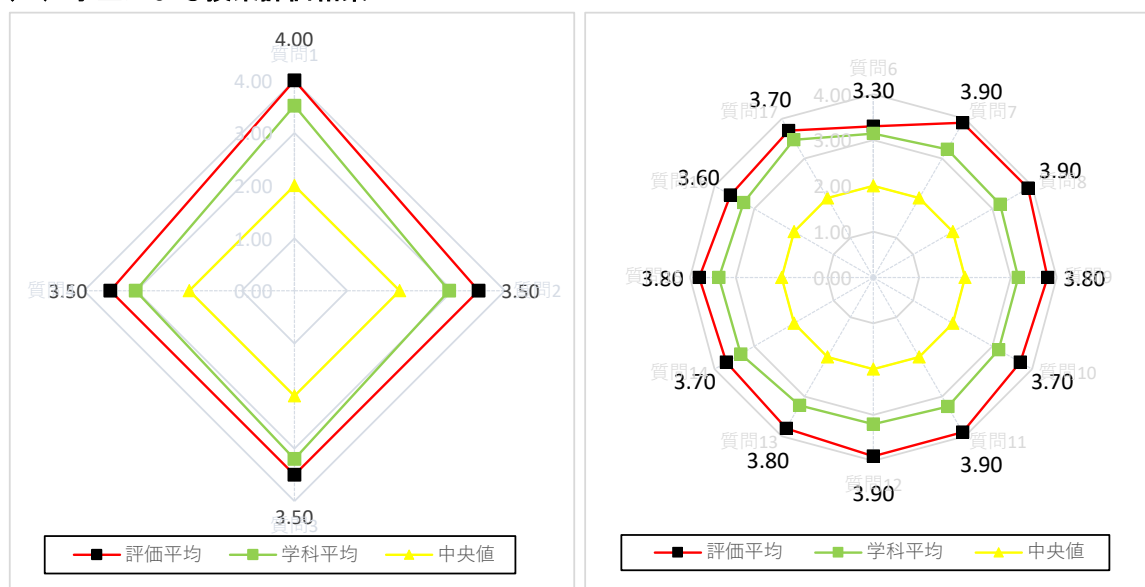
学生自身の自己評価、教員の授業の評価とも概ね学科平均と同等の評価となった。

(3) 次年度に向けての取り組み

前任者から引き継ぎの教科書を使用していたが、以前から内容改定がなされていないので、情報更新と学生自身によりわかり易い内容となるよう、教科書を変更して授業を再計画する予定である。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		保育実習指導Ⅲ	13名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

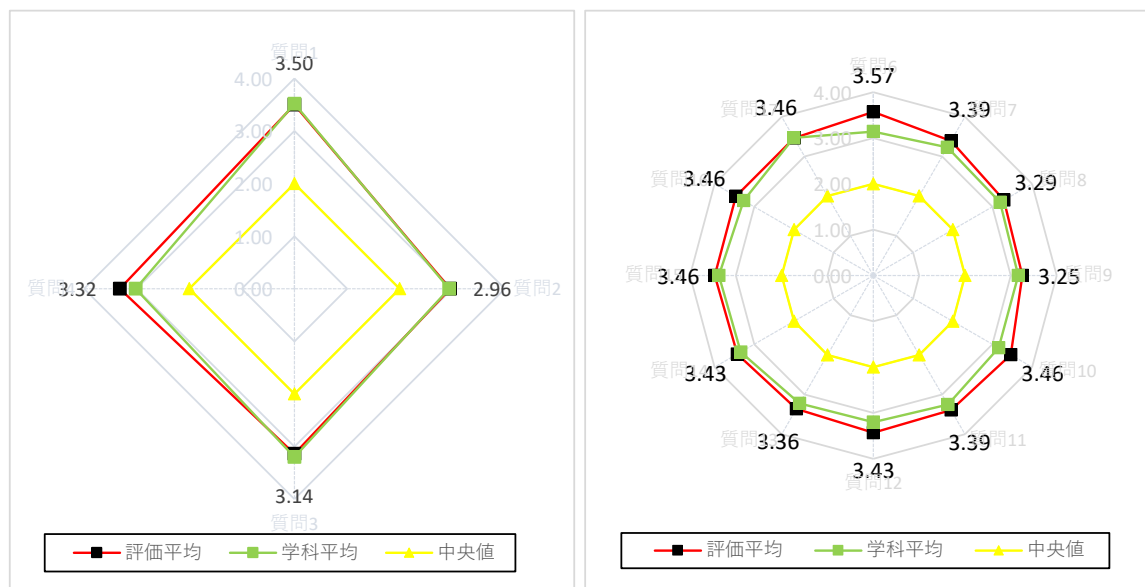
質問6を除いた評価項目で平均より高い評価となっており、スコア自体も満点に近い。授業の目標と内容を明確に示したことが評価に影響したと考える。また履修者が13名と小人数であったことが集団としてのまとまりやすさを生み、学生間で協力し合いながらプレゼンテーション資料等を作成したことも評価に影響したと考えられる。シラバスの説明については、若干低くなっているが、他の実習指導との一連の流れの中で講義をしている為、この指導だけでなく、全体的に（受講者以外に）シラバスの説明をしていることが影響していると考えられる。

(3) 次年度に向けての取り組み

他の実習指導とのスケジュール調整を明確にした上で再度シラバス（授業目標等）について説明をすることが必要である。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		栄養指導論実習 I	38名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

この授業は栄養指導論で習得した知識を実地または実物について実際に学ぶ、そして将来現場での栄養指導で役立てるように学んでいく授業である。評価の結果は、学科平均と比較すると高かった項目はシラバスの説明がなされていたで、それ以外は若干低い評価であった。しかし自由記述には「分かりやすい授業であった」とありグループ実習で協力しながら進めていくため、実践的で満足できた授業であったこのも分かった。総合評価は3.36であった。

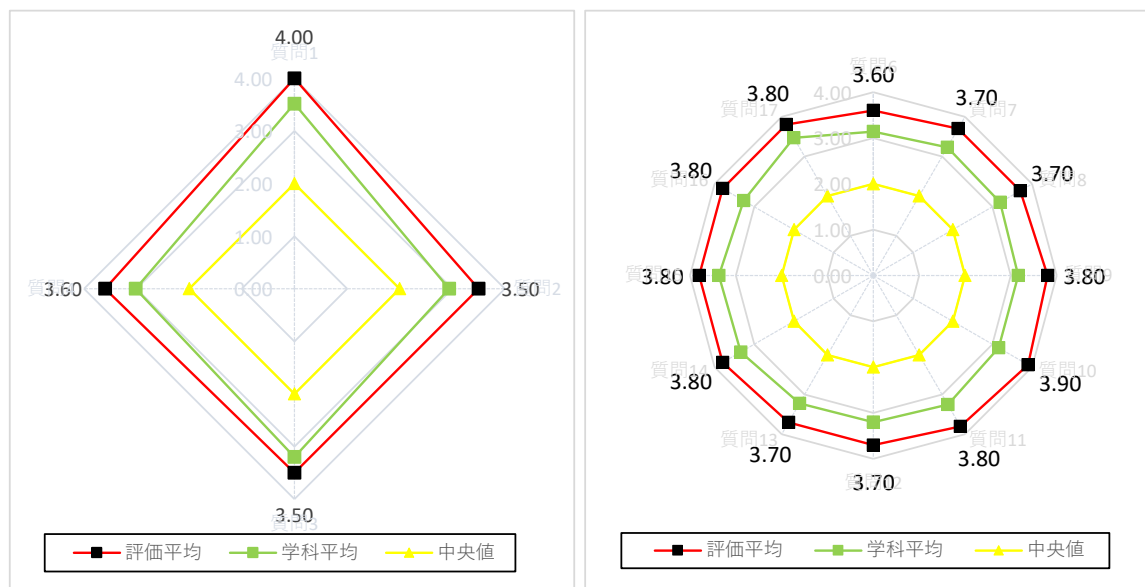
(3) 次年度に向けての取り組み

次年度に向けての取り組みは昨年度と同様だがしっかり確認しながら次の通り進めていく。

- ①授業内容を事前に理解させるためにシラバスの活用を習慣化させる。
 - ②授業の進め方は双方のやり取りを密にし確認しながら進めていく。
 - ③グループでの課題作成は互いが意見を出し合って積極的にディスカッションできる環境をつくっていく。
 - ④媒体作成では対象者にあった内容で作成し栄養指導ができるようにする。
- 以上の内容で授業を分かりやすく進めていく。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		保育実習Ⅲ（施設）	12名

（１）学生による授業評価結果



（２）結果の分析と評価

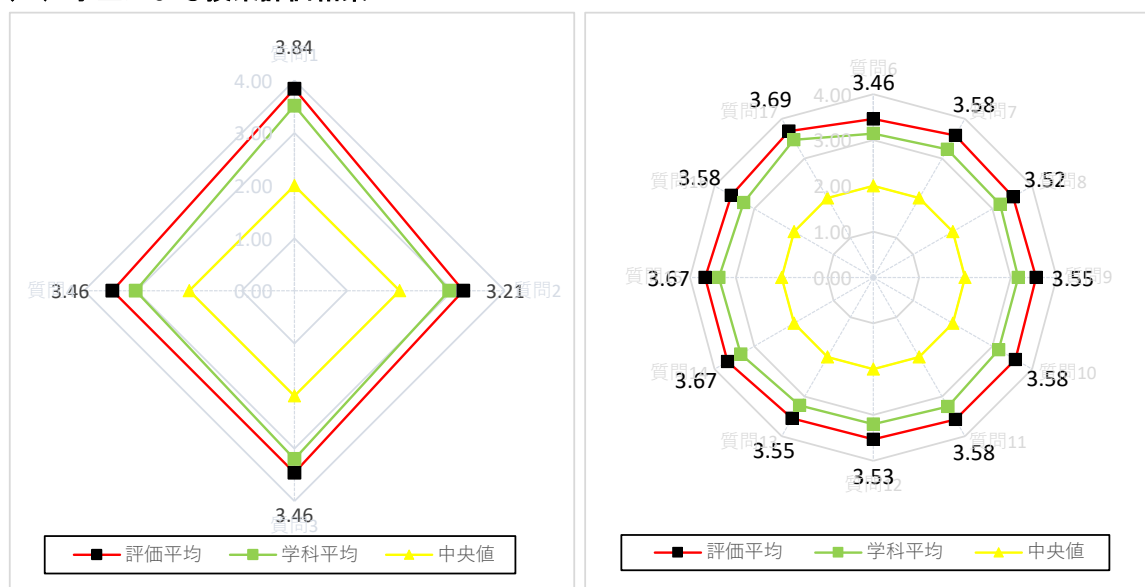
全体的に高い評価となっている。科目としては実習である為に、実習地において適切な指導が行われた結果であると判断できる。

（３）次年度に向けての取り組み

今後、実習Ⅲを選択する学生の数により実習先の確保が難しくなる可能性がある為に、これまでの質を保障しつつ実習地の開拓も検討する必要がある。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		教育実習指導	97名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

全項目において、学科平均を上回る得点であった。1年生にとっては初めての実習ということで緊張や不安が大きかったことが、この授業への意欲に繋がっているのではないと思う。また、初回に授業計画を配布しているため、学生にとっては授業の見通しが立てやすく、各回の目標も意識しながら授業を受講できたのではないと思う。

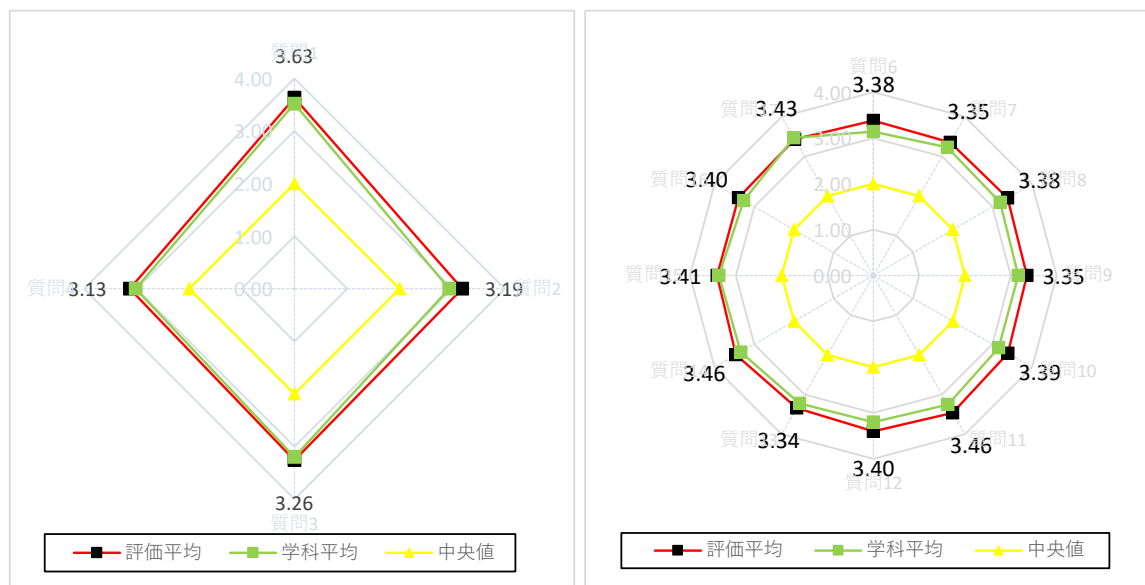
自由記述も肯定的な意見が多く、「分かりやすい授業」、「目標が明確な授業」という捉え方を学生はしているのではないと思われる。

(3) 次年度に向けての取り組み

次年度以降も、分かりやすく役に立つ授業を目標に授業を進めていきたい。今年度はプリント等を多く配布し、学生が授業を理解しやすいよう工夫を行ったが、プリントを紛失する学生も多く、一貫した指導を行うためには配布物の管理という面でも工夫が必要になると思われた。ファイリングの推奨や、冊子形式での配布等、今後は工夫をしていきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		教育実習指導	93名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

授業に対する学生の取り組みの項目を見てみると、質問1の「出席状況」と質問2の「シラバスの活用」に関しては学科平均を上回っているものの、質問3と質問4に関しては学科平均を下回る得点であった。また、授業評価においても全項目が学科平均に届かない得点であった。

1年生の同科目と同じ取り組みを行っているにもかかわらず、点差が開いている点を考えると、2年生に対してはより注意喚起を促すような工夫が必要なのだと感じる結果であった。2年生は既に実習を経験しているため、同じことを何度も言われているような気持ちになっているのではないかと授業をしていても感じるが多々ある。教員としては、理解が不十分な点についての説明を重点的に行っているつもりであるが、その点が伝わっていないことが残念である。

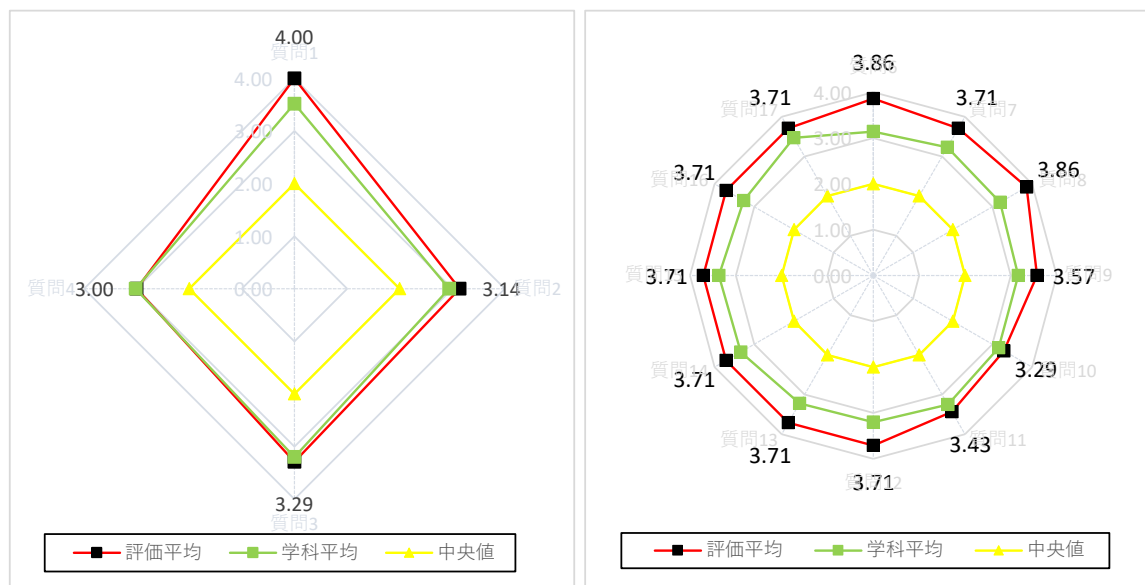
一方で、学生の自由記述に「実習の心得等を把握できた」と書かれており、学生自身は授業の目標が達成されたと考えているようである。教員と学生との間には目標に対しての乖離があるのではないかと感じる結果であった。

(3) 次年度に向けての取り組み

1年次の実習に対する振り返りを重点的に行うなど、学生の現状を学生自身が把握する手立てが必要だと感じる。個別の面談や、実習での事例を多く取り上げて説明を行うなど、自身の問題を直視するような場面を設定しなければ、学生と教員間の認識は乖離したままになるのではないだろうか。実習を有意義なものにするためにも、時間はかかるが、より丁寧で細やかな個別の指導を行わなければならないと感じている。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		卒業課題研究Ⅰ	8名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

概ね学科平均を上回る得点であった。質問10と11に関しては平均に届いていない。前期は特にフィールドワークが中心であり、室内での学習機会が少なかったことが理由の一つに考えられる。

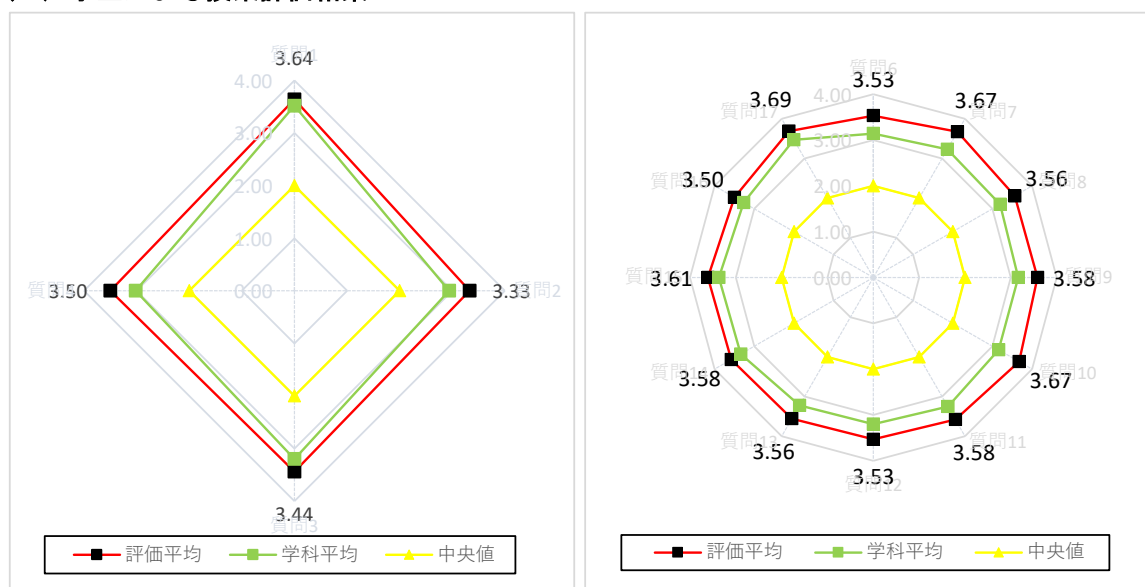
また、質問4の得点が低いことが気になる。学生の思いを尊重し、主体的に学べるようにしたつもりであったが、学生自身は教員や友人に頼る部分が多くあったと感じていたようである。

(3) 次年度に向けての取り組み

学生自身が主体的に学べるような取り組みの工夫が必要だと考える。出来る限り教員側からの提案ではなく、学生の思いを発揮できるような場の設定が求められていると思う。そのためには図書館等を活用するなどして、情報へのアクセス方法なども丁寧に伝えていく必要があるのではないかと考えている。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		調理学	38名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

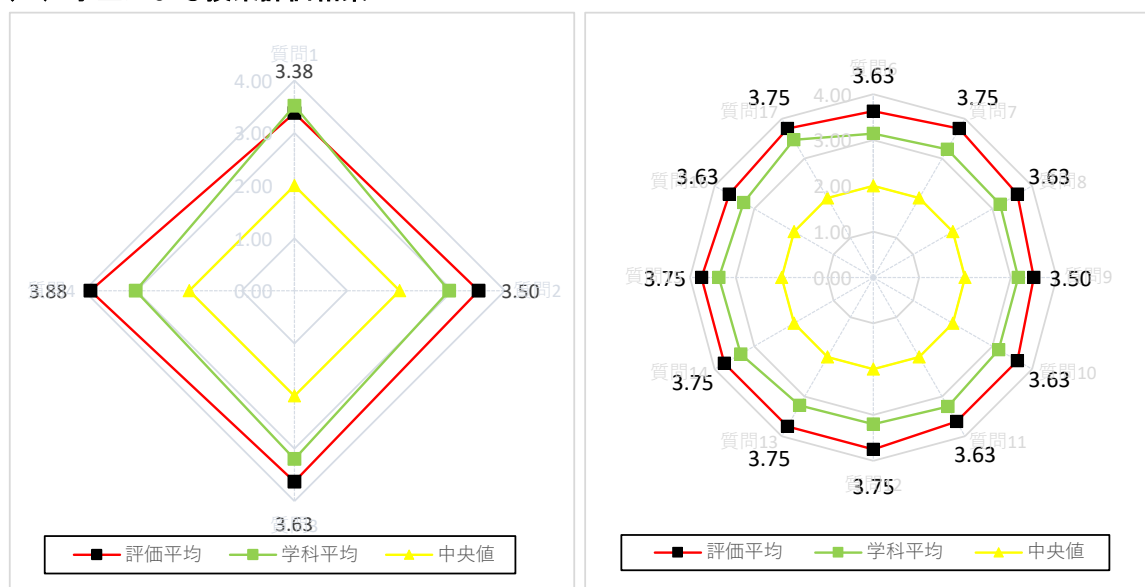
調理学は日常的な調理操作の基礎を科学的に学んでいく科目であるため、調理実習に結びつけることができるような内容で授業を進めていった。評価の結果は学科平均と比較すると学生自身の自己評価では、3.64と高い値であった。また、シラバスの活用や授業に取り組む姿勢、授業の工夫などすべての項目が高い値であった。教員に対する評価では、すべての項目が3.50以上であった。特に教員は授業の到達目標を明確にして、授業を展開していたか、視聴覚機器や板書の用い方は適切であったか、公平に学生に対応していたか、教員は熱心に授業に取り組んでいたかの評価は3.67～3.69であった。学生の記述は「座学では基礎的なことを学んで知ることができた」「今後に役立つ知識がたくさん知れてよかった」「分かりやすかった」といった記述があり、総合評価は3.55であった。

(3) 次年度に向けての取り組み

次年度に向けての取り組みとしては、これまでと同様に、学習の基本となる予習復習が確立できるようにシラバスの活用を習慣化させる。さらに授業の進め方については双方のやり取りを密にし確認しながら興味を持てる内容で進めていきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		卒業課題研究Ⅰ	8名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

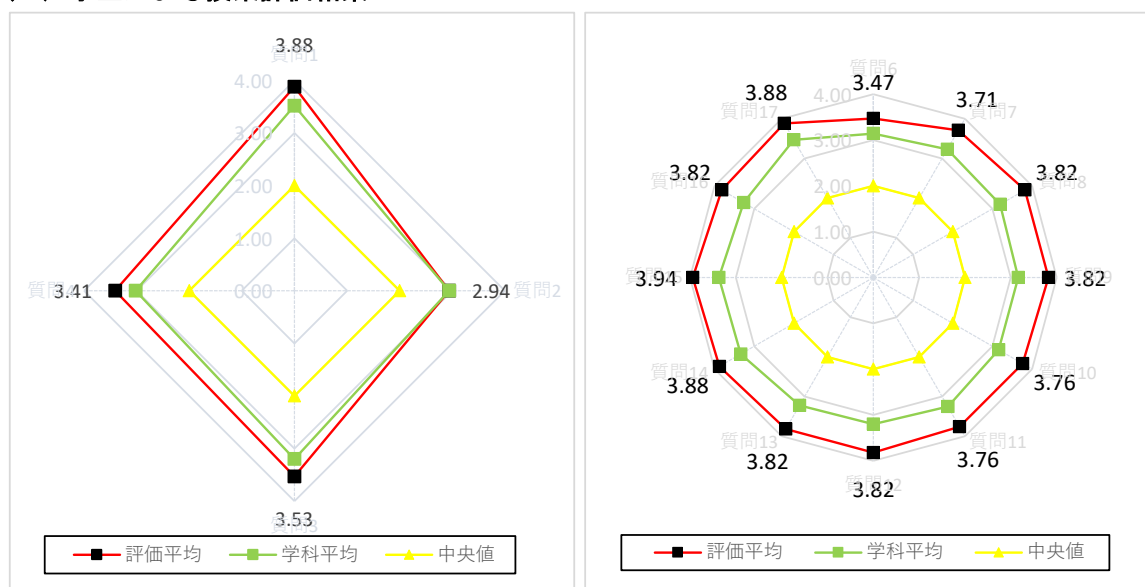
本授業は12月に実施する「表現フェスタ（実技発表会）」に向けての授業であり、目標が明確であることが、学生の意欲的な取り組みに繋がっている。昨年度は時間割上の工夫により、「ミュージカルチーム」と「ミュージカル器楽チーム」（本評価はミュージカル器楽チームによるもの）を別の時間に指導することができたが、今年度はそれが不可能だったので、実質的には学生の主体性に委ねる部分が大きくなったこともあり、昨年の評価と比較すると若干下がってはいるがそれでも評価としては高いものになっている。学生自身の評価で「質問4」の評価が非常に高い値を示していることもその一要因であると考えられる。

(3) 次年度に向けての取り組み

「ミュージカルチーム」と「ミュージカル器楽チーム」2チームの指導を担当しているが、「ミュージカルチーム」に時間を取られがちで「ミュージカル器楽チーム」に対してじっくり時間をかけることができず、学生には大変申し訳ないと感じる。来年度は授業時間に対応できない分を空き時間や夏休み期間の練習で対応するなどの工夫をしたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		卒業課題研究Ⅰ	17名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

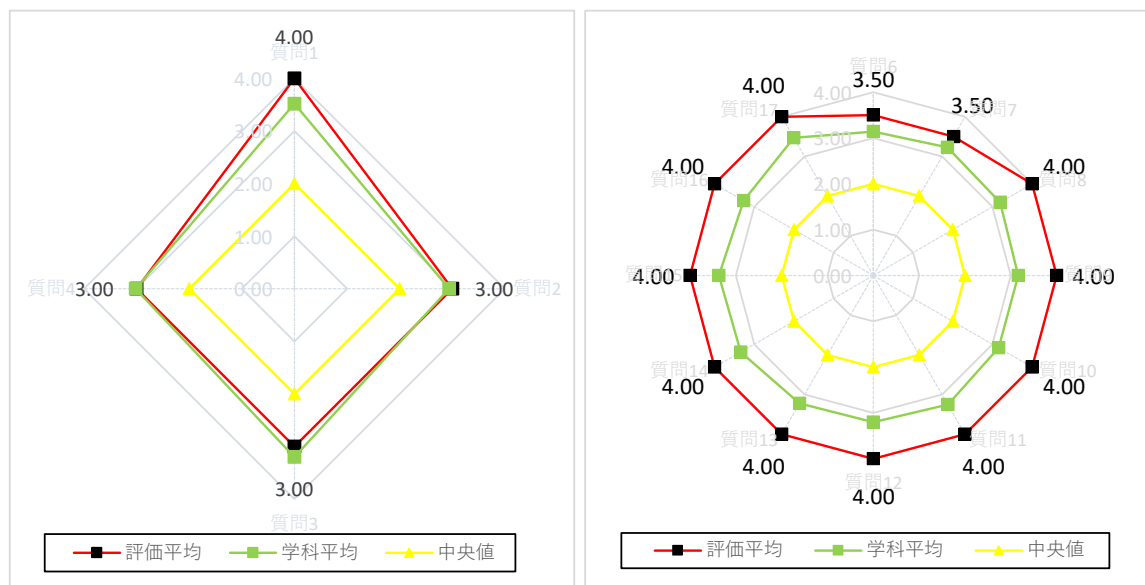
シラバスの活用、説明についての質問項目以外は全体的に高い評価が得られた。意欲が高く積極的な学生が多く、学外での活動や合宿など、学生主体の授業を展開することができた。そのような学生の主体性を尊重しながらも、受講する学生全員が周囲を思いやり、協力し合いながら活動に取り組めるよう、適宜必要な指導を行ったことが質問14～質問16の評価に影響していると思われる。

(3) 次年度に向けての取り組み

本科目のシラバスについては各指導教員が作成したものではなく、学科全体で統一のものであるため、今後は、初回の授業等で担当教員が展開する授業内容やスケジュール等を詳しく説明することを検討したい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		卒業課題研究 I	2名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

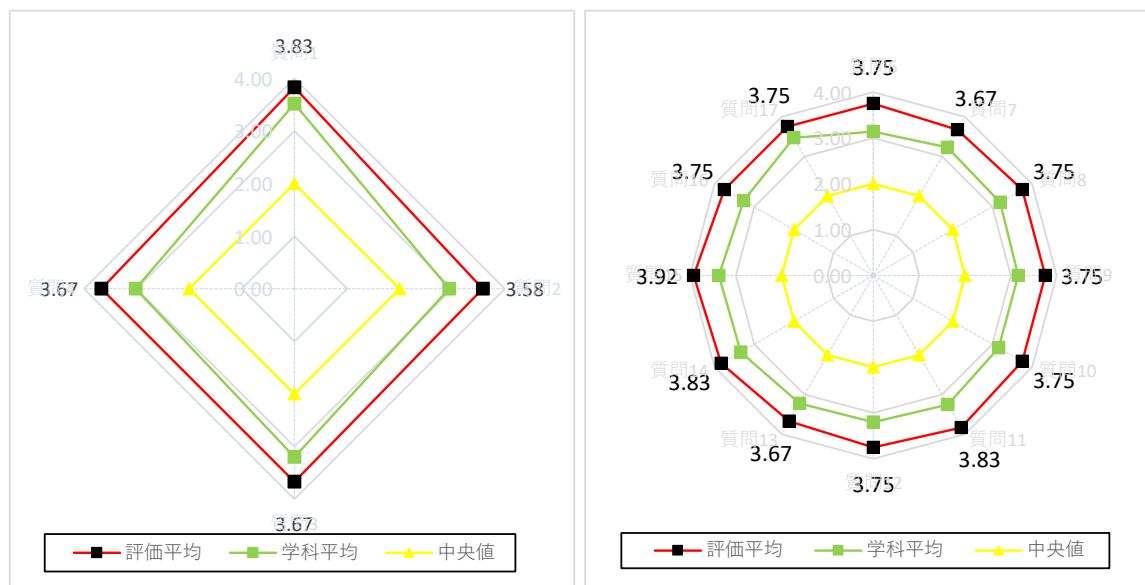
質問6と質問7を除いて評価は満点だった。卒業課題を学生と共に組み立てていく形式をとった為に質問6と7の評価が低くなったと考えられる。また、他の項目については、受講生が2名だったこともあり、常に学生と共に活動を行ったことが影響していると考えられる。2名の評価ということでそれほど信頼性はないが、2名の受講満足度は高かったようである。

(3) 次年度に向けての取り組み

この授業はゼミであり、今後何名になるかわからないがゼミのおおよそのテーマが決まっており、いかに自発的に学生がかかわることができるか指導方法に工夫をしていく努力は継続していく。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		卒業課題研究 I	14名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

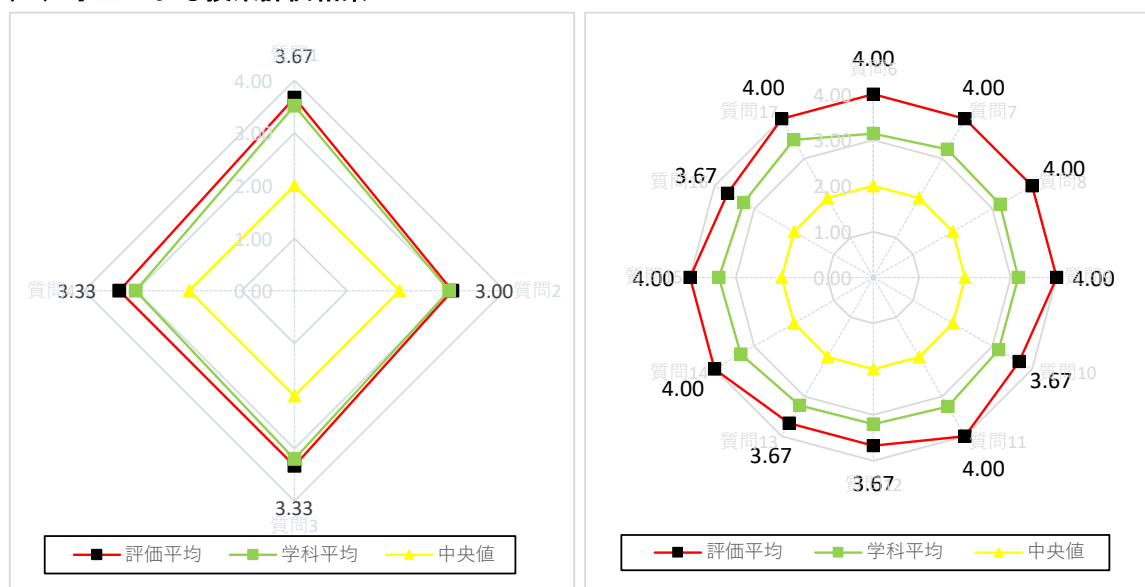
学生の授業に対する態度・行動（設問1～4）、教員の授業設計・運営（設問6～17）のすべてにおいて、おおむね高い得点が得られている。当該授業では、プロジェクト型学習を実施している。今年度は、学生のニーズに応じ、「子どもの運動意欲を引き出す保育の指導・展開法」を学習テーマに設定した。各回の授業では、「学生による模擬保育」「インストラクショナル・デザインに基づいた省察」を組み合わせた。模擬保育の振り返り、解説をする際には、「よくできている部分」を積極的に承認した。また、「不十分な部分」に対しては、状況を明確に示したのち、インストラクショナル・デザインに基づいた改善策を具体的に提示するようにした。以上のような授業（主に模擬保育）に対し、主体的に取り組む学生の姿が見られた。

(3) 次年度に向けての取り組み

学習テーマを設定する際は、2017年度と同様、学生のニーズを丁寧に聞き取りたい。設定した学習テーマに関する資料（書籍や文献）の提示、理解を深めるための具体的な経験を授業に組み入れていきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		卒業課題研究 I	4名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

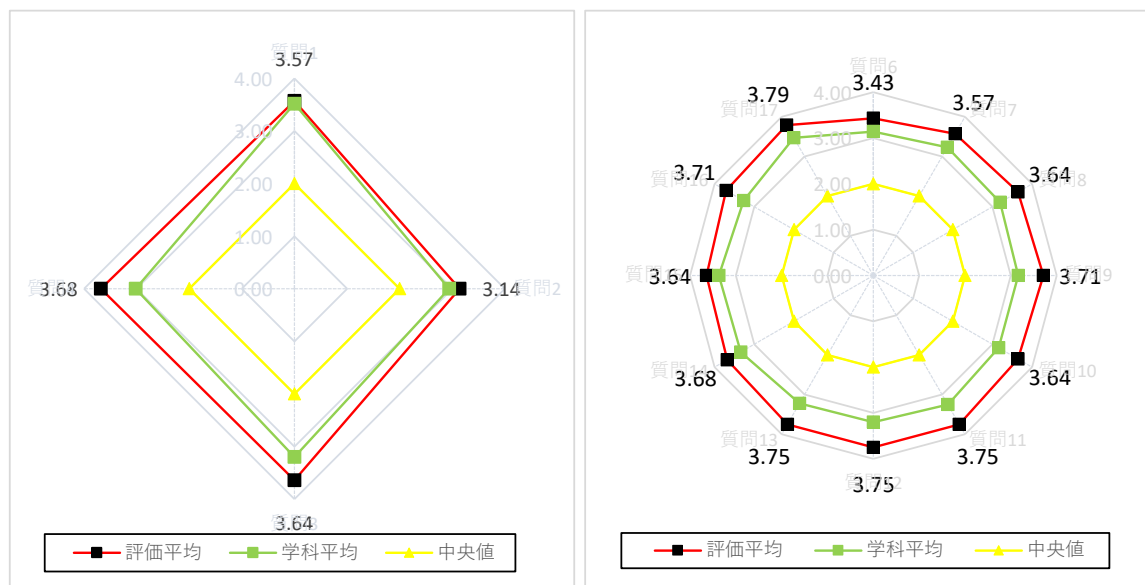
学生からの評価はおおむね良好であった。
学生の興味関心に沿った研究テーマを設定したものの、
研究が順調には進まず停滞することが多かった。

(3) 次年度に向けての取り組み

学生の興味関心に沿ったテーマの設定はもちろんだが、
テーマを1つに限定せず、保育者あるいは社会人としての基礎的な能力の育成を目指し、
多様な取り組みを用意する。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		卒業課題研究 I	30名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

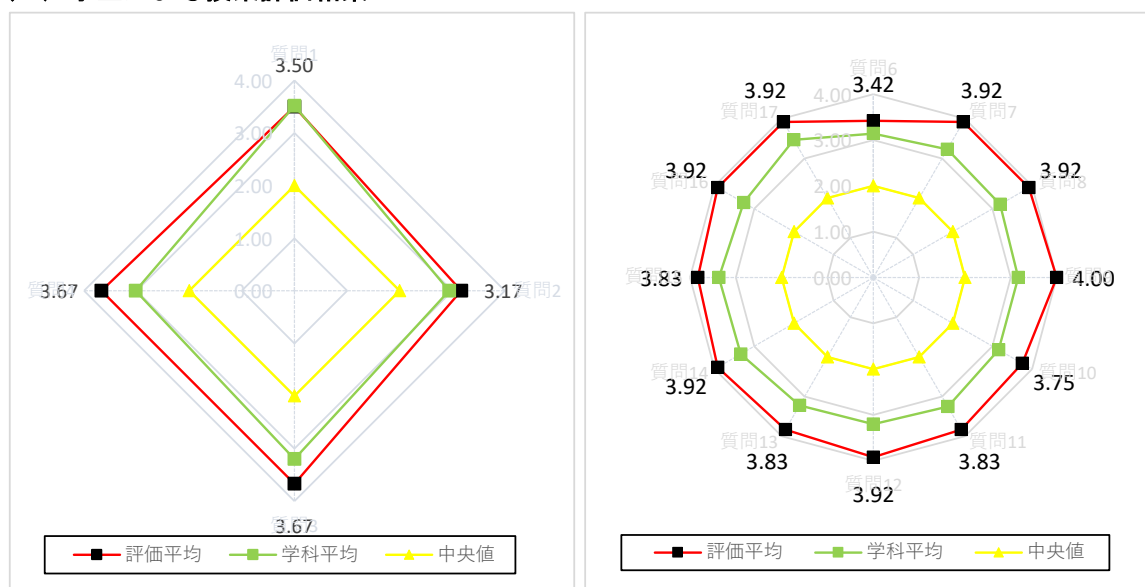
学生は、舞台発表を目指し選択した卒業課題研究だから意欲を持っているが、持ち続けることの指導に特に力を入れている。その結果の評価である。学科平均を上回っているなので、このままの指導でよいと思われる。結果の質問1においては、最初のオリエンテーションで、目標ねらいなどを説明し、自分たちで作り上げることを意識させるが、それがシラバス内容だと理解していないようである。

(3) 次年度に向けての取り組み

学生個人個人の温度差にも目を向け、後期へのつながりをスムーズに行えるように指導をしていく。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		卒業課題研究Ⅱ	14名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

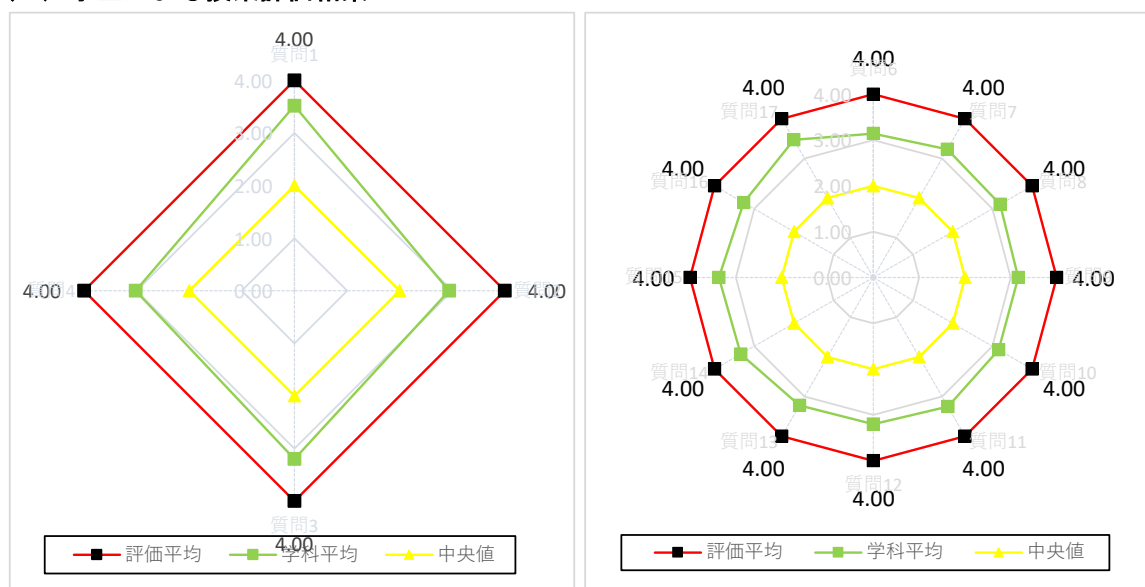
学生の授業に対する態度・行動（設問3・4）、教員の授業設計・運営（設問7～17）において、おおむね高い得点が得られている。当該授業では、プロジェクト型学習を実施している。今年度は、学生のニーズに応じ、「子どもの運動意欲を引き出す保育の指導・展開法」を学習テーマに設定した。後期に実施した当該授業では、体育教材（遊具）の特性を活かしたプレイ・イベントを4回実施した。前半は教材研究・活動環境の設定に多くの時間を費やした。後半では、実際に保育現場へ出かけ、学生らが計画した活動を実践した。おおむねの授業回において、学生の主体的が主体的に取り組む姿が見られた。活動を振り返る際にも、教員が提示した視点に基づき、丁寧に省察できていた。

(3) 次年度に向けての取り組み

学習テーマを設定する際は、2017年度と同様、学生のニーズを丁寧に聞き取りたい。設定した学習テーマに関する資料（書籍や文献）の提示、理解を深めるための具体的な経験を授業に組み入れていきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		卒業課題研究Ⅱ	2名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

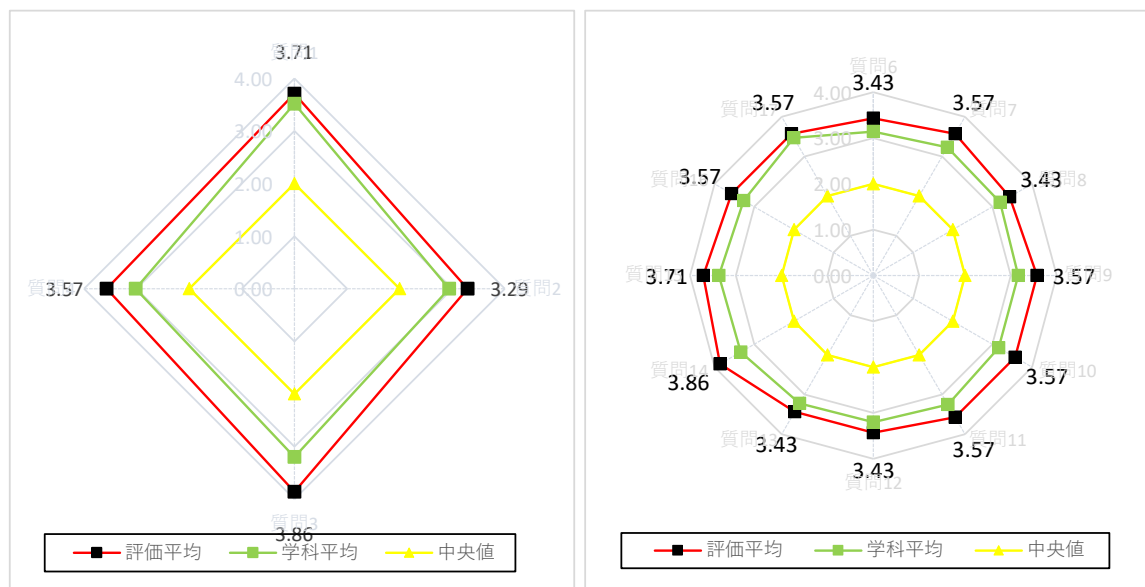
前期の卒業課題研究と異なり、評価はすべて満点となっている。これは学生自身が目標を明確にしていき、実践活動のスケジュールを立て、自発的に活動計画を立てていったことに寄与するものである。その証拠に質問1～4についても満点であり、アクティブラーニングとしての卒業研究が行われたことが分かる。

(3) 次年度に向けての取り組み

今後も今回の結果に近づけるよう、学生の自発性を促すべき研究・実践環境を整えていくことが重要である。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		卒業課題研究Ⅱ	8名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

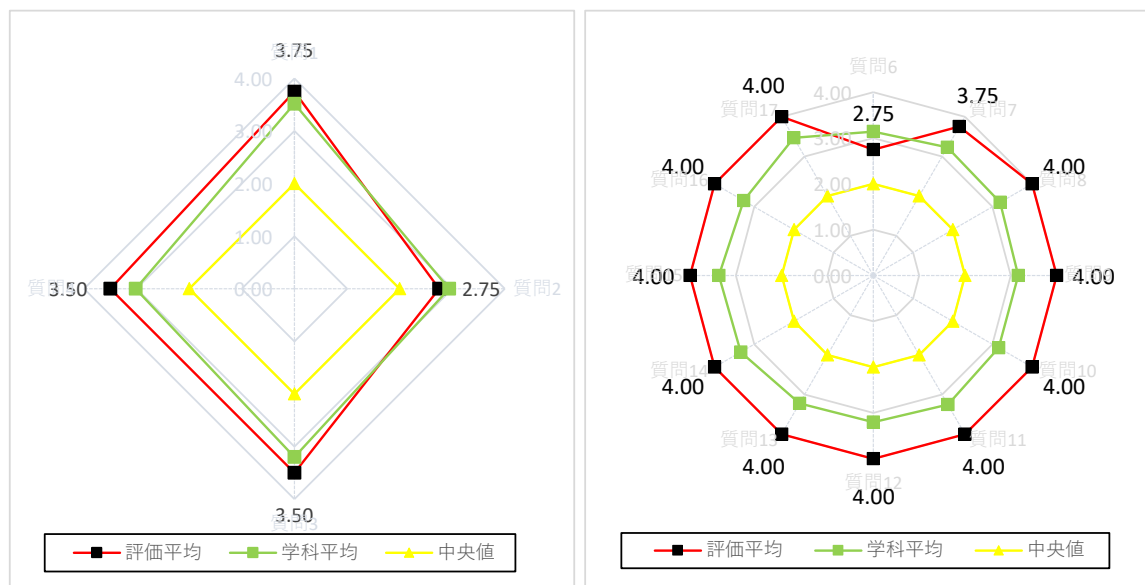
本授業は前期の卒業課題研究Ⅰに引き続き、表現フェスタ（実技発表会）に向けて劇中で使用する音楽20曲程度の合奏を仕上げ、ミュージカル全体として合わせ稽古を行いながら、大舞台での発表に向かってチーム一丸となって準備を積み重ねる過程である。そういった性質上、質問7の到達目標については1回1回の授業の目標が伝わりにくい。また仕上げていく過程で、ミュージカル全体の進行に関わり、曲の変更や演奏順序の変更なども多々あり、中には戸惑いや不安を感じた学生もいたのだろう。また質問17の評価については、本授業で私が「ミュージカルチーム」と「ミュージカル器楽チーム」の両方の指導に当たっており、発表会を目前に控えたこの時期はどうしてもミュージカルの指導に時間を取られる。両チームとも卒業課題研究の授業時間分はきちんと指導に携わっているが、空きコマや放課後の練習ではミュージカルチームの指導に入ることが多く、器楽チームの学生は不公平な印象を持っているだろう。

(3) 次年度に向けての取り組み

授業の性質上シラバスの説明などは行っていないが、発表会までの到達目標や毎回の計画はリーダーと一緒に立て明確な目標を提示できるようにする。両チームの指導のバランスについては、現在の発表会のあり方が変わるか指導教員の増員がない限り、学生には大変申し訳ないが今のスタイルで行うしかなく、空き時間などに細やかに対応していく。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		卒業課題研究Ⅱ	4名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

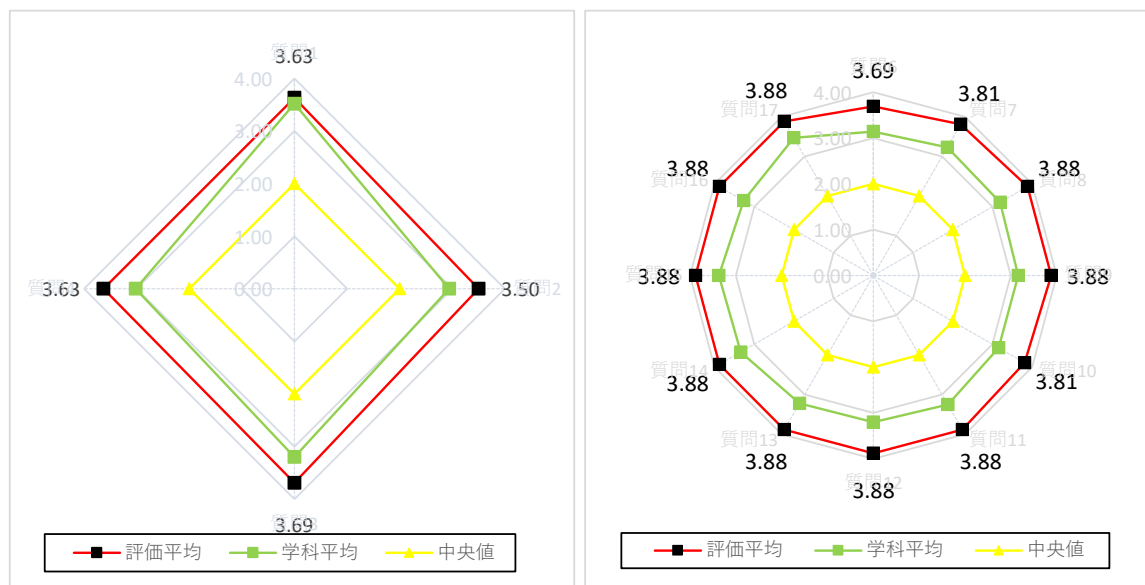
前期から引き続き活動をしているため、シラバスについてはその概要を説明するにとどめため、質問2と6の評価が低くなったと考えられる。

(3) 次年度に向けての取り組み

年間を通した活動ではあるが、期ごとにシラバスや活動の見通しについて丁寧に説明するようにしていく。
また、学生の興味関心に沿ったテーマの設定はもちろんだが、テーマを1つに限定せず、保育者あるいは社会人としての基礎的な能力の育成を目指し、多様な取り組みを用意する。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		卒業課題研究Ⅱ	17名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

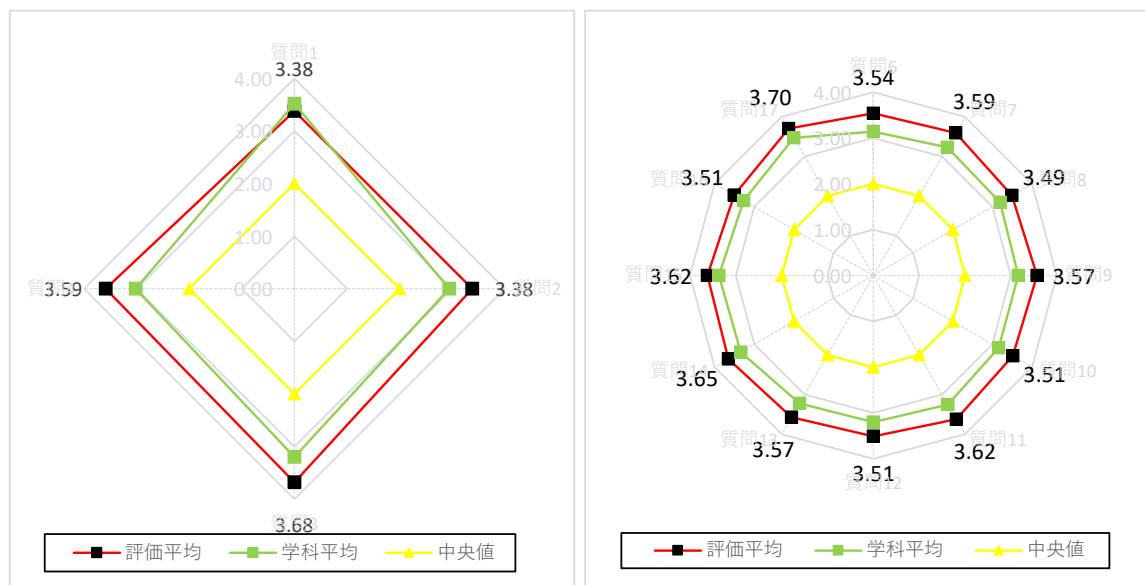
卒業課題研究発表会に向けて、抄録集や発表用資料の作成に熱心に取り組み、発表会前にはどのようにすれば他学生により伝わりやすく、充実したものになるのか、ゼミ生同士で活発な意見交換を行いながら本番に臨む姿が見られた。さらに、学外での関連分野のワークショップにも数名の学生が参加し、そこでの貴重な体験をゼミ内に持ち帰り、全体で共有しながら互いの意識を高め合えるような雰囲気も徐々に広がっていったように思われる。

(3) 次年度に向けての取り組み

前期同様、シラバスの活用には課題が残る。初回の授業での、概要やスケジュールの具体的な説明を確実に行うよう努めたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		調理実習（日本料理）	41名

（１）学生による授業評価結果



（２）結果の分析と評価

この授業は栄養士として即戦力を高めるために必要な調理技術等を習得させる基礎調理である。技術を習得させるために、材料の特殊な切り方や調理操作が理解出来るように出来る限りデモンストレーションをおこないながら授業を進めていった。評価の結果は学生自身の授業参加態度以外の項目においては殆どが「良い」「やや良い」の肯定回答であり、総合評価は3.56で良好であったことが伺えた。このことから調理実習は栄養士に役立つ科目であると認識しており、今後は家庭での復習調理ができるように課題等の工夫をし調理技術の向上に努めなければならないと思う。

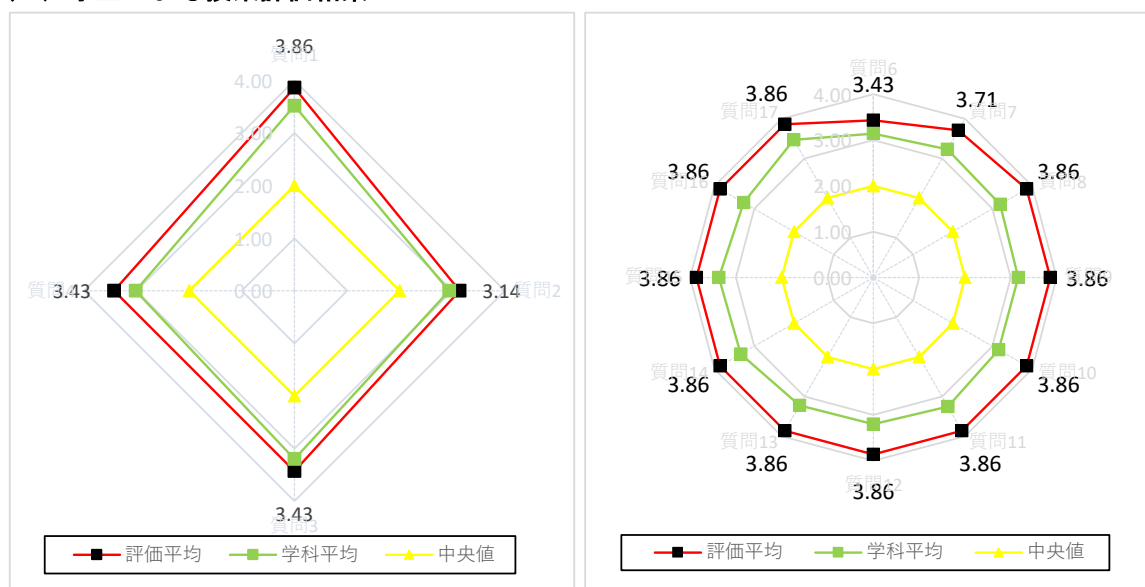
（３）次年度に向けての取り組み

今回の授業評価では概ね良好であったことから、これまでと同様に下記の内容を中心に実習を展開していく。

- ①授業の理解のための自己工夫としてこれまでと同様に実習カードを事前に配布し予習させ、実習後は家庭で必ず再実習を行なうなど、実習前後は、家庭学習が出来るよう指導する。
しかし、過去の経験で実習時にカードを“忘れる”“紛失する”といったことから、カード管理も十分に出来るよう指導する。
- ②学生の学習意欲、技術能力、生活環境により個人差が大きいため、技術能力を習得させるだけでなく、グループ実習を通し、積極性、協調性、指導力、マナー等も併せて学ばせる。また、人間形成の場として互いに学びあいながら、実践実習が出来るよう、指導していく。
- ③包丁扱いなど調理技術の向上努めると同時に大量調理ヘスムーズに展開できるように訓練していく。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		卒業課題研究Ⅱ	8名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

質問2以外は全て、学科平均を上回る得点であった。後期はまとめの時期であり、目標が明確になっていたことが得点に繋がっていると考ええる。

また、ゼミ内での友人関係も構築され、自身の考えや思いを十分に発揮できる環境になっていたことも要因の一つであろう。教員自身、授業を通して学生が自分自身で考え、主体的に学ぶことが十分にできていたと感じていた。

卒業課題研究の授業目標は十分に達成されたと考えられる。

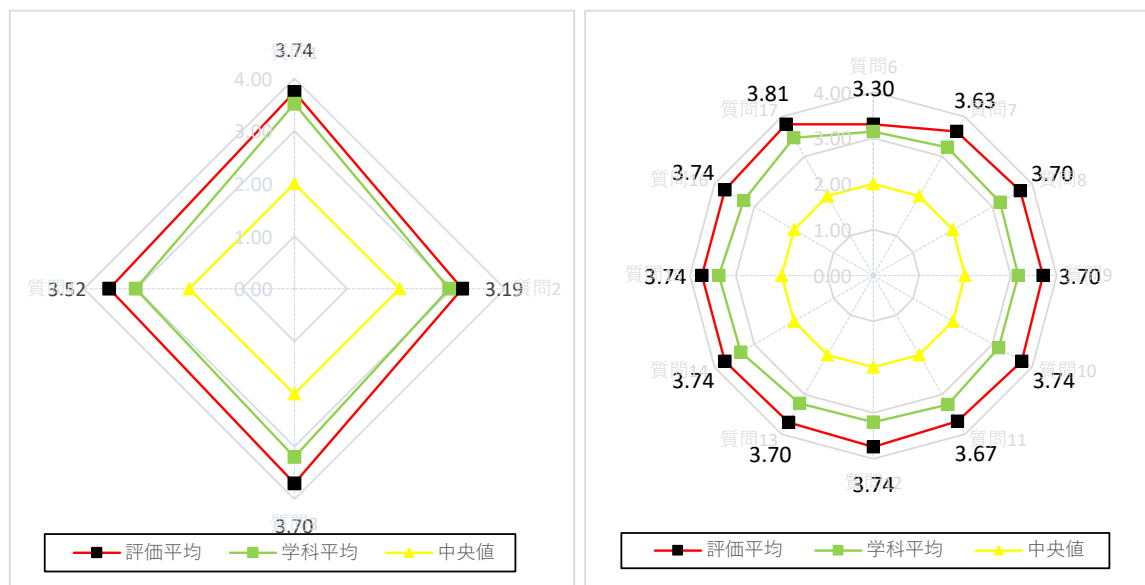
(3) 次年度に向けての取り組み

卒業課題研究Ⅰと比較すると、やはり学生の主体的な取り組みが増えたと感じる。授業の方法等は特に変えていないため、やはり学生の意欲という部分で得点に差が出ているのではないと思う。

次年度以降は、なるべく早い時期から学生の主体的な学びを十分に確保できるような環境づくりの工夫を行いたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	幼児保育		卒業課題研究Ⅱ	30名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

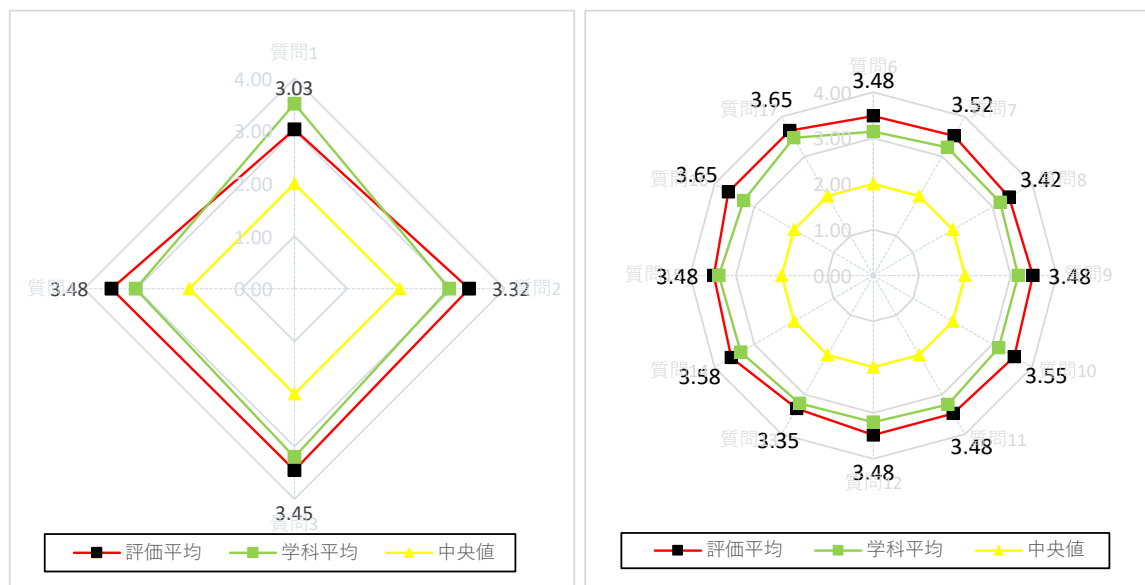
学生自身が主体的にならなければならない舞台発表、教員も学生も心をつにした結果であると受け止める。質問1のシラバスについては、卒業課題研究Ⅰにも記述したように、最初のオリエンテーション時に学生が理解していない結果だと思われる。これも学科平均を上回っているので、指導法としてはこのまま続けてよいであろう。

(3) 次年度に向けての取り組み

次年度も、学生が達成感を味わい現場で活躍できるよう新たな気持ちで指導していきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		調理実習（西洋料理）	41名

（１）学生による授業評価結果



（２）結果の分析と評価

この授業は栄養士として即戦力を高めるために必要な調理技術等を習得させる基礎調理である。技術を習得させるために、材料の特殊な切り方や調理操作が理解出来るような説明をイメージさせながら、特殊操作についてはデモンストレーションと併用しながら授業を進めていった。評価の結果は学生自身の授業参加態度以外の項目においては殆どが「良い」「やや良い」の肯定回答であり、総合評価は3.48であった。このことから授業内容は概ね、良好であったことが伺えた。しかし、前期の日本料理と比較すると評価が若干低く、その理由に前期はデモンストレーションを中心に、後期の西洋料理は調理操作の説明を中心にし、説明でイメージしながら操作していく力の修得に視点を置いて授業を行ったため、イメージと実技実践を結びつけるのが困難であったことが分かった。

（３）次年度に向けての取り組み

今回の授業評価では概ね良好であったとは言え、説明中心より具体的に示すデモンストレーションでの進め方が効果的に学ぶことができることが分かったため、これまでの内容に追加して実習を展開していく。

①授業の理解のための自己工夫としてこれまでと同様に実習カードを事前に配布し予習させ、実習後は家庭で必ず再実習を行なうなど、実習前後は、家庭学習が出来るよう指導する。

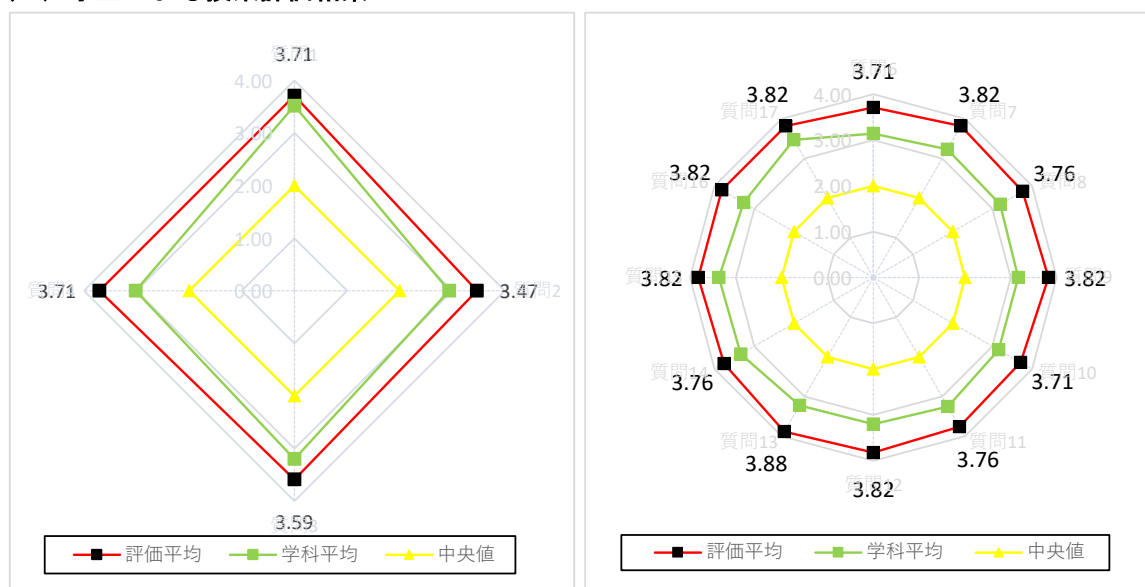
しかし、過去の経験で実習時にカードを“忘れる”“紛失する”といったことから、カード管理も十分に出来るよう指導する。

②学生の学習意欲、技術能力、生活環境により個人差が大きいため、技術能力を習得させるだけでなく、グループ実習を通し、積極性、協調性、指導力、マナー等も併せて学ばせる。また、人間形成の場として互いに学びあいながら、実践実習が出来るよう、指導していく。

③包丁扱いなど調理技術の向上努めると同時に大量調理へスムーズに展開できるように訓練していく。④食材の切り方、加熱操作法についてはデモンストレーションで具体的に示していく。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		実践食育	22名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

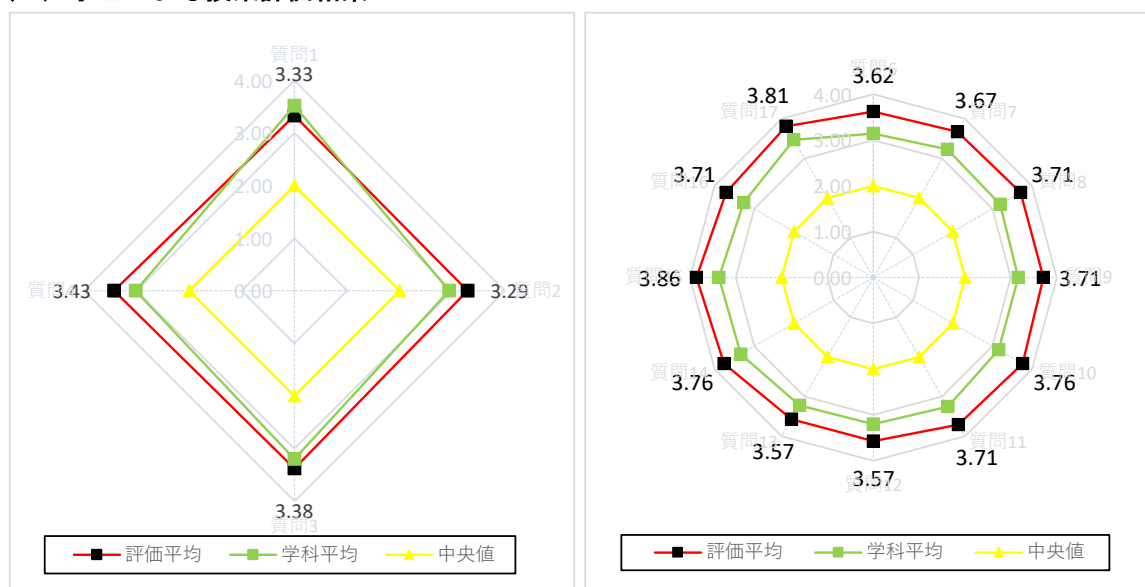
今回の結果はほとんどの項目において学科平均を上回っていた。本授業は、食育とは何かを知りその必要性を理解すること、また、今後食育の現場にどのように対応すればよいかを考えることのできる力を身につけることを目的としており、授業形態は座学となっている。今年度は昨年度と内容を変更して行った。食の専門科目をまだ十分に修得していない学生にとっては難しかったかもしれないが、初回に目的を十分に説明し修了時の目標を明確にすることによりイメージを膨らませ各々の創造力をいかに発揮できたように思う。学生からはレシピを考えるのは大変だったが一つの形として完成したので嬉しい等肯定的な意見が多くみられ高評であった。

(3) 次年度に向けての取り組み

今年度は昨年度と内容を変更して行ったが結果としては高評であった。今年度は座学が中心となったが、できるだけ食育につながる実践型の授業を行いたいと考えている。来年度は学内での食育活動への参加依頼があっているため、それをよい機会ととらえ、実体験の中から食育を考える力を身につけられるような授業を展開していきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		社会の理解 I	23名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

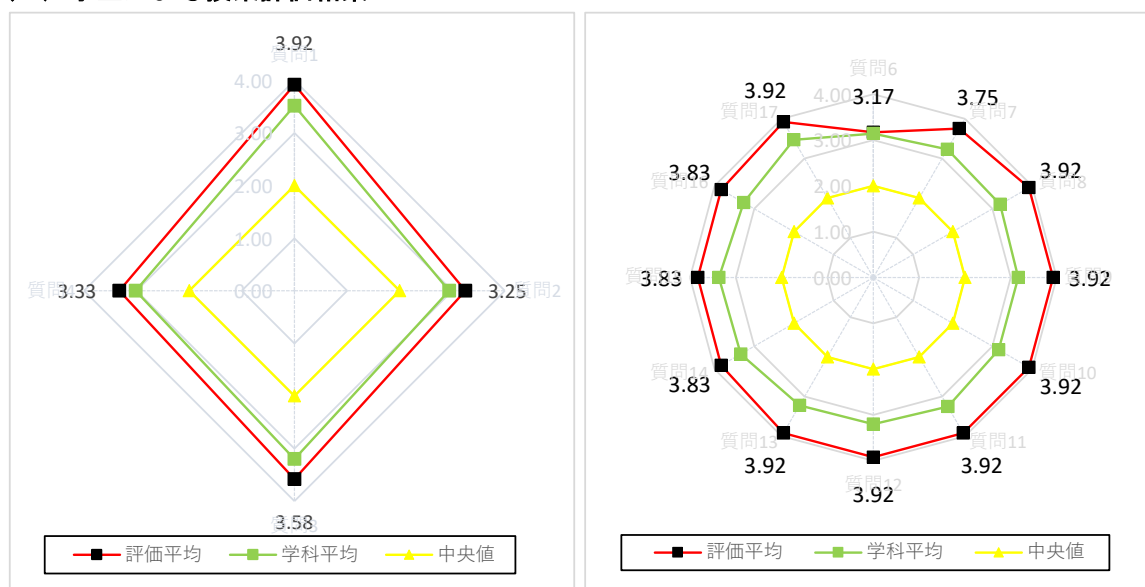
授業アンケート結果の分析と評価として、学科全体の平均と同程度の評価となっていた。しかしながら詳細にみると、質問8「授業は興味・関心が持てる工夫がされていたか。」、質問9「授業は分かりやすくする工夫がされていたか。」、質問10「視聴覚機器や板書の使い方は適切でしたか。」、質問11「教科書・配布資料等は役に立ちましたか。」の評価が若干低く、さらに質問14「学生の質問等に誠実に対応しましたか。」、質問15「公平に学生に対応しましたか。」、質問16「教員は双方向的なやり取りをしながら、授業を行っていましたか。」、質問17「教員は熱心に授業に取り組んでいましたか。」のついても低く推移していた。これらは学生への対応にもつながるため、学習進度に合わせた個別指導や学習への動機づけを図る必要がある。

(3) 次年度に向けての取り組み

次年度に向けての取り組みとしては、国家試験への対応を考慮しつつ、留学生への配慮など多様な学習支援を検討していきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		介護総合講座	22名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

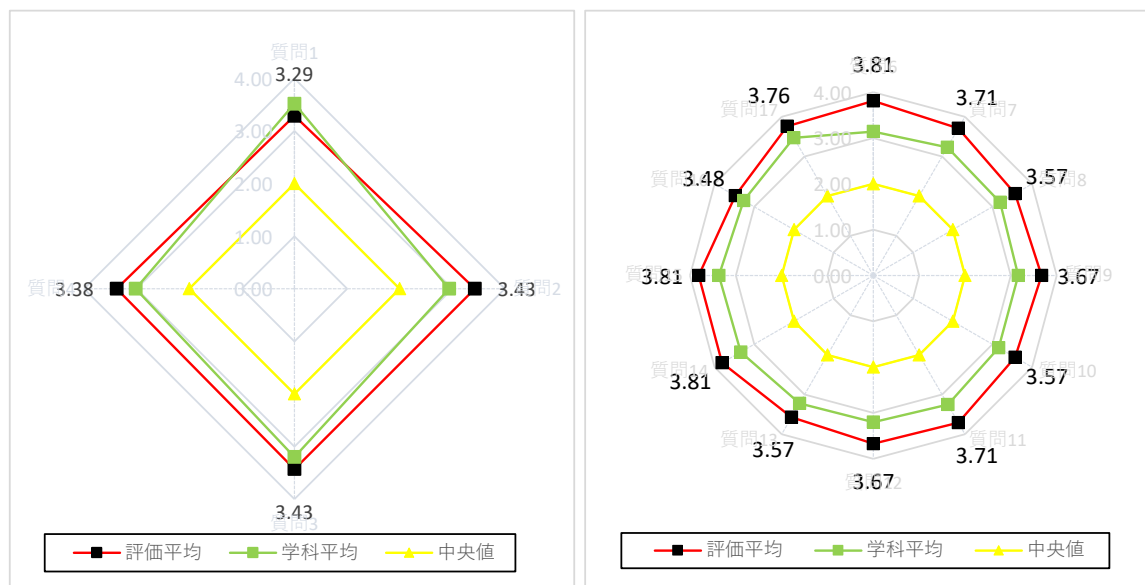
7人が回答していないシラバスの説明が極端に低い。共あすとのセットで手渡し用のシラバスを作っていたのでわかりにくかったのかもしれない。それ以外はたいへん高い評価であると思う。各教員がそれぞれに頑張った結果であろう。

(3) 次年度に向けての取り組み

評価をするようにきちんと声かけ確認を行う。シラバスをきちんと説明する。昨年以上に熱心に取り組む、全員合格を目指す。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		介護の基本ⅠA	23名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

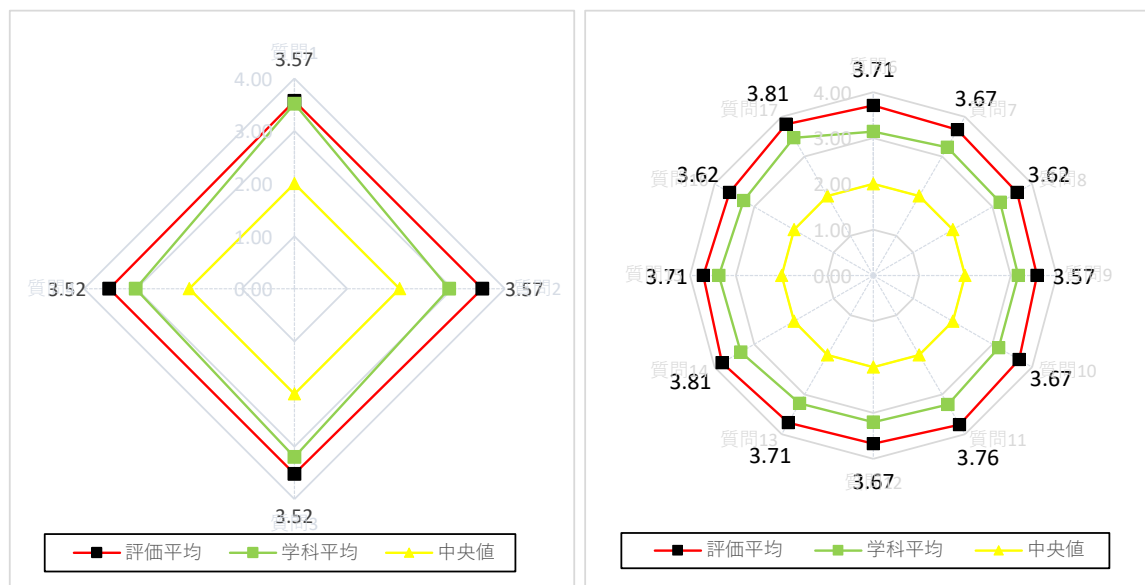
この科目は、科目の名称通り介護の基本を学ぶものであり、特に1年前期に開講される「介護の基本ⅠA」の授業は、わかりやすさとスピードに配慮して行っている。評価平均は、最低でも3.29と概ね高い評価であった。例年評価の低い質問6のシラバスの説明だが、オリエンテーション時にプリントを配布し説明をしっかりと行ったためか、今年度においては、3.81と高い評価であった。学科平均を唯一下回った項目は、質問16の双方向のやり取りであった。これについては、次年度の課題となった。B票の記述からは、肯定的な内容が多く見られた。（丁寧でわかりやすい 大事なことを板書 進め方も適切）

(3) 次年度に向けての取り組み

本年度の結果を受け、次年度は、学生の理解度を確認しながら、質問の時間を十分にとり双方向のやり取りを行い、満足度が高い授業を展開していきたいと考える。また、肯定的な評価内容については、引き続き意識しながら授業を行っていきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		介護の基本ⅠB	23名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

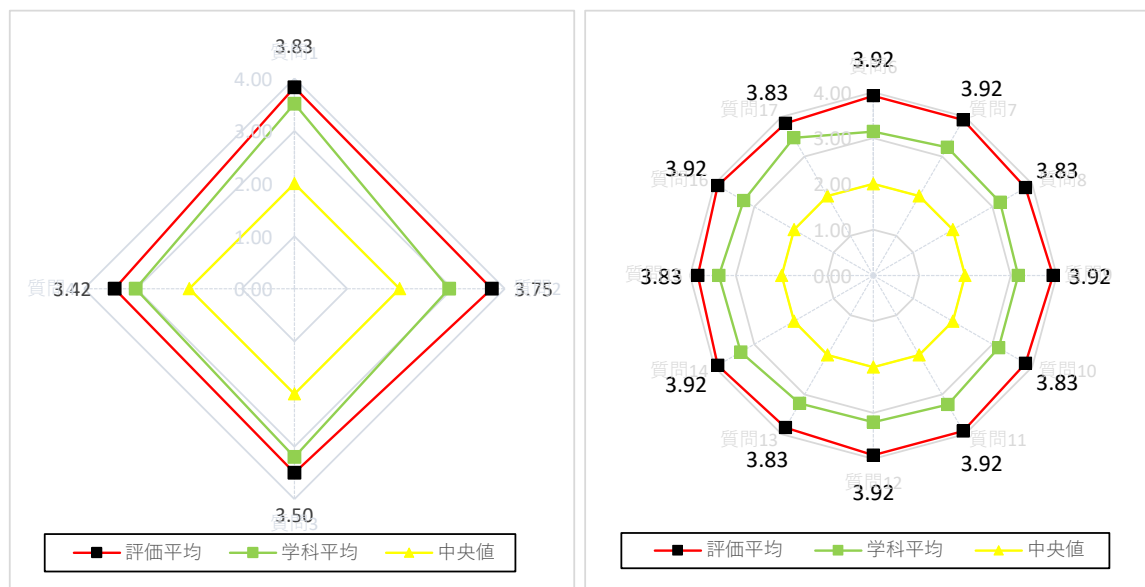
「介護の基本ⅠB」においても1年前期の開講であるため、わかりやすい説明と授業のスピードに考慮した。評価は、いずれも学科評価を上回る評価を得ている。評価平均が一番低かった項目は、質問5の学生自身の総合評価であった。特別低い評価項目も見当たらないが、時々見られる居眠りや授業理解のための工夫が出来ていないことなどを学生自身が厳しく評価したものと思われる。教員の評価では、質問14の誠実な対応と質問17の熱心な取り組みにおいて高い評価となっている。「介護の基本ⅠA」よりも専門領域に踏み込んだ内容になり、事例を用いて実践的な話をしたことなどが影響していると考えられる。B票においても「働いていた時のエピソードも興味深かった」との記述があった。

(3) 次年度に向けての取り組み

今年度の評価を受けて、次年度も授業目標を明確にし、学生が能動的に取り組める環境を心掛け、なお向上させるように励んでいきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		介護の基本ⅡA	21名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

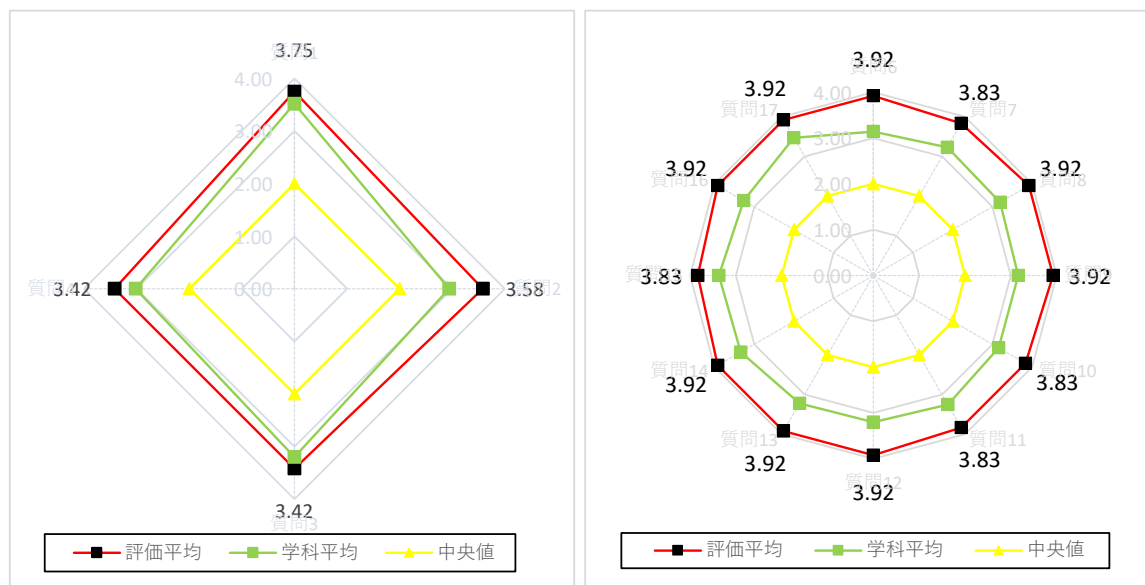
本科目は、主に生活経営と生活管理の考え方を学び、消費者問題や年金、介護費用等についても具体的に考える授業内容である。全体的に高評価であるが、それは学生がまさに生活者であり消費者であるため、自分自身の生活に照らし合わせて授業を受けていたため肯定的な授業評価になったのだと推測する。また、グループワークなどの演習も多く、自主性や協調性は不可欠であり、教員とはもちろん学生同士の双方向のやり取りが非常に印象的であった。意外だったのは、学生がシラバスを活用していたことである。確かに教員は授業の前後にはシラバスの確認を促してはいたが、学生自身にその意識があったことは良い意味での驚きであった。

(3) 次年度に向けての取り組み

今回の結果から、自分の実生活あるいは今後の人生を考えさせながら授業展開していくことが高評価につながり、更には学生自身の学びを深めることが推測された。今後も、学生が主体的に学習できる授業内容を考え、学生が何を学びたいと考えているのか、どのような学び方を望んでいるのかを考えた授業計画を立てて実践したい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		コミュニケーション技術 A	21名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

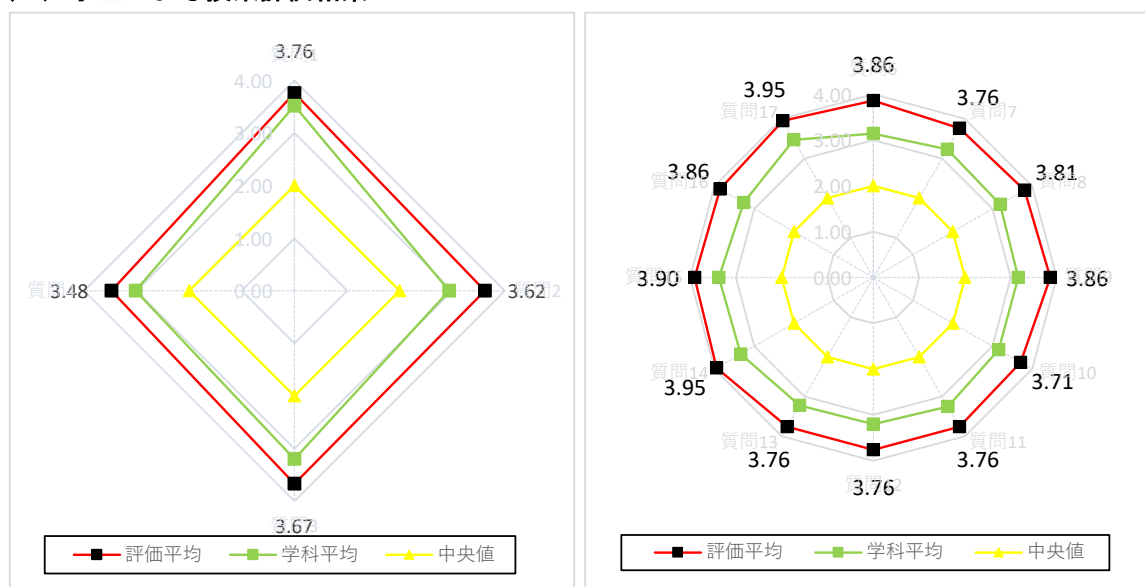
学生は、実習Ⅰとして夏季休業中に7か所の施設・事業所で実習を体験する。実習を終え、改めてコミュニケーションの大切さを実感している時期に「コミュニケーション技術A」の授業が開講される。そのため、授業態度は、比較的真面目である。評価は、いずれも学科平均を上回る評価を得ている。学生自身の評価は、質問3の居眠り・私語と質問4理解の工夫が若干低めの評価になっていた。授業方法で評価が高かったのは、質問6シラバス説明、質問8興味・関心、質問9わかりやすい工夫、質問12声・話す速さ、質問13進む速さの5つの項目であった。また、教員の対応では、質問14誠実な対応、質問16双方向のやり取り、質問17熱心において高い評価が得られた。実践において必要性の高い授業であり、事例を用いた演習も多いことが、肯定的な評価につながったと考えられる。

(3) 次年度に向けての取り組み

今年度の評価を受けて、実習直後の学びたいという意欲を上手く引き出し、専門的知識へとつなげられるように授業を展開したい。事例を用いた学習の中から、実践に活かせる力を向上させるよう努める。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		生活支援技術A	23名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

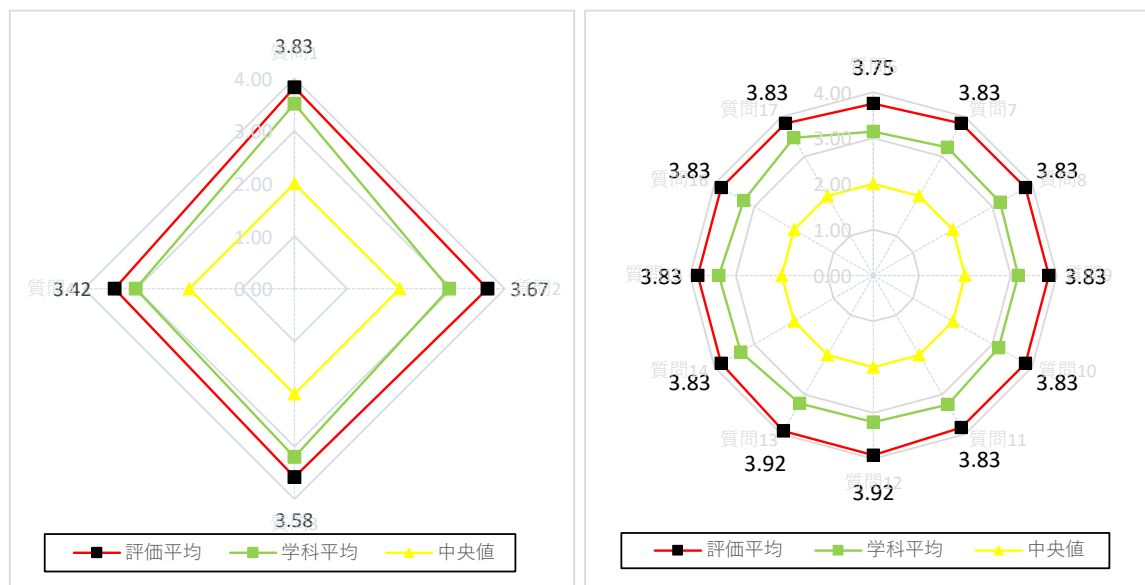
本科目は、個人の尊厳に根差したその人らしい生活を理解する視点、生活支援の考え方を理解し、個々の心身状況に応じた支援方法を習得するものである。学生自身の評価をみると、どれも高い評価値となっている。開講が1年前期ということもあり、学生の学習意欲も高い時期であることも高評価に影響しているのではないだろうか。ただし、質問4の「授業を理解するために自分で工夫したか」については、もう少し評価値を向上させることも可能ではないかと考える。また、学生の教員の授業の進め方に対する評価もどの項目も学科平均値より高くなっているが、これは授業内容が演習を多く取り入れたこと、必要に応じてDVD視聴を行ったことなどが良い評価につながったものと推測する。

(3) 次年度に向けての取り組み

今回の授業評価結果から、授業内容及び授業の進め方については今後もおおむね今回同様の方法で行いたい。ただし、今後の課題として、授業の中で見つけた課題を次回の授業までに解決させそれを評価につなげるなどして、学生自身が授業を理解するための工夫を行うような動機付けの方法を模索していきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		生活支援技術C	21名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

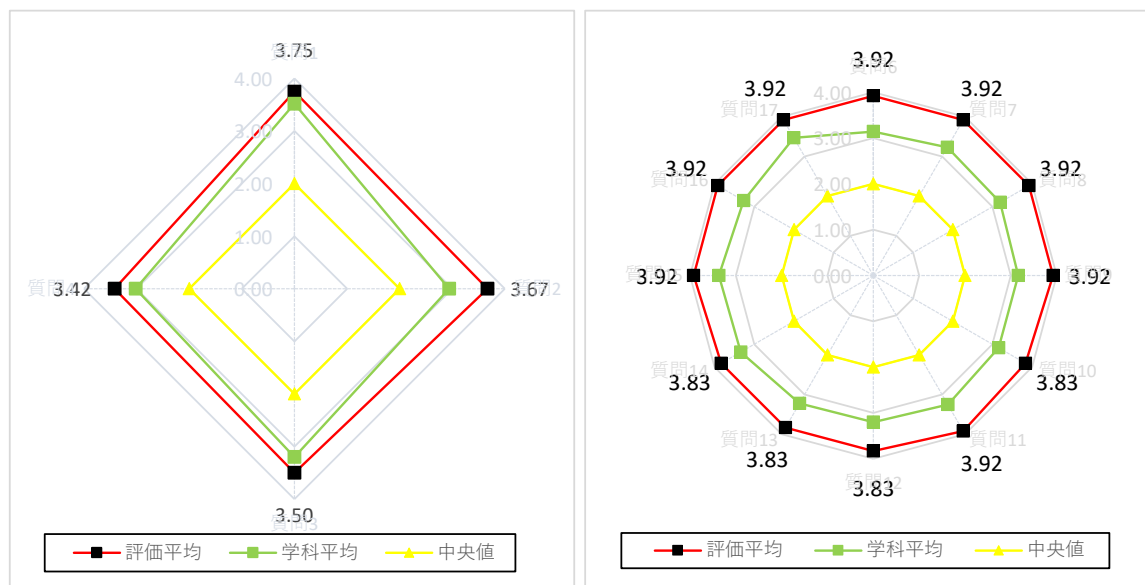
評価は平均を上回り、とても良い結果となった。わからないことは、すぐその場で聞くようにと指導し、疑問を次回に残さない工夫をした。また、次の授業は前回の復讐の後で、実施するようにした。

(3) 次年度に向けての取り組み

理解できないことをそのままにしておかず、すぐその場で理解できるように講義を進める。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		介護過程Ⅱ	21名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

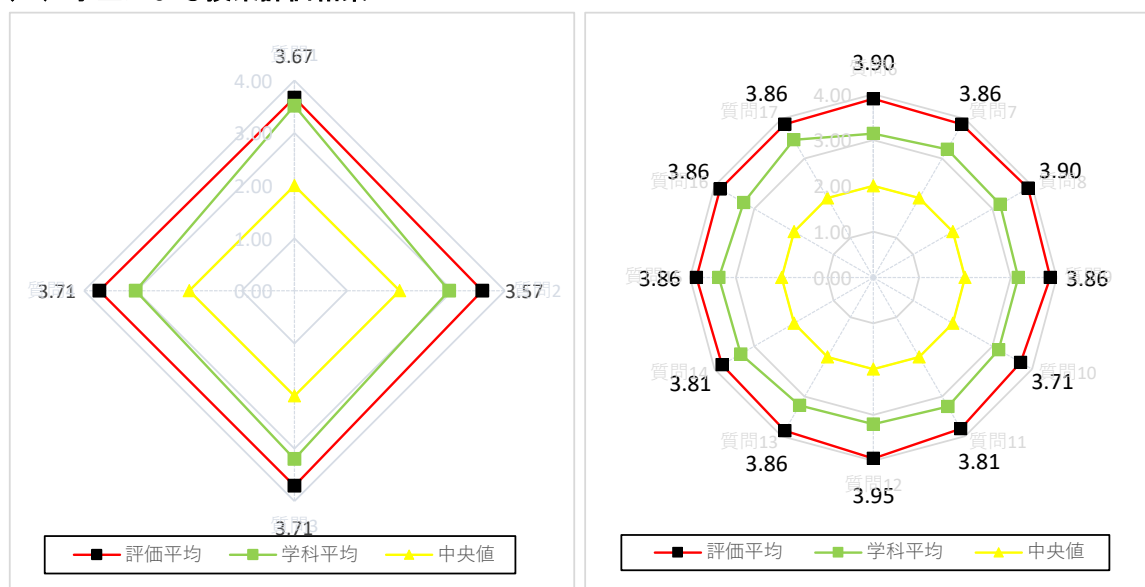
本科目では、事例を通して介護過程の展開過程を理解することを目的とし、講義、個人ワーク、グループワークを連動させて授業を行った。授業の中でシラバスを説明することや授業の進行状況を確認することが度々あり、学生自身もある程度は活用できていたようである。また、個人ワーク、グループワークを多く取り入れたことでそれぞれの進行速度に差があったため、速度に応じた課題を出すなどの工夫を行った。質問13「授業の進む速さは適当でしたか」の評価は高評価であり、それぞれに応じた課題を出したことがこの評価値につながったものと推測する。質問3「授業中に居眠り・私語などをせず真剣に取り組みましたか」の評価は3.5だが、確かにグループワークの際その場に必要のない話をするグループがあり注意したこともある。また、質問4「この授業を理解するために自分で何か工夫をしましたか」の評価は、授業についていくのが精いっぱいである学生自身がどのような工夫をしたらよいのかという考えにまで至っていないのではないだろうか。

(3) 次年度に向けての取り組み

まず、グループワーク中の私語をなくすことの工夫が必要である。グループワークで意見が多く出るのは、活気があってとても良い傾向であるが、盛り上がりすぎてそもそものテーマとは違う話題になっていることも少なくない。与えられたテーマで十分に意見を出しあえるよう、テーマの出し方や時間設定を工夫したい。また、学生自身が授業を理解する工夫を行えるよう、次年度は予習（事前準備）の内容を考え直して授業に臨みたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		介護総合演習 I	23名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

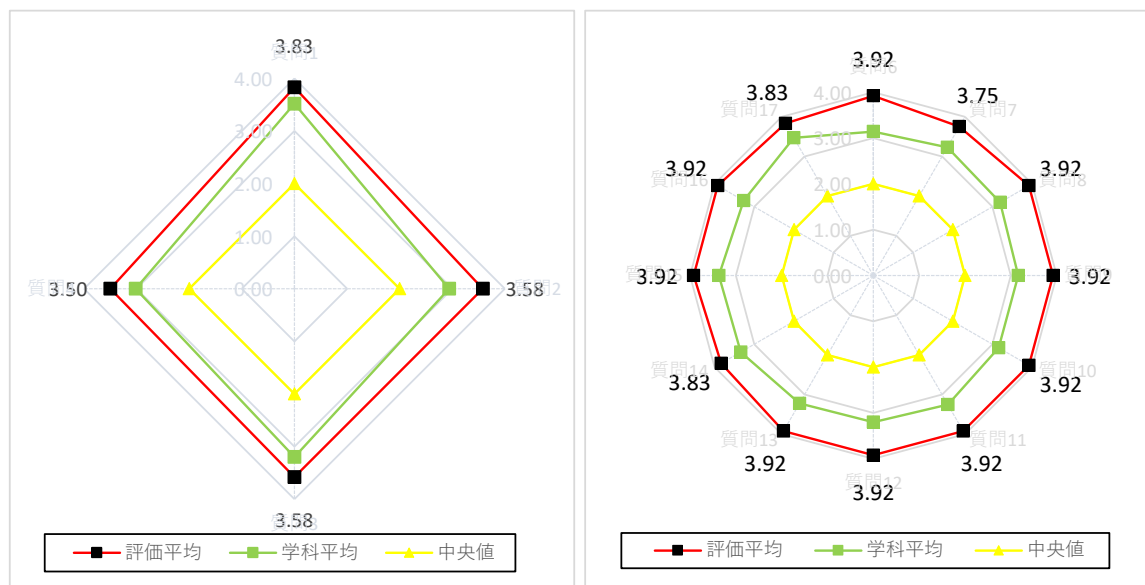
本科目は、居宅・通所・入所の介護施設の概要と要介護者の生活像を整理・理解させ、介護実習の意義と温煦敵を明確にすることを狙いとしている。また、介護実習に必要な知識と技術を確認させ、充実した介護実習となるよう実習の具体的な事前準備を行う授業である。授業評価は、全体的に学科平均より高い値であった。学生自身の評価で、特に質問4「授業を理解するために区分で工夫したか」については、本科目というよりも、介護実習に対する緊張感や不安が影響しているのではないかと推測する。シラバスの活用もできていたようで、いつまでどのような準備が必要なのかを確認しながら受講していたことが想像できる。

(3) 次年度に向けての取り組み

今回の評価値は、学生の授業に臨む意欲・姿勢が想像できる良い結果だったといえるのではないだろうか。学生の熱心な授業態度が教員にも良い刺激となり授業内容にも良い影響があって今回の評価値になったのだと考える。次年度も、学生の意欲を高め、その意欲を維持できる授業を行うよう努力したい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		介護総合演習Ⅱ	21名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

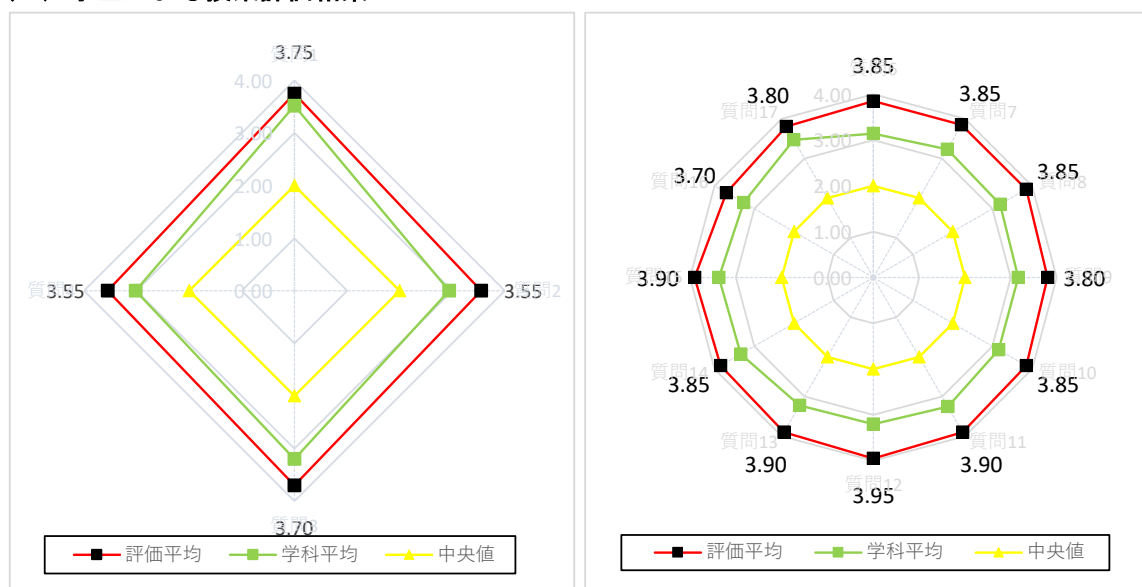
本科目は、居宅・通所・入所の介護施設の概要と利用者の生活像を整理・理解し、介護福祉士としての役割を明確化し、講義や演習で学んだことを要介護者の生活支援に役立てる知識や応用力を身につけることを狙いとしている。授業の多くの時間を介護実習の振り返りに費やし、学生それぞれの今後の課題を明確化することを重要視している。1年生前期に開講された介護総合演習Ⅰ同様、学生の評価はおおむね良いと言える。しかし、介護実習Ⅰをすべて終えてからの学生の本授業態度には、若干緊張感に欠ける印象を持った。そのためか、質問1～4の学生自身の授業評価の値は、学科平均とほぼ同値である。実習前と比べると、学生の受講態度は、やや受動的だったと言えるのではないだろうか。

(3) 次年度に向けての取り組み

本科目の課題は、介護実習Ⅰを終えた学生に、いかに介護実習に対する意欲を維持させるかであろう。多くの時間を使ってしっかり介護実習の振り返りを行い自己の課題を明確化するのだが、次の実習までにはかなり時間が空いてしまう。そのため、やや緊張感に欠け、学生自身の授業への取り組み方に変化がみられる。次年度からは、実習を振り返って課題を明確化した後、学生が、2年次の介護実習に向けて意欲を維持・向上させることのできるような授業内容を考えたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		介護実習ⅠA	23名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

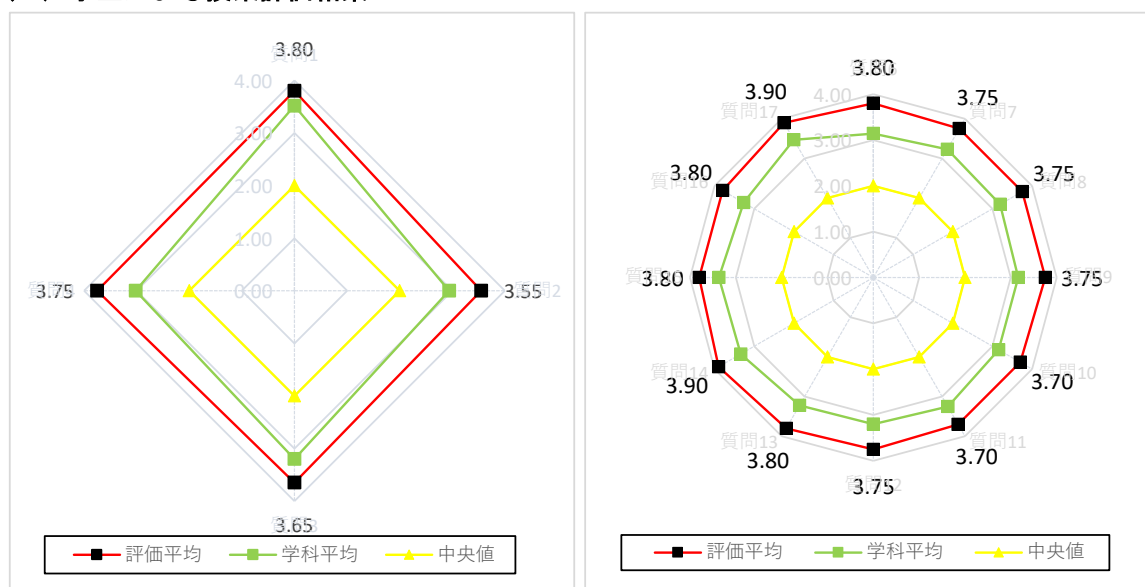
本科目は、1年次の夏休みに実施。要介護者個々の生活リズムや個性を理解するという観点から様々な生活の場において個別ケアを理解し、要介護者やその家族とのコミュニケーションの実践、介護技術の確認、多職種協働や関係機関との連携等を通して、チームの一員としての介護福祉士の役割を理解することを狙いとしている。学生は、様々な種別の福祉施設での介護実習を通し、普段の生活とは異なる人間関係の中で座学では学ぶことのできない経験を重ねていく。また、介護実習においては、実習巡回担当の教員5名が週1回の実習巡回指導を行うが、実習中の主な指導者は各実習施設の実習指導者であり、教員はあくまで側面から学生をサポートする立場である。質問16「教員は双方向的なやり取りをしながら授業を行っていたか」の評価値がたと比べて若干低いのが、教員は巡回時に学生の話をもっと聞こうと心掛けていたが、緊張しながら実習している学生にとっては教員の対応に十分さを感じていないことを表しているのではないかと推測する。

(3) 次年度に向けての取り組み

介護実習という学びの場は、介護の現場で要介護者とコミュニケーションを図りながら貴重な体験ができると同時に、かなりの緊張感が続く心身ともにハードな場でもある。教員は、これまでも実習巡回時くらいは学生の緊張感を和らげたいと思いながら対応してきたが、学生の立場からすると、どうしても指導されているという印象の方が強かったのではないだろうか。まずは、学生の話にしっかり耳を傾けることの必要性を再度実習巡回担当教員間で確認したい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		介護実習ⅠB	23名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

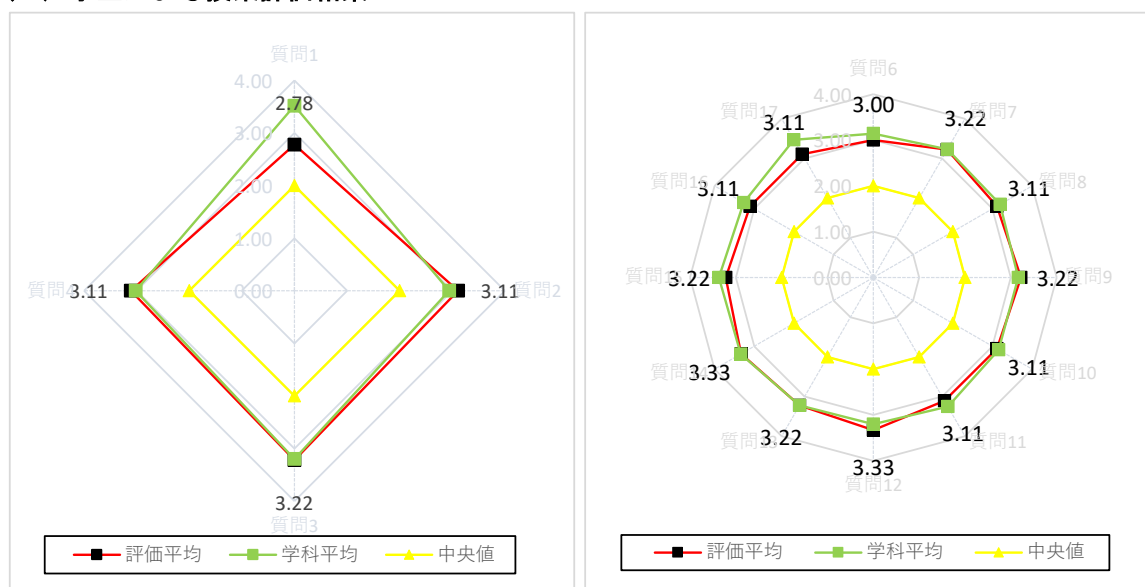
本科目は、1年次の夏休みに実施。要介護者個々の生活リズムや個性を理解するという観点から様々な生活の場において個別ケアを理解し、要介護者やその家族とのコミュニケーションの実践、介護技術の確認、多職種協働や関係機関との連携等を通して、チームの一員としての介護福祉士の役割を理解することを狙いとしている。学生は、本科目受講以前に介護実習ⅠAを終え、本科目受講時は多少は自分らしく実習に臨むことができたと推測できる。介護実習ⅠA同様、実習巡回担当の教員5名が週1回の実習巡回指導を行ったが、評価値は全体的に良い。教員の指導方法もあるかもしれないが、学生自身が実習を重ねることで気持ちに余裕が生まれ、教員の指導を肯定的に受け入れることが出来ていたのではないだろうか。また、質問4「授業を理解するために自分で何か工夫をしたか」の値も高いが、これも実習を重ねていくうえで、何をどのように工夫すれば実習の学びが深まるかということを体得したのではないかと推測する。

(3) 次年度に向けての取り組み

学生が介護実習を理解するために自分で何かを工夫しようとする姿勢は非常に良い。今後も、学生の意欲の維持・向上のため、介護施設の実習指導者と連携を図りながら側面的なサポートを続けたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		日本文化事情Ⅰ（演習含む）	12名

（１）学生による授業評価結果



（２）結果の分析と評価

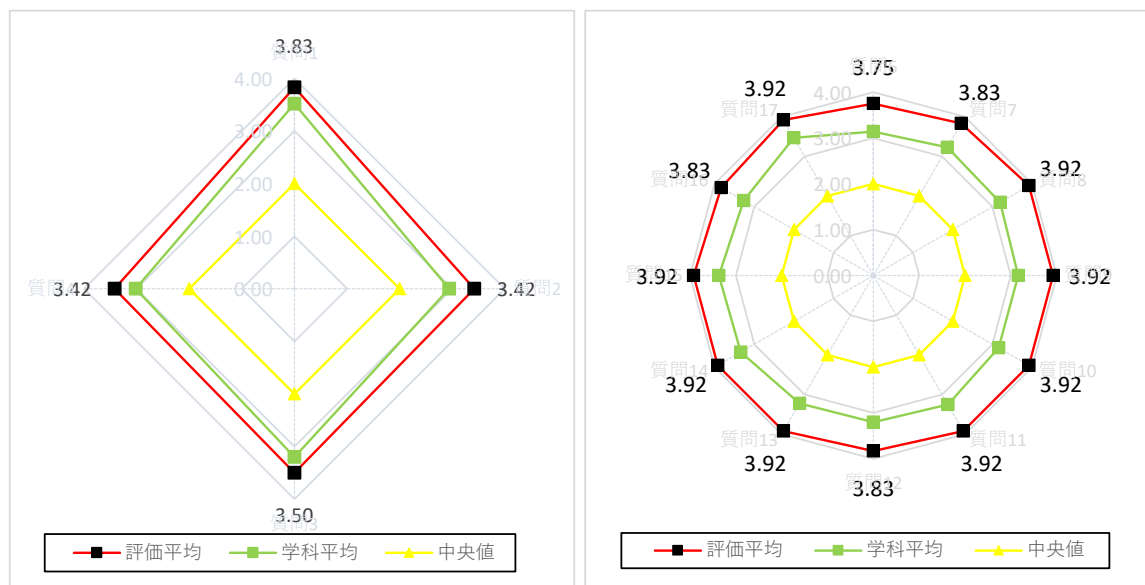
本科目の受講生の約半数は外国人留学生であった。映画や文学などを題材として取り上げ、言語や生活習慣、風俗や文化、食などを他国と比較して日本文化とは何かを考える日本とはどのような国なのかを考える授業である。授業の評価値はすべてにおいて学科平均より低い値である。まず、出席率が非常に悪く、特に外国人留学生の遅刻・欠席が目立った。ただ、この結果から、時に留学生が十分理解できるような授業ができていなかったことが推測される。授業中は、教員の質問によく答え、楽しそうに受講していたものの、不満足な点が多かったのだと反省する。

（３）次年度に向けての取り組み

まずは、留学生の出席率の向上を目指したい。そのためには、授業の終わりに次回授業の内容を正しく伝え、次の授業で何をやるのか、学生にどのような学びがあるのかをシラバスを使って学生と教員一緒に確認したい。また、授業の話スピードや言葉の意味を確認する時間を今までより多く取り入れ、丁寧な授業を行うことが大切だと感じた。さらに、日本人学生のサポートを得ながら、留学生も日本人も学びやすい授業を展開したいと考える。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		人間の尊厳と自立	21名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

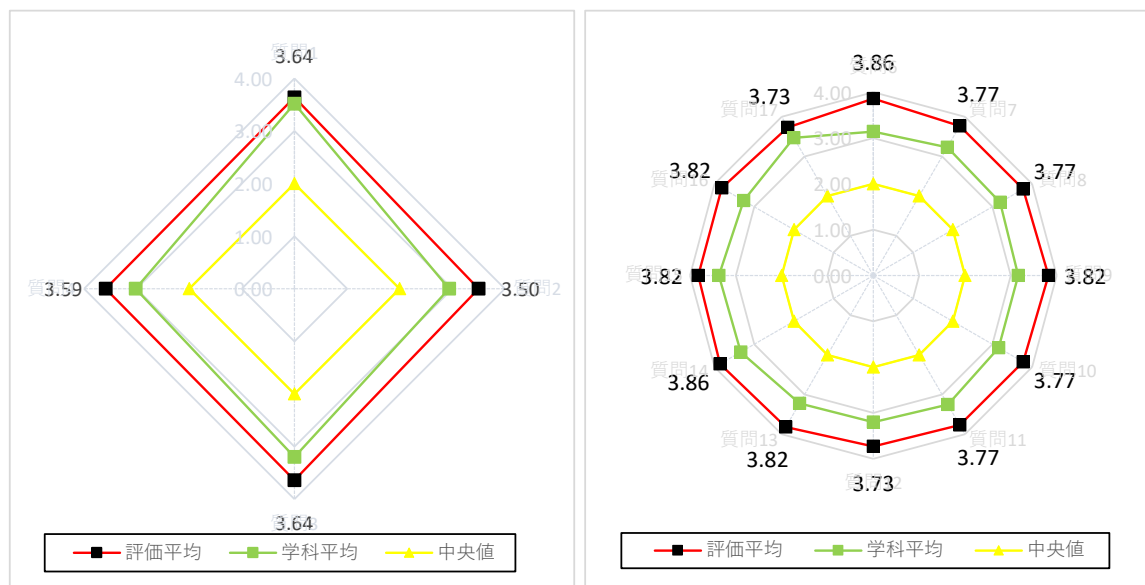
この授業は全体的にとっても高評価だった。昨年度の評価を踏まえ、今年度は難しい歴史上の人物を題材にするより、身近な事件などを題材にして、学生に考えてもらった。また、学生が発表する機会を設け、学生主体の授業を心がけた。ただ、国家試験対策にはあまりならなかったと思う。

(3) 次年度に向けての取り組み

次年度も、身近な出来事をヒントに、障害とは、自立とは、尊厳とは、人権について等、学生が考えるような授業を展開しようと思う。その年の学生によって、まじ目な学生が多かったり、授業を乱す学生がいたり、大変さもあるが、学生が関心が持てる授業を行なうよう心掛けたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		人間関係とコミュニケーション	24名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

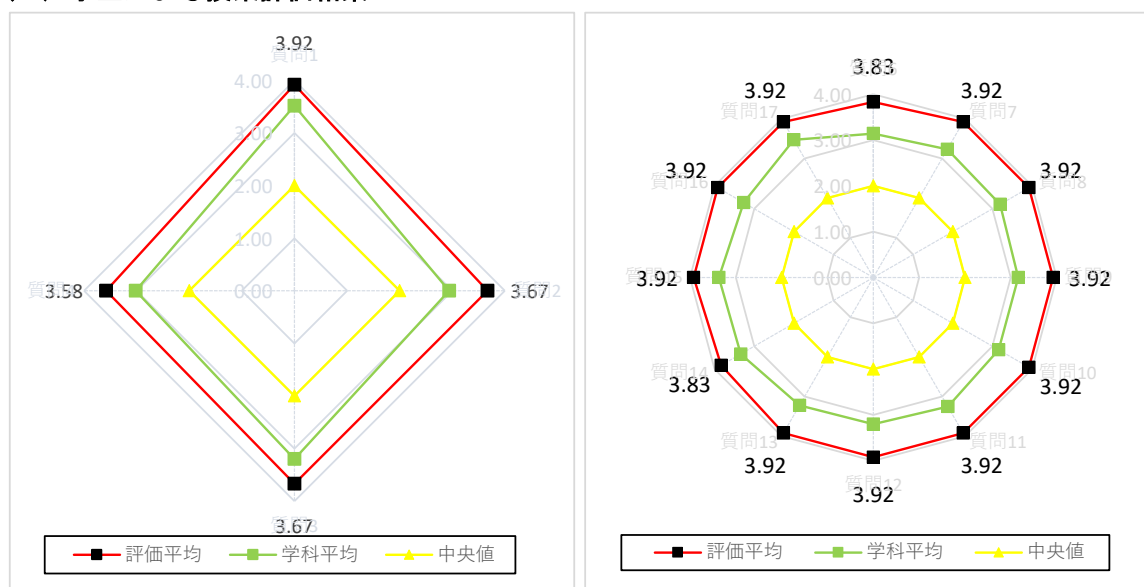
この科目は、ほとんど演習を主に展開しており、グループワークも多い。授業では演習のねらいとその後のフォローを行うように心がけている。グループ作りは、社会人もいるため、私の方で組んでおり、リーダーはグループで決めてもらっている。積極的なグループやそうでないグループ、常に発言する学生やそうでない学生等いろいろである。グループの様子を観察しながら必要時には声かけして指導している。この授業評価は高評価であり、学生が積極的に参加するグループワークの授業等の評価は高いことが理解できる。

(3) 次年度に向けての取り組み

次年度は、外国人も多く入学予定であるので、授業をどう展開した方がいいか、学生の反応を見ながら試行錯誤しつつ実施していきたい、現在は学生数も少なく20人程度であり、演習をおこなうに当たって、一人の教員で担当するには適切であるが、学生の数が多くなれば一人の教員では難しくなる。今年は多文化の学生は一人履修だったが、次年度は多文化の学生が何人履修するかで、授業の展開方法を検討しなくてはならないかもしれない。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
短期大学部	地域生活支援		レクリエーション活動援助法Ⅰ	21名

(1) 学生による授業評価結果



平成29年度授業評価アンケート の総括

西九州大学短期大学部
平成29年度 前期・後期：全科目Web調査

質問事項

1	授業は何回欠席しましたか。 【評価4⇒0回、3⇒1回、2⇒2～3回、1⇒4回以上】
2	シラバス（授業計画）を活用しましたか。
3	授業中に居眠り・私語等をせず真剣に取り組みましたか。
4	あなたはこの授業を理解するために自分で何か工夫をしましたか。 【評価4⇒そう思う、3⇒だいたいそう思う、2⇒あまりそう思わない、1⇒そう思わない】
5	あなた自身の総合自己評価 【評価4⇒良い、3⇒やや良い、2⇒やや悪い、1⇒悪い】
6	シラバス（授業計画）について説明がありましたか。
7	教員は授業の到達目標を明確にして、授業を展開していましたか。
8	授業は興味・関心が持てる工夫がされていたか。
9	授業は分かりやすくする工夫がされていたか。
10	視聴覚機器や板書の用い方は適切でしたか。
11	教科書・配布資料等は役に立ちましたか。
12	声の大きさ・明瞭さ・話す速さは適切でしたか。
13	授業の進む速さは適切でしたか。 【評価4⇒十分、3⇒だいたい十分、2⇒やや不十分、1⇒不十分】
14	学生の質問等に誠実に対応しましたか。
15	公平に学生に対応しましたか。
16	教員は双方向的なやり取りをしながら、授業を行っていましたか。
17	教員は熱心に授業に取り組んでいましたか。 【評価4⇒そう思う、3⇒だいたいそう思う、2⇒あまりそう思わない、1⇒そう思わない】
18	この授業を総合評価して下さい。 【評価4⇒良い、3⇒やや良い、2⇒やや悪い、1⇒悪い】

- 1～4 自身の振り返り
5 総合自己評価
6～11 授業計画・教材・教授法・展開方法等
12～17 科目担当者のパフォーマンス
18 授業総合評価

2017(H29)年度 時間割コード別 授業評価アンケート回答結果

学期	開講科目数	回答科目数	回答科目率	回答科目評価率AV
前期※	199	148	74%	92%
後期	167	163	98%	85%

※通年科目を含む

学生回答率(共通教育科目・学科専門科目別)

2017(H29)前期

質問番号	共通教育 科目		地域生活 支援学科		食物栄養 学科		生活福祉 学科		幼児保育 学科	
	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差
1	3.67	0.65	3.51	0.86	3.34	0.87	3.81	0.61	3.61	0.73
2	2.93	0.93	3.25	0.82	3.24	0.61	3.11	0.91	3.2	0.88
3	3.08	0.77	3.4	0.72	3.29	0.63	3.46	0.7	3.33	0.69
4	2.98	0.79	3.37	0.74	3.24	0.6	3.41	0.69	3.33	0.71
5	3.11	0.63	3.3	0.65	3.22	0.56	3.35	0.57	3.32	0.63
6	3.12	0.9	3.5	0.74	3.35	0.64	3.64	0.62	3.48	0.75
7	3.18	0.78	3.52	0.69	3.32	0.68	3.59	0.57	3.51	0.63
8	3.11	0.81	3.42	0.76	3.27	0.72	3.64	0.59	3.47	0.68
9	3.07	0.83	3.45	0.73	3.25	0.72	3.68	0.58	3.47	0.71
10	3.07	0.82	3.5	0.69	3.24	0.75	3.48	0.76	3.44	0.72
11	3.25	0.74	3.51	0.68	3.28	0.74	3.67	0.61	3.52	0.66
12	3.11	0.84	3.5	0.68	3.28	0.71	3.67	0.57	3.48	0.69
13	3.14	0.79	3.47	0.7	3.28	0.7	3.6	0.61	3.4	0.75
14	3.34	0.8	3.6	0.64	3.37	0.69	3.83	0.52	3.59	0.64
15	3.39	0.79	3.58	0.67	3.4	0.69	3.7	0.66	3.59	0.65
16	3.23	0.84	3.5	0.71	3.35	0.69	3.73	0.53	3.55	0.65
17	3.51	0.72	3.65	0.6	3.38	0.75	3.83	0.48	3.64	0.61
18	3.22	0.74	3.53	0.61	3.29	0.68	3.66	0.57	3.49	0.63

2017(H29)後期

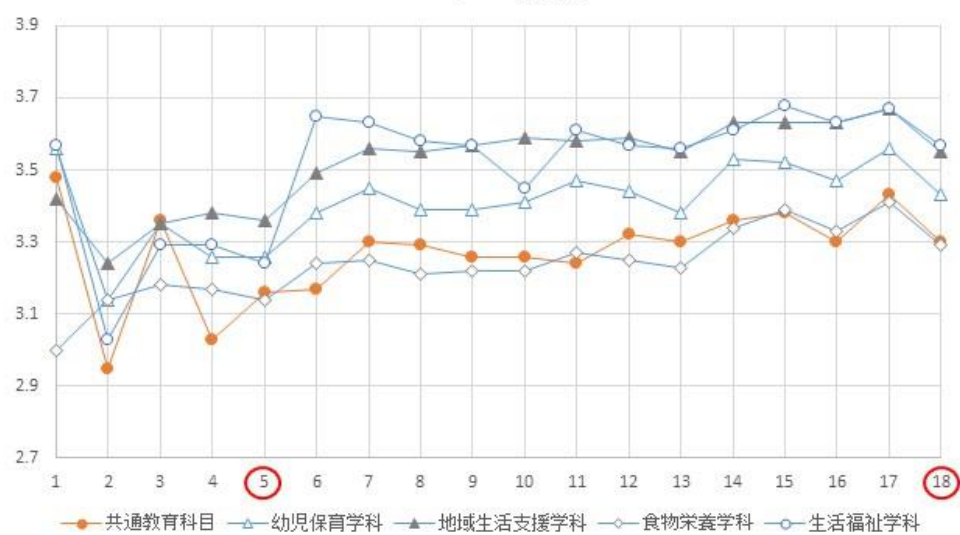
質問番号	共通教育 科目		地域生活 支援学科		食物栄養 学科		生活福祉 学科		幼児保育 学科	
	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差
1	3.48	0.83	3.42	0.92	3	0.9	3.57	0.84	3.56	0.76
2	2.95	0.88	3.24	0.83	3.14	0.65	3.03	0.74	3.14	0.85
3	3.36	0.67	3.35	0.78	3.18	0.68	3.29	0.75	3.35	0.65
4	3.03	0.76	3.38	0.78	3.17	0.65	3.29	0.57	3.26	0.7
5	3.16	0.62	3.36	0.71	3.14	0.65	3.24	0.51	3.26	0.63
6	3.17	0.86	3.49	0.66	3.24	0.7	3.65	0.48	3.38	0.76
7	3.3	0.7	3.56	0.61	3.25	0.7	3.63	0.53	3.45	0.65
8	3.29	0.71	3.55	0.61	3.21	0.74	3.58	0.6	3.39	0.69
9	3.26	0.71	3.57	0.61	3.22	0.73	3.57	0.61	3.39	0.71
10	3.26	0.7	3.59	0.58	3.22	0.72	3.45	0.7	3.41	0.7
11	3.24	0.73	3.58	0.6	3.27	0.72	3.61	0.57	3.47	0.66
12	3.32	0.71	3.59	0.6	3.25	0.72	3.57	0.63	3.44	0.68
13	3.3	0.72	3.55	0.63	3.23	0.74	3.56	0.59	3.38	0.7
14	3.36	0.72	3.63	0.57	3.34	0.75	3.61	0.69	3.53	0.66
15	3.38	0.71	3.63	0.6	3.39	0.7	3.68	0.55	3.52	0.65
16	3.3	0.75	3.63	0.58	3.33	0.71	3.63	0.54	3.47	0.69
17	3.43	0.7	3.67	0.56	3.41	0.68	3.67	0.61	3.56	0.63
18	3.3	0.66	3.55	0.64	3.29	0.74	3.57	0.56	3.43	0.65

学生回答率(共通教育科目・学科専門科目別)

2017(H29)前期

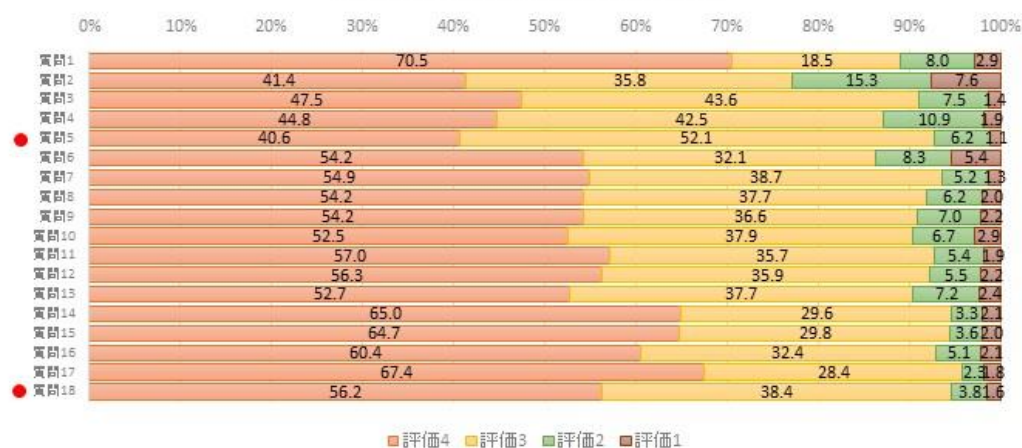


2017(H29)後期

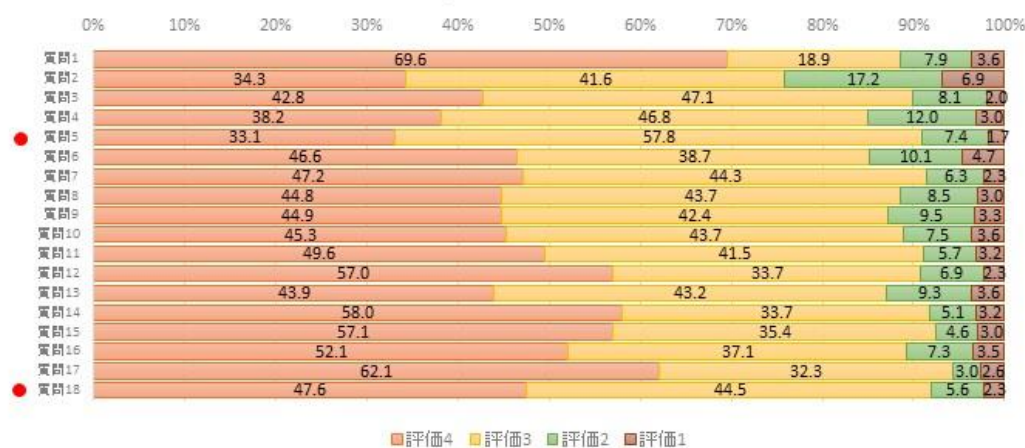


学科別 学生回答率平均(共通教育科目含)

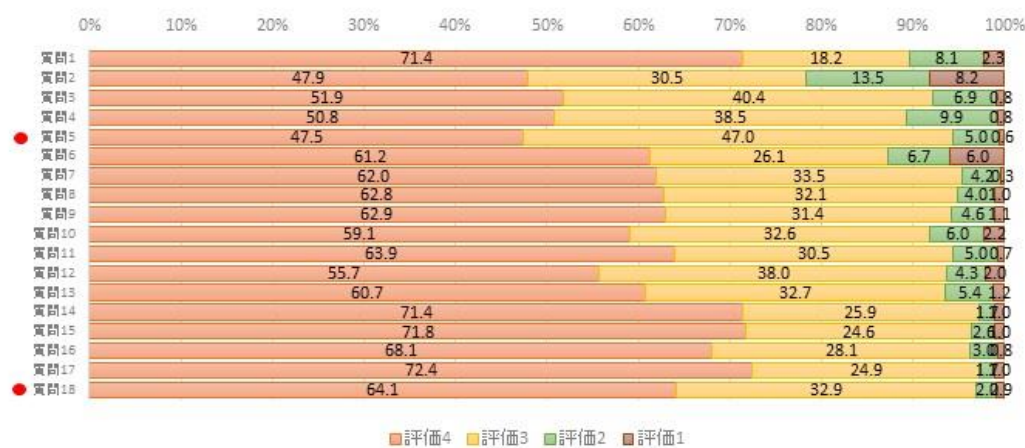
2017(H29)年度 幼児保育学科



2017(H29)年度 幼児保育学科1年

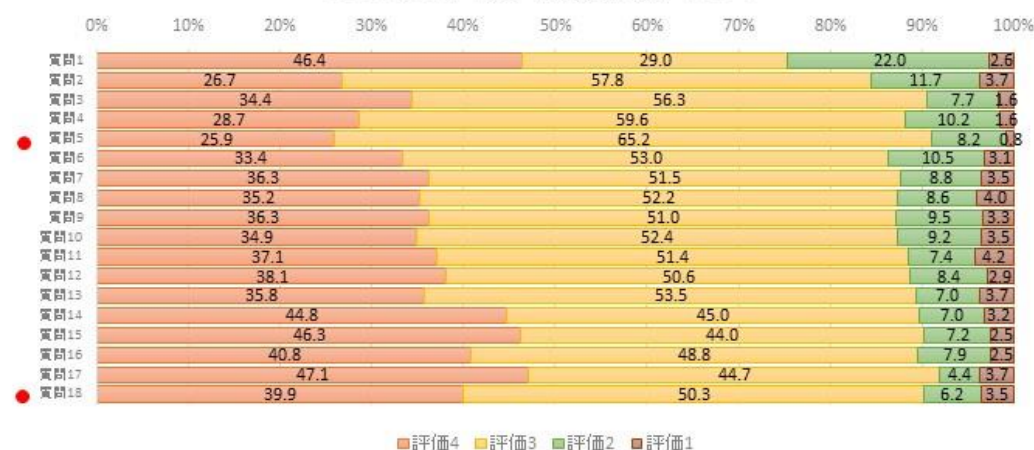


2017(H29)年度 幼児保育学科2年



学科別 学生回答率平均(共通教育科目含)

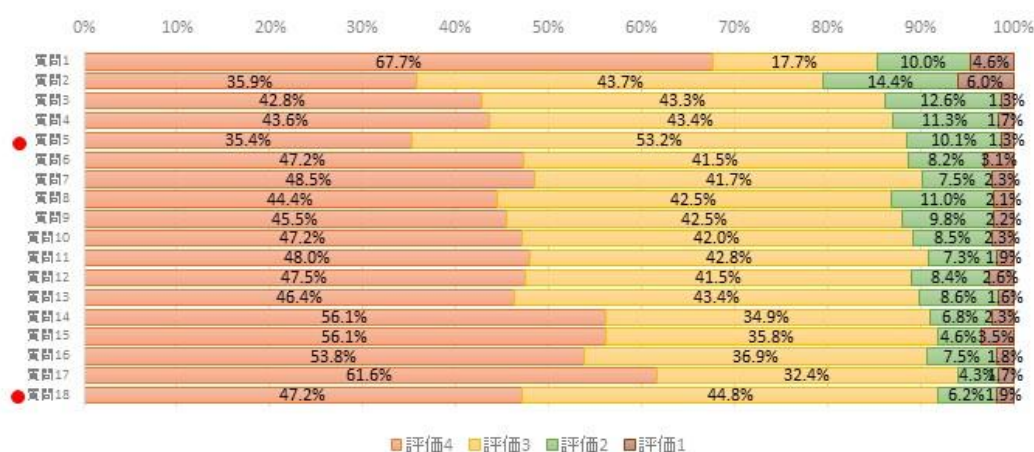
2017(H29)年度 食物栄養学科2年



2017(H29)年度 地域生活支援学科1年

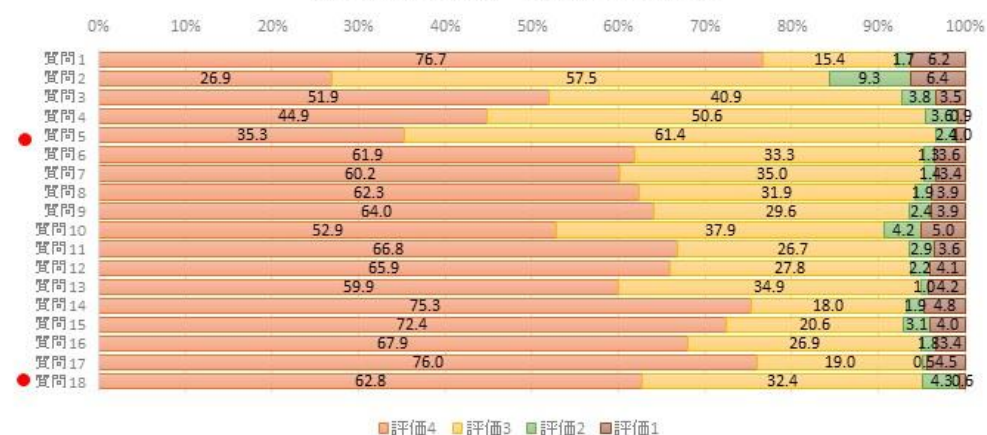


2017(H29)年度 食コース1年

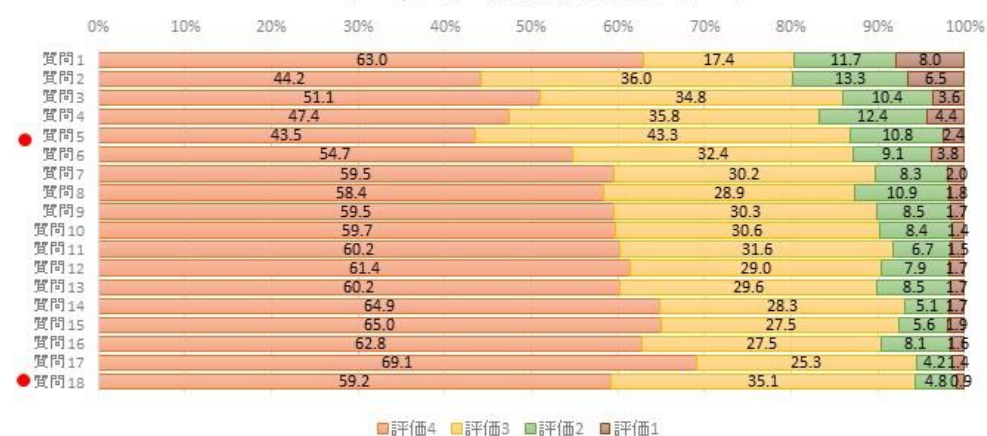


学科別 学生回答率平均(共通教育科目含)

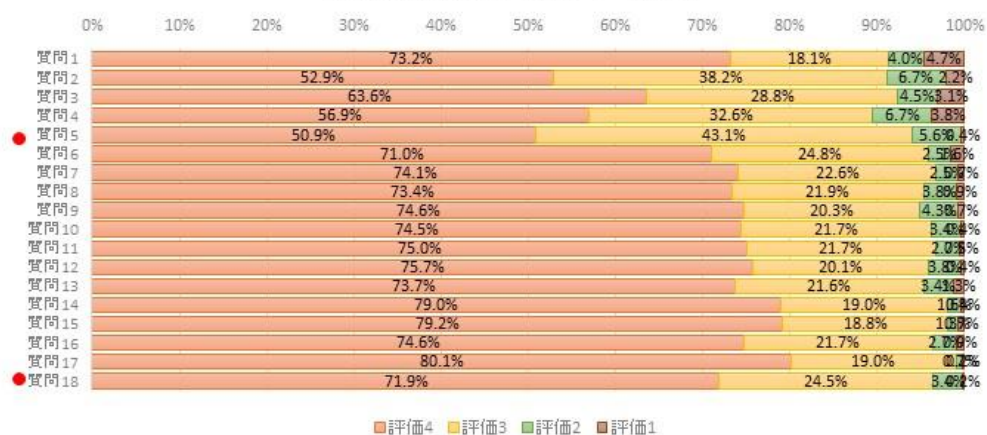
2017(H29)年度 生活福祉学科2年



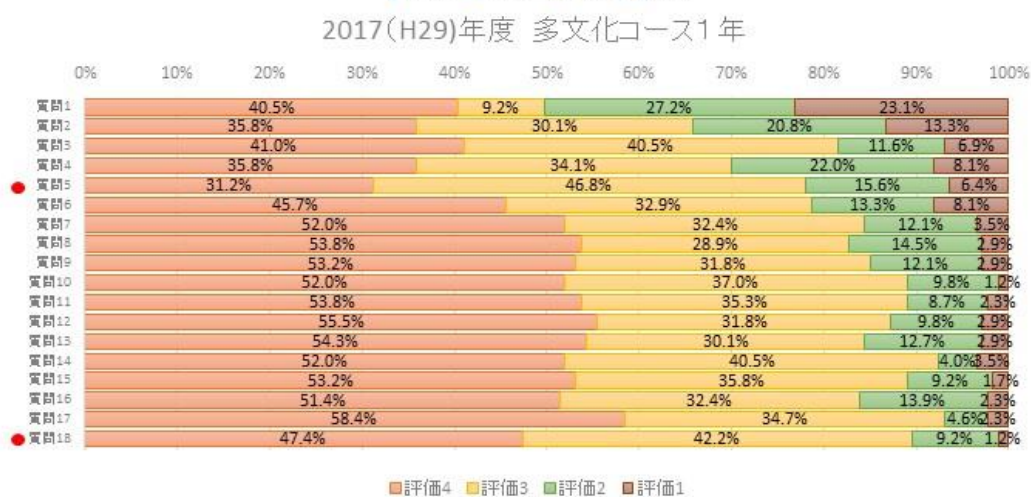
2017(H29)年度 地域生活支援学科1年



2017(H29)年度 福生コース1年



学科別 学生回答率平均(共通教育科目含)



【評価・成果等】

・授業評価を前期と後期で比較してみると自身の振り返りである総合自己評価では前期は平均3.3であったが後期は3.14と0.21低くなっており、他学科と比較すると地域生活支援学科を除いて2学科も同様に低くなっていることがわかった。特に本科では後期の授業参加度が低いことがわかった。授業内容・教授方法等や教科担当者のパフォーマンスでは前期・後期共に教員は熱心に授業に取り組んでいたかが3.38、3.41と他の項目より高い値であった。授業の総合評価では前期・後期共に3.29であった。

他学科と比較すると自己評価と同じように評価は低く、地域生活支援学科を除いて2学科と同様な傾向で総合評価も低くなっていることがわかった。しかし標準偏差を見ると各学科よりも大きいことから学生個々人の評価にもバラツキがあることが分かった。

【課題・問題点等】

・課題は前期と後期の結果を比較すると教員は熱心に授業に取り組んでいたか0.03高くなっていたが、他の項目は全て低い値になっていた。本来なら前期よりも後期の方が学生自身も授業のあり方に慣れており理解するための工夫がなされるべきである、また教員側もさらに充実した授業を展開するべく工夫がなされているにもかかわらず評価が前期より低かった。考えられることは、標準偏差が大きいと学生個々人の評価にバラツキがあり個人の学習能力にあわせた教育がさらに重要になってきていることがわかった。

生活福祉学科 授業評価結果の分析と評価

【評価・成果等】

- ・前期においては、全体的に評価はよいが、特に質問1の「欠席」については3.8と欠席する学生が少なかった。また、質問14の「学生の質問に対する誠実な対応と熱心な授業」も3.8と高かった。低かったのは質問2の「シラバスの活用」についてで3.1と一番低かった。質問10の「視聴覚機器や板書の用い方」も3.5と低かった。
- ・後期は全体的に前期の評価よりも低かった。シラバスは特に気にして説明しているが、前期と同字で、活用まではされていない。質問1の欠席は他学科よりはかろうじて高いが、前期に比べると0.1低くなっており、2年後期になって少し気持ちがたるんだのかもしれない。

【課題・問題点等】

- ・シラバスは必ず説明はしており、質問6のシラバスによる説明は3.64と高いが、質問2のシラバスの活用は低いことを考えると、説明は受けたけれども活用はしていないということになる。シラバス書き方を検討する必要があるかもしれない。授業計画はその都度いろいろな教科で詳しい内容を別刷りの紙でも渡したりしており、それをシラバスの一部ととらえていない可能性もあるので『シラバス』との表記も必要であったかもしれない。
- ・前期の共通科目の評価がたいへん低いことは、原因を細かく検討する必要があると思われる。

地域生活支援学科 授業評価結果の分析と評価

【評価・成果等】

- ・一概に、講義(演習)系は評価が低く、実習(実験/実技)系の評価が高くなっている傾向が診られる。
- ・コースにより平均評価点に若干の差異はあるが、他学科に比して本学科の受講学生からの評価は辛いと云える。

【課題・問題点等】

- ・受講学生による同一質問評価に大きな開きがあり、どの点に対して、どのように授業改善に手を入れて行けば良いのか方向を見定める事が非常に困難である。

【今後実行可能な改善事項等】

- ・入学して来る学生の学力と学習意欲及び多様な資質などの点で、当該調査の実施方法及び質問項目内容などの見直しと改訂が必要と考える。

食生活支援コース 授業評価結果の分析と評価

【評価・成果等】

・授業評価は自身の振り返りでは授業0回欠席学生は67.7%で約7割近くの学生が皆勤であった。また「そう思う」、「だいたいそう思う」と回答した学生はシラバスの活用は79.6%、居眠り・私語をしていないが86.1%、授業を理解するための工夫をしたが87.0%であり、学生自身の総合評価においても約88.6%の学生が肯定回答であった。教員側の授業内容・教授方法等や教科担当者のパフォーマンスにおいては、「そう思う」、「だいたいそう思う」と全ての項目において約86.9～95.0%の肯定回答であった。授業の総合評価は「良い」が47.2%、「やや良い」が44.8%と評価しており約90.2%の学生が肯定回答で概ね良好であることが分かった。他コースと比較すると「良い」と「やや良い」の割合を見ると福祉生活支援コースが「良い」の割合が多く本コースでは「良い」の割合が約半数であった。

【課題・問題点等】

・全ての項目の中から一番低値であったシラバスの活用は、教員の説明があったにもかかわらず自身で利用する学生が9.1%低く活用の仕方がわからなかったのではないかとと思われる。他コースとの比較では学生個人の習得能力の差や、コースの学習内容や方法等が異なるために簡単に比較することは困難である。

【今後実行可能な改善事項等】

・ループリック評価指標を分かりやすく示し、理解したうえで登録できるようにする。登録後の結果と自己成績を比較させ自己評価は妥当であったか確認させるなど、今後の学生自身の学習方法や教員の学習指導の双方に役立ていく必要がある。

福祉生活支援コース 授業評価結果の分析と評価

【評価・成果等】

・福祉コースの1年生の評価は、前期と後期別々にはわからないが、1年を通したデータで見ると、他学科より良かった生活福祉学科2年生の評価より質問1の欠席以外は評価が高かった。生活福祉学科で低かった質問2のシラバスの活用（26.9）も52、9と今までより改善がみられていると思われる。

【課題・問題点等】

・教員に対する評価より、自己評価の方が全体的に低いことが問題である。学生自身が自ら頑張って積極的に取り組むような助言、指導が必要と思われる。

・少人数ではあるが授業評価で、評価2や評価1があるので詳しく分析をして、なくしていく必要がある。

【今後実行可能な改善事項等】

- ・細かく、分析し、コース会議等で改善に向けて話し合う。
- ・授業参観を活用し、より良い授業について検討をしていく。
- ・別刷りの追加授業計画にはきちんと『シラバス』との表記をしていく。
- ・学生が自ら取り組んで頑張れるように、学習ポートフォリオをよりよく活用する。

多文化生活支援コース 授業評価結果の分析と評価

【評価・成果等】

- ・学生の総合自己評価は非常に高かった（肯定評価94％）。

授業の総合評価は非常に高かった（肯定評価96.4％、全ての項目で評価4が70％以上）。学科全体平均と比べても高評価であった。

【課題・問題点等】

・授業評価の結果は高く、この結果からは学生が授業に満足していると思われる。しかし実際の学修状況と乖離が見られ、データからは見えてこない。コース全体の授業改善について検討を重ね、学生自身の学修成果につなげる必要がある。

【今後実行可能な改善事項等】

・留学生の授業理解のため日本語の授業の改善（レベル別、基礎力強化、読み書き演習）。日本語能力試験の対策と受験の推進（学科、学生支援課、チューターによる呼びかけ、サポート）。

非常勤講師との連携、意見交換による授業内容の改善。

幼児保育学科 授業評価結果の分析と評価

【評価・成果等】

- ・おおむね良好な結果となっている。前・後期で大きな変化もみられず、ほぼ同様の傾向を示している。
- ・授業計画・教材・教授法・展開方法等では、前年度までの数年間、やや低い評価となっていたシラバスの説明（Q6）について改善が図られ高い評価となった。

【課題・問題点等】

- ・良好な評価結果となっているが、教職課程ならび保育士養成課程の改正に対応すべく、授業計画・教材・教授法・展開方法等のブラッシュアップが求められる。
- ・個々の教員による研鑽はもちろん、授業参観などを通して学科全体として組織的な対応をおこない、成果や問題点を共有する必要がある。

【今後実行可能な改善事項等】

- ・新たな教職課程ならびに保育士養成課程の改正の趣旨やポイントについて、学科会議やFD活動の中で共通理解を図り、養成課程において育成すべき保育者像を念頭においた授業改善を進める。

平成29年度(2017) 西九州大学短期大学 成績分布一覧

総計

科目名	N	GP%					Score AV	STDEVP
		0	1	2	3	4		
あすなろう	167	2%	1%	19%	14%	64%	80.2	16.3
あすなろう(就業)	1							
おもてなし演習	9	22%	0%	22%	11%	44%	61.8	37.8
こことからだのしくみA	24	13%	8%	17%	8%	54%	73.1	32.3
こことからだのしくみB	20	0%	0%	0%	60%	40%	79.0	8.0
こことからだのしくみC	20	0%	15%	10%	15%	60%	83.7	16.1
こことからだのしくみD	17	0%	12%	12%	0%	76%	87.7	15.1
こどもの遊び	48	2%	0%	10%	25%	63%	73.8	12.8
コミュニケーション技術A	20	0%	85%	10%	20%	35%	73.2	14.6
コミュニケーション技術B	20	0%	0%	0%	5%	95%	89.4	6.9
スイーツクリエイティブ実習	27	0%	0%	26%	83%	41%	76.6	10.0
スイーツクリエイティブ基礎実習	31	0%	0%	6%	0%	94%	92.1	10.8
スイーツクリエイティブ基礎理論	18	0%	0%	0%	6%	94%	93.7	7.7
ピアノⅠ	106	22%	5%	21%	27%	25%	67.0	15.3
ピアノⅡ	83	0%	0%	2%	17%	81%	83.7	6.0
ビジネスマナー(演習含む)	9	83%	0%	83%	11%	22%	48.4	38.1
プレゼンテーション演習	9	0%	0%	22%	44%	33%	76.1	13.9
プレゼンテーション概論	8	0%	0%	0%	63%	33%	79.4	9.4
ホスピタリティ概論	8	25%	0%	25%	13%	38%	57.3	37.8
ボランティア活動	5							
ボランティア入門	75	0%	0%	9%	0%	91%	92.7	11.9
ライフステージ別栄養学	38	0%	3%	8%	16%	74%	88.8	12.3
ライフステージ別栄養学実習	38	0%	0%	18%	16%	66%	81.1	11.7
外ミックス	44	0%	0%	2%	5%	93%	89.5	6.7
レクリエーション演習	6	17%	0%	0%	0%	83%	70.0	34.4
レクリエーション概論	35	6%	0%	3%	3%	89%	84.8	22.3
レクリエーション活動援助法Ⅰ	20	0%	0%	5%	30%	65%	79.8	5.7
レクリエーション活動援助法Ⅱ	17	0%	0%	0%	18%	82%	79.7	2.8
レクリエーション実習	9	11%	0%	0%	0%	89%	75.0	28.5
医療的ケアⅠ	17	0%	12%	6%	12%	71%	87.3	15.4
医療的ケアⅡ	17	0%	6%	0%	29%	65%	84.4	10.4
医療的ケアⅢ	17	0%	0%	12%	24%	65%	79.7	10.2
運動生理学	39	0%	0%	5%	3%	92%	88.4	8.7
栄養学実習	38	0%	0%	8%	32%	61%	80.2	7.0
栄養指導Ⅰ	38	0%	8%	32%	29%	32%	73.3	12.4
栄養指導Ⅱ	38	0%	0%	29%	45%	26%	72.8	8.1
栄養指導実習Ⅰ	38	0%	18%	13%	21%	47%	76.1	12.1
栄養指導実習Ⅱ	39	0%	0%	3%	18%	79%	88.7	8.9
英会話Ⅰ	132	5%	11%	16%	22%	47%	75.4	17.4
英語検定Ⅰ	9	0%	0%	33%	33%	33%	78.1	14.2
英語入門	1							
化学(生活の化学)	6	83%	0%	17%	0%	50%	51.7	41.2
家庭支援論	96	0%	10%	15%	15%	60%	79.3	11.8
歌唱表現	30	0%	0%	3%	50%	47%	78.2	5.3
介護の基本ⅠA	22	0%	0%	23%	14%	64%	82.1	12.6
介護の基本ⅠB	22	9%	9%	18%	18%	45%	71.6	26.5
介護の基本ⅡA	20	0%	5%	0%	15%	80%	87.0	11.3
介護の基本ⅡB	17	0%	12%	0%	6%	82%	89.1	12.0
介護の基本ⅢA	17	0%	12%	0%	29%	59%	82.4	11.3
介護の基本ⅢB	17	0%	0%	0%	0%	100%	93.3	4.1
介護過程Ⅰ	22	9%	32%	9%	23%	27%	66.6	19.6
介護過程Ⅱ	20	0%	20%	25%	25%	30%	73.0	12.3
介護過程Ⅲ	17	0%	6%	18%	41%	35%	76.2	10.6
介護過程Ⅳ	17	0%	12%	18%	85%	35%	75.5	8.4
介護実習Ⅱ	17	0%	0%	24%	24%	53%	77.9	9.9
介護総合演習Ⅰ	22	9%	0%	0%	0%	91%	87.0	28.4

平成29年度(2017) 西九州大学短期大学 成績分布一覧

総計

科目名	N	GP%					Score AV	STDEVP
		0	1	2	3	4		
介護総合演習Ⅱ	20	0%	5%	0%	50%	45%	78.8	5.0
介護総合演習Ⅲ	17	0%	0%	18%	53%	29%	72.1	7.1
介護総合演習Ⅳ	17	0%	0%	0%	24%	76%	78.2	3.5
介護予防支援学	17	0%	0%	0%	35%	65%	79.4	4.6
解剖生理学	38	0%	11%	58%	16%	16%	67.3	9.6
解剖生理学実験	38	0%	0%	3%	71%	26%	74.9	4.3
海外文化事情Ⅰ(演習含む)	8	25%	0%	0%	13%	63%	63.5	39.9
楽典	93	2%	11%	18%	14%	55%	80.1	16.9
環境(指導法を含む)	1							
韓国語	9	56%	0%	0%	0%	44%	40.6	48.1
音楽	95	1%	0%	12%	27%	60%	79.4	13.0
音楽表現	18	0%	0%	0%	17%	83%	85.4	4.4
基礎栄養学	38	0%	18%	47%	13%	21%	69.7	12.0
給食管理実習Ⅰ	38	0%	0%	8%	37%	55%	79.4	6.2
給食管理実習Ⅱ	38	0%	0%	0%	50%	50%	80.4	6.5
給食経営管理論	38	0%	0%	16%	45%	39%	75.9	8.2
共に学ぶあすなろう	1							
共に学ぶあすなろう(キャリア)Ⅰ	158	0%	0%	2%	39%	59%	78.9	8.5
共に学ぶあすなろう(キャリア)Ⅱ	150	0%	1%	6%	19%	74%	79.5	8.1
教育・保育者論	97	0%	1%	27%	30%	42%	76.1	9.7
教育実習Ⅰ	92	0%	0%	12%	77%	11%	72.6	4.8
教育実習Ⅱ	92	1%	0%	23%	57%	20%	69.8	6.7
教育実習指導	97	2%	14%	19%	14%	51%	77.0	18.7
教育総論	93	1%	0%	2%	13%	84%	83.8	10.6
教育臨床心理学	95	1%	25%	26%	26%	21%	70.2	10.3
経済学	23	4%	0%	13%	35%	48%	73.3	17.7
健康スポーツ	150	3%	0%	1%	3%	93%	82.3	14.1
健康スポーツ理論	144	0%	0%	3%	8%	90%	88.5	8.8
健康福祉概論	38	0%	11%	24%	34%	32%	73.3	10.2
言葉(指導法を含む)	3							
公衆栄養学	38	0%	5%	13%	8%	74%	85.2	12.4
公衆衛生学	38	0%	13%	18%	13%	55%	80.1	13.8
国語	92	0%	1%	15%	42%	41%	76.8	7.4
国際文化事情Ⅰ	12	17%	0%	0%	0%	83%	75.3	35.8
佐賀学	9	22%	22%	11%	0%	44%	58.6	35.4
子どもの支援Ⅰ(基礎・実習)	17	12%	0%	0%	88%	0%	71.5	16.7
子どもの食と栄養Ⅰ	96	0%	2%	0%	0%	98%	92.4	6.2
子どもの食と栄養Ⅱ	96	0%	1%	8%	19%	72%	81.8	9.2
子どもの保健Ⅰ(応用)	97	0%	19%	27%	29%	26%	71.8	9.3
子どもの保健Ⅰ(基礎)	93	1%	18%	38%	30%	13%	68.6	11.6
子どもの保健Ⅱ	96	0%	0%	8%	44%	48%	77.2	6.1
児童家庭福祉	92	0%	2%	5%	11%	82%	84.7	8.5
実践食育	22	0%	0%	9%	9%	82%	84.2	7.3
社会の理解Ⅰ	22	5%	14%	0%	14%	68%	80.8	21.9
社会の理解Ⅱ	17	0%	35%	24%	18%	24%	69.2	9.9
社会学	33	6%	3%	0%	45%	46%	72.4	19.2
社会的養護	94	0%	0%	17%	61%	22%	75.5	6.2
社会的養護内容	92	0%	0%	5%	92%	2%	72.0	3.2
社会福祉	94	1%	0%	24%	55%	19%	73.8	9.9
障害の理解Ⅰ	20	0%	5%	85%	20%	40%	75.7	9.8
障害の理解Ⅱ	17	0%	12%	0%	18%	71%	87.8	13.6
障害児保育	97	0%	7%	12%	29%	52%	77.1	9.0
情報リテラシーⅠ(実習を含む)	162	2%	4%	9%	27%	58%	78.2	15.4
情報リテラシーⅡ	140	0%	1%	7%	34%	58%	80.6	8.5
情報リテラシーⅢ	38	0%	0%	13%	5%	82%	87.0	11.3
情報リテラシーⅣ	3	0%	0%	0%	0%	100%	93.3	3.8

平成29年度(2017) 西九州大学短期大学 成績分布一覧

総計

科目名	N	GP%					Score AV	STDEVP
		0	1	2	3	4		
食育演習	29	0%	0%	0%	21%	79%	82.9	6.3
食品衛生学	38	0%	16%	32%	32%	21%	71.1	10.0
食品衛生学実験	39	0%	0%	3%	18%	79%	78.5	4.6
食品学Ⅰ	38	0%	24%	37%	18%	21%	69.3	10.9
食品学Ⅱ(食品加工学を含む)	38	0%	16%	84%	26%	24%	72.8	11.6
食品学実験	38	0%	0%	29%	37%	34%	74.3	9.1
人間の尊厳と自立	20	0%	30%	10%	35%	25%	72.1	10.8
人間関係とコミュニケーション	23	9%	4%	13%	17%	57%	74.1	25.3
人間心理学	16	6%	0%	0%	44%	50%	77.5	22.2
図画工作	99	5%	20%	37%	33%	4%	64.5	15.0
生化学	38	0%	37%	34%	16%	13%	66.8	9.3
生化学実験	38	0%	3%	21%	13%	63%	78.8	10.8
生活支援技術A	22	9%	18%	9%	9%	55%	76.7	29.5
生活支援技術B	22	9%	5%	5%	14%	68%	80.5	22.8
生活支援技術C	20	10%	5%	10%	15%	60%	75.9	21.4
生活支援技術D	17	0%	0%	12%	59%	29%	75.6	7.3
生活支援技術E	17	0%	0%	0%	24%	76%	83.5	7.2
生活支援技術F	17	0%	6%	6%	12%	76%	88.0	12.6
生活支援技術G	17	0%	0%	12%	0%	88%	88.1	12.0
生命科学	28	0%	0%	11%	14%	75%	81.3	6.4
創作料理実習	13	0%	0%	0%	8%	92%	87.2	6.1
相談援助	97	1%	0%	5%	32%	62%	77.9	9.9
総合英語	8	0%	0%	0%	0%	100%	89.1	4.3
総合英語Ⅰ	141	0%	0%	20%	23%	57%	80.7	11.5
総合表現	43	0%	0%	0%	5%	95%	81.0	2.5
造形表現(指導法を含む)	1							
卒業課題研究Ⅰ	96	0%	0%	0%	33%	67%	81.0	5.8
卒業課題研究Ⅱ	96	0%	0%	0%	5%	95%	88.3	7.7
卒業研究	55	0%	0%	0%	18%	82%	85.4	7.1
地域生活支援演習Ⅰ	67	0%	0%	6%	7%	87%	86.8	9.7
地域生活支援学	68	1%	21%	19%	31%	28%	70.6	12.8
中国語	5							
物理学	38	0%	3%	8%	26%	63%	82.5	10.8
物理実習(西洋料理)	41	5%	7%	0%	15%	73%	79.9	20.7
物理実習(中国料理)	38	0%	0%	3%	21%	76%	84.0	6.8
物理実習(日本料理)	41	0%	12%	2%	12%	73%	82.3	11.5
特別講座	17	0%	12%	29%	35%	24%	73.3	10.0
日本語Ⅰ	6	0%	0%	17%	50%	33%	76.3	8.8
日本語Ⅱ	9	0%	0%	44%	0%	56%	77.9	15.8
日本語Ⅲ	5							
日本語Ⅳ	6	17%	0%	50%	0%	33%	57.5	30.3
日本語検定Ⅰ	5							
日本国憲法	102	3%	17%	8%	31%	41%	73.5	14.5
日本文化事情Ⅰ(演習含む)	12	8%	17%	8%	25%	42%	71.8	25.9
日本文化理解	9	33%	0%	11%	33%	22%	52.8	41.8
乳児保育	92	0%	11%	20%	37%	33%	75.2	9.7
認知症の理解Ⅰ(老人の心)	20	0%	20%	15%	20%	45%	77.8	13.6
認知症の理解Ⅱ	17	0%	6%	6%	18%	71%	83.6	10.7
発達と老化の理解Ⅰ	22	14%	0%	27%	9%	50%	75.3	24.2
発達と老化の理解Ⅱ	20	0%	10%	25%	10%	55%	81.4	16.4
発達心理学	95	2%	18%	27%	29%	23%	71.0	15.0
表現(指導法を含む)	4							
病態栄養学	38	0%	29%	13%	16%	42%	74.1	12.4
病態生理学	39	5%	18%	10%	48%	18%	71.4	16.1
福祉レクリエーション援助論	4							
福祉レクリエーション論	4							

平成29年度(2017) 西九州大学短期大学 成績分布一覧

総計

科目名	N	GP%					Score AV	STDEVP
		0	1	2	3	4		
保育・教職実践演習(幼)	96	1%	17%	1%	15%	67%	78.0	12.2
保育カウンセリング	47	0%	0%	84%	32%	34%	72.6	10.8
保育課程論	97	0%	13%	9%	21%	57%	79.6	12.2
保育原理	95	1%	2%	18%	46%	33%	74.8	11.3
保育実習Ⅰ(保育所・施設)	95	1%	0%	8%	48%	42%	77.3	6.3
保育実習Ⅱ(保育所)	79	0%	0%	18%	58%	24%	73.4	5.8
保育実習Ⅲ(施設)	12	8%	0%	25%	58%	8%	65.5	20.9
保育実習指導Ⅰ	96	0%	0%	13%	79%	8%	73.9	4.6
保育実習指導Ⅱ	84	1%	13%	21%	11%	54%	75.9	15.7
保育実習指導Ⅲ	13	8%	0%	8%	77%	8%	69.3	21.6
保育相談支援	97	1%	4%	4%	29%	62%	81.1	12.1
保育内容(リズム表現)の理論と方法	94	1%	0%	4%	76%	19%	76.2	8.6
保育内容(音楽表現)の理論と方法	92	0%	0%	85%	39%	26%	73.8	6.6
保育内容(環境)の理論と方法	92	0%	1%	2%	23%	74%	82.8	6.0
保育内容(健康)の理論と方法	93	1%	1%	9%	42%	47%	77.0	7.9
保育内容(食生活)の理論と方法	93	0%	3%	24%	32%	41%	76.7	8.1
保育内容(人間関係)の理論と方法	94	1%	3%	7%	60%	29%	75.9	11.3
保育内容(造形表現)の理論と方法	96	2%	2%	26%	65%	5%	70.2	11.4
保育内容(表現)の理論と方法	93	0%	3%	4%	72%	20%	75.2	4.3
保育内容総論	96	0%	6%	21%	26%	47%	77.8	11.3
幼児ダンス	48	0%	0%	2%	4%	94%	82.9	5.3
幼児体育	97	1%	3%	2%	29%	65%	79.0	7.8
臨床栄養学	38	0%	32%	13%	34%	21%	70.0	10.3
臨床栄養学実習	38	0%	18%	18%	39%	24%	72.0	8.5
総計	8963	2%	5%	13%	29%	51%	77.8	13.6

編集者一覧

平成30年度 FD委員会

地域生活支援学科・副学長	西河 貞捷	教授
地域生活支援学科・学科長	桑原 雅臣	教授
幼児保育学科・学科長	米倉 慶子	教授
地域生活支援学科	吉村 浩美	准教授
幼児保育学科	春原 淑雄	講師
事務局・次長	大石 妙子	
地域生活支援学科・教務部副部長	平田 孝治	教授

平成30年度 授業評価専門部会

地域生活支援学科	田中 知恵	准教授
地域生活支援学科	吉村 浩美	准教授
幼児保育学科	牛丸 和人	教授
幼児保育学科	春原 淑雄	講師
地域生活支援学科・教務部副部長	平田 孝治	教授

西九州大学短期大学部

平成29年度 学生による授業改善のための授業評価結果に関する報告書

編集日 平成30年9月5日（水）

編集・発行

西九州大学短期大学部

〒 840-0806 佐賀市神園三丁目18-15

電話 0952-31-3001

FAX 0952-31-3003

URL: http://www.nisikyu-u.ac.jp/Junior_college/